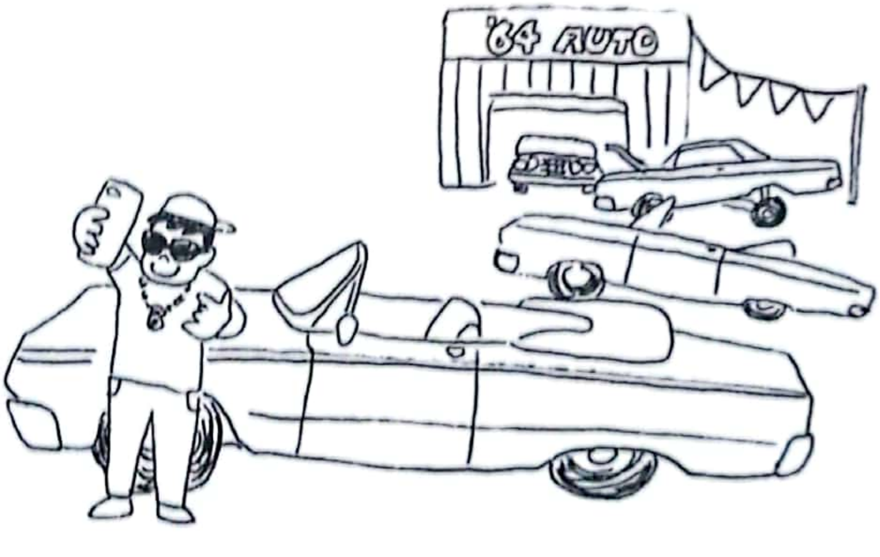
文化系のためのヒップホップ入門3



CamScannerでスキャン

INTRODUCTION

世界がヒップホップ化した4年間

長谷川　まず本書について説明を。2018年に『文化系のためのヒップホップ入門2』を出しました。これは11年に出した『文化系1』のその後のシーンの変遷を描いたものなのですが、12年から14年までの3年しかフォローできなかったという……この『3』は15年以降のシーンを描いたものになります。

大和田　この4年で一番大きな変化は、やはりオバマ政権の終わりとトランプ政権の誕生でしょうか。町蔵さんはまだトランプ政権を認めていないようですが。

長谷川　あれ、オバマはいま3期目ですよね？

大和田　え、まだその設定ですか?!　それにしてはアメリカはひどすぎませんか？

長谷川　さすがにその設定はもう無理だと思っています（笑）。ぶっちゃけ2020年の大統領選でトランプの再選の可能性は高いと思っていますし。心して現実と向き合いますよ！

大和田　**ブレクジット**があり、ハンガリーやブラジルにも大変な指導者が生まれたりと世界はどんどんトランプ化しているわけですが、その中でヒップホップの変化を見つめることになりましたね。

長谷川　それと、アップル・ミュージックがストリーミング・サービスを開始した2015年以降は、音楽の聴き方が完全にストリーミング中心になりましたよね。

大和田　で、僕らの対談で初めてトラップの話が出てくるのも2015年。

長谷川　サブ・ジャンルにすぎなかったトラップが、ストリーミングの力を借りて主流になる過程を語っているのが、この『3』なのではないかなと思います。

大和田　メディアの変化は大きいですよね。それがヒップホップを最大の音楽ジャンルに押し上げることになるわけですし。

長谷川　最近、英国で「25歳以下の音楽ファンの内15%がアルバムを通して聴いたことがない」という調査結果が発表されたって**記事**を読んで驚きました。

大和田　アルバムという概念の崩壊とプレイリスト・カルチャーの台頭、というところでしょうか。

長谷川　でも考えてみれば、ヒップホップが本質的に持っているゲーム感覚は、自己表現にとっての器といえるアルバムの概念を壊すものだったと思うんですよね。

★ブレクジット：イギリスの欧州連合離脱を表す造語(British+exit=Brexit)。イギリスには経済的自立や移民抑制の目的から、以前から欧州連合離脱派が一定数いたものの、現実的ではないとの見方が一般的だった。しかし16年に当時の首相デヴィッド・キャメロンが半ば党内のブレクジット派を黙らせる意図で国民投票を実施したところ、賛成：約52%、反対：約48%の僅差で賛成が決定。だが、2019年11月時点でも離脱の条件や時期を決定できずにいる。

★記事：『25歳以下の音楽ファンの内15%がアルバムを通して聴いたことがない』とする調査結果が発表」 https://fnmnl.tv/2019/10/08/82542?fbclid=IwAR1u-KsYtiNOjADBiDRtyDfdIV3riOnLC-lLXhu2AK0GSyE-mv9kXmCX-jw

CamScannerでスキャン

大和田　アルバムを通してコンセプチュアルな表現をする、というよりは、フィーチャリングを通して1曲の中にコンペティションを導入するというか。『1』で言ったことですが、ヒップホップによって「アーティスト」と「アルバム」が後景に退き、「シーン」と「プレイリスト」が音楽業界の中心になってきましたね。

長谷川　アルバムって音楽至上主義の概念じゃないですか。でもヒップホップは、楽曲とラッパーの実人生におけるニュースの差があまりない（笑）。SNS時代にヒップホップのシェアが伸びていったのは、だからだと思うんですよね。

大和田　マンガ研究者でヘッズでもある**岩下朋世**さんが言ってましたが、基本的に全部自己紹介だと。

長谷川　そうですね、他者に対してどう自分をアピールしていくか。それは個人表現以上に他者とのコミュニケーションが優先されているんですよね。

大和田　個人の表現というと、昔ながらの「孤高のアーティスト」という常套句がありますが、そうではなく、絶え間ないコミュニケーションを通したマッピングとキャラ化のコンペティション、みたいな感じですよね。

長谷川　洋楽、特にロック好きには、録音物にすべてがあるというヒップホップの考えが通じない。そういう意味で『1』でも言った通り、ヒップホップはロッ

★岩下朋世：いわした・ほうせい。78年生まれ。相模女子大学学芸学部メディア情報学科准教授。マンガ研究、専門はポピュラー文化研究、表象文化論。著書に『少女マンガの表現機構――ひらかれたマンガ表現史と「手塚治虫」』（NTT出版、2013）。

ク・ファンの考えるような音楽ではないんですよ。

大和田　曲はどんどん短くなるし、楽曲数はどんどん増えるし、ヒップホップはまさにSNSそのものですね。

長谷川　Spotify って、リスナーが1分以内に聴くのを止めると再生にカウントされないらしいですね。もしかすると5分って表示してあると「聴くのダルい」って思われるから3分くらいの曲が増えているんじゃないかと。

大和田　そうなんですか。なんかもう曲も「イントロ」とかないですからね。

長谷川　いきなりトラックメイカーが名乗りをあげますから（笑）。

大和田　このシリーズを通して語ってきた「ループ」とも関係しますが、やっぱり同じループで5分はきついですよ。でも黒人音楽ってブルース以来、テクノロジーの影響をまともに受けながら、その中で確実にクリエイティヴィティを発揮してきたジャンルだと思うので、やっぱり面白いのは面白いんですよね。

長谷川　黒人音楽ってロック的な文脈では「魂の音楽」みたいに言われていたわけじゃないですか。でもその遊戯性みたいなものにフォーカスを当てていけばポップ・ミュージックが今までと異なって聞こえてくる。大袈裟に言えば、それがこの『文化系のためのヒップホップ入門』シリーズの目的なのかもしれません。

★Spotify：06年にスウェーデンで設立された音楽配信サービス。11年に米国、16年には日本に進出した。19年現在、ユーザーは2億3200万人でうち半数が有料会員と、世界最大規模を誇る。

CamScannerでスキャン

大和田　まったくそのとおりで、『I』でいったとおり、モダン・ジャズとか完全に遊戯性「でも」聴けるんですよ。ブルースも、12小節AABのなかで、誰が一番カッコよく／泣ける／笑える演奏をできるか競争でもあるわけで。

長谷川　お題もわりと絞られていますしね。サンハウスとかマディ・ウォーターズとか、ブルースマンも名前もラッパー的ですし。ジャズだって「デューク」とか「レディ」とか言ってたわけで。

大和田　前から思ってたんですが、60～70年代がロックの時代だったとすると、やはり社会全体がアーティスト＝「突出した個人」を求めていた時代だと思うんですよ。それがヒップホップが最大の音楽ジャンルになったということは、シーンの中の表現の遊戯性が重視されるようになったということですよね。町蔵さんが『I』で言った「集団でシーンを動かす方が効率的」という言葉を思い出します。社会そのものがヒップホップ化したというか。

長谷川　**グレタ・トゥーンベリ**とか最高のバトル・ラッパーですよね（笑）。

大和田　あの国連で演説のスタイルを選ぶ感じとか、完全にラッパーだと思いました（笑）。

長谷川　バトルのスキルがないと、どんな正しいことを言っても意味がない。グレ

★グレタ・トゥーンベリ：03年スウェーデン生まれ。地球温暖化を憂いて18年から毎週金曜日に「気候のための学校ストライキ」という看板を掲げて、スウェーデン議会の外

CamScannerでスキャン

クさんがヒップホップを聴いているかは知らないけれど、彼女は生まれたときからヒップホップな世界を生きているわけだから、本能的にそう感じているのかもしれないですね。

大和田　『3』では世界がヒップホップ化した4年間を語っているわけですが。

長谷川　15年から18年までの各年の総括に加えて、有光道生(ありみつみちお)さんとの鼎談が入ってます。これがBLMとかトランプ政権下のアメリカを考えると重要で。

大和田　なにしろハーバード大学でアフリカン・アメリカン・スタディーズの博士号を取った人ですから。

長谷川　そもそも日系アメリカ人でも困難そうなテーマを、日本人が学ぶんだからトンデモないですよね。

大和田　でもそう考えると、この本のテーマのひとつであるアフロ＝アジアの関係を彼自身が体現しているといえますよね。

長谷川　黒人コミュニティの政治へのリアクションの話は凄く勉強になりました。

大和田　あと、実は気になっていることがあって。というのは、この本ではヒップホップの政治性ではなく遊戯性に焦点を当てた。でも、トランプ大統領の誕生などで、黒人社会の政治性がより問われる状況になったのはたしかだと思うんですよ。

で座り込みを開始。これがSNSで世界中に拡散され、地球環境問題のジャンヌ・ダルクとなった。プーチンやトランプをはじめTwitterで絡んでくるオッサンたちを次々撃破するスキルを有している。ちなみに母親のマレーナ・エルンマンはオペラ歌手だが、ポップスも歌っており、ユーロビート・ミーツ・オペラな〈La voix〉で09年のユーロヴィジョンにスウェーデン代表として出場している。

CamScannerでスキャン

長谷川　そうですね。

大和田　で、そもそも『Ｉ』は、これまでの黒人音楽をめぐる言葉が、過度に政治的になっているという認識から始まっていて。つまり、政治的に正しい黒人音楽でないとだめだ、という主張に対して、いや、音楽を遊戯性で評価してもいいんだという。で、そのことを考えて読み返したんですけど、たとえば僕らは遊戯性をもとにトラップの内省化、自閉化という話を２０１５年の段階ですでにしていて、オバマ全盛の時にある種の予兆をつかんでいるというか、音楽の遊戯性の分析を通して政治性を見出したとも思うんですよね。なんか自画自賛ですが（笑）。

長谷川　ハードな状況で遊んでみせるというのは、それこそアフリカ系アメリカ人の美意識だと思うんですよね。だから、トラップが現実に向き合ってないっていう批判はおかしくて、むしろ伝統に即したプロテストだと言えなくもない。

大和田　だからメッセージのレベルのコンシャスネスよりも、遊戯性に潜むサウンドの特性に黒人社会の姿が現れている、その政治性をすくい取る、ということはできたとも思うんですよね。

長谷川　もっとも、それを半ば無意識にやっていたので脱線も多いですけどね。というわけで、お楽しみください！

文化系のためのヒップホップ入門3——目次

CamScannerでスキャン

INTRODUCTION——
世界がヒップホップ化した4年間 3

第1部 押し寄せる世代交代の波 13
2015年のヒップホップ

『ストレイト・アウタ・コンプトン』現象 14
2015年人気ナンバー・ワン・ラッパーはだれだ? 17
ドレー版「私の履歴書」 22
歴史化の象徴、ジョーイ・バッドアス 24
トラップの牽引者、フューチャー 26
キャラ立ちが過ぎるヤング・サグ 29
新人賞確実、フェティ・ワップ 32
歌舞伎町のエイサップ・ロッキー 36
ミーム化するドレイクのダサいダンス 40
〝無名の若手トラックメイカー〟ポール・マッカートニー 42
『エンパイア』とミッシーの復帰 46

第2部 大統領選とラッパーたち 55
2016年のヒップホップ

ピコ太郎と坂本九 56
歴史になったヒップホップ 59
〝ヒップホップ・プレジデント〟オバマ 65
ドナルド・トランプという踏み絵 68
分別ある大人と混乱した子ども 72
ポスト・モダンな『Life Of Pablo』 76
「どれだけ髪をカラフルにするか」競争 82
「FDT」で連帯するカリフォルニア 85

第3部 ブラックネスのゆくえ 99
オバマ政権下のアメリカ社会とヒップホップ
［ゲスト］有光道生（アフリカ系アメリカ研究・慶應大学法学部准教授）
クロマティに魅せられて 100
オバマ政権への期待と失望 102
ゲイツ教授逮捕事件の真相 110
オバマ政権とセクシュアル・マイノリティ 115
ブラック・ライヴズ・マター運動 120
オール黒人キャストで高視聴率 125
ケンドリックとビヨンセの政治性 129
肌の色と人種差別 135
パフォーマンスとしての人種
――『ファン家のアメリカ開拓記』 141
『世界と僕のあいだに』が問いかけるもの 145
ポスト・ブラックネスと『ハウルの動く城』 150
オバマ時代とドレイク 156

第4部 トラップ時代の到来 165
2017年のヒップホップ
ケンドリック・ラマーのクレバーな路線変更 166
トラップとモード・ジャズ 172
トラップとオイ・パンク 178
昼メロ＝エンタメとしての『4:44』 182
ヨット・ロックとヒップホップ 186
世界中がダンスホール 190
BTSとピンク・レディー 193

第5部 アメリカで一番聴かれる音楽に 201
2018年のヒップホップ
『ブラックパンサー』とヒップホップ・カルチャーの勝利 202
ケンドリック・ラマーのピューリッツァー賞受賞 205
ヒップホップがアメリカで最も聴かれるジャンルに 207
ストリーミングが変えるアルバムの姿 210
週刊カニエ・ウェスト 212

CamScannerでスキャン

カーター家、ルーヴルへ行く 215
炎上し続けるカニエ・ウェスト 218
フィメール・ラッパーの席はひとつだけ 220
変質したヒップホップのルール 222
踏み絵としての6ix9ine 224
追悼——XXXテンタシオンとマック・ミラー 226
ビデオ・オブ・ザ・イヤー——〈This Is America〉 232
プロデューサー・オブ・ザ・イヤー——ピエール・ボーン 234
ダンス・オブ・ザ・イヤー——〈Shoot〉 235
ニューカマーたち 237
アジア系男子の存在感 244
カニエとカーター家はどこへ行く？ 247

POSTSCRIPT——
2019年の中間報告
——『ザ・ロスト・ボーイ』と『Jesus Is King』 250

人名索引 i

CDガイド

①2015年のヒップホップ 51
②2016年のヒップホップ 92
③2017年のヒップホップ 197
④2018年のヒップホップ 251

コラム

01『ゲットダウン』 96
——ヒップホップ黎明期を再現した快作
02『Empire 成功の代償』 162
——ヒップホップ帝国のドラマを描く極上ソープオペラ
03『ブルー・ストリート』から『ゲット・アウト』まで 255
——ヒップホップを描いた2010年代の映像作品

[illegible]

第Ⅰ部

押し寄せる世代交代の波

2015年のヒップホップ

CamScannerでスキャン

『ストレイト・アウタ・コンプトン』現象

大和田　ヒップホップの歴史をざっくりと説明すると、80年代に東海岸を中心とするシーンがあって、90年代に西海岸のシーンが盛り上がって、ゼロ年代以降、アトランタとかヒューストンにヒップホップの首都が移ってきているという感じですよね。で、アトランタはまだまだ勢いが衰えていない。

長谷川　2015年のヒップホップ・シーンの前提を話すためには14年に起きたことを説明しないといけませんよね。まず14年に無罪もしくは微罪で、しかも無抵抗の黒人が白人警官によって死に至らしめられるという**事件**がミズーリとニューヨークで相次いで起こりました。そこで、アフリカ系アメリカ人が多いヒップホップ・シーンにリアクションが求められた。その結果、ヒップホップは黒人音楽である、あとやっぱりラップをする音楽なんだ、という再認識が一部で出てきたっていうのがあります。

大和田　はい。

長谷川　それと**ディアンジェロ**という人が14年ぶりに『Black Messiah』という新作をリリースしました。これは出る出る詐欺でずっと出なかったアルバムで、よ

★ミズーリとNYの事件：14年夏にミズーリ州ファーガソンで起きたマイケル・ブラウン射殺事件と、スタテン・アイランドで起きたエリック・ガーナー窒息死事件のこと。白人警官による暴力によって黒人男性が死に至らしめられた二つの事件は、深刻な人種差別を可視化し、「ブラック・ライヴズ・マター」の起爆剤となった。

★ディアンジェロ：74年ヴァージニア州リッチモンド生まれ。00年に発表した大傑作『Voodoo』に続くアルバムがいつまで経っても発表されず、キャリアが危ぶまれていたが、14年に『Black Messiah』でまさかの大復活。来日公演も大盛り上がりだった。しかしこれに続く新作は19年時点では発表されていない。もっと働いて！

うやく完成して本当は16年の初めにリリースされる予定だったんけど、ディアンジェロがミズーリとNYの事件を受けて、発売を前倒ししたんですよね。いまこそ俺の出番だ的な感じで。この非常にメッセージ性が高いアルバムが、シーンに大きな影響を与えたというのは忘れちゃいけないと思います。

大和田　はい。

長谷川　それと、15年に入ってからNWAの伝記映画**『ストレイト・アウタ・コンプトン』**が公開されたことも大きい。アメリカでは**『マッドマックス　怒りのデス・ロード』**を超えるメガヒットですからね。

大和田　『マッドマックス』も日本でそんな流行ってないっていう話じゃないですか。ツイッターをみていると日本の全国民が『マッドマックス』観ているみたいな気になりましたけど、興行成績が40位くらいなんですよね（笑）。誰も観てないじゃないかと（笑）。

長谷川　まあでも凄いですよ。ラッパーの伝記映画が超大作に勝っているわけですから。

大和田　僕はこの夏にロサンゼルスで観たんです。向こうでは**Uber**（ウーバー）っていっていう配車サービスがすごく流行っていて、黒人女性の運転手にあたったんけど、そ

★『ストレイト・アウタ・コンプトン』：15年に公開されたNWAの伝記映画（監督：F・ゲイリー・グレイ）。グループの結成からイージー・Eの死までがテンポよく描かれ、メガヒットを記録した。アイス・キューブそっくりの息子オーシェア・ジャクソン・Jrが父親を演じたことでも話題に。ちなみに悪徳マネージャー、ジェリー・ヘラーを演じた俳優ポール・ジアマッティは、ブライアン・ウィルソンの伝記映画『ラブ＆マーシー　終わらないメロディー』（2015）でも悪名高いマネージャー、ドクター・ユージン・ランディを演じている。

★『マッド・マックス　怒りのデス・ロード』：15年に公開されたマッド・マックス・シリーズ第4作。一見、ド派手なアクション大作に見えながら、日本軍を彷彿とさせる

れで『ストレイト・アウタ・コンプトン』観たんだって言ったら、そのあと1時間くらいずっとしゃべっていましたからね。

長谷川　ロサンゼルスはNWAの地元ですからね。

大和田　**ジェネイ・アイコ**のプロダクションでちょっと働いていたことがあるっていう、音楽産業に関わっていた運転手で。で、あの話ってどこまでオーセンティックなの？　つまり、ここで育った人にとって、あの物語は説得力はあるのかって訊いたら、「ある」って即答だったんです。だから、ちゃんと地元の人たちの支持を受けている。この前スパイク・リーがシカゴを舞台にした『**シャイラク**』ってヒップホップ映画を発表したんですけど、シカゴのラッパーから総スカンくらっているんですよね。だから地元の人から支持されないと大変になるみたいですね（笑）。

長谷川　ここで**NWA**の〈Straight Outta Compton〉という曲の動画を観たいと思います。NWAは、80年代終りから90年代にかけて活動していた、ロサンゼルスの南にある**コンプトン**という小さな街出身のヒップホップ・グループです。当時のヒップホップっていうのはニューヨークが中心で、黒人としての誇りを訴えるコンシャスなヒップホップが流行っていたんですけど、彼らはまったく関係のな

敵方の描写（特攻隊と従軍慰安婦！）や、『ヴァギナ・モノローグス』の著者イヴ・エンスラーをコンサルタントに招いたことで持ち込まれたフェミニズム的視点が随所に光る野心作である。

★Uber：09年に創立したタクシー配車サービス。米国では16年にラッパー、Madein TYOの〈Uber Everywhere〉がヒットするほど普及しているが、日本では無許可営業とみなされるため、出前サービス「Uber Eats」のみ稼働中。

★ジェネイ・アイコ：88年ロサンゼルス生まれ。和風な名前は1／4日系だから。それが関係しているのか、17年発表のアルバム『Trip』には、「どうか私を探さないで／覚悟を決めて森に行ったのだから／そこはあるのは木々の海」と、青木ヶ原樹海のことをファンタジックに歌った

いところから出てきて、ドラッグ売買や銃による抗争といったギャングスタ・ライフ、あと下ネタをラップして、全米で人気を獲得したグループだったんです。その一方で彼らは警官が横暴だっていうことをずっと訴えていて、それがもうひとつの代表曲〈F**k Tha Police〉なんですね。

大和田 当時のMVを見ると、そこで描かれる警官の行為がぜんぜん昔の話にみえない。白人の警官による黒人に対する暴力は、いままさにリアルなトピックですからね。

長谷川 映画でもあえて重ね合わせていましたよね。この過去のNWAの問いかけに対して今のラッパーがどう応えていくかというのが、15年のシーンのテーマになったと思います。

2015年人気ナンバー・ワン・ラッパーはだれだ？

長谷川 で、ここからは15年のヒップホップ・シーンで重要な役割を果たした人たちの曲を少しずつ聴いていきますので、感想シートにこの人は気になったっていう人がいたらその名前を書いていただけるとありがたいなと思います。

〈Jukai〉というナンバーが収録されている。

★『シャイラク』：原題は"Chi-Raq"。スパイク・リーが、紀元前411年に初演されたギリシア喜劇「女の平和」をベースにシカゴのサウスサイドのギャング抗争を描いたミュージカル・コメディ。

★NWA：ドラッグ・ディーラーだった故イージー・Eが地元コンプトンのオールスター・グループを作ろうと呼びかけ、86年に結成。アイス・キューブの攻撃的なリリックとドクター・ドレーの手による革新的なトラックの魅力で全米を席巻する。91年に空中分解したが、今なおシーンに影響を及ぼし続けている。

★コンプトン：ロサンゼルスの南に隣接する都市。人口は約10万でアフリカ系とメキシコ系が大半を占める。NWAのメンバーやケンドリック・

大和田　町蔵さん、今日それを知りたくて来てくれたらしいんですよ。**このクラス**には、音楽にあまり関心がない学生もけっこういて、僕はわりと毎年そういうふうにクラスを構成したいんです。音楽がすごく好きな人と、月曜3限で単位がとれたらラッキーくらいな人たちが混ざってる感じの。これから15年に活躍したいろんなラッパーの動画を少しずつ見せますが、その人気投票をします。日本の平均的な大学生に一番人気があるのは誰か（笑）。

長谷川　ではエントリー・ナンバー1番、**ケンドリック・ラマー**さん。

大和田　（笑）。

長谷川　87年生まれ、先ほどのNWAを生んだコンプトン出身です。師匠はNWAのメンバーだったドクター・ドレーで、**ブラック・ヒッピー**というクルーのメンバーでもあります。

大和田　ブラック・ヒッピーのメンバーでは、今年はジェイ・ロックも良いアルバムを出しましたよね。

長谷川　ケンドリックは今年リリースしたメジャー・セカンド作『To Pimp A Butterfly』がチャートで1位を獲得して、批評筋からも大絶賛され、グラミー賞も最多ノミネート。もうちょっとベタな話題だと、**テイラー・スウィフト**の〈Bad

ラマーのほかにもMCエイト、DJクイック、クーリオ、ゲーム、YG、タイガ、ヴィンス・ステイプルズといった人気ラッパーを輩出している。

★このクラス：本書の第1部と第2部は慶應大学法学部での講義で学生たちを前にして対談している。

★ケンドリック・ラマー：87年コンプトン生まれ。ウェッサイのギャングスタ・ラップのリリックを文学的に昇華し、19年現在、最もシーンに影響力を持つ。『To Pimp A Butterfly』リリース時の米国大統領バラク・オバマは、15年のフェイヴァリット曲として、同作収録曲〈How Much A Dollar Cost〉を挙げ、彼をホワイトハウスに招待した。

★ブラック・ヒッピー：ケンドリック・ラマーと、86年ロサンゼルス生まれのジェイ・

Blood〉っていうシングルのリミックスでこの人が半分以上ラップしていて、誰の曲なのかよく分からなくなってしまったなんてこともありました。

大和田 テイラー・スウィフトも大活躍でしたけどね、今年は(笑)。あまり音楽のニュースを追ってない人は分からないかもしれないけど、今年はあらゆる音楽誌、ロック誌、黒人音楽誌、とにかくケンドリック・ラマー一色で。

長谷川 ここまでそうなるとは思わなかった。

大和田 最終的な評価として、ケンドリック・ラマーの『To Pimp A Butterfly』が15年最重要アルバムであるという評価は揺らがないでしょうね。

長谷川 そう思います。

大和田 ケンドリックのリリックはかなりコンシャスというか、現在の黒人社会を考察したものが多い。あとこの人はラップのスキルが異常に高い。

長谷川 ではいってみましょう、〈Alright〉。ロサンゼルスの中心部をまず遠景で見せておいて、自分は荒れ果てた郊外のコンプトンに住んでいると位置関係で主張している。

大和田 これビデオもかっこいい。

長谷川 そうですね。さっきの『ストレイト・アウタ・コンプトン』で描かれた光

ロックとスクールボーイ・Q、87年カーソン生まれのアブソウルからなるヒップホップ・コレクティヴ。

★テイラー・スウィフト：89年ペンシルヴァニア生まれ。元々はポップ・カントリー畑の人だが年々ポップ化。近作はアーバン・ミュージックからの影響も強い。〈Bad Blood〉はライヴ用のダンサーを横取りしようとした(少なくともテイラーはそう思い込んだ)宿敵ケイティ・ペリーへのディス・トラック。

景と、25年くらい経ってもまったく変わっていないっていうのが分かると思います。ケンドリックがパトカーの上に乗っかっていることに注目してほしい。

大和田　これ、シングルがリリースされる二日前（6月28日）にBETアワードの授賞式で同じようにグラフィティまみれのパトカーの上に乗って、しかもボロボロの星条旗がはためく中でラップするというパフォーマンスを見せて、保守的なメディアからものすごく批判されたんですよ。次の日のFOXニュースで**ジェラルド・リヴェラ**が「アフリカ系アメリカ人にとって人種差別よりもヒップホップの方が悪影響を及ぼしている」と発言したりして。

長谷川　けっこうやけくそな曲なんですけどね。「いくら抵抗してもどうせ警官は俺たちを殺そうとする。でも大丈夫！」っていう投げやりな歌詞で。

大和田　最初の「Alls my life I has to fight」ってアリス・ウォーカーの『**カラーパープル**』からの引用なんですよ。

長谷川　ああ、そうなんだ。

大和田　「All my life I have to fight」を「Alls my life I has to…」って、主語がIなのに「has」って三人称単数形にしているのは、黒人英語＝**AAVE**の一種だと言っていいと思います。この曲は今年のアンセムと言われていて。さっき町蔵さ

★ジェラルド・リヴェラ：43年生まれ。アメリカの弁護士で、ワイドショーの保守派コメンテーター。

★『カラーパープル』：黒人女性作家アリス・ウォーカー作の小説。82年にピューリッツァー賞を受賞。85年には映画化された。監督がユダヤ系白人スティーヴン・スピルバーグだったこともあり黒人文化の描写不足が批判を呼んだが、出演したウーピー・ゴールドバーグやオプラ・ウィンフリーにとってはキャリアを切り開くきっかけとなった。

★AAVE：African-American Vernacular English の略。アフリカ系アメリカ人特有の英語。be動詞の否定形としてain'tを用いたり、二重否定が強い否定の意味で使われる表現法はヒップホップのリリックに欠かせない。ちなみにエリックB.&ラキム（

CamScannerでスキャン

んが言ってくれたように白人警官による暴力に対するデモが起きたんですけれど、デモに参加した人が皆ケンドリック・ラマーのこの曲のサビの部分「We gon' be alright」をコールしていたんですね。

長谷川　してましたよね。

大和田　けっこう泣けちゃう感じ。

長谷川　このアルバムってロック・メディアでは**ソウルクエリアンズ**の作品からの影響がよく語られていたじゃないですか。でも僕は差異の方を強く感じたんですよ。ソウルクエリアンズは物事をちょっと上から目線で語ってしまったことで、必ずしもストリートの共感を得られなかった。その罠をケンドリックは上手く逃がれている。ケンドリックはメッセージを、自分視点からしか語っていないんです。だから自分のダメなところとかも全部言いながら、最終的にはある種のメッセージに到達するようなストーリーテリングをアルバムの中でおこなっている。そういうところにNWA以来の伝統を強く感じますね。

大和田　しかもこのアルバムは黒人文学を数多く参照しているんですよね。〈King Kunta〉はテレビドラマ化もされたアレックス・ヘイリーの『**ルーツ**』(1976)の登場人物クンタ・キンテを彷彿とさせるし、〈The Blacker The Berry〉もハーレ

Ain't No Joke〉は「マジ冗談じゃねえ」みたいな意味。

★ソウルクエリアンズ：全員がみずがめ座だったクエストラブ、ディアンジェロ、ジェイムズ・ポイザー、J・ディラが中心となったヒップホップ・クルー。90年代末からゼロ年代初頭にザ・ルーツ『Things Fall Apart』、ディアンジェロ『Voodoo』、コモン『Like Water for Chocolate』、エリカ・バドゥ『Mama's Gun』などの傑作群を立て続けに世に送り出した。ジャズをはじめとする黒人音楽の伝統に意識的な音楽性は、ヒップホップ・シーン以上にテン年代のジャズ・ミュージシャンに影響を与えている。

★『ルーツ』：107ページ参照。

CamScannerでスキャン

ム・ルネサンス期の作家ウォーレス・サーマンの同名の小説（1929）のタイトルです。さっき言及したアリス・ウォーカーの引用もそうですが、アルバムの要所要所でフィクションを参照しつつ、それをリアルな語りに取り込んでいく。そのバランスが絶妙だと思います。

ドレー版「私の履歴書」

長谷川　では次いきますか、エントリー・ナンバー2番。ケンドリックの師匠のドクター・ドレー、65年生まれ、急に世代が上になりました（笑）。

大和田　もうオッサンですよね（笑）。だって50代でしょ？

長谷川　彼がケンドリックの前に見出した弟子には**スヌープ・ドッグ**、**エミネム**、**50セント**、**ゲーム**がいます。ちょっとヒップホップを聴いている人ならスターをたくさん育てた人だってことが分かると思います。今それ以上に有名なのが、ヘッドフォンの**ビーツ**の創業者としてです。ビーツはアップルが買収しまして、ドレーは**アップル・ミュージック**の責任者でもあるんですよね。

大和田　去年その話が出て、もうドクター・ドレーはヘッドフォン・エンジニアで

★スヌープ・ドッグ：71年ロングビーチ生まれ。ロングビーチ・ポリテクニク高等学校時代に同じ高校に通っていたキャメロン・ディアスにマリファナを売った過去あり。地元で組んでいたラップ・グループ「213」の仲間ウォーレン・Gがドレーの血の繋がらない弟（互いの母と父が再婚した「みゆき」パターン）だったことから、ドレーにフックアップされてスターになった。

★エミネム：72年ミシガン生まれの白人ラッパー。LAで開催されたフリースタイル・バトル大会に出場したときの音源を聴いたドレーにスカウトされ、ヒップホップ史上空前の成功を収めるスターとなった。「ラップと娘以外には興味がない」と公言するほど、今なおラップの技術向上に余念がない。

CamScannerでスキャン

あって、音楽は趣味でやっていると町蔵さんは言ってましたよね(笑)。

長谷川 ただアルバムも出るかもしれないって言いましたよね? アップル・ミュージック販促のためのニュー・アルバムが。本当に出ましたから(笑)。

大和田 本当に出ましたね(笑)。

長谷川 ただ、10年以上『Detox』っていうアルバムの制作に取り組んでいると思われていたのに、『Compton』っていうタイトルで出したんですよ。この作品は、自伝的な内容をいろんなラッパーにラップもさせて語らせているっていう、ヒップホップ版**「私の履歴書」**みたいなアルバムで(笑)。

大和田 エラい人のどうでもいい自慢話が延々と続く日本経済新聞の連載(笑)。

長谷川 ただこのアルバムってケンドリック・ラマーが『To Pimp A Butterfly』の前に出した『Good Kid, M.a.a.D City』にすごい影響を受けていると思うんです。

大和田 おお。

長谷川 ドクター・ドレーは基本的に音楽にしか関心がない人で。だからNWAの女性差別的だったり暴力を賛美するようなリリックを批判されても「俺は良い音楽を作りたかっただけなんだ」としか言っていなかったんですよ。

大和田 いや、でも『ストレイト・アウタ・コンプトン』が公開されたあと、ド

★50セント:75年クイーンズ生まれ。99年にメジャーのコロンビア・レコードと契約するが00年に9発の銃弾を被弾して死にかける。これがきっかけで契約解除されてしまい、トラブルを恐れたレコード業界から見放されていたところをドレーとエミネムが助け舟的に契約をオファー。デビュー作『Get Rich or Die Tryin'』は全米で800万枚以上を売り上げるメガヒットとなった。

★ゲーム:79年コンプトン生まれ。ブラッズ構成員。01年にドラッグの取引に失敗して拳銃で5発撃たれ、3日間昏睡状態に。反省してラップに真剣に取り組むようになり、同郷の大先輩ドレーと契約。ドレーと50セントをエクゼクティヴ・プロデューサーに迎えた『The Documentary』で華々しいデビューを飾った。

★ビーツ:ドクター・ドレー

CamScannerでスキャン

レーが女性にふるった暴力が描かれていない、と一部に批判されましたよね。

長谷川　そんな彼が、ケンドリックの視点からみたNWAのイメージに感化されて作ったのが『Compton』なんじゃないかなと思って。

大和田　それは面白い。

長谷川　語られているのはドレーの人生なんですけど、ケンドリック的な視点を至るところに感じる。この人の音作りがどれだけすごいのかっていうのをちょっと聴いてほしいと思います。曲は〈Genocide〉です。ここのスピーカーはいちおうBOSEだから良い音が出ているんじゃないですか（笑）。さっきのケンドリック・ラマーがラップもやっています。とにかくヘッドフォン屋だけあって音作りが半端ないっていう。

大和田　音に対するこだわりが尋常じゃない。町蔵さんの『**ヤング・アダルトUSA**』にはパンチラインがすごく多いんですけど、「ドクター・ドレーこそが音響派だ」っていうのもありましたね。

歴史化の象徴、ジョーイ・バッドアス

と彼の所属レーベル、インタースコープの会長ジミー・アイオヴィンが08年に設立。巧みなイメージ戦略とミュージシャンとのタイアップで、13年には15億ドルを売り上げる巨大企業に。14年にアップルが30億ドルで買収し、ドレーとアイオヴィンはそのままアップルの社員になった。

★アップル・ミュージック：アップルが15年に開始した音楽配信サービス。有料会員数は19年現在で公称約6000万人。前年にビーツがサービスを開始していたビーツ・ミュージックがベースとなっており、ラジオ・サービスの名称〈Beats 1〉にその名残りがある。

★私の履歴書：日本経済新聞朝刊の連載記事。毎月1ヵ月間に渡ってひとりの著名人が自らの人生を語り尽くす。渡辺貞夫や阿久悠、小椋佳など

CamScannerでスキャン

長谷川　では次、エントリー・ナンバー3番は、東海岸に飛んで**ジョーイ・バッドアス**。みなさんと同年代、95年ブルックリン生まれです。高校のときに同級生とPro-Eraっていうクルーを結成して活動開始して、若さと音楽の渋さのギャップでスターになりました。メジャー・デビュー作は全米5位のヒット。なんとオバマ大統領の娘マリアさんもファンなんですよ。

大和田　マリアがPro-EraのTシャツを着ている写真がネットに流れて、ヒップホップ・ヘッズが騒然とした。日本でもすごい人気でした。

長谷川　〈Christ Conscious〉を聴いてもらいましたけど、みなさん、さっきのケンドリック・ラマーと比べてどう思います？

大和田　同じに聴こえてしまう可能性もありますけどね。

長谷川　なんでこういうことを訊いたかというと、この人がやっている音楽って、自分が生まれた頃にブルックリンで流行っていた音楽はほぼそのまんまなんですよ。

大和田　ロックでいうと**ガレージ・ロック・リバイバル**。お父ちゃんがやっていたロックかっこいい、みたいな感じ。このビートも完全に90年代東海岸的で。

長谷川　アルバムには**DJプレミア**のプロデュース曲も入っている。僕らが何も知らないで聴いたら、絶対**ブート・キャンプ・クリック**の誰かの曲だと思いますよ

ミュージシャンが登場することはあるものの、媒体の性格上、大半は成功を収めた企業経営者である。もっともドクター・ドレーならそちらのカテゴリーでも十分登場資格があるわけだが。

★『ヤング・アダルトUSA』：山崎まどかとの共著。2015年、DU BOOKS刊。

★ジョーイ・バッドアス：95年ブルックリン生まれ。10年にYouTubeで公開したフリースタイルが話題を呼び、12年に初のミックステープ『1999』をリリース。俳優活動も行なっており、ラミ・マレックの出世作ドラマ『ミスター・ロボット』にはレギュラー出演している。ウータン・クランの伝記テレビ番組『Wu-Tang: An American Saga』ではインスペクター・デックの若き日を演じている。

ね（笑）。でもこのド渋な音楽性で全米5位ですからね。

大和田 凄い。彼は昔ながらのヒップホップ・ファンからの評価がものすごく高い。それだけヒップホップが歴史化されたとも言えるんですけど。

長谷川 でも今時の感じもしますよね。活きが良いし、覇気がある。

大和田 ただしさっきの話でいうと、シーンの中心では全然ないですよね。

長谷川 全然ない。ただケンドリック・ラマーが牽引するヒップホップにおけるラップの見直しっていう流れのなかで浮かび上がってきた人であることは間違いない。だって、90年代に人気だったラッパーで彼と同じような音楽をずっと続けている人たちはいますけど、絶対トップ40なんかに入りませんからね。

大和田 そういう意味では目盛の合わせ方が上手いというか。

長谷川 なにより20歳でメジャー・デビューして、スターになっているっていうのはやっぱり素晴らしい。

トラップの牽引者、フューチャー

長谷川 白人警官の横暴さを最初に強く指摘していたのが、NWAだったというこ

★ガレージ・ロック・リバイバル：アメリカではガレージ（車庫）で練習するアマチュア・バンドが多かったことに由来する、非コマーシャルなワイルドなロックンロールのこと。もともとは、ビートルズやローリング・ストーンズに触発され、60年代半ばに草の根的に発生した。その後も何度もリバイバルしているが、特にゼロ年代はザ・ストロークスやザ・ホワイト・ストライプスといった人気バンドがシーンを賑わせた。

★DJプレミア：66年テキサス生まれ。プレーリー・ビューA&M大学在学時に作ったデモテープを聴いてその完成度に驚愕したラッパー、グールーによってニューヨークに招かれ、ギャング・スターを結成。外部にも積極的に楽曲を提供し、東海岸ヒップホップ愛好家からは今なお史上最

ともあって、15年は西海岸勢が非常に頑張った年だったと思います。ただし、大和田さんがおっしゃったように、シーンの主流は依然南部にあります。そこではもはやヒップホップ＝ラップではない。ヒップホップのことをラップって呼んでいる人は多いかもしれないけど、ラップをやっていないヒップホップがいっぱいあるっていうことは覚えておいた方が良いんじゃないかと思います。その最前線にあるのが南部のヒップホップで、今年はそれをさらに洗練させて別の音楽にしていこうっていう動きもみられたと思っています。

大和田　僕は繰り返し言っているんですけども、１００年スパンで黒人音楽をみていくと、ひとつのジャンルってまあ30年、40年で区切りが見えてくるんですよ。**モダン・ジャズ**もそう。そうすると70年代に生まれたヒップホップも歴史的に一段落してもよさそうな時期で、新しいものが出てきてもまったくおかしくない。

長谷川　ではその新しい流れの代表選手をいってみますか。エントリー・ナンバー4番、**フューチャー**の〈Jumpman〉。

大和田　この辺から僕は楽しくなりますね。

長谷川　この人、未来って名乗りながらもう30代なんですけど。アトランタ生まれで、**ダンジョン・ファミリー**っていう**アウトキャスト**とかがいるクルーから出て

高のプロデューサーとみなされている。愛機はAKAIのMPC60。

★ブート・キャンプ・クリック：ブルックリン出身のバックショット、スミフン・ウェッスン、ヘルター・スケルター、OGCらで結成されたヒップホップ・クルー。渋くアーシーなサウンドが持ち味。

★モダン・ジャズ：即興演奏を核としたジャズの総称。そのルーツは40年代、スウィング・ジャズに満足していなかったミュージシャンたちが閉店後のライヴハウスやバーでセッションをおこなう中で発生したビ・バップにある。その後、クール・ジャズ、ハード・バップ、モード・ジャズ、フリー・ジャズといったサブ・ジャンルを次々生み出したが、最後のムーヴメントだったエレクトリック・ジャズが同時代のR&Bに影響され

CamScannerでスキャン

きた人です。そして、トラップの牽引者でもある。

大和田　トラップって何だ？　っていう説明は要りますよね。

長谷川　ようするに南部のヒップホップのことです。トラップっていうのは、最初はドラッグおよびドラッグの取引き場所を意味していたスラングだったのが、広がって南部ヒップホップ、ひいては南部ヒップホップ的なライフスタイル全般を指す言葉になったんですね。

大和田　ロック的な生き様みたいな。

長谷川　そうね。トラップ的な生き様（笑）。音楽的な特徴で言うと、ラッパーが**オートチューン**を使って歌うことが多い。というかラップなのか歌なのかよく分からないスタイルをやっている。

大和田　ドレイク以降は「歌って踊る」ならぬ「歌いながらラップする」スタイルが主流ですよね。

長谷川　本人たちもあまり区別していないと思います。フューチャーはテン年代の客演王で、12年くらいから他人の曲でゲスト参加した数がハンパなく多いんですよ。その露出が実ったのか、最新アルバムは首位を獲得しています。

大和田　この人は**ミックステープ**から何からものすごくたくさん出している。さっ

てフュージョンへと変質。これに対抗して「ジャズの伝統を取り戻す」ことを標榜する新伝承派が登場したことでジャズの歴史は一巡した。

★フューチャー：83年ジョージア生まれ。従兄弟のリコ・ウェイドからの影響で音楽の道へ。12年に『Pluto』でメジャー・デビュー以降、トラップ・シーンを牽引する存在として活躍を続けている。

★ダンジョン・ファミリー：アトランタにあるリコ・ウェイド宅の地下室（ダンジョン）に出入りしていた音楽好きが結成したヒップホップ・クルー。創立メンバーは、ウェイドを含むプロダクション・チームのオーガナイズド・ノイズ、後年ソロ・シンガーとして大成功するシーローを擁するグッディ・モブ、そしてアウトキャスト。

★アウトキャスト：ビッグ・

きの話でいうと多くの音楽メディアではケンドリック・ラマーがヒップホップを代表する存在として語られていますけど、実際はフューチャーや**ドレイク**、**ビッグ・ショーン**あたりがシーンの中心だと言えますよね。しかもトラップって昔と比べてサウンドとして確実に進化している。未来感があるというか。

長谷川　昔はもっと明るくて「お祭りワッショイ」みたいなノリだったのが、酩酊状態のBGMというかサイケデリックな感じになっています。ちょっと前衛的に聴こえるかもしれないけど、ダンス・ミュージックとしてのヒップホップを考えると、これが今のスタンダード。アメリカでヒップホップ・ダンスのBGMっていうとこういうビートになります。

大和田　いやーこれはかっこいい。2015年感がやっぱりありますね。

キャラ立ちが過ぎるヤング・サグ

長谷川　では次いきましょう。エントリー・ナンバー5番、**ヤング・サグ**。このへんから顔がちょっとヤバい感じの人が増えてきます。

大和田　このあたりから、音もですけど、顔に注目してほしい（笑）。

ボーイとアンドレ3000からなるラップ・デュオ。06年に活動休止後、前者はソロ・ラッパーとして活躍しながらジャネル・モネイらを発掘。後者は目立った音楽活動をしないことによって神格化された存在となっている。

★オートチューン：地震データ解析用ソフトが音程補正にも使えることを偶然発見したエクソンモービルの元社員が設立したアンタレス・オーディオ・テクノロジーズが97年に発売。翌98年にシェールの〈Believe〉が大ヒットしたことによって、ロボ声を生むエフェクターとして使われるように。これを全面的に活用したR&Bシンガー、T・ペインの影響で、カニエ・ウェストやリル・ウェインら人気ラッパーもロボ声で歌い出した。現在はヴォーカル表現の一部として定着している。

CamScannerでスキャン

長谷川　ヤング・サグは91年アトランタ生まれで、**グッチ・メイン**の舎弟です。

大和田　グッチ・メインは本当にワルいですよね。前に講義でも話したんけど、本当は悪くないのに悪そうな格好をするラッパーがヒップホップ業界には一定数いますけど、グッチ・メインはガチ（笑）。

長谷川　2年前から刑務所に入っていますよね。なのにミックステープを獄中から次々とリリースしていて、わけわかんない。で、ヤング・サグの方は**キャッシュ・マネー・レコーズ**のCEOのバードマンと仲よくなった結果、現在バードマンと仲違いしているトップ・ラッパーの**リル・ウェイン**と対立して話題になった。

大和田　対立どころじゃない（笑）。

長谷川　リル・ウェイン殺害計画っていうのがバレたりね（笑）。あとリル・ウェインがずっと『Tha Carter』ってタイトルのアルバムを出しているんですが……

大和田　『Tha Carter V』まで出てるんですよね。

長谷川　ヤング・サグは『Tha Carter VI』っていうアルバムを出そうとして、リル・ウェインに訴えられそうになったんで、一文字だけ変えて『Tha Barter VI』っていうタイトルで出した（笑）。とにかく、この人はすごい人気があって、現在はリル・ウェインや**T.I.**がサウスのキング とされていますけど、この人こそ

★ミックステープ：元々はDJが自身のプレイを録音して路上などで勝手に販売していたカセットテープのこと。次第にラッパーの未発表音源やリミックスがフィーチャーされるようになった。発表の場がネット上に移ると、人気ラッパーが未発表曲を発表したり、正式デビュー前のラッパーが自身をアピールする宣伝ツールとして活用されるようになり、現在では非正規アルバムの総称となっている。

★ドレイク：86年生まれのカナダ人ラッパー。元子役（故アントン・イェルチン主演作『チャーリー・バートレットの男子トイレ相談室』でその勇姿が確認できる）という過去から、同業者から批判されることも多いが、飾らぬ人柄とトラック選びのセンス、MVでミームを作り出す才能によってトップに君臨し続けて

次のサウスのキングと言われてます。
大和田　キングと言われるからにはキャラ立ちしないといけないわけですが、顔のタトゥーが凄い。昔リル・ウェインが顔に涙のタトゥーを入れたとき、ちょっとびっくりしたじゃないですか。でもいまはもう誰も驚かない。
長谷川　それくらいでは普通の時代になっていますからね。
大和田　いいな、俺も顔に入れたいな（笑）。
長谷川　**福澤諭吉**の肖像とか（笑）。
大和田　えっ、顔に諭吉のタトゥーとか、だいぶダサくないですか？（会場爆笑）
長谷川　ヤング・サグの〈Best Friend〉を聴いてもらいました。これもトラップなので、音楽的にはフューチャーと似ているかもしれません。
大和田　こういう音楽をやっている人の方が、ケンドリック・ラマーみたいな音楽をやっている人よりずっと多い。やはりこっちが中心ですよね。
長谷川　この人もラップというより節（ふし）を歌っている感じ。まだメジャー・アルバムが出たか出ないかの人なので、ビデオがちょっと安い感じだけど、それはまあ許してやってください。でもこの森の中ってシチュエーションはヒップホップ的には珍しいですよね。

いる。
★ビッグ・ショーン：88年生まれのデトロイト育ち。カニエ・ウエスト主宰のGOOD musicと契約したこともあって当初は中西部的なトラックでラップしていたが、次第にトラップのビートを取り入れるようになった。17年にはメトロ・ブーミンとのコラボ作『Double Or Nothing』をリリース。
★ヤング・サグ：91年生まれ。15年の『Barter 6』で注目を浴びたことをきっかけに、元デフ・ジャム～ワーナーの社長リオ・コーエンが設立した300エンターテイメントと契約。4枚のミックステープをビルボード アルバム・チャートのトップ10内に叩き込んだ後、遂に19年に『So Much Fun』で正式デビュー。全米首位に輝いた。
★グッチ・メイン：80年生ま

CamScannerでスキャン

大和田 郊外っぽい感じ。

長谷川 南部の田舎なんでしょうね。

新人賞確実、フェティ・ワップ

長谷川 では次の人いきましょう。この人はすごい。

大和田 これまでも十分すごかったけど（笑）。

長谷川 エントリー・ナンバー6番、**フェティ・ワップ**。

大和田 今年のスターですよ。僕はケンドリック・ラマーも好きだけど、今年はフェティ・ワップの年だったと思う。

長谷川 彼の出身地は、ニューヨークの川を挟んだ向こう側のニュージャージーですけど、音楽的にはトラップなんですよ。南部生まれの音楽がジョーイ・バッドアスが頑張っている隣の州まで影響を及ぼしている。で、〈Trap Queen〉という今年を代表するメガヒットを飛ばした。この人の左目に注目してほしいんですけど、幼い頃に緑内障で左目を失明してるんですよね。

大和田 たしかにインパクトのあるルックスで。

れの伝説の大番長。現在活躍しているアトランタ出身の若手ラッパーで彼の世話にならなかった者はいないとされる。その人徳によって、15年に出所した後のアルバムには、彼を慕う後輩のスターがこぞってゲスト参加。以前にも増してシーンにおける存在感を高めている。

★キャッシュ・マネー・レコーズ：92年にニューオリンズでブライアンとロナルドのウィリアムズ兄弟が設立。初期を牽引したジュヴィナイルら人気ラッパーの大量離脱後は、末っ子キャラだったリル・ウェインとバードマンのステージ・ネームで自らマイクを握るブライアンの活躍で栄華を極めた。

★リル・ウェイン：82年ニューオリンズ生まれ。ラッパーとして大活躍する一方、自らキャッシュマネーの子会社ヤ

長谷川　でもそれを隠していないことがかっこいいと高評価なんです。それと顔自体はイケメンなので緑内障が個性になっているんですよ。
大和田　キャラの一部にしてますよね。
長谷川　ただこの額のタトゥーはいらないなあ（笑）。
大和田　評価のポイントはそこですか（笑）。
長谷川　雑なタトゥーは止めてほしいというだけで（笑）。
大和田　フェティ・ワップは歌が上手いんですよね。彼の今年の勢いはほんとうにすごくて、夜のトークショーやバラエティ番組に出たときに、僕がツイッターでフォローしているアメリカ人の反応がすごかったんですよ。たしかにキャッチーな曲で。
長谷川　何回か聴いたら、覚えちゃいますもんね。ではフェティ・ワップの〈Trap Queen〉を。これもすごく地元で撮った雰囲気があるＭＶ。でも明らかにこれ、ドラッグを作っている場所じゃねえかっていう。ドラッグで儲けた金でパーティを開いているという。
大和田　たしかに。いや〜超良い曲ですよね。
長谷川　でもニューヨークのラジオ局で〈Trap Queen〉が1時間に3回くらい流

ングマネーを設立してドレイクやニッキー・ミナージュを発掘する。しかし15年にキャッシュマネーからの離脱を宣言。長い交渉の結果、18年に独立が認められ、同年に5年ぶりの新作『Tha Carter V』を発表した。
★T.I.：03年にアルバム『Trap Muzik』でメジャーデビューした80年アトランタ生まれのラッパー。近年は俳優をはじめリアリティ・ショーへの出演など芸能人的な活動もおこなっており、Netflix製作のラッパー・オーディション番組『リズム＋フロー』ではチャンス・ザ・ラッパーやカーディ・Bとともにジャッジを務めている。
★福澤諭吉：1835年生まれ。19歳のとき長崎で出会った蘭学に衝撃を受け、スキルを磨くように。22歳のときには当時最強といわれた緒方洪

れて怒っているヒップホップ・ファンが沢山いたらしいですね（笑）。

大和田　ニューヨークの人は、ヒップホップの中心地じゃなくなった90年代後半以降ずっと怒っていますからね（笑）。

長谷川　これだけでみなさんメロディ覚えたでしょ？（笑）

大和田　これはもうこびりついて離れませんよ。

長谷川　ということでフェティ・ワップの〈Trap Queen〉でした。

大和田　今年のヒップホップ界の新人王ね、確実に。

長谷川　レコード大賞なら新人賞確定ということで。次いきましょう。いかつい顔、最後部門くらいかな。7番、**タイ・ダラー・サイン**です。85年、ロサンゼルス生まれ。父親が〈Fantastic Voyage〉のヒットでおなじみのファンク・バンド、レイクサイドのメンバーという業界二世。

大和田　それは知りませんでした。ファンク・ミュージックのメッカ、オハイオ州デイトン出身のバンドですよね。

長谷川　だからこの人は楽器ができる。最初は裏方をやっていたんですけど、**YG**や彼のトラックメイカーの**DJマスタード**とつるみだして、パフォーマーとして彼らと一緒に浮上してきた感じ。同時に彼は〈See You Again〉でラップしてい

庵主宰のクルー、適塾の筆頭MCとなる。その後、三度の海外ツアーを含む精力的な活動を展開。今なお使われるパンチライン「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」は彼が作ったものである。1858年に江戸で設立した自らのコレクティヴ蘭学塾は慶應義塾へと発展。これまで近田春夫やKREVAといったレジェンド・ラッパーを世に送り出している。

★フェティ・ワップ：91年ニュージャージー生まれ。「彼女は俺のトラップ・クイーン／取引現場にも同行／一緒に金を稼ぎまくるぜ／目標も決めたんだ／お揃いのランボルギーニ」と朗らかに歌うデビュー・シングル〈Trap Queen〉は驚異的なヒットを記録した。

★タイ・ダラー・サイン：85年カリフォルニア生まれ。プロデューサーとしてYG

た**ウィズ・カリファ**のクルー、テイラー・ギャング所属でもあるんです。で、タイ・ダラーはロサンゼルス出身だけれども、音楽的にはトラップを少し都会的にお洒落にしたような音楽をやっています。

大和田　まあYG、DJマスタードも基本そうですからね。

長谷川　ケンドリックもファーストはそうだったんけど、セカンドはあえてサウス色を排除した。でもLAでも実際はこういう音楽がやっぱり主流っていうことですね。

大和田　〈Saved〉も素晴らしい曲。あと注目してほしいのは、ヒップホップのプロデューサーって曲の最初に自分の「署名」を入れるんですよ。

長谷川　イントロでね。

大和田　これはDJマスタードが作ったトラックなので、「Mustard on the beat hoe」っていうのが最初に必ず入るの。それがすごくかっこいい（笑）。

長谷川　そこですか（笑）。軽く歌っていますけど、この人も歌が上手いんですよね。

大和田　DJマスタードの作るトラックは本当に好きだなあ。

長谷川　いわゆる**クラブバンガー**ってやつですね。ゲストで**E-40**が出てきますけど。

大和田　そうそう。E-40が今年は客演で目立ちました。E-40の説明をちょっと

〈Toot It And Boot It〉を手掛けて名を挙げ、作曲に関わったスヌープ、ウィズ・カリファ、ブルーノ・マーズの共演曲〈Young, Wild & Free〉をきっかけにソロ・アーティストとしてカリファ率いるテイラー・ギャング・レコーズと契約した。近年のカニエ・ウェスト作品の多くにもライターとして参加している。

★YG：西海岸ギャングスタ・ラップをテン年代に対応してアップデートしてみせた90年コンプトン生まれのラッパー。ブラッズ構成員。

★DJマスタード：90年ロサンゼルス生まれのトラックメイカー。YGやタイ・ダラー・サインのほか、タイガやビッグ・ショーン、キッド・インクらを手掛ける。歌物のプロデューサーとしても優秀で、エラ・メイのデビュー作でも大半の楽曲を担当した。

CamScannerでスキャン

お願いできますか。
長谷川　E-40はカリフォルニア北部のオークランドのベテラン・ラッパーです。この人、67年生まれなんですよ。
大和田　そんな大ベテランが、20代前半の若手のヒット曲にかなり客演していた。
長谷川　アルバムの後半に入っている捨て曲とかじゃなくてシングル曲ってところが凄い。つまり、ヒット狙いの曲に招かれて、ちゃんとその目的を助けているんです。
大和田　単に大物だからとか、懐かしのスターだからとかじゃなくて、ラップが上手いから呼んだって感じなんですね。
長谷川　そうそう、ガチで役立つ。バラエティ番組でいうと**関根勤**的なポジションで。
大和田　E-40は関根勤（笑）。わかりやすい。
長谷川　若手芸人と一緒にひな壇に座っていても、ぜんぜん負けていない。確実に面白いことを言うという。
大和田　（笑）。

歌舞伎町のエイサップ・ロッキー

★ウィズ・カリファ：87年生まれ。地元ピッツバーグで製作したミックステープが評判を呼び、11年に『Rolling Papers』でメジャー・デビュー。『ワイルド・スピード SKY MISSION』のサントラに提供したポール・ウォーカー追悼曲〈See You Again〉は、本国だけで1100万枚相当のメガヒットを記録した。

★クラブバンガー：クラブで流すと盛り上がりそうな曲、興奮させる曲、アッパーな曲のこと。

★E-40：67年北カリフォルニアのヴァレーホ生まれ。80年代から自作のカセットテープをストリートで売りはじめ、93年にメジャー・デビュー。特異な作詞能力とフロウの魅力を武器に、Gファンクからハイフィーの時代まで乗り切り、若手からレジェンドとして崇拝されている。

長谷川　ここからイケメン枠に入ります。8番、ビッグ・ショーン。彼も人気ラッパー。

大和田　この流れでみると、ビッグ・ショーンって地味に見えますよね（笑）。別に地味でいいんだけど（笑）。

長谷川　顔にタトゥーがないので、キャラが立っていないようにみえちゃう（笑）。彼は88年生まれ、デトロイト育ち。師匠は**カニエ・ウェスト**と**ノー・I・D**。で、**ナヤ・リヴェラ**……

大和田　みなさん分かりますか、『glee／グリー』のサンタナですよ。

長谷川　それと**アリアナ・グランデ**という華麗なる交際歴をもつ男でありますね（笑）。で、アルバム『Dark Sky Paradise』は首位獲得と。今からかける曲は教室で口にするのはなかなかはばかられるタイトルですけど、〈I Don't F*ck With You〉。

大和田　これはようするにナヤ・リヴェラに言っているのでしょうか？「もうお前とはやらない」って。なぜなら俺はアリアナ・グランデが好きだからっていう。

長谷川　すでにアリアナとも別れちゃっているんだけど。しょうもない（笑）。た

★関根勤：a.k.a. ラビット関根。53年東京生まれ。伝説のテレビ番組『ぎんざNOW！』のオープンマイク・コンテスト初代チャンプ。当時シーンのキング（大将）だった萩本欽一のクルーに加入したが、カースワードを嫌う大将とは方向性が異なるマニアックなスタイルで注目される。クルー内ユニット、コサキンの活動で人気を確立した後、膨大な客演をこなすようになり、シーン全体からリスペクトを得て現在に至る。

★カニエ・ウェスト：77年生まれ。「天才」と「痛い人」の狭間を揺れ動く（近年は後者に限りなく接近）ラッパー兼プロデューサー。多くの傑作ソロを発表後、19年に世俗の音楽から足を洗いゴスペルに専念すると宣言したが、誰も信じていない。自ら設立したGOOD musicからはビッ

だ交際歴でラッパーとしての格を上げた気がします。

大和田 アリアナ・グランデでやっぱり上がったんじゃないですかね。

長谷川 イケメン枠の人気者なので、このMVは学園映画っぽい演出になっている。ビッグ・ショーンがアメフト部のスター選手で、監督がカニエ。

大和田 カニエが監督のチームでだけはプレーしたくない（笑）。これもゲストがE-40で、曲を作ったのはDJマスタードとカニエですね。

長谷川 基本はマスタードが作って、カニエが仕上げを手伝ったって感じだと思います。

大和田 中盤の大げさな部分はカニエでしょうね。

長谷川 MVでは「Focus（集中しろ）」ってビッグ・ショーンに指導している（笑）。

大和田 けっこうちゃんと演技しているんですね。

長谷川 それで最後は試合で逆転勝利をする、そういう感じです。では次の人にいってみますか。

大和田 9番、**エイサップ・ロッキー**。イケメン枠にもっともふさわしい。

長谷川 エイサップ・ロッキーはニューヨーク出身。でもさっきのジョーイ・バッドアスみたいな復古主義者ではなくて、トラップをニューヨーク流におしゃれに

グ・ショーンのほか、ジョン・レジェンド、キッド・カディ、プシャ・Tらの作品をリリースしている。

★ノー・I・D：71年シカゴ生まれ。コモンの専属DJ兼プロデューサーとして90年代前半に注目を浴びる。ゼロ年代前半は低調だったが、弟子のカニエ・ウェストの成功に伴ない再浮上。カニエのほかジェイZを手掛けるトップ・プロデューサーとなった。またデフ・ジャムのA&Rとして多くの新人を世に送り出している。

★ナヤ・リヴェラ：87年カリフォルニア生まれの女優。ミュージカル・テレビドラマ『glee／グリー』のサンタナ役で人気を獲得。

★アリアナ・グランデ：93年フロリダ生まれ。身長153センチ。子ども向きケーブルチャンネル、ニコロオデオン

アレンジしたような音楽をやっている。あとこの人は格好がモードっぽい。ファッション・アイコンなんです。いろんなNYのコレクションにも呼ばれたりしていて。

大和田 かっこいいですもんね。

長谷川 トラップの酩酊感をさらに突き詰めたようなサイケデリックな音楽をやっている。〈L$D（LOVE x SEX x DREAMS）〉のMVを見てもらいましょう。

大和田 たしかにサイケデリックって重要なテーマなのかもしれない。このアルバム『At. Long. Last. A$AP』が出たのはいつでしたっけ？

長谷川 春ですね。これは聴き込みましたね。MVをみてください、皆さんには見慣れた風景なんじゃないかと。

大和田 **歌舞伎町**ですね。

長谷川 東京でロケすると、だいたい自販機が映る（笑）。

大和田 あとネオン。新宿のホストクラブの風景とエイサップ・ロッキーってすごく合います。

長谷川 日本人にとっては単なるホストクラブやキャバクラの店内なんだけど、エイサップ・ロッキーがクスリをキメた結果の心象風景として映されているのが面

のシットコム出身だが、幅広い声域および感情表現によってシンガーとしての評価は極めて高い。私生活ではビッグ・ショーンと破局後、故マック・ミラー、コメディアンのピート・デヴィッドソンと交際して話題を呼んでいる。

★エイサップ・ロッキー：88年ニューヨーク生まれ。地元ハーレムの仲間たちとエイサップ・モブを結成。ミックステープ活動を経て、13年に『Long. Live. A$AP』でメジャーデビュー。〈L$D〉収録のアルバム『At. Long. Last. A$AP』は全米1位を記録した。端正なルックスとセンスで、ファッション・アイコンとしても知られている。

★歌舞伎町：かってのニューヨーク42番街のような東京の繁華街。

CamScannerでスキャン

白い。

大和田　ヒューストンの**スクリュー**も酩酊感が売りでしたけど、イメージがちょっと違いますね。アンビエントっぽいし。

長谷川　都会っぽいというか、お洒落な感じがする。でもこんな音楽なのにビルボードのアルバム・チャートでは首位獲得。

ミーム化するドレイクのダサいダンス

長谷川　次、10番はドレイク。86年生まれ、カナダ出身です。しかも母親がユダヤ系白人。この人は元々は子役で、カナダの学園ドラマで人気者だったんです。

大和田　今のヒップホップ・シーンでいうとキングはこの人ですよね。

長谷川　舎弟もどんどん増やしている。今年、アルバムが大ヒットした人で**ザ・ウィークエンド**っていうR&Bシンガーがいますけど、彼もドレイクの友達で。

大和田　トロント人脈ですね。この人は目利きなんですよね。親分肌にはあまりみえないけど、若手を沢山フックアップしています。**パーティーネクストドア**とか。

長谷川　あとこの人はあまり威張らない、飾らないキャラで人気なんです。

★スクリュー：極端にテンポを落としてダブ的なエフェクトを加えたリミックスの一種。正式名はチョップド&スクリュード。90年代にヒューストンで咳止めシロップに含まれるコデインがもたらす酩酊状態をサウンドに反映することを目的としてDJスクリュー（00年にコデインのオーバードーズで死去）が考案した。

★ザ・ウィークエンド：90年カナダ生まれのシンガー。11年に発表した3枚のミックステープでスターとなり、12年にメジャー・デビュー。

★パーティーネクストドア：14年にドレイクが設立したOVO Soundからデビューした93年カナダ生まれのラッパー兼シンガー。ソングライターやプロデューサーとしても活動しており、ドレイクやアッシャー、リアーナらを手掛けている。

CamScannerでスキャン

大和田　ヒップホップ界でもパワハラがタブーに。時代の変化を感じますね。

長谷川　そういう人柄込みで愛されていて、アルバムを出すとアルバム収録曲がチャートインしちゃったりするんですよ。Spotifyとかで何回も聴かれて、それだけでチャートインしてしまう。その中でも今年の終りに出した〈Hotline Bling〉という曲がとんでもないメガヒットになりました。理由はMVにあるのでそれをぜひみてください。

大和田　このチャカポコしたリズムがずっと流れています。

長谷川　ドレイクって女性に優しいリリックの曲を書いている人なんですけど、これは女子からの電話に振り回される男の哀愁をラップして、同性にも支持を得たんですよ。

大和田　このMVの変なダンスが話題になったんですよね。

長谷川　ショウビズ界にいる黒人にあるまじきダンスのダサさ（笑）。これが逆にウケて真似する奴が出てきて。

大和田　ネット上ですごい**ミーム**化しました。**Vine**のようなアプリで、2秒くらいだけずっとループさせたり。最初にみたときに僕は宇多田ヒカルの〈Automatic〉の天井が低いところで踊っていたMVを思い出しましたね。しかしこの踊り、

★ミーム：インターネット・ミームのこと。「ミーム」自体は、ウォルター・ベッカーも曲名にしたベストセラー本『利己的な遺伝子（The Selfish Gene）』の中で著者のリチャード・ドーキンスが「文化の中で人から人へと拡がっていくアイデア・行動・スタイル・慣習」を指す概念として作り出した造語だったが、現在は〝ネット内流行〟くらいの軽い意味合いで使われることも多い。

★Vine：13年にサービスを開始した動画共有サービス。6秒間ループ再生という絶妙なフォーマットが若者に支持されたが、次第に競合相手にユーザーを奪われはじめ、親会社Twitterの経営判断によって17年にサービス終了した。

CamScannerでスキャン

音を消して見るとだいぶおかしい（笑）。

長谷川　ただのオッサンの宴会の踊り（笑）。あとこの曲ってネタが**ティミー・トーマス**で。

大和田　ティミー・トーマスの〈Why Can't We Live Together〉。90年代の東京で渋谷系文脈で再評価された曲がサンプリングされているんですよね。

長谷川　それとサウスのビートを組み合わせていたりと、プロダクションも素晴らしい。というわけで、ドレイクでした。来年たぶんこの曲が入ったアルバムが出るはずです。

〝無名の若手トラックメイカー〟ポール・マッカートニー

長谷川　次はカニエ・ウェスト。プロデューサーからアーティストへ、そしてセレブへと変貌を続けている人だけど、才能はなんだかんだいってある。

大和田　なぜか**ポール・マッカートニー**と共演しました（笑）。

長谷川　ということで、ポールとの共作曲〈Only One〉を聴いてみましょう。

大和田　カニエとポール・マッカートニーって、誰が必要としているコラボレー

★ティミー・トーマス：44年生まれ。マイアミを拠点とするTKレコードのスタジオ・ミュージシャンだった時に、リズム・マシーンとオルガンだけでメッセージ・ソング〈Why Can't We Live Together〉を録音。本人はデモテープのつもりだったが、そのままリリースされ全米3位の大ヒットを記録した。同曲は後年シャーデーもカバー。

★ポール・マッカートニー：42年英国生まれ。ご存知ビートルズの元メンバー。ヒップホップ的には、名ブレイクビ

ションなんでしょうか?

長谷川 でもね、これ普通に良い曲なんですよ。

大和田 いや、そうなんですけど、どちらからアプローチしたんですかね。

長谷川 カニエだそうです。

大和田 カニエなんだ(笑)。

長谷川 ポール・マッカートニーって天然な人だから、カニエとの共作は**ジョン**との仕事を思いださせたとかわけの分からないことを言ってます(笑)。

大和田 コメントが適当すぎる(笑)。

長谷川 本当にあの人は適当ですよね。そんなこと言っていいのかって(笑)。

大和田 全ビートルズ・ファンを敵に回しますよね、中心メンバーなのに(笑)。

長谷川 カニエとポールは、このあと〈FourFiveSeconds〉っていう**リアーナ**のシングルも一緒に作っていて、これもいい曲なんですよ。この頃、Twitterで「カニエ・ウェストは偉大だ。ポール・マッカートニーとかいう無名の若手トラックメイカーを起用してさすがだ」って次々に書き込まれて話題になりましたよね。もちろんみんなわざと書いているんです。そうしたら中年のロック・ファンが「なんでポール・マッカートニーのことを知らないんだ」って怒り出した(笑)。

ーツ〈Momma Miss America〉や、BDPやナイス&スムーズが引用した〈Let 'Em In〉を作った人として知られている。

★ジョン:ジョン・レノン。ポールの元相方。

★リアーナ:88年バルバドス生まれのポップ・シンガー。フォーキーな〈FourFiveSeconds〉(シンプルな曲だが、作者クレジットにはカニエ、ポール、リアーナのほか、マイク・ディーン、タイ・ダラー・サイン、ダーティ・プロジェクターズのデイヴ・ロングストレス、ダラス・オースティンら10人の名が並ぶ)は全米最高4位を記録。ポールにとっては85年の〈Spies Like Us〉以来のトップ10ヒットとなった。

CamScannerでスキャン

それを若いヒップホップ・ファンが面白がって、「このポールって奴はイギリス人らしいぞ」とか「意外と歳らしい」とか、壮大な釣り針で中年のロック・ファンを引っ掛けまくったという。

大和田　カニエ・ウェストはさっき言ったようにヒップホップ界では才能があるって思われていますけど、一般的にはだいぶエキセントリックな人っていう扱いで。

長谷川　そうですね。このMVでは**キム・カーダシアン**との間に生まれた娘と共演しています。この子が意外にも可愛いという（笑）。

大和田　知りませんよ。子どもまでチェックしてるんですか（笑）。

長谷川　この曲、歌詞もすごいんですよ。簡単に言うと、私は天国にいってしまったけどもあなたは大丈夫、こんな素晴らしい子どもに恵まれたのだからっていう歌詞で。ようするにカニエが、亡くなった自分のお母さんの視点から自分を励ましているっていう曲なんですよ（笑）。

大和田　自分を励ますためなら誰にでもなる（笑）。

長谷川　すごいマザコンなんですよ、この人（笑）。

大和田　母親が亡くなったときに『808s & Heartbreak』って追悼アルバムを出した人なので。カニエのアルバムは今年は出なかったですね。

★キム・カーダシアン：80年ロサンゼルス生まれ。実業家だった父ロバートがO・J・シンプソン事件裁判の弁護士団に加わったことで有名人となり、キムもヤング・セレブの一員になった。当初はパリス・ヒルトンの友人扱いだったが、07年にR&Bシンガー、レイ・ジェイとのセックス・テープが流出したことでパリスを凌ぐ人気を獲得。同年に放映が開始されたリアリティ・ショー『Keeping Up With The Kardashians』によって姉妹のコートニーとクロエ、異父妹ケンダル・ジェンナー、カイリー・ジェンナーとともにその世界の頂点に立った。14年にカニエと結婚。

★チャンス・ザ・ラッパー：93年シカゴ生まれ。シカゴ市長ハロルド・ワシントンやイリノイ州上院議員時代のバラク・オバマの側近だったケ

長谷川　来年出るだろうって言われています。

大和田　ビートを作らせたらかっこいいんですけどね、カニエは。

長谷川　はい、次は**チャンス・ザ・ラッパー**。93年、シカゴ生まれだから、皆さんとほぼ同世代ですね。この人はミックステープと呼ばれる自主制作の無料のアルバムが評判を呼んでメジャーから声がかかり続けているんですけど、それを全部断ってアルバムは無料配布して、ライヴで稼ぐっていう手法を貫いています。

大和田　この人はヒップホップに興味ない人でも絶対好きっていうか。

長谷川　最新作の『Surf』はクルー・アルバム的な作りでしたけど。

大和田　ちょっと僕は期待はずれだったんですが、評価はすごい高い。

長谷川　曲はじゃあ〈Sunday Candy〉を。

大和田　これまでの雰囲気とはぜんぜん違って可愛い感じですね。ゴスペルやR&Bの歴史に敬意に払いながら、**ジューク**のビートも取り入れて。インディー・ロック好きにも絶対にウケそうですね。

長谷川　日本人ウケもしそう。日本人ってメジャー・セブンスに弱いですから、僕もそうだけど。

ン・ウィリアムズ・ベネットの息子。高校時代にマリファナ所持で10日間の停学処分を受けたときに地元の図書館の娯楽室で製作したミックステープ『10 Day』が話題を呼び、13年の『Acid Rap』によってシーンの最重要人物のひとりに目されるようになった。『Surf』はダニー・トランペット、ジャミラ・ウッズらと組んでいるクルー、ソーシャル・エクスペリメント名義のミックステープ。

★ジューク：シカゴハウスにベース・ミュージックやヒップホップの要素が加わって生まれたクラブ・ミュージック。高速ビートが特徴で、リスナーは足技を中心としたダンスを踊る。チャンス・ザ・ラッパーもこのダンスをかなり流麗に踊れる。

CamScannerでスキャン

『エンパイア』とミッシーの復帰

長谷川　で、最後の人たち。

大和田　誰をもってきたんですか？

長谷川　**『エンパイア』**のキャストです。

大和田　それってアーティストではなくテレビドラマの出演者ですよね（笑）。

長谷川　『エンパイア』はFOXテレビでやっているヒップホップ・レーベルが舞台の愛憎ドラマです。エンパイアっていう架空のヒップホップ・レーベルがあって、その創業者でラッパーのルシウス・ライオンってカリスマがいるんですよ。でも彼が病で余命わずかと宣告されてしまう。ルシウスは3人いる息子のうちの誰かにこの帝国を譲ろうとするんだけど、そのことで家族がモメだすっていう話なんです。

大和田　『リア王』みたい。

長谷川　長男は経営のエキスパートではあるんだけど良い音楽を聴き取る才能がない。次男は性格も音楽の才能も良いんだけど、ゲイなので、古いタイプの黒人である父親からちょっと疎まれている。

★『エンパイア』：詳しくは162ページを参照。

★フランク・オーシャン：87年ニューオリンズ生まれのR&Bシンガー。ロサンゼルスに移った後、オッド・フューチャーに加入して注目を集める。12年、メジャーデビュー・アルバム『Channel Orange』の発表直前に初恋の相手が男性だったことをカミング・アウトしたが、ジェイZらが支持を表明。セールス的にも大成功し（初登場2位）、LGBTQがタブー視されていた

大和田　次男は完全に**フランク・オーシャン**をモデルにしていますね。うちの妻は彼の大ファンなんです（笑）。

長谷川　ていうか日本人の85％は次男派じゃないかな（笑）。この次男はおねえ的なところが全然なくて、単なるかっこいいイケメンなので、ある種の偏見を変えたキャラではあります。

大和田　たしかに。

長谷川　で、三男はやんちゃな感じのラッパーなんだけど、素行が悪いということで、それぞれ一長一短がある。そんなストーリーかつオール黒人キャストでありながら、2015年スタートのドラマでは視聴率トップの番組になったので、ヒップホップ・シーン的には大ニュースなんですよ。

大和田　これ、音楽は**ティンバランド**がやっているんですよね。

長谷川　ジャスティン・ティンバーレイクとかジェイZとかを手がけているトップ・プロデューサーが劇中曲を毎週作っている。だから新曲だけのヒップホップ版『glee／グリー』みたいな感じで。〈No Apologies〉いってみましょうか。

大和田　最後にこれかけると、わけが分からなくなりますね（笑）。

長谷川　でも今年**マドンナ**のニュー・アルバムが出た週に『エンパイア』のサント

黒人音楽業界において歴史的快挙となった。

★ティンバランド：71年バージニア生まれのプロデューサー。高校卒業後、幼馴染のミッシー・エリオットとともにジョデシィのデヴァンテ・スウィングのもとで修行を積んだ後に独立。アリーヤのセカンド作でシーンに衝撃を与えた。その後、ジェイZやジャスティン・ティンバーレイクのヒット曲を次々と手掛けて現在に至る。

★マドンナ：58年ミシガン生まれ。80年代初頭のニューヨークのクラブ・カルチャーが生み出したポップ・スター。初期アルバムのプロデューサーで恋人でもあったジョン・"ジェリービーン"・ベニテスはサウスブロンクス出身のプエルトリコ系DJで、フリースタイル／エレクトロ・シーンでは有名な存在だった。

ラが出たんですけど、1位は『エンパイア』の方だった。そのくらい売れてます。FOXテレビに入っていない人も、来年シーズン『1』がDVD化されるらしいのでぜひ。ヒップホップのアーティストたちがどんな風にレコード・ビジネスに取組んでいるのかが分かって絶対面白いと思うので。

大和田 ちょうど時間ぴったりですね。素晴らしい（笑）。

長谷川 いちおうなんとかぎりぎりまとまりました。これで全部。はい、ではほんとの最後に大和田先生から。

大和田 では**ミッシー・エリオット**のカムバック曲をかけていいでしょうか。

長谷川 ミッシー・エリオットってアルバムを10年出していませんよね。

大和田 バセドウ病だったんですよ。裏方仕事は続けていましたけど。そんな時に**ケイティ・ペリー**に頼まれて**スーパーボウルのハーフタイム・ショー**にゲスト出演したのをきっかけに久しぶりに表に出たという。

長谷川 曲は〈WTF（Where They From）〉ですね。

大和田 これ、出てからもう何度みたかわからない。ビデオも最高だし。プロデューサーは**ファレル・ウィリアムズ**ですけど、ファレルはミッシーの後輩にあたるんですよね。

★ミッシー・エリオット：71年ヴァージニア生まれ。89年女性ヴォーカル・グループSistaを結成し、ティンバランドと製作したデモテープがディヴァンテ・スウィングに気に入られ弟子入り。しかしSistaはアルバム・デビューに辿り着けずに解散。ソロ・シンガーに転向して97年にデビューを果たした。モニカやジャズミン・サリヴァンらを手掛けるなどプロデューサーとしても活躍している。

★ケイティ・ペリー：84年カリフォルニア生まれ。15年のハーフタイム・ショーでは途中でミッシー・エリオットを招き入れて〈Get Ur Freak On〉と〈Work It〉を共演。その後ミッシーひとりだけで〈Lose Control〉を披露させるなど、ケイティのミッシー愛が光るセットリストとなった。

★スーパーボウルのハーフタク

CamScannerでスキャン

長谷川　さっきの『エンパイア』の曲をプロデュースしたティンバランドの小学校からの知り合いが、このミッシーさんで、ファレル・ウィリアムズはティンバランドの高校の2年下なんです。一緒にバンドをやっていたこともある。だからいつもはセレブっぽいファレルがかなり真剣にラップしているのが面白い。高校時代の先輩って一生頭が上がらないから。

大和田　一個上は神様ですからね、本当に。

長谷川　でもファレルがこんなにちゃんとラップしたのって久しぶりですよね。

大和田　ミッシー姉さんのためならみたいな感じ。この曲はトラックがビートだけで音程がある楽器がほとんど使われてない。でもビルボードの22位まで上がっているんですよね。という感じで、かけ足で2015年のヒップホップ・シーンをみてきましたけど。

長谷川　何か一個でも二個でも引っかかってくれると嬉しいなという気持ちがあるんですけれども。

大和田　町蔵さんは皆さんの**投票結果**に注目しているようなので。予想は誰ですかね？

長谷川　誘導になるとよくないので、言わない方がいいと思います。

イムショー：アメリカン・フットボールの頂点を決めるNFLの優勝決定戦の前半と後半の間におこなわれるエンターテインメント・ショーのこと。これまでR&B系ではマイケル・ジャクソン、ダイアナ・ロス、プリンス、ビヨンセといったスターが出演しているが、ヒップホップ・アクトでメインを張ったのは今のところ11年のブラック・アイド・ピーズだけである。

★ファレル・ウィリアムズ：72年ヴァージニア生まれ。高校卒業後に親友チャド・ヒューゴとともにテディ・ライリーのもとに弟子入り。その後ヒューゴとのユニット、ネプチューンズ名義で数多くのヒット曲を手がける。近年は単独でプロデューサーや映画音楽家として、またソロ・シンガーとしても活躍している。

CamScannerでスキャン

大和田　本気ですね、町蔵さん（笑）。

長谷川　ヒップホップをあまり知らない人がパッと聴くとどれを気にいるのか本当に気になるので。

大和田　2015年をまとめると、ケンドリック・ラマー的な、非常にメッセージ性の強いアルバムが出ましたけれど、それとは無関係に豊かなサウンドがシーンに溢れていたということですね。

長谷川　いま20代後半のドレイクやケンドリック、エイサップ・ロッキー。この世代のスターが新作を出すと、やっぱりシーンが盛り上がりますよね。一時期ヒップホップってアラフォーの人たちがビッグネームでしたけど、シーンを本当に引っ張っているスターは20代後半に移っている。音楽ジャンルとして上手く世代交代に成功したっていう感じがありますね。

大和田　そうですね。あと西海岸はしぶといね。

長谷川　ここにきていろんなスター、才能がまた出てきたっていう。

大和田　では今日はお忙しいなかありがとうございました。長谷川町蔵さんでした。

長谷川　どうもありがとうございました。

［2015年12月、慶應大学三田キャンパスにて収録］

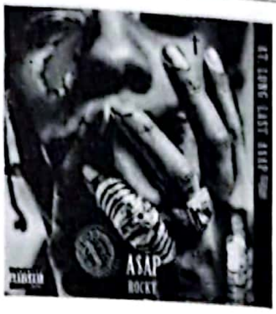
★投票結果：チャンス・ザ・ラッパーが1位でした。やっぱり日本人はメジャー・セブンスに弱い。

Action Bronson
アクション・ブロンソン

Mr. Wonderful
2015
Atlantic

ニューヨーク出身、アルバニア系のイスラム教徒で、元シェフの経歴を持つ白人ラッパーによるデビュー作。だがそのラップは色物どころか、ゴーストフェイス・キラーと比較されるきわめてオーセンティックなもの。そんな彼を、マーク・ロンソンやアルケミストがサンプリング中心の90年代イーストコースト的なトラックを提供することで援護射撃している。チャンス・ザ・ラッパーも客演。 H

A$AP Rocky
エイサップ・ロッキー



At. Long. Last. A$AP
2015
RCA

カニエ・ウェスト、リル・ウェイン、ジューシィ・J、MIAといったビッグネームをゲストに招きつつ、サウンドはデンジャー・マウスと新進プロデューサーのジョー・フォックスに大半の製作を委ねるなど、ライバルとの差別化を図ったメジャー第2作。酩酊感を漂わせながら、あくまでクールな彼独自の世界を構築することに成功している。新宿歌舞伎町で撮影した〈L$D〉のMVも話題に。 H

Big Sean
ビッグ・ショーン

Dark Sky Paradise
2015
Def Jam Recordings

GOOD music所属でありながら放任状態だったイケメンが、メジャー3作目にしてカニエ・ウェストの本気の監修のもとで作り上げた会心作。DJマスタード作のビートにカニエの大袈裟さが加味された〈I Don't Fuck With You〉や、カニエとジョン・レジェンドを従えて荘厳に迫る〈One Man Can Change The World〉など佳曲揃い。当時の恋人アリアナ・グランデもゲスト参加。 H

Donnie Trumpet & The Social Experiment
ダニー・トランペット&ザ・ソーシャル・エクスペリメント

Surf
2015
Not on Label

チャンス・ザ・ラッパーの音楽監督でもあるトランペット奏者ダニー・トランペットの名を冠したクルー・アルバム。チャンスをはじめ、ジャミラ・ウッズ、BJザ・シカゴ・キッドら地元シカゴ組に加えてJ・コール、ビッグ・ショーン、バスタ・ライムズ、エリカ・バドゥ、クエイヴォら豪華なゲストが参加。ソウルフルでオーガニックな音宇宙を展開している。〈Sunday Candy〉の幸福感！ H

CamScannerでスキャン

Dr.Dre
ドクター・ドレー

Compton
2015
Aftermath Entertainment

「Detox」の製作を打ち切って突然リリースされた16年ぶりのソロ作。同時期に公開されたNWAの伝記映画『ストレイタ・アウト・コンプトン』とリンクした内容になっており、アイス・キューブ、スヌープ、エミネム、そしてケンドリック・ラマーと、これまで彼がスターにしてきたラッパーの声を借りながら、自身の怒濤の半生を描いてみせる。言わばヒップホップ版「私の履歴書」。H

Drake
ドレイク

Views
2015
Young Money Entertainment

レペゼン・トロントなジャケ写（トロントの象徴CNタワー）に象徴されるように、アフロ・テイストな〈One Dance〉やダンスホール・レゲエの導入など、USラッパーとの差別化を図った意欲作。それによってデビュー以来のカニエ～キッド・カディの影響下から完全に脱することにも成功した。ティミー・トーマスをサンプリングしたモンスター・ヒット曲〈Hotline Bling〉も収録。H

Fetty Wap
フェティ・ワップ

Fetty Wap
2015
300 Entertainment

自主レーベルからリリースした音源がきっかけでリオ・コーエンの300 Entertainmentとメジャー契約して、このデビュー作がいきなりチャート1位を獲得したフェティ・ワップ。それ自体は珍しくはないサクセス・ストーリーだけどコテコテのトラップ賛歌〈Trap Queen〉を歌うこの男が、ニューヨークから川を隔てただけの街ニュージャージー出身であったことは当時衝撃を与えた。H

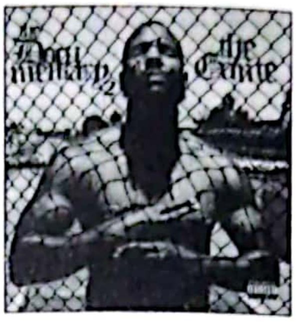
Future
フューチャー

DS2
2015
Epic

オートチューンを駆使したラップ・シンギングで様々なラッパーのアルバムに客演することで、自らの名前を売ってきた社交家が、あえてゲストをドレイクだけに絞り込んで作り上げた勝負作。内省的なムードを強調することで今に繋がるトラップの「型」を完成させた。メイン・プロデューサーに起用されたメトロ・ブーミンがブレイクするきっかけになったという意味でも重要作。H

CamScannerでスキャン

The Game
ザ・ゲーム

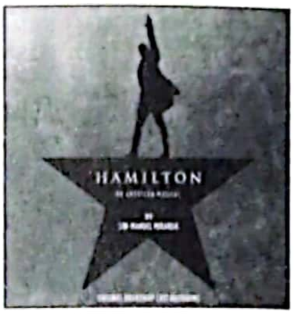


Documentary 2

2015
Blood Money Entertainment

デビュー・アルバム『The Documentary』の発売10周年を記念してリリースした第2弾。後見人のドクター・ドレーやスヌープはもちろん、同郷の後輩ケンドリック・ラマー、ついでになぜかパフ・ダディやQティップ、フューチャーまで招いて、「これぞウェッサイ」と言いたくなる一大ラップ絵巻を描いてみせてくれる。ナズらが参加した続編『The Documentary 2.5』も併せて必聴。 **H**

Hamilton Cast
ハミルトン・キャスト

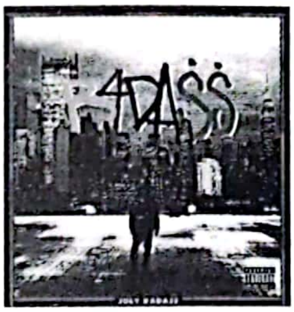


Hamilton

2015
Atlantic

プエルトリコ系ニューヨーカーの劇作家兼俳優リン＝マニュエル・ミランダが、合衆国建国の父のひとりアレクサンダー・ハミルトンの生涯を全編ラップで描いたミュージカルのオリジナル・キャスト盤。監修はクエストラヴが担当。ヒップホップが合衆国の文化的財産であることが本作で決定づけられた。16年にはラッパーたちによるカバー・アルバム『Hamilton Mixtape』もリリースされている。 **H**

Joey Bada$$
ジョーイ・バッドアス

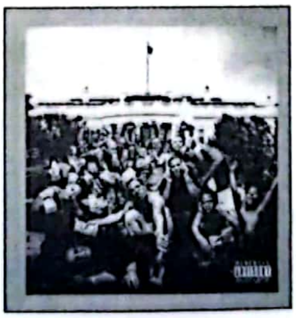


B4.DA.$$

2015
Pro Era

ブルックリンの新鋭が20歳の誕生日に放ったデビュー・アルバム。RZAが絶賛し、Qティップがズールー・ネイションに迎え入れたというトピックだけで、その新伝承派ぶりが伺えるというもの。DJプレミアやスタティック・セレクター作のトラックも含めて90年代色濃厚ながら、主人公のイキの良さでフレッシュな作品として聴けてしまう。オバマの娘マリアがファンなことも当時話題になった。 **H**

Kendrick Lamar
ケンドリック・ラマー



To Pimp A Butterfly

2015
Top Dawg Entertainment

前作の成功がもたらした代償と葛藤を、アフリカ旅行を機に乗り越えて自己肯定へ……。そんな魂の行程を、テラス・マーティンやサンダーキャット、ロバート・グラスパーによるジャジーな演奏で綴ったコンセプト作。ファレル制作の〈Alright〉は盛り上がるBLMのテーマ曲に。この年の各種媒体の年間ベスト・アルバムを独占した本作で、ケンドリックはシーンにおいて唯一無二の存在となった。 **H**

CamScannerでスキャン

Ty Dolla $ign
タイ・ダラー・サイン

Free TC

2015
Atlantic

LAを拠点に活動するラッパー兼シンガー・ソングライターのメジャー・デビュー作。80年代ブラコンからトラップまで自由に行き交う風通しの良い曲調は、DJマスタード門下であると同時にレイクサイドのメンバーを父に持つバックグラウンドゆえ。ゲストも兄貴分ウィズ・カリファからベイビーフェイスまで多彩だ。なおタイトルには、殺人罪で懲役67年となった弟TCへの想いが込められている。 **H**

Empire Cast
エンパイア・キャスト

Empire: Original Soundtrack From Season 1

2015
Columbia

架空のヒップホップ企業、エンパイアを舞台に、カリスマ創業者のルシウスと出所してきた元妻、そして3人の息子との愛憎を描いたヒップホップ・ミーツ『リア王』なソープ・オペラのサントラ。挿入曲の音楽監督はティンバランドが務めており、劇中だけでなく現実世界でも大ヒットした。女優として出演したメアリー・J・ブライジやジェニファー・ハドソン、コートニー・ラヴの楽曲も収録。 **H**

Jay Rock
ジェイ・ロック

90059

2015
Top Dawg Entertainment

貴公子ケンドリック・ラマー、ギャングなスクールボーイ・Q、トリッピーなアブ・ソウルと、ブラック・ヒッピーの同僚と比較するとキャラが薄いジェイ・ロック。しかしタイトなフロウで、耳の肥えたヒップホップ・ヘッズが高く評価するクルーきっての実力派でもある。自身の地元のZIPコードを冠した本作でもその実力は十二分に味わえる。〈Vice City〉にはブラック・ヒッピーが全員登場。 **H**

Vince Staples
ヴィンス・ステイプルズ

Summertime '06

2015
Def Jam Recordings

オッド・フューチャーとも親しいロングビーチ出身のラッパーが、デフ・ジャムからリリースした全20曲2枚組のデビュー作。コモンの仕事で知られるノー・IDが大半の楽曲のプロデュースを手がけたことで、これがデビュー・アルバムとは思えない完成度に。なお抽象的なジャケットは大ファンだという英国のロック・バンド、ジョイ・ディヴィジョンの『アンノウン・プレジャーズ』を模したもの。 **H**

CamScannerでスキャン

第2部

大統領選とラッパーたち

2016年のヒップホップ

CamScannerでスキャン

ピコ太郎と坂本九

大和田　2016年はどうでしたか。

長谷川　やっぱり日本産のヒップホップが遂にアメリカのチャートに入ったことが嬉しかったですね。

大和田　それ、**ピコ太郎の〈PPAP〉**のことですよね。

長谷川　まず〈PPAP〉を鳴らしていただけます？　一瞬でいいですよ、というかビルボード史上1番短いヒット曲ですけどね。ドラムの音を聴いてほしいんですよ。はい、もういいでしょう。

大和田　みなさんご存知だと思います。

長谷川　普通だったらスネアドラムが鳴っているタイミングで「カン」という音がしたと思うんですけど、この音色、**TR-808**、通称「やおや」という、日本のローランドから80年に発売されたリズムマシーンのプリセット音なんですよ。

大和田　これカウベルの音なんですよね。

長谷川　カウベルってみなさん演奏したことあります？　実物とは全然違う音でしょ？（笑）。なんとかカウベルの音に見せかけた人工の音でしかない。でも「や

★ピコ太郎の〈PPAP〉：お笑いトリオ、底ぬけAIR-LINEの一員だった古坂大魔王が16年にリリースした曲。「ペンパイナッポーアッポーペン」と歌う動画が世界中でヒット。ビルボード・シングル・チャートで77位まで上がる。

★TR-808：ローランド社が80年に発売したリズムマシン。通称「やおや」。YMO〈千のナイフ〉やマーヴィン・ゲイ〈セクシュアル・ヒーリング〉が最も初期の使用例だが、アフリカ・バンバータやパブリック・エネミーが愛用するなど、ヒップホップのサウンドに多大な影響を及ぼした。

CamScannerでスキャン

おや」のこの音は世界中のダンス・ミュージックで使われているんですね。今はこの音色をサンプリングしたデータが至る所に出回っていて、みなさんも簡単に手に入れることができます。ということで88年の**J・J・ファッド**の〈Supersonic〉を聴いてみましょう。

大和田　あ、「カンカカンカン」て鳴ってる。

長谷川　これ、プロデューサーがドクター・ドレーなんですよ。で、ピコ太郎がなぜアメリカでヒットしたかというと、この音色に親しみがあったからなんですよね。共通点がまったくないものを人間は面白いとは思わない。どこかに共通点があった上で変なアジア系のおっさんがラップっぽいことをやっているから面白いと思われたわけです。

大和田　〈PPAP〉に喜んだアメリカの普通の人たちがTR‐808という機材の名前を知っていたとは思えないですけどね。

長谷川　もちろんそうですけど、この音色はあまりにも長い間、アメリカのシーンで使われていたので。これ実はヒップホップというジャンルの構造と同じなんですよね。ヒップホップというのはルールや、ある種のサウンドがあって、そこでキャラとか詞とかモチーフ、あとラップの載せ方、そういう差異を競い合うんで、

★J・J・ファッド：80年代後半に西海岸で活躍した女性ラップ・グループ。NWAのイージー・Eが創設したルースレス・レコード所属。

CamScannerでスキャン

やっぱり同じ土俵に乗らないとヒットしない。で、そうなると必ず日本のポップ評論家とかが異議を申し立ててくるのは、〈**スキヤキ**〉。つまり〈上を向いて歩こう〉という**坂本九**の曲が1963年の6月に全米で第1位をとっているんですね。

大和田　作詞は**永六輔**で、作曲は**中村八大**。すべて日本人が作っている。

長谷川　でもこの曲が本当に純粋に良い曲だからという理由だけでヒットしたのかと思って、その直前のヒットチャートを調べてみると、この年の3月に〈Our Day Will Come〉が1位を取っているんですよね。

大和田　**ルビー&ザ・ロマンティクス**の。

長谷川　で、このときの2位が**スキーター・デイヴィス**〈The End Of The World〉なんです。ちょっと聴いてみますか。

大和田　これが同じ年かあ。

長谷川　で、続けて〈スキヤキ〉を聴いてみましょう。ほら、めちゃめちゃ売れそうでしょ、この2曲が流行った後だと。

大和田　たしかに。

長谷川　どの曲もメジャーの曲なんだけど、なんだか切ないんですよ。洋楽の歴史について、50年代後半に**エルヴィス・プレスリー**が出てきてロックンロールの時

★スキヤキ：永六輔作詞、中村八大作曲、坂本九歌唱の〈上を向いて歩こう〉(1961)が63年に英米で発売された際にこのタイトルでリリースされた。

★坂本九：41年生まれ。日本の歌手、俳優。〈見上げてごらん夜の星を〉〈明日があるさ〉など多くのヒット曲がある。85年8月12日、日本航空123便墜落事故で他界。

★永六輔：33年生まれ。日本の放送作家、作詞家、ラジオ・パーソナリティ。作詞を手掛けた曲に〈黒い花びら〉〈夢であいましょう〉〈いい湯だな〉など。94年に刊行したエッセイ『大往生』が200万部を超えるベストセラーに。16年死去

★中村八大：31年生まれ。昭和を代表する作曲家。もともとジャズ・ピアニストとして活動していたが、作曲家に転

代が来て、それ以来ずっと続いている、って認識してる人が多いと思うんですけれども、実際は50年代終わりから60年代初頭にいったんロックが落ち目になっているんですよね。

大和田　ええ、たしかにプレスリーが徴兵される1958年から、ビートルズが訪米する1964年まで、ガールグループなどのポップスが台頭します。

長谷川　ポップスっていうのは前にヒットした曲を受けて、次のヒット曲が作られていく。このタイミングだったからこそ〈スキヤキ〉は全米1位をとれた。翌年にはビートルズがアメリカに上陸してロックが復興してしまいますから。

大和田　ピコ太郎はまさにそうですよね。同じサウンドに乗っているっていう。

長谷川　元々ヒット曲というのは、そういうものだと思うんですけど、これが一番極端な形で現れているのが、今のヒップホップやR&Bじゃないかと思うんですよね。

歴史になったヒップホップ

大和田　アメリカのシーンに話を移すと、2016年のトピックって何だったと思

身。主な楽曲に〈こんにちは赤ちゃん〉〈帰ろかな〉〈故郷のように〉など。92年死去。

★ルビー&ザ・ロマンティクス：60年代に活動したオハイオ州アクロン出身のR&Bグループ。女性リード・シンガー、ルビー・ナッシュと男性4人で構成。スムースで豊かなハーモニーが有名。

★スキーター・デイヴィス：31年生まれ。戦後アメリカで活動したカントリー・シンガー。ビルボード・シングル・チャートで2位まで上がった〈The End Of The World〉は村上春樹『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』のモチーフに。04年死去。

★エルヴィス・プレスリー：ザ・キング。

います?

長谷川　**「ヒップホップの歴史化」**ですね。ヒップホップは70年代から存在するにもかかわらず、ずっと新しくて変わった音楽というイメージがついていました。それがここにきて、ようやくヒップホップがアメリカ音楽史の中で語られるようになってきた。それが端的に現れているのがテレビドラマなんですよ。まずバズ・ラーマンが**Netflix**で、76年のニューヨークを舞台にヒップホップの創世期を描いた**『ゲットダウン』**というドラマを作った。それから73年のニューヨークのレコード会社、ロック中心のレコード会社を舞台にした**『ヴァイナル』**っていうドラマが作られたんですけど、そこでもヒップホップの創世期が描かれたんですよね。

大和田　『ヴァイナル』はマーティン・スコセッシとミック・ジャガーが製作に関わっているんですよね。

長谷川　じゃあまず『ヴァイナル』のワン・シーンを見てみましょう。ある男がターンテーブルの練習をしています。ヒップホップのビートは今では全部コンピューターで作っちゃっていますけど、最初は**ディスコ・ミキサー**でドラムの部分を、スイッチングして繋げて作っていたんです。

★Netflix：97年に創設、日本でも15年にサービスが開始された映像ストリーミング配信事業会社。『ハウス・オブ・カーズ』や『ストレンジャー・シングズ』などのオリジナル・ドラマがヒットし、映画でも『ROMA／ローマ』で初のアカデミー作品賞にノミネートされた。

★『ゲットダウン』：16年にバズ・ラーマンなどが製作したミュージカル・ドラマ。70年代後半のサウス・ブロンクスを舞台にヒップホップとディスコの台頭を描く。第一シーズンで惜しくも終了。詳細は96ページを。

★『ヴァイナル』：16年にミック・ジャガー、マーティン・スコセッシなどが制作したドラマ。70年代のニューヨークを中心に音楽業界の人物模様を描く。258ページ参照。

★ディスコ・ミキサー：クラ

大和田　団地の娯楽室みたいな場所ですね……これはもしや？
長谷川　**セジウィック・アベニュー1520**の娯楽室。ヒップホップが生まれた場所で、練習している人は**クール・ハーク**です。
大和田　あ、「こんなもん音楽じゃねぇ」ってソウル世代のじいさんにディスられてる（笑）。ハークはメイン・キャラなんですか？
長谷川　このシーンにも出てくるプロジェクトの管理人がメイン・キャラで、主人公が売り出そうとした元ブルースマンですけど、ハークは出なくてもストーリーには影響がない。それでもこのシーンがわざわざ入っているのは、スコセッシやミックのような人たちにとっても、73年にヒップホップが生まれた歴史的事実は無視できない状況になっていることを証明しているんですね。
大和田　スコセッシらしく映像がシリアスですよね。**グランドマスター・フラッシュ**が出てくる『ゲットダウン』のターンテーブル練習シーンはもっと漫画的に描かれていて。
長谷川　その流れで『ゲットダウン』をいってみますか。こちらの舞台は76年なので、ターンテーブルで作ったビートに合わせて、パーティでラップすることがすでに一般的になっています。今日見るのは前半のクライマックス、主人公率いる

プやディスコでDJが操作しやすいように作られたミキサー。
★セジウィック・アベニュー1520：サウス・ブロンクスのモリス・ハイツ地区にある団地の住所。DJクール・ハークはこの建物を「ヒップホップ・カルチャーにとってベツレヘム（聖地）である」と発言した。
★クール・ハーク：55年ジャマイカ生まれのDJ。12歳で家族でブロンクスに移住し、セジウィック・アベニュー1520番地の団地の娯楽室でパーティを主催。それがヒップホップの始まりとされる。また、同じレコードを2枚用いて「ブレイク」の長さをコントロールするテクニックを編み出した。
★グランドマスター・フラッシュ：58年生まれ。ヒップホップのパイオニアのひとりで

ゲットダウン・ブラザーズとライバルのノトーリアス・スリーのバトルです。

大和田　これ、完全に『**ウェスト・サイド・ストーリー**』のノリですよね（笑）。

長谷川　製作総指揮の**バズ・ラーマン**は『ロミオ&ジュリエット』の監督ですからね。でもこの時代に街角でおこなわれていたラップ・バトルって映像が残っていないんですよ。83年の映画『**ワイルド・スタイル**』にも似たようなシーンがありますけど、権利関係の都合で映画のために作られたビートでラップしていたので、ブレイク・ビーツのチョイスで戦う醍醐味はなかったし。

大和田　その点、このシーンには〈**アパッチ**〉以来のブレイクをDJが出してくるって展開がありますからね。

長谷川　主人公のガールフレンドがディスコ・シンガーを目指していて、その曲のドラムの部分が良いブレイクだったことに気づいた主人公が、サンプル盤をもらっているんですよね。で、クライマックスでそれを使う。

大和田　このストーリーはすごくよく出来てる。

長谷川　サンプル盤だから誰も持っていないという。DJがレアなビートを探してきた歴史をエンタメに転化してるんですよね。

大和田　『ゲットダウン』を見た方ならわかると思うんですけれども、主人公が身

あり、スクラッチやミックスの手法など、ターンテーブルを用いたさまざまなテクニックを発展させた。フューリアス・ファイブとともに07年にヒップホップ・グループとして初めてロックンロールの殿堂入りを果たす。

★『ウエスト・サイド・ストーリー』：57年初演のブロードウェイ・ミュージカル。ニューヨークのポーランド系（ジェット団）とプエルトリコ系（シャーク団）の不良グループの抗争と恋愛を描く。61年に映画化され、アカデミー賞最優秀作品賞を受賞。

★バズ・ラーマン：62年生まれ。オーストラリア出身の映画監督・プロデューサー。鮮やかで煌びやかな映像表現を得意とする。代表作に『ムーラン・ルージュ』『華麗なるギャツビー』など。

★『ワイルドスタイル』：83

を置くヒップホップの世界のストリート的なファッションと、ヒロインが進むディスコの世界の華やかなスタイルが、一貫して対照的に描かれている。ヒップホップは**ミソジニスティック**だし、ディスコは**ゲイ・カルチャー**の産物だから、そういう点も正反対です。で、バズ・ラーマンって『ムーラン・ルージュ』や**『華麗なるギャツビー』**の人だから、ディスコのシーンにも気合が入っているんですよね。

長谷川　でも当時は表裏一体の存在だったことを思い出させてくれる。その後、ヒップホップはディスコからの影響を隠蔽してしまったところもあるし。

大和田　隠蔽と言われて思い出したんですけれど、このドラマの主人公ってヒスパニックなんですよね。

長谷川　プエルトリコ系とアフリカ系のハーフって設定なんですよね。今では黒人音楽ってことになっていますけど、ヒップホップを始めた子どもたちって実は創世期においては黒人とプエルトリコ系が半々くらいで。

大和田　とくに初期のブレイクダンサーはプエルトリコ系が多かったみたいですね。でもこのドラマ、**スパイク・リー**が撮ったらたぶんこうはならない。もっとアフリカ系アメリカ人のアイデンティティを強調した描写になるはずです。だからヒ

年に公開された初のヒップホップ映画。グランドマスター・フラッシュやロック・ステディ・クルーなどが出演。

★〈アパッチ〉：英国のソングライター、ジェリー・ローダンが作曲したインスト曲。ギタリストのバート・ウィードンが演奏したバージョン（1960）がオリジナルだが、73年にリリースされたインクレディブル・ボンゴ・バンドのバージョンに挿入されたブレイクがヒップホップ界で重宝され、流行する。

★ミソジニスティック：女嫌いの、女性蔑視の。

★ゲイ・カルチャー：ここでは多くのゲイの男性が好むとされ、歴史的に結び付けられてきた文化を指す。たとえばオペラやミュージカル、あるいはジュディ・ガーランドやカイリー・ミノーグなどのゲイ・アイコンも含む。

CamScannerでスキャン

スパニックが主人公という設定は画期的なことなんです。

長谷川　クール・ハークやグランドマスター・フラッシュがジャマイカやバルバドスからの移民の子どもだったって事実があまり語られないという批判は昔からありますね。ヒップホップのルーツのひとつにレゲエやカリプソといったカリブ海の音楽があったことが隠蔽されて、ブルースやジャズの流れの中にある音楽だってことばかりが語られているという。

大和田　ぼくは、2011年に書いた『**アメリカ音楽史**』の最後の章で、「これからあらゆる黒人音楽は、ヒスパニックの貢献をより強調する形で書き換えが進む」って予想したんです。それは単純に人口が増えるからで、国の中で存在感が増すと歴史の書き換えが進む。たぶんロックンロールもブルースもジャズも、ラテン系の人たちの貢献をより強調する歴史記述に向かうんだろうと思います。

長谷川　そうですね、オーストラリア出身の白人のバズ・ラーマンだからこそ『ゲットダウン』を作れたんじゃないかと思っています。あとNetflixに**マーベル・ヒーロー**のドラマ・シリーズがあって、その中の『**ルーク・ケイジ**』っていう黒人ヒーローのドラマがあるんですけど、ものすごくヒップホップ色が強いんですよ。主人公はハーレムの平和を守るスーパーヒーローで、スコアを**ア・トラ**

★スパイク・リー：57年生まれ。アメリカの映画監督。『ドゥ・ザ・ライト・シング』、『マルコムX』、『ブラック・クランズマン』など、アメリカの人種問題やアフリカ系アメリカ人の境遇を扱った作品が多い。

★『アメリカ音楽史』：副題は「ミンストレル・ショウ、ブルースからヒップホップまで」。講談社選書メチエから刊行。11年のサントリー学芸賞芸術・文化部門を受賞した。

★マーベル・ヒーロー：マーベル・コミックスのヒーローで、代表的なキャラクターにスパイダーマン、アイアンマン、ソー、ハルク、キャプテン・アメリカ、ブラックパンサーなどがある。

★ルーク・ケイジ：マーベル・コミックスのシリーズで72年に初めて登場した黒人のキャラクター。無実の罪で収

イブ・コールド・クエストのアリ・シャヒードとエイドリアン・ヤングが作っている。で、**メソッドマン**が本人役で出ていて敵役の**マハーシャラ・アリ**は自宅の居間に**ノトーリアスBIG**の肖像画を飾っている。

大和田 90年代東海岸ヒップホップへのオマージュなんだ。

長谷川 90年代ノスタルジアといえば、**『フアン家のアメリカ開拓記』**っていうコメディ・ドラマがあるんですけど、90年代を舞台に、当時子どもだった原作者の思い出が語られているんです。主人公は台湾系なんですけど本人は完全にヒップホップ・フリークで、スヌープや**2パック**を崇拝している。この2作を見ると90年代ヒップホップがアメリカ人にとってすでに歴史の一部になっているのが良くわかると思います。

〝ヒップホップ・プレジデント〟オバマ

長谷川 **バラク・オバマ**大統領の第3期が来年1月から始まります。

大和田 町蔵さんはトランプが大統領選に勝ったことを頑なに認めませんよね（笑）。

長谷川 〝ヒップホップ・プレジデント〟としてのオバマに任期はない。生涯大統

監され、人体実験で超人的な力を得るという設定。

★ア・トライブ・コールド・クエスト：85年に結成されたニューヨーク出身のヒップホップ・グループ。ジャジーなトラックに知的でユーモラスなリリックを乗せるスタイルは日本でも多くのファンを獲得した。

★メソッドマン：ニューヨーク市スタテン島出身のグループ、ウータン・クランのメンバー。名前は『ドラゴン・カンフー／龍虎八拳』のイギリス版タイトルから。

★マハーシャラ・アリ：74年生まれ。アフリカ系アメリカ人俳優。『ムーンライト』でアカデミー賞助演男優賞受賞。テレビドラマ・シリーズ『ハウス・オブ・カード』のレミー・ダントン役も印象深い。

★ノトーリアスBIG：90年代東海岸を代表するラッパー

CamScannerでスキャン

領なんですよ。だって好きなラッパーを訊かれて、ジェイZ、カニエ・ウェスト、ケンドリック・ラマー、チャンス・ザ・ラッパー、ドレイクってパッと言える大統領なんて、二度と出ないですよ。現職大統領なのにバラク・オバマの伝記映画があるんです。どういうものかというと、1本目は80年代のコロンビア大学院時代を舞台にした**『バリー』**というNetflix作品。それと、80年代後半に弁護士としてシカゴで働き始めた時代を舞台にした**『サウスサイド・ウィズ・ユー』**という映画。

大和田　ヒップホップとどう関係あるのかわかんないですけど（笑）。

長谷川　ヒップホップ的なものとバラク・オバマを強引に結びつける演出が随所にされているのが興味深いんです。ということで、ちょっと『バリー』の予告編を見てみますか。

大和田　大学時代のバラク・オバマはガールフレンドに**T・S・エリオット**の詩を引用した手紙を送っていたという記事がニューヨーク・タイムズに載ってるんですよ。みなさん、ガールフレンドにT・S・エリオットの詩を引用して手紙出したりしていますか？

長谷川　ほら歩いてますよね、ニューヨークのストリートを。

であり、ヒップホップ史上もっとも偉大なラッパーとして押す声も多い。97年に東西抗争に巻き込まれて死亡。

★『ファン家のアメリカ開拓記』：15年に公開された台湾系アメリカ人を主人公とするコメディ。ニューヨークのシェフ兼レストラン・オーナー、エディ・ファンのメモワールに基づいて製作された作品。

141〜144ページ参照。

★2パック：90年代西海岸を代表するラッパーであり、ヒップホップ史上もっとも偉大なラッパーとして押す声も多い。96年に東西抗争に巻き込まれて死亡。

★バラク・オバマ：61年ハワイ生まれ。アメリカ合衆国第44代大統領。初のアフリカ系大統領。長谷川町蔵によると、現在3期目の任期中。

★『バリー』：16年公開の映画。バラク・オバマのコロン

CamScannerでスキャン

大和田 今映ったのはガールフレンドですか？

長谷川 まだ白人と付き合ってるんですよ、この頃は。で、お前は白人みたいなもんだからな、って友達にも言われている。

大和田 ミックスの人にはよくある話ですね。

長谷川 でも夜中にフード着て歩いてると、警官に不審者扱いされて尋問を受けたりしちゃう。

大和田 ああ、**トレイヴォン・マーティン**へのオマージュなんだ。〝**ブラック・ライヴズ・マター**〟！

長谷川 そうでしょ？　で、俺のアイデンティティはどこにあるんだ……って悩みだすんですよ。それで周囲から「バリー」って呼ばれていたのを受け流していたのを自ら「バラク」を名乗るようになるんですよ！

大和田 町蔵さん、ほんとオバマが好きですね（笑）。

長谷川 続いて『サウスサイド・ウィズ・ユー』。こちらは弁護士修行中のバラクが、ミシェルと知り合って初めてコミュニティ・センターで働いた日を描いた、ほとんど二次創作みたいな話なんですけど。バラクとミシェルの恋が生まれる瞬間を描いてます。基本的に会話劇なので、アメリカでは〝黒い『**ビフォア・サン**

ピア大時代の生活を描く。

★『サウスサイド・ウィズ・ユー』：16年に公開された映画。バラク・オバマのシカゴ時代の恋愛を描く。

★T・S・エリオット：1888-1965。アメリカ出身でのちにイギリスに帰化した詩人、批評家。モダニズム期の代表的な作家であり、代表作に長編詩『荒地』、詩劇『寺院の殺人』など。48年にノーベル文学賞受賞。

★トレイヴォン・マーティン：12年にフロリダ州サンフォードでゲイテッド・コミュニティーの警備員によって射殺された黒人高校生（当時17歳）。パーカーのフードをかぶっていたことから、ディアンジェロがステージで同じ格好をしたり、オバマ大統領が「もし息子がいたら、トレイヴォンのような子だっただろう」とコメントした。

CamScannerでスキャン

ライズ』〟っていう評判なんです。

大和田　そうなんですか（笑）。ではいずれ『**ビフォア・サンセット**』みたいに続編も作られたりして。

長谷川　で、笑えるのはエグゼクティヴ・プロデューサーが**ジョン・レジェンド**！

大和田　オバマ親衛隊の人だ（笑）。いや、でもわかりましたよ。さっきオバマがフェイヴァリット・ラッパーに挙げたチャンス・ザ・ラッパーのお父さんって、シカゴ時代のオバマと仕事をしているんですよね。

長谷川　オバマはハワイ出身で、インドネシア育ち。本来はそれほどヒップホップ的な人ではない。でも任期の終わりに際して彼をヒップホップ・カルチャーの中に位置づけようというような動きがあったわけなんです。

大和田　そうか、それすごいですね。たしかにヒップホップ・プレジデントとしてのオバマに任期はない（笑）。

ドナルド・トランプという踏み絵

大和田　2016年はヒップホップ界にも色々ありましたよね。

★ブラック・ライヴズ・マター：13年、前年のトレイヴォン・マーティン殺害の罪に問われたジョージ・ジマーマンに対する無罪判決を機にSNSを中心に#BlackLivesMatter（黒人の命は大切だ）が広まり、やがて全米規模のデモに発展した。詳しくは120ページ以降を参照のこと。

★『ビフォア・サンライズ』：リチャード・リンクレイター監督の映画（1995）。イーサン・ホーク演じるアメリカ人男性ジェシとジュリー・デプリー演じるフランス人女性セリーヌの会話劇。

★『ビフォア・サンセット』：リチャード・リンクレイター監督の映画（2004）。『ビフォア・サンライズ』の9年後、2人の出会いを描く。

★ジョン・レジェンド：78年生まれ。アメリカのR&Bシンガー、俳優。アイビーリ

長谷川　前年からの〝ブラック・ライヴズ・マター〟に始まって、大統領選があった。この大きな波に乗るか乗らないかというのが、ラッパーにとっては重大なテーマでした。それで浮上した人もいれば非難された人もいる。

大和田　浮き彫りになりましたよね。

長谷川　ラッパーはもともと**ビル・クリントン**が大好きなので、しょうがないから**ヒラリー**も応援するっていうのが、一番多かったスタンスですね。

大和田　ラッパーはビル派なんだ？

長谷川　ビル・クリントンてアーカンソー出身じゃないですか。ぼくには分からないんですけど、喋り方や身のこなしに凄く黒人っぽいところがあるらしいんです。**モニカ・ルインスキー**との事件もむしろ人気アップに繋がったところすらある。

大和田　単なる武勇伝扱いになってしまった。

長谷川　そんな中、**バーニー・サンダース**を支持するラッパーが出てきたことにはビックリしましたよね。ヒラリー・クリントンと最後まで民主党の大統領候補を争った人で、民主党の中でもかなりリベラル、左寄りって言われていた人なんですが。

大和田　アメリカ基準でいうとほとんど極左と言ってもいい。これまでだと考えら

ーグのひとつ、ペンシルヴァニア大学出身。06年にグラミー賞最優秀新人賞、『Get Lifted』で最優秀R&Bアルバムを受賞。

★ビル・クリントン：アメリカ合衆国第42代大統領（1993-2001）。ヒラリー・クリントンの夫で元アーカンソー州知事。スキャンダルにもかかわらず、アメリカ国民に非常に人気がある。白人だが、生い立ちが貧しく、テナー・サックスを演奏し、ジャンクフードを好むなどの「黒人らしさ」が指摘されている。

★ヒラリー：元アメリカ国務長官。ビル・クリントンの妻で元ニューヨーク州選出の上院議員。16年民主党大統領候補。アメリカ国民に非常に人気がない。

★モニカ・ルインスキー：ホワイトハウスでのインターン時（1995-1996）に当時のビ

れないことですよね。

長谷川　アウトキャストの**ビッグ・ボーイ**や弟分にあたる**キラー・マイク**が代表格ですね。特にキラー・マイクなんて、ほとんどバーニーと一緒に演説してまわっていましたからね。

大和田　ハーレムで**ソウルフード**を一緒に食べてましたね。

長谷川　バーニーは、キラー・マイクと初めて会う前、本当に殺人犯なんじゃないかってちょっとびびったって（笑）。

大和田　殺人犯は自分からは名乗らないでしょう（笑）。

長谷川　でも話を聞いてみたら良い人だったのでよかったと。

大和田　**モアハウス大学**で学んだインテリですからね。

長谷川　他にも**タイラー・ザ・クリエイター**や**リルB**みたいなミックス・テープから出てきた若いラッパーがバーニーを支持していましたね。

大和田　お金だけじゃない人たちですね。

長谷川　でもラッパーって自己主張が強い奴が多いから、逆張りする人も出てくるんですよ。例えば**アジーリア・バンクス**。

大和田　あの人って全方位的に喧嘩を売って叩かれてる感じですね。

ル・クリントン大統領との「不適切な関係」が赤裸々に報道され、一躍有名人になる。クリントンは下院により弾劾訴追されたが、上院が無罪評決を下し、任期を全うした。現在はセレブリティーとしてメディアで活動しつつ、ネットいじめ（cyberbullying）反対運動などを展開。

★バーニー・サンダース：41年生まれ。バーモント州選出アメリカ上院議員。無所属だが16年に民主党に入党し、大統領選の予備選挙に立候補、ヒラリー・クリントンに敗れたものの大きな存在感を示した。高等教育（公立大学）の無償化、最低賃金の引き上げなど、革新的な政策で知られる。2020年大統領選挙に民主党候補として再出馬。

★ビッグ・ボーイ：75年生まれ。アトランタ出身のヒップホップ・デュオ、アウトキャ

CamScannerでスキャン

長谷川　そしてカニエ・ウェスト。

大和田　カニエはある意味納得じゃないですか。むしろカニエがヒラリー支持だったらびっくりしますよ。彼はさっそくドナルド・トランプと対談してますから。でもトランプとカニエでどういう会話になるのかというと……。

長谷川　会話が成り立たないでしょう（笑）。

大和田　リル・ウェインは〝ブラック・ライヴズ・マター〟には懐疑的だと発言して叩かれたし、エイサップ・ロッキーも「いや俺、全然わかんない」と言ってました。で、これはけっこう深い問題です。成功した黒人がみな黒人の運動にコミットしなければいけないのかという根本的な問題。「俺まったくシンパサイズできないわ、〝ブラック・ライヴズ・マター〟って何？」とか、そういう人は出てくると思うんですよ。

長谷川　オバマ時代ってラッパーたちがここまで踏み絵を踏まされなかったと思うんです。そもそも大統領が黒人だから、みんながのびのびと個性を出せたし、言いたいことが言えた。でも大統領がトランプになると、連帯して戦わなければみたいな意見が大勢を占めてくる。カニエとかリル・ウェインってオバマ時代に一番のびのびやれたラッパーなんですよ。だから無意識に自分たちの時代の終わり

ストをアンドレ3000とともに結成。そのアルバム『Speakerboxxx/The Love Below』（2003）でグラミー賞最優秀アルバム賞受賞。

★キラー・マイク：75年生まれ。アトランタ出身のラッパー、アクティヴィスト。アウトキャストのアルバム『Stankonia』で客演デビューし、のちにソロ・アルバムを5枚リリース。現在は元カンパニー・フローのメンバー、El-Pとともにラン・ザ・ジュエルズとして活動。人種問題などについて積極的に発言することで知られる。

★ソウルフード：アメリカ南部のアフリカ系アメリカ人の食文化。主な料理に、フライドチキン、カラードグリーンズ（キャベツやケールに似た葉をソテーして煮込む）、ポーク・ジャウル（豚トロ）などがある。

を感じて苛立っているところはあるんじゃないですかね。

大和田　とにかくカニエはひとりのアーティストとして見てほしくて、「黒人」とか「ヒップホップ」とかのカテゴリーに押し込まれるのを嫌がりますよね。

分別ある大人と混乱した子ども

長谷川　ではチーム・ヒラリーのラッパーの曲を聴いてみますか。まず**コモン**のビデオを観てください。

大和田　コモンは知的な顔してますよねー。

長谷川　**タイニー・デスク・コンサート**っていうビデオ・シリーズの一編なんですけど、コモンのこれはなんとホワイトハウスでやってます。コモンやジョン・レジェンド、**ザ・ルーツ**は完全にオバマ親衛隊状態で、個人的に友達なんです。

大和田　**ロバート・グラスパー**がバンドに加わっていますね。ここで演奏している〈I Used To Love H.E.R〉は、ヒップホップを女性に例えた名曲ですけど、こうして「音楽」や「楽器」を女性に例えるの、さすがに最近はそれ自体が陳腐で、フェミニズム的にどうなのっていう気がしないでもない。東海岸で知的だった彼

★モアハウス大学：1867年に創立されたジョージア州アトランタの大学。HBCUs (Historically Black Colleges and Universities 黒人大学)のひとつ。名門として知られ、キング牧師を始め、映画監督スパイク・リー、俳優サミュエル・L・ジャクソンなどを輩出。

★タイラー・ザ・クリエイター：91年生まれ。アメリカのラッパー。10年代初頭に西海岸のクルー、オッド・フューチャー（ウルフ・ギャング・キル・ゼム・オール）の実質的なリーダーとして台頭。アルバムやグッズのデザインも手がける。『Flower Boy』(2017) がグラミー賞最優秀ラップ・アルバム賞にノミネート。

★リルB：89年生まれ、ベイエリア出身のラッパー。00年代後半以降、おびただしい数

CamScannerでスキャン

女が西海岸に行ってビッチになっちゃったよねって、暗に西海岸のギャングスタ・ラップを批判して、この後コモンと**アイス・キューブ**の間で、ちょっとしたビーフが起きるんですよね。

長谷川　でもコモンって今年、アイス・キューブ主演の『**バーバーショップ**』シリーズ最新作『Barbershop: The Next Cut』に出演をしたんですよ。しかもキューブと2人で〈リアル・ピープル〉っていう主題歌を発表して、「俺たち2人ともリアルだ」って、よくわからない次元で仲直りをしてしまった（笑）。

大和田　コモンが妥協したというより、キューブが知的なイメージに昇格したというか。ケンドリック・ラマーが出て来て、ギャングスタ・ラップが知的にも政治的にも価値があるというように書き換えられた。「ファック・ザ・ポリス」って言ってた人ですよ（笑）。

長谷川　はい、まあ良いんじゃないですか。次はア・トライブ・コールド・クエストのアルバム『We Got It From Here... Thank You 4 Your Service』から〈We The People....〉。

大和田　本国のメディアでは軒並み大絶賛ですよね。

長谷川　このタイミングじゃないと、このアルバムはここまで高く評価されなかっ

のミックステープをリリースし、シーンの関心を集める。SNSなどを積極的に活用した最初のラッパーのひとり。

★アジーリア・バンクス：91年生まれ。ハーレム出身のアメリカのラッパー。インディー的な洗練された作風で知られるが、SNS上で誰彼かまわずビーフを仕掛けるスタイルは多くの論争を引き起こした。16年の大統領選挙の際、一時トランプを支持したがのちに撤回、当選後に「彼は私のヒーロー」と投稿して物議を醸した。

★コモン：72年生まれ、シカゴ出身のラッパー。ネオ・ソウルのグループ、ソウルクエリアンズとの交流で知られる。東海岸から西海岸へと移り替わったヒップホップの流行の変遷を女性に例えた〈I Used To Love H.E.R.〉が有名。

★タイニー・デスク・コンサ

CamScannerでスキャン

たでしょうね。だってサウンドも何もかも90年代のヒップホップの作り方だから。ただしオバマ時代が終わって、またハードな時代が始まる中で、90年代の音楽がリアルに響くっていうところがある。

大和田　サンプリング中心の昔ながらのトラックですよね。

長谷川　ただ、リーダーの**Qティップ**が、この10何年間、生演奏をなんとか自分の音楽に取り入れようと苦闘し続けていたことを知っているので、それがあまり意味なかったのかって思うと悲しいですね。結局こういうトラックを作ると皆大喜びするし、サンプラーを核にした方がサウンドの出来も良い。ただアルバムとしてはクオリティが本当に高い。

大和田　コモンもトライブも余裕があるなと思うんですよね。13年以降の、BLM運動で黒人に対する暴力がスマホ経由で毎日のようにYouTubeにアップされる状況の中で、こういう曲を発表するっていうのは、非常にまともじゃないですか。洗練されてるし、ポリティカリー・コレクトでもある。

長谷川　Qティップが70年生まれ、コモンが72年生まれ。ぶっちゃけ中年ですよね。分別ある大人だからこそできるっていう。

大和田　ここは大事ですね。その一方で、90年代半ば生まれのラッパーがアトラン

ート：アメリカの非営利ラジオネットワーク、NPR（ナショナル・パブリック・ラジオ）の番組『オール・ソングズ・コンシダード』のホスト、ボブ・ボイレンの「事務所のデスク」でおこなわれるコンサート・シリーズ。窮屈なスペースにもかかわらず、インディー系のミュージシャンが数多く出演。アンダーソン・パークやテイラー・スウィフトなどが演奏することも。

★ザ・ルーツ：87年にフィラデルフィアで結成されたヒップホップ・バンド。ソウルクエリアンとの交流など、ヒップホップとR&Bの音楽的な交流を促進。09年以来、NBCの夜の人気トークショー番組『Tonight Show Starring Jimmy Fallon』のハウス・バンドを務めている。

★ロバート・グラスパー：78年生まれ、ヒューストン出身

CamScannerでスキャン

タを中心としてどんどん出てきてる。彼らは洗練された政治的な主張をする余裕があるわけではなく。

長谷川　コモンもトライブも、どういう音楽をやりたいかをはっきり明快に出しているし、正気ですよね。例えばジャズやR&Bがあって、そして俺たちがいる、って歴史的な整理がされてるうえでトラックができている。それに比べると下の世代は、コンピュータを前にして、ぐちゃぐちゃになった頭の中が整理されないまま全部音になって出てきている感じがします。

大和田　だんだん自閉的になっていくっていうか、簡単にいうとサウンドが暗くなっていく。**21サヴェージ & メトロ・ブーミン**の〈Savage Mode〉を聴いてみますか。僕はずっと、これが2016年の音だと思っていて。メトロ・ブーミンは、今一番売れっ子のプロデューサーで、23歳かな。コモンやQティップの明快な政治的メッセージよりも、こういう曲のサウンドにこそ、今年の黒人社会が抱える政治性が現れているという気がするんですよね。

長谷川　基本、廃墟でクスリやってフラフラしているMVが圧倒的に多いんですけど、決して単なる現実逃避ではないと思うんですよ。アトランタってアフリカ系が圧倒的に多い街なんですけど、属しているジョージア州は大統領選でもずっと

のジャズ・ピアニスト、プロデューサー。多くのR&Bシンガーやラッパーを客演に迎えたアルバム『Black Radio』(2012)は高く評価され、ジャズ・ミュージシャンのアルバムとしては異例のグラミー賞最優秀R&Bアルバムを受賞した。

★アイス・キューブ：69年生まれ。ロサンゼルス出身のラッパー、俳優。ギャングスタ・ラップの最重要グループ、NWAのメンバー。91年に映画『ボーイズン・ザ・フッド』に出演以来、俳優の仕事も精力的にこなしている。

★『バーバーショップ』：02年に始まったコメディ映画シリーズ。シカゴの床屋を舞台に人間模様を描く。バーバーショップのオーナーをアイス・キューブが演じる。

★Qティップ：70年生まれ。ア・トライブ・コールド・ク

共和党が勝っている。自分たちの意見がまったく通らないという絶望的な状況で、どうやって自分たちを保てるのか。それを突き詰めるとこういう表現形態になるのかもしれない。

大和田　で、こちらが全米的には主流の音なんですよね。

長谷川　みなさんのヒップホップ観からすると暗いかもしれないですけど。でもインディー・ロックとか聴かれていない黒人ばかりのコミュニティで作られている音がこうなっている、というのが非常に興味深い。むしろさっきのコモンやトライブみたいな昔ながらの黒人音楽っぽい音を白人が喜んで、R&B好きからは黒っぽさが足りないと受け取られているこういう音が、実際には黒人の子どもたちに受けているという。

大和田　そうなんですよ。だから去年、一昨年も日本のメディアでもケンドリック・ラマーの話ばかりで。でもアメリカでは、フューチャーやビッグ・ショーンとかの年だったわけですから。

ポスト・モダンな『Life Of Pablo』

エストのMCでありプロデューサー。90年代半ば以降、ナズの〈One Love〉など外部でのプロダクションを数多く引き受ける。96年にはATCQのアリ・シャヒード・ムハマド、J・ディラと共にプロデューサー・チーム、The Ummahを結成。ヒップホップ史上、もっとも重要なプロデューサーのひとり。

★21サヴェージ：92年生まれ。ロンドン出身でアトランタを拠点とするラッパー。16年にメトロ・ブーミン〈Savage Mode〉とのコラボレーションが話題になり、『I Am > I Was』(2018) がビルボード・アルバム・チャートで1位を取るなど順調にキャリアを積んでいたが、19年に移民局に不法滞在の容疑で逮捕される。

★メトロ・ブーミン：93年生まれ。アトランタを拠点とす

大和田　あと、これもいくつかのメディアで言われてはいるんですけど、それこそケンドリック・ラマーのアルバム『Untitled Unmastered』もそうですけど、ゴスペルの年でもあるんですよね。

長谷川　ああ、それっぽい音のアルバムは多かったですね。

大和田　カニエ・ウェストの『The Life Of Pablo』には**カーク・フランクリン**とか、ゴスペルのミュージシャンがゲスト出演していました。そもそもタイトルが「パウロの人生」ですからね。自分はパウロ、つまり使徒になったって言ってるわけですけど、でもあの人、前に「I am God」って言ってるんで、神様から……

長谷川　格下げになった（笑）。

大和田　やっぱりアフリカ系アメリカ人コミュニティに絶望感が漂っていると思うんですよね。みんながゴスペルに依拠するっていうことは。というわけで、やはりゴスペルを取り入れたチャンス・ザ・ラッパーの〈Smoke Break〉を聴いてみますか。

長谷川　この曲が入ってるチャンス・ザ・ラッパーのアルバム『Coloring Book』はアメリカのメディアの年間ベスト・アルバム企画では軒並み1位ですよね。

大和田　評価が高い。それと繰り返し言っていますけど、この人はレコード会社に

るヒップホップ・プロデューサー。10年代半ばのトラップ・ミュージックの主要なアーキテクト。代表作にミーゴス〈Bad And Boujee〉(2016)、ドレイクとフューチャー〈Jumpman〉(2015)、フューチャー〈Mask Off〉(2017)などがある。

★『The Life Of Pablo』：16年にリリースされたカニエ・ウェストの7枚目のアルバム。ゴスペル色の強い作品。

★カーク・フランクリン：70年生まれ。コンテンポラリー・ゴスペル界最重要人物のひとりであり、多くのゴスペル・クワイヤーを指導してきた。最優秀ゴスペル・ソング賞など、これまでにグラミー賞を13度受賞。

CamScannerでスキャン

所属してませんからね。

長谷川　所属してないし、アルバムもただで手に入れることができるんです。

大和田　カニエの『The Life Of Pablo』も最初**TIDAL**限定で出たじゃないですか。

長谷川　TIDALはジェイZが経営している高音質のストリーミング・サービスですよね。日本には上陸してないんですけど。

大和田　だから当初は一切日本で聴けなかったんですよ。で、すごく詳しい学生とかに「どっかに落ちてないの?」って訊いたんですけど、ほんとにどこにもなくて。でもその間にアメリカの「**WhoSampled**」ってサイトにサンプリング・ソースが載ったり、リリックが「**Rap Genius**」っていうサイトに載ったりした。だから音は聴けないんだけど情報だけは日本からでも見られた。そうしたら京都のTOYOMUていう若いプロデューサーが、その情報だけをもとに、「カニエのアルバムはこんなはずだ」っていうアルバムを1枚作っちゃったんですよ。

長谷川　『印象III:なんとなく、パブロ』ですね。

大和田　それを聴き比べるとサンプリング・ソースが同じなので、若干似てるところが出てくるんで面白い。『**ピッチフォーク**』などで想像上のカニエの新譜が出たと話題になって、わりと高評価を獲得してました。インターネット時代の情報

★TIDAL:タイダル。14年に創設され、翌年ジェイZの会社に買収された音楽・ビデオ・ポッドキャストのストリーミング・サービス。音質の良さとアーティストや作曲家への印税がいいことが売りだが、あるコメディアンによると、「TIDALは感謝祭休暇中にジェイZの親戚が使っているフリをするストリーミング・サービス」とのこと。

★WhoSampled:08年に創設されたサンプリング、カバー、リミックスなどのデータが掲載されたウェブサイト。

★Rap Genius:09年に創設されたウェブサイト。もともとヒップホップのリリックの意味や解釈をユーザーが書き込むサイトとして発展したが、現在は「ジーニアス」に名称を変更、ヒップホップに限らずあらゆるテキストを対象とする。

CamScannerでスキャン

格差とクリエイティヴィティという点でも、けっこう面白かったなと。

長谷川 結局、TIDALでしか出さないって言いながら後になってアップル・ミュージックでも出たんですが。

大和田 しかも面白かったのは、TIDALで出た後に少しずつサウンドが修正されたじゃないですか。

長谷川 バージョンがどんどん書き換えられていってるんですよね。

大和田 IT企業がベータ版に永遠に修正を加えるみたいに。しかも上げた後に直していった修正の履歴をすごい細かくまとめている人がいて、この曲はこうやって修正が施されているって指摘されちゃってる。

長谷川 『The Life Of Pablo』はフィジカルが無くてダウンロードも不可のアルバムなんですよね。だから確固たる完成版というものが無くてもいい。ストリーミング・サービスの会員だったらいつでも聴けるけど、ただその曲の内容はどんどん変わっていっている。ポスト・モダンなアルバムですよね。

大和田 文学研究の世界では、決定稿がなくて作品にバリエーションが存在することを「fluid text＝流動的なテキスト」と言ったりしますが、そんな感じですね。

長谷川 今の大和田さんにとってカニエはどうなんでしょう。

★『ピッチフォーク』：95年に創設されたオンライン音楽メディア。インディー、オルタナティヴ系音楽の牙城として成長、現在はピッチフォーク・ミュージック・フェスティバルなど独自の音楽フェスも主催する。

CamScannerでスキャン

大和田　やっぱりあの人のトラックは大好きですね。大ネタを使ったかと思うと、すごく抽象的なトラックを作ったりするし、シーンの主流になるサウンドとか気にしていない。ほんとオリジナルで、ロック・スター的な感じで目が離せないですね。町蔵さんはどうなんですか、この人？

長谷川　すごい人だとは思いますよ。だってカニエって今や自分では曲も詞も作ってないんですよ。

大和田　**さいとう・たかをプロダクション**みたいな感じで作っているんですよね。御大が最後に黒目を入れる。

長谷川　でも**浦沢直樹の番組**を見たら、さいとう・たかをって意外と自分で書いてましたけどね（笑）。カニエの方がやってないかもしれない。だって作曲のクレジットが20人くらいになっている曲もありますからね。いろんな人からちょっとずつもらって組み立てている。リリックも会議室にズラッとラッパーを座らせて、大喜利みたいにテーマを出して競わせてネタを出させて、組み合わせて作ってるんです。

大和田　「カニエ・ウェスト」というブランドの社長というか。

長谷川　ただそこまでして普通やるか？　っ思うんですよ。だって金はあり余るほ

★さいとう・たかをプロダクション：60年に設立された漫画制作会社。分業体制により作品制作を行う方式を確立。

★浦沢直樹の番組：NHKテレビのシリーズ『漫勉』のこと。さいとう・たかをの回は2015年9月に放送された。

★何も言いませんでしたね：その後、18年10月7日にテイラーは自身のインスタグラムに投稿し、11月6日（中間選挙）のテネシー州での選挙で民主党候補を支持することを初めて宣言した。このことは大きく報道され、その影響で多くのミレニアル世代が選挙のために登録したといわれている。

★マイリー・サイラス：92年生まれ。アメリカの歌手、俳優。ディズニー・チャンネルのテレビシリーズ『シークレ

CamScannerでスキャン

どあるし、ストリートとも切り離されちゃっているから同胞に訴えるメッセージもない。テイラー・スウィフトに勝つとか、ヒップホップと無関係の世界で無理矢理モチベーションを上げて音楽を作っているんですよね。そこに本人の底知れない闇を感じるんですよ。でもアルバムを出すとやっぱりセンスはあるし、凄いなあと思うんですよね。

大和田　そういえばテイラー・スウィフトは結局、今回の大統領選について政治的にどっちを支持してるか、**何も言いませんでしたね**。

長谷川　ケイティ・ペリーと**マイリー・サイラス**はヒラリーのために凄い頑張ったのに。

大和田　**ナッシュヴィル**の人だから言えないんですよ。ドナルド・トランプ支持とは言いにくいけど、かといってヒラリー支持なんて言っちゃうと炎上するだろうし。

長谷川　今回の大統領選を見ると、ロックは元気なかったなって感じしますよね。全然影響力が示せなかった。さすがにトランプを応援している奴は少ないんですけど、ヒラリー側で目立っていたのはブルース・スプリングスティーンとボン・ジョヴィと、30年前からの人たちがほとんどだったし。

大和田　この前**ブルース・スプリングスティーンの自伝**を読んだんですよ。彼は

ット・アイドル・ハンナ・モンタナ』でティーンアイドルの地位を確立。〈Wrecking Ball〉など多くのヒット曲があり、13年にMTVのアーティスト・オブ・ザ・イヤーに選出された。

★ナッシュヴィル：テネシー州の州都で、カントリー・ミュージックの聖地。ダウンタウンにはミュージック・ロウと呼ばれる音楽関連会社が集う地区があり、カントリーやCCMなどの音楽ジャンルが発展した。近年、急激な人口増加に伴ってリベラル化が進み（「赤い州の青い町」）、黒人音楽やアメリカーナなども盛んに。

★ブルース・スプリングスティーンの自伝：『ボーン・トゥ・ラン――ブルース・スプリングスティーン自伝』（鈴木恵・加賀山卓朗訳、早川書房、2016）

CamScannerでスキャン

ニュージャージーの労働者階級出身じゃないですか。たぶん彼のファンは今回の選挙でほぼトランプに入れたはずです。典型的な**ラスト・ベルト**地帯ですし。だからボスもなかなか難しいなっていうか。あの人ずっと誤解されてばっかりですから。〈**ボーン・イン・ザ・USA**〉なんかレーガンが「良い歌だ」と言ったので、「いやお前の歌じゃない」って返したとかありましたけど。

長谷川 逆にティーン・アイドルの方が、ヒラリー支持を強く打ち出して目立っていましたね。日本の感覚でいうと左翼と言っていいノリで。

大和田 雑誌も『**ティーン・ヴォーグ**』とか『ナイロン』とか。日本でいうと『**non-no**』のような雑誌が左翼的な記事であふれている。そういえば『**女性自身**』ってかなり左翼的になってますよね。だから『non-no』もあと一歩ですよ。

「どれだけ髪をカラフルにするか」競争

長谷川 ほかに今年で気になったものはありますか?

大和田 DRAMとリル・ヨッティの〈Broccoli〉。今年、麻薬の隠語が増えたんですけど、これはWeed、つまりマリファナのことです。

長谷川 聴いてみますか。

★ラスト・ベルト:アメリカで80年代以降、重工業や製造業の衰退と共に不景気が続き「錆び付いた地域」を指す。ニューヨーク州からペンシルヴァニア州、ウェストヴァージニア州、さらにオハイオ州やインディアナ州など主に中西部から5大湖にかけた地域。ここの住民が民主党から共和党支持に転向したことが、16年のトランプ大統領選出に大きな影響を与えたといわれる。

★〈ボーン・イン・ザ・USA〉:84年にリリースされたブルース・スプリングスティーンの曲。ビルボードのシングル・チャートで9位まで上がった。ベトナム戦争の影響と帰還兵の境遇を歌った曲は、一部のリスナーに「アメリカ讃歌」として誤解された。

★『ティーンヴォーグ』:03年創刊。現在はオンラインのみ。10代の女子向けのファッ

CamScannerでスキャン

大和田　これはヒットしましたからね。トライブなんかよりぜんぜん売れてます。
長谷川　この流れでリル・ヨッティの〈One Night〉も聴いてみますか。
大和田　今の若手の最有望株ですね。なんと19歳。イントロ、今のテレビ・ゲームの音でしょうか。フランク・オーシャンも『Channel Orage』の最初をゲーム音で始めてましたよね。
長谷川　そうですね。やっぱりゲームとヒップホップは親和性が高い。
大和田　黒人にかぎらず、この世代は**マリオ**をはじめとしてゲームが好きですよね。ウィズ・カリファとか『**クロノ・トリガー**』の〈サラのテーマ〉でラップしますから〈〈Never Been Part 2〉〉。けっこうグッときますよ。この『文化系』シリーズのはじめに町蔵さんが言ったように、みんなが共感するサウンドのひとつとして、ゲーム音楽がある。
長谷川　リル・ヨッティって純粋な黒人で、しかもアトランタ出身ですもんね。こういうサウンドはドレイクでポピュラーになったと思うんですけど、ドレイクは母親が白人だしカナダ人だから、こういう音楽が出てくるのはまだ分かるんだけど、アトランタの黒人がこういう音楽をやる時代に今はなっている。
大和田　アトランタはもう汲めども尽きぬラッパーの宝庫になってますよね。どれ

ション誌で、近年は政治や時事的なトピックを積極的に取り上げている。17年の紙媒体最終号の表紙はヒラリー・クリントンだった。
★『non-no』：71年創刊、集英社が刊行する20歳前後向けの女性誌。
★『女性自身』：58年創刊、光文社が刊行する女性週刊誌。芸能からゴシップ、美容、健康まで扱う。読者は20代から80代までと幅広い。
★DRAM：88年生まれのアメリカのラッパー。16年にリル・ヨッティをフィーチャーした〈Broccoli〉がビルボードのシングル・チャート5位にまで上がるヒット。ちなみに「ブロッコリ」はマリファナの意味。
★リル・ヨッティ：97年生まれのアメリカのラッパー。何を言っているかわからないことをぶつぶつ言う＝マンブ

CamScannerでスキャン

だけヘンなキャラが出てくるかみたいな。去年、町蔵さんがアトランタのラッパーの写真を並べて、今のラッパーは「どれだけタトゥー増やすか」競争だっていう話が出たじゃないですか。今年は「どれだけ髪をカラフルにするか」競争ですよね。参加してるのはDRAMにリル・ヨッティ、あと**リル・ウージー・ヴァート**とか。

長谷川　みんな髪にビーズみたいなものをしてる。「ビーズ」競争（笑）。ここに来て、ラッパーのファッションが我々が考える黒人的なるものから完全に外れてきた気がしますね。だってヤング・サグなんてアルバム・ジャケで女装していますからね。

大和田　トランスジェンダーだったのかって思いましたけど違うんですよね。

長谷川　**エリカ・バドゥ**に言わせると「あれがアトランタのオシャレな男の美学」だそうなんですよ。

大和田　そういえばエリカが昔付き合っていた**アンドレ3000**も、UGKに客演した〈International Players Anthem (I Choose You)〉のPVでキルトを履いてましたね。

長谷川　アトランタっていうと南部だからアーシーなノリのマッチョな男が多いみ

ル・ラップのひとり。ミックステープ『Lil Boat』には日本人アーティストDAOKOの〈かけてあげる〉をサンプリングした〈Good Day〉を収録。

★マリオ：スーパーマリオブラザーズ。85年に任天堂が発売したファミリー・コンピュータ用のゲームソフト。

★クロノ・トリガー：95年にスクエアより発売されたRPGゲームソフト。

★リル・ウージー・ヴァート：94年生まれのアメリカのラッパー。何を言っているかわからないことをぶつぶつ言う＝マンブル・ラップのひとり。16年の『XXL』誌が主催するフレッシュマン（新人ベスト10）に選出。

★エリカ・バドゥ：71年生まれ。ネオ・ソウルを代表するシンガー。アウトキャストのアンドレ3000との間に子

CamScannerでスキャン

たいなこちらのイメージを粉々にぶち壊されるというか。

大和田 そのヤング・サグと**トラヴィス・スコット**が組んだ曲で、両方のアルバムに収録されている〈Pick Up The Phone〉を聴いてみますか。

長谷川 重低音がキーワードですね。しかもベースラインじゃなくて、ただの低音。

大和田 ほんとにブーンって鳴っているだけ。これをずーっと聴いてると、日本のどんな音楽を聴いても低音が足りなく聞こえる。

長谷川 ここ最近**ダンスホール・レゲエ**っぽいヒット曲が多いですね。あ、「カン」っていう音がさっきのピコ太郎も使ったTR-808のカウベルです。

大和田 この曲でフィーチャーされてるのはミーゴスのクエイヴォなので、ある意味でアトランタ・オールスターですね。

「FDT」で連帯するカリフォルニア

長谷川 マリファナつながりで思いだしたんですけど。ヒップホップって非常にマリファナと親和性が高い音楽だったんですけれども、カリフォルニア州で事実上合法化されましたね。

供がいる。3人目の子の父親はジェイ・エレクトロニカ。

★アンドレ3000：75年生まれ。アトランタのヒップホップ・デュオ、アウトキャストのひとり。卓越したラッパーであるだけでなく、ヒップホップのジャンルを超えてR&Bやポップスなども手がける。

★トラヴィス・スコット：92年生まれのヒューストン出身のラッパー。16年の『Birds In The Trap Sing McKnight』がアルバム・チャートで1位を獲得、18年の『Astroworld』も高く評価された。

★ダンスホール・レゲエ：70年代後半に流行したレゲエのサブ・ジャンル。10年代半ばの多くのヒット曲に聞かれるリズム（ンッチャツッチャツンッチャツッチャッ）の由来とされる。

大和田　大統領選の開票速報にみんながショックを受けている最中に、スヌープ・ドッグがツイッターで「やったぜ、カリフォルニアで大麻解禁」とひとこと呟いた。あれは一番よいツイートでしたね。スヌープにとっては大統領なんてどうでもいい、大麻だけ合法的に吸えるようにして欲しいって話ですよ。

長谷川　今、ニューヨークのメディアはトランプが勝ったんで本当に落ち込んじゃってるし、憤懣やるかたない感じなんです。でもカリフォルニアのメディアって妙に明るいんですよ。今まで共和党が勝っていたエリアも、民主党が全勝したから。かつマリファナ解禁っていう快挙を成し遂げた（笑）。

大和田　カリフォルニア独立って言われていますよね。**カレグジット**（笑）。

長谷川　ただ現実的に独立しても困らないんですよ。農業も工業も盛んだし、シリコンヴァレーとハリウッドがあるから。だからトランプ政権に対してめちゃくちゃ強気でポジティヴなんですよね。だからカリフォルニアのメディアを見ると勇気づけられますよ。

大和田　アジア系も多いですしね。

長谷川　そのロサンゼルス出身の**アンダーソン・パーク**〈Come Down (remix)〉を聴いてみますか。

★カレグジット：Calexit。15年に始まり、カリフォルニア州がアメリカ合衆国から分離独立を企図する「イエス、カリフォルニア」キャンペーンに、イギリスの「ブレグジット」以降、「カレグジット」というニックネームがついた。

★アンダーソン・パーク：86年生まれ。西海岸のヒップホ

大和田　名前でわかるかもしれませんが、韓国系でもあるんですね。

長谷川　たしかクオーターですね。パクさん。

大和田　僕は微妙にのれなかったんですよね。すごく評価されてるのはわかるんですけど、どうですか町蔵さん？

長谷川　いや普通に好きですけど。このアルバム『Malibu』がインディーからは最後で、次はドクター・ドレーの**アフターマス**から出るので、ケンドリックの次は彼かもと言われてますね。この人、自分でドラムを叩きながらラップをするんです。ケンドリックと同じくパフォーマーとして優秀で。やっぱりドレーってライヴがダメな奴は嫌いなんだなというのがわかりますね。

大和田　西海岸はここ最近元気ですよね。

長谷川　もちろん警察の黒人への暴力が非常にきつかったところではあるけど、一方でリベラルな文化も持っていて、理解ある白人が沢山いるってことは忘れてはいけない。もちろんケンドリックは自分のコミュニティに対して訴えているんだけど、そのコミュニティのすぐそばに理解ある者がいるからこそ、ああいった振る舞いができるってところがあると思うんです。ヒスパニックもアジア系も沢山住んでいる街だから、ある種の開放感が彼らの音楽をポジティヴな響きにしてい

ップ、R&Bミュージシャン。韓国系のクォーター。ヒップホップに限らずファンクやソウルなど多彩な音楽を演奏する。ドラムを叩きながら歌うスタイルで知られる。

★アフターマス：96年にドクター・ドレが創設したレコード・レーベル。エミネム、ケンドリック・ラマーなどが所属している。

CamScannerでスキャン

る。アンダーソン・パークはその申し子。今のカリフォルニアの明るさを体現していると思いますね。

大和田　そろそろ時間も終わりに近づいてますが、まとめの曲を何にしますか？

長谷川　じゃあやはり西海岸のＹＧと**ニプシー・ハッスル**の〈FDT（Fuck Donald Trump)〉いきましょう。

大和田　最後はそれに決めていたんですね（笑）。

長谷川　ＹＧは**ブラッズ**っていう赤がテーマ・カラーのギャングにいた人で、共演してるニプシー・ハッスルは**クリップス**、青がチームカラーのギャングにいた人なんですけど、ドナルド・トランプという敵を前にして、いがみ合っていた彼らが団結したんですよ。

大和田　歌詞（リリック）はこれだけですよね？

長谷川　言っているのは「ファック・ドナルド・トランプ」だけです。

大和田　日本人でもはっきりわかるメッセージ。でもかつてトランプがラッパーに人気があった時代もありましたよね。成り上がりのイメージで。

長谷川　カリフォルニアの連帯感が凄いんですよね。あれだけ「ファック・ザ・ポリス」とか言われて嫌われていたＬＡＰＤ＝ロスアンゼルス警察が「不法移民を

★ニプシー・ハッスル：85年生まれのロサンゼルス出身のラッパー。コミュニティへの貢献でも知られ、「マラソン・クロージング」などのショップを立ち上げたが、19年3月31日、その店の外で射殺された。

★ブラッズ：70年代初頭にロサンゼルスで結成されたストリート・ギャング。ギャング・カラーは赤。構成員は全米に2万から2万5千人。

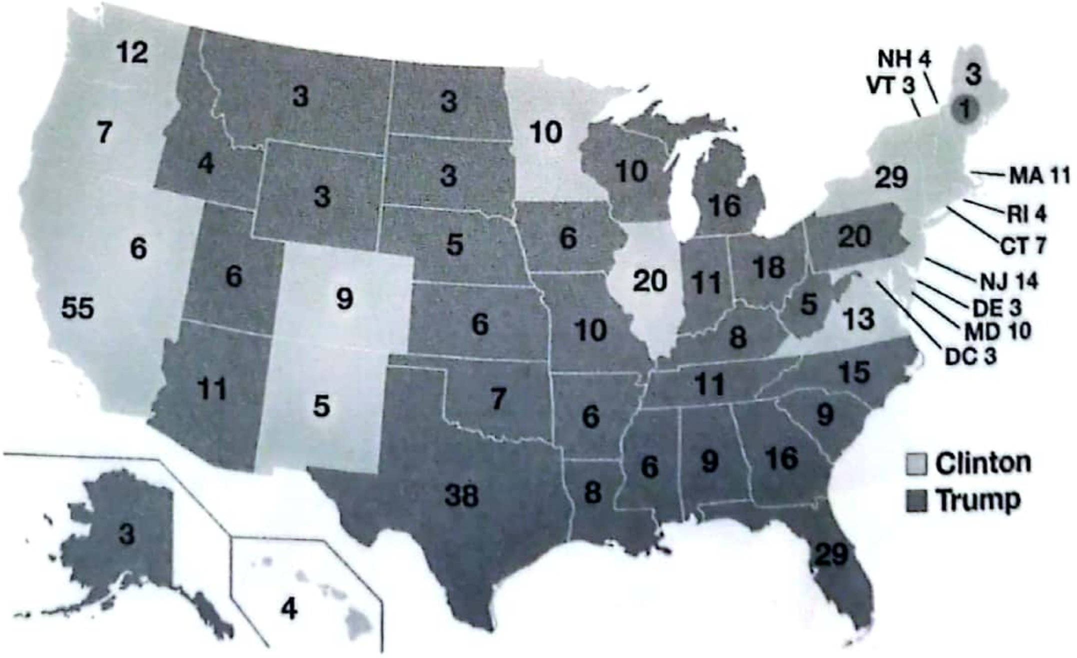
★クリップス：60年代末にロサンゼルスで結成されたストリート・ギャング。ギャング・カラーは青。構成員は全米に3万から3万5千人。

追い返すのは政府の役割で俺たちの役割じゃない」って言ったら、急にゲットーの間で「さすが俺たちのＬＡＰＤだ」って評価が上がって、今よくわかんないことになっている。

大和田　ほんとですよね。

長谷川　最後にこの図（下）を見せたいんですよ。今回ヒラリーとトランプが勝った州と負けた州で、クリントンが青、トランプが赤。みなさんお分かりの通りラスト・ベルトっていう五大湖の周辺でトランプが勝った。フロリダ州、右下に突き出ているところもトランプがとった。スイング・ステートと呼ばれている州を取られたせいで、全体では３００万近くクリントンの得票が多かったにもかかわらず、トランプが勝ったという事象が起きた。これを「トランプ革命だ」「大変だ」とメディアは報じていて、まぁたしかに大変ではあるんですが、前回と比べると微小な差でしかないということがわかりますよね。で、こっちの図（次ページ）を、どう思います？　これは80年にロナルド・レーガンが大統領になった

2016年のアメリカ大統領選挙（数字は各州の選挙人の数。以下同）
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Electoral_College_2016.svg



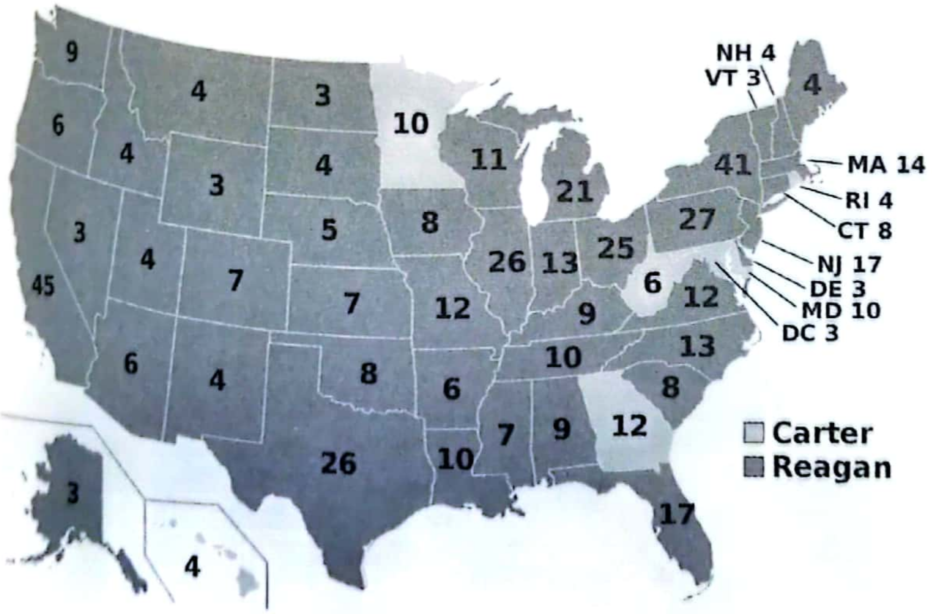
CamScannerでスキャン

ときの図なんです。民主党が勝っているのはハワイ、ミズーリ、あとカーターの地元だったジョージア州ぐらいで、あとは共和党がすべて勝っています。で、3つ目の図は何かというと、76年に民主党のカーター大統領が勝ったときの選挙です。今から40年前の選挙なんですけれども、さっき見せたトランプが勝った最新の選挙結果とそっくり色が入れ替わっているような気がしません？　つまりこのとき民主党を支えていたのは南部と五大湖周辺のラスト・ベルトだった。で、それ以前はずっとカリフォルニアも含めて共和党なんですよね。ということで分かると思うんですけれども、40年後にどうなっているかは予想もつかない。

大和田　実はテキサスは急速にスイング・ステート化していると言われていて。もし民主党側にひっくり返ったら共和党はどうやっても勝てない時代がきちゃうかもしれないっていう。

長谷川　ヒスパニックの人口が爆発的に増えていることを考えると、意外と早く凄い変化が起こるかもしれない。

1980年のアメリカ大統領選挙
https://de.wikipedia.org/wiki/Datei:ElectoralCollege1980.svg



大和田　まあ、その変化がちょっと遅くなるかもしれないですけどね、トランプ政権で。

長谷川　でもそのトランプが次でガーンて負ける可能性だってあるかもしれないってことで、FDT!

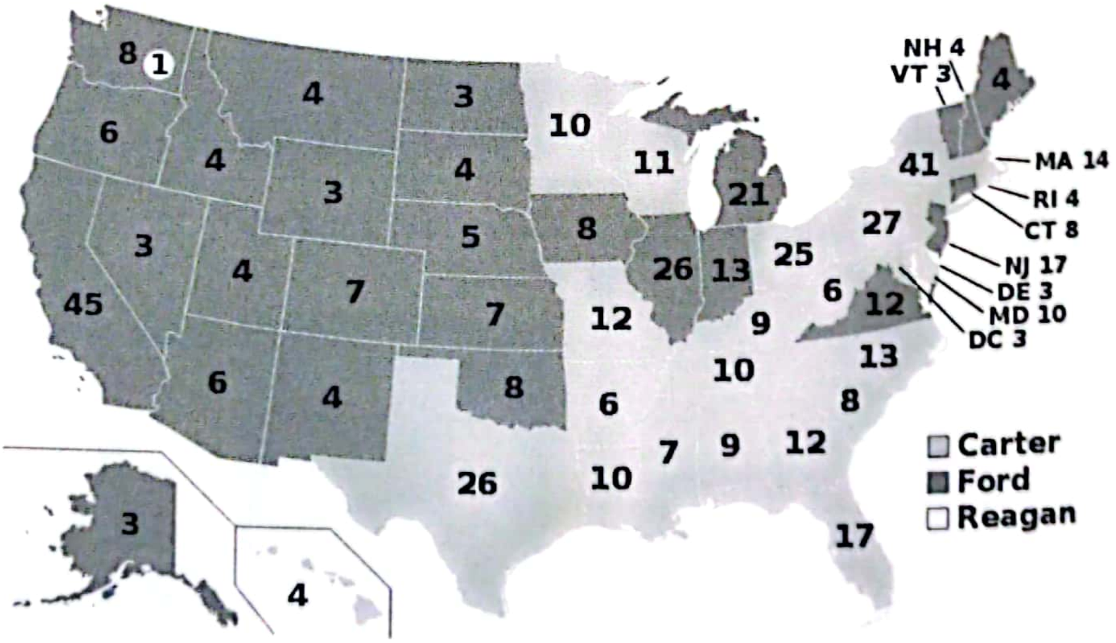
大和田　ってことで今年は締めますか?

長谷川　そうですね。

大和田　ありがとうございました。町蔵さんの渾身のメッセージを最後にかけて、トランプがいない世界を妄想しつつ、オバマ大統領の第3期を迎えましょう。〈FDT (Fuck Donald Trump)〉!!

［2016年12月、慶應大学三田キャンパスにて収録］

1976年のアメリカ大統領選挙
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:ElectoralCollege1976.svg



Anderson .Paak
アンダーソン・パーク

Malibu
2016
OBE

ドクター・ドレー『Compton』やザ・ゲーム『The Documentary 2.5』に参加したことで注目を浴びた西海岸の新鋭によるセカンド。自らドラムを演奏しながら歌うパフォーマンスで知られるが、このアルバムにはマッドリブや9th Wonderなどサンプリング主体のプロデューサーやクリス・デイヴなどのジャズ人脈も加わり、ファンクやソウルを感じさせるオーガニックなサウンドに仕上がった。 O

Beyoncé
ビヨンセ

Lemonade
2016
Parkwood Entertainment

タイトルは「もし人生でレモンを与えられたら、レモネードを作りなさい」という諺に基づいている。ビヨンセの夫、つまりジェイZの不貞行為によるパーソナルな苦しみ(レモン)と黒人女性の困難な歴史が重ねられ、怒りや復讐などの心情を表現しつつ、それを力強く乗り越える(レモネード)様子が壮大なスケールで描かれる。発売時に合わせてリリースされた65分の映像作品も話題に。 O

Chance The Rapper
チャンス・ザ・ラッパー

Coloring Book
2016
Not On Label

レコード・レーベルと契約せずに活動を続けるシカゴ出身のラッパーによる3枚目の「ミックステープ」。フィジカルでのリリースがなく、ストリーミングのみでビルボードのアルバム・チャートを制した最初のアルバム。西海岸での堕落した生活から立ち直り、再起を図って故郷で制作された作品はゴスペルの影響を強く受けており、翌年のグラミーでベスト・ラップ・アルバム賞を受賞した。 O

Childish Gambino
チャイルディッシュ・ガンビーノ

Awaken, My Love!
2016
Glassnote

俳優やコメディアンとしても活躍し、テレビドラマ『アトランタ』の製作者としても知られるドナルド・グラヴァー、そのミュージシャン名義の3枚目。デビュー以来、活動を共にするルドウィグ・ゴランソンとプロデュースした作品は、ファンカデリック/パーラメントなど70年代サイケデリック・ソウルやファンクの影響を強く感じさせる。グラミー賞の最優秀アルバム賞にノミネートされた。 O

CamScannerでスキャン

Common
コモン

Black Amercia Again
2016
Def Jam Recordings

2016年10月、コモンはロバート・グラスパーなどジャズ界の俊英を引き連れてホワイトハウス内の図書室で小さなライヴをおこない、大統領選挙直前の11月4日に本作をリリースした。コンシャスな内容は批評家に絶賛され、同郷のオバマ大統領を祝福するパフォーマンスは喜びに溢れていた。その数日後にトランプ政権が誕生することになるとは、この時点でほとんど誰も予想していなかった。O

Frank Ocean
フランク・オーシャン

Blond
2016
Not On Label

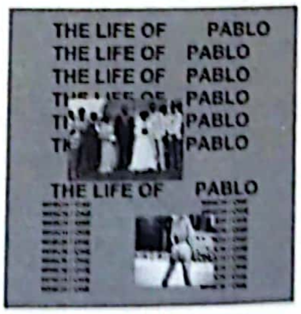
ニューオーリンズで育ち、西海岸を拠点とするオッド・フューチャーの一員でもあるシンガーのセカンド。ジェイムズ・ブレイクやジョン・ブライオンなども参加したアルバムは、ミニマルでアンビエントなサウンドにインディー・ロック／SSW的ともいえる内省性を孕む。本作によってこの世代でもっとも注目される音楽家としての評価を確立しただけでなく、セールス的にも成功した。O

J.Cole
J・コール

4 Your Eyez Only
2016
Dreamville

トラップやマンブル・ラップと呼ばれるスタイルが流行する中、ヒップホップ・マナーを守りつつポピュラリティを維持している数少ないラッパーの4枚目のアルバム。ひとりの男が成長し、家族を持って亡くなるまでのストーリーが、アルバムを通して巧みなラップスキルによって語られる。ビルボードのチャートで首位を獲得し、BETアワードなどで最優秀アルバム賞にノミネートされた。O

Kanye West
カニエ・ウェスト



The Life Of Pablo
2016
G.O.O.D. MUSIC

前作『イーザス』がインダストリアルかつ前衛的なサウンドだったのに対し、本作は1曲目にカーク・フランクリンと聖歌隊をフィーチャーしていることからも明らかなように、ゴスペル色の強い作品となった。ジェイZ所有のストリーミング・サービス、TIDALで先行リリースされたあとも楽曲は修正され続け、ネット時代の創造性を象徴する「ワーク・イン・プログレス」を体現する作品。O

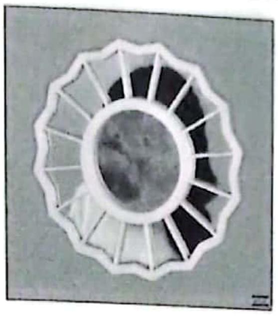
CamScannerでスキャン

Lil Yachty
リル・ヨッティ

Lil Boat
2016
Solid Foundation Management

髪を原色に染め上げ、ぶつぶつと呟くような「マンブル・ラップ」にカテゴライズされるラッパーだが、音楽共有プラットフォーム、サウンドクラウドで頭角を現し、ゲーム音楽やアニメーション音楽を頻繁にサンプリングするスタイルを自ら「バブルガム・トラップ」と呼ぶ。⑥でニコニコ動画出身の日本の女性ラップ・シンガーDAOKOの〈かけてあげる〉をサンプリングしている。 O

Mac Miller
マック・ミラー



The Divine Feminine
2016
Warner Bros. Records

2018年9月に夭逝したラップ・シンガーの4枚目のアルバム。当時交際していたアリアナ・グランデを始め、本人にとって女性の存在がいかに大きいかをテーマにしたという。アンダーソン・パーク、タイ・ダラー・サイン、ビラル、ケンドリック・ラマーなど豪華なゲストに恵まれたポップな佳作は、ビルボードのヒップホップ・チャートで首位、総合チャートで2位まで上がった。 O

Rae Sremmurd
レイ・シュリマー

SremmLife 2
2016
EarDruma

アトランタの売れっ子プロデューサー、マイク・ウィル・メイド・イットが手がける兄弟デュオのセカンド。重鎮ラッパー、グッチ・メインをフィーチャーした収録曲〈ブラック・ビートルズ〉はインターネット上で流行した「マネキン・チャレンジ」のBGMとしてしばしば使われたこともあり、ビルボードのシングル・チャート1位を獲得した。アルバム自体もビルボード200の4位に。 O

Solange
ソランジュ

A Seat At The Table
2016
Columbia

ビヨンセの妹、という紹介がもはや不要であることをはっきり証明した3枚目のオリジナル・アルバム。リル・ウェインやザ・ドリームなどメインストリームのR&B／ヒップホップ人脈だけでなく、デイヴ・ロングストレスやデヴ・ハインズなどインディー系のミュージシャンを大々的に起用することで、音楽性の高さとメジャー志向を両立させた稀有なアルバムに仕上がっている。 O

CamScannerでスキャン

Travis Scott
トラヴィス・スコット

Birds In The Trap Sing McKnight
2016
Grand Hustle

ヒューストン出身のラッパー、2枚目のオリジナル・アルバム。ケンドリック・ラマー、アンドレ3000、ザ・ウィークエンド、ヤング・サグ、そして本人が最大のアイドルと公言するキッド・カディなど豪華な客演陣も話題に。トラップなど現行シーンのトレンドを踏まえつつ、多様なサウンド上の実験を試みる本作のスタイルは、むしろ次作『Astroworld』(2018)で花開くといえるだろう。 **O**

A Tribe Called Quest
ア・トライブ・コールド・クエスト

We Got It From Here... Thank You 4 Your Service
2016
Epic

前作以来、実に18年ぶりのオリジナル・アルバム。レコーディング中にメンバーのファイフ・ドーグがなくなるという悲劇に見舞われたものの、グループのカラフルなサウンド・プロダクションとコンシャスなリリックは健在である。トランプ大統領当選直後にリリースされた作品は政治的なメッセージにも溢れ、翌年のグラミー賞授賞式でのポリティカルなステージも記憶に新しい。 **O**

21 Savage & Metro Boomin
21サヴェージ&メトロ・ブーミン

Savage Mode
2016
Slaughter Gang

イギリス生まれのラッパーとセントルイス出身のプロデューサーがアトランタで出会い、作り上げた奇跡的なデビュー作。暴力やドラッグにまつわる自伝的なリリックを不気味にラップする21サヴェージと、トラップ・ミュージックをさらにダークかつ幻想的に響かせるメトロ・ブーミンのプロダクションの相性は抜群。その後のラップ・ミュージックのひとつの方向性を決定づけた作品。 **O**

Young Thug
ヤング・サグ

Jeffery
2016
300 Entertainment

エクセントリックなスタイルとファッションで知られるラッパーのミックステープ。シャウトから囁きまで、多彩な声色を使い分けながらラップ／フロウの可能性を追求する本作の特徴は、ドレスを身につけた本人が映されるジャケットにも現れている。グッチ・メインやワイクリフ・ジョンを客演に迎えたバラエティに富む楽曲が、しかし不思議なまとまりを感じさせるアルバムでもある。 **O**

CamScannerでスキャン

COLUMN #01

『ゲットダウン』
――ヒップホップ黎明期を再現した快作

1977年のニューヨーク市サウス・ブロンクス。アフリカ系やプエルトリコ系の貧しい人々が肩を寄せ合って暮らすこのエリアで生まれ育った少年ジーク(ジャスティス・スミス)は、文学的才能を持ちながら無気力な日々を送っていた。一方、ガールフレンドのマイリーン(ヘリゼン・ガーディオーラ)は、街への幻滅と敬虔な牧師である父(ジャンカルロ・エスポジート)への反発心からディスコ・シンガーになることを夢見るようになる。

ある日、ジークがマイリーンにプレゼントしようとした12インチ・シングルが謎の男に横取りされるという事件が発生する。その男こそ、友人のディジー(ジェイデン・スミス)が崇拝していた正体不明のグラフィック・アーティスト、シャオリン・ファンタスティック(シャメイク・ムーア)だった。意気投合したシャオリンはジークたちを「ゲットダウン」と呼ばれる秘密のパーティへと誘う。そこでは2台のターンテーブルでこれまで誰も聴いたことがないサウンドを響かせるDJと、それに乗ってリズミカルにリリック(詩)を吐き出すMC(ラッパー)が大勢の観客を熱狂させていた。そこでマイクを持たされて、他人に詩を聴かせる喜びを知るジーク。そんな彼に、シャオリンは一緒にグループを組まないかと持ちかけ、ラップ・グループ、ゲットダウン・ブラザーズが結成されるのだが……。

アメリカでも最悪の犯罪多発地帯が生み落とした革命的なポップ・ミュージック、ヒップホップ。その黎明期を描いた物語は、音楽好きな映画監督なら一度は作ってみたいと夢想するものだろう。だがそれは実現困難とされていた。というのも、当時のサウス・ブロンクスは「住民が貧乏人ばかりで儲からないから火災保険をかけて燃やしちまえ」と考えた不動産屋がアパートに次々と放火。税収不足を理由に行政も消火や撤去作業に消極的だったため、至るところが瓦礫の山だったのだ。そんなものを再現しよう

とセットを組んだら、それだけで製作費が吹っ飛んでしまう。

そんな困難なミッションに、Netflixの支援を受けてあのバズ・ラーマンが挑むと知った時は興奮すると同時に不安も感じた。たしかにバズは天才監督である。でもオーストラリア出身の白人で、前作が『華麗なるギャツビー』という男が、果たして煤けたゲットーのドラマを描けるのだろうか？　しかしそんな不安は『ゲットダウン』の冒頭30秒で吹っ飛ばされた。

記録映像に極限まで迫ったサウス・ブロンクスの風景のリアルさときたらどうだ！　製作陣には、シャオリンたちの師としてドラマにも登場するターンテーブルの魔術師グランドマスター・フラッシュや、メジャー・レーベルと初めて契約したラッパーのカーティス・ブロウ、そして音楽評論家のネルソン・ジョージといった当時を知る重鎮が名前を連ねているため、BGMとして流れるヒット曲や人々のファッションは史実にきわめて忠実だ。またナレーションが、ヒップホップ界最高のリリシストと名高いナズが書き下ろしたラップ調という趣向も憎い。

そんなプロダクションに負けず劣らずストーリーも秀逸だ。向こう見ずなストリート・キッズと内省的なインテリという主人公2人のキャラ設定は、『Cooley High』(1975) にはじまり『ボーイズン・ザ・フッド』(1991) で確立した黒人青春映画の伝統を汲むもの。シャオリン登場時には『燃えドラ』風スコアを、グランドマスター・フラッシュ登場シーンにはショウ・ブラザーズ風スコアを流すあたり、「ヒップホップ・カルチャーを心の底から愛している」というバズの言葉が嘘でないことが証明されている。よく考えてみればバズの出世作『ロミオ＋ジュリエット』(1996) はモンタギュー家とキャピュレット家をストリート・ギャングとして描いた作品だった。

とくに最高なのはディスコ・レーベル、マラケシュ・レコード(もちろんカサブランカ・レコードのもじり)とシンガーとして契約したマ

イリーンが、ソングライターのジャッキー・モレノと彼が住むチェルシー・ホテルで曲作りをするシーン。2人が曲を演奏していると、その場に居合わせた革ジャンの男が興に乗ってベースを弾きはじめる。劇中では"ディーディー"とだけ呼ばれている男はパンク・バンド、ラモーンズのディーディー・ラモーンのことだろう。なぜなら彼はバンド脱退後、ディーディー・キング名義でラップ・レコードをリリースしたほどのヒップホップ・ラヴァーだからだ。そのマイリーンのプロモ盤12インチに入っているブレイクを用いてゲットダウン・ブラザーズがライバル、ノトーリアス・スリーとのバトル対決に挑むクライマックス・シーンはテンション上がりっぱなしだ。

もちろん流麗なカメラワークや、興奮するとなぜかディスコ・ダンスを踊りだす場末のディスコの悪徳経営者キャデラックの描写などにはいつものバズ印が健在。マイリーンが身を投じるディスコ業界の隆盛や、彼女の叔父で地元の実力者フランシスコが夢見るブロンクス再開発当時のニューヨーク市長コッチによるグラフィティ・アートの弾圧、さらには大停電など、1977年のニューヨークの夏を丸ごと描くことで、バズはヒップホップの黎明期を様々な視点から捉えてみせている。残念ながら莫大な製作費に見合う視聴者を獲得できずワンシーズンで打ち切りになってしまったものの、伏線はほぼ回収されておりドラマとしての完成度は高い。

ちなみにヒップホップのレコードが作られ始めるのは1979年から。『ゲットダウン』からわずか2年後のことだが、この創世期を生き抜いてレコード・デビューに至ったアーティストは非常に少ない。事実、本作も1996年の時点から、ジークの成長した姿と思わしきベテラン・ラッパーが過去を振り返る趣向で語られる。そこにシャオリンの姿はない。本作は世界を変えた音楽の誕生に多大な貢献をしながら、消えていった天才たちへの鎮魂歌でもあるのだ。

（長谷川町蔵）

第３部

ブラックネスのゆくえ

オバマ政権下のアメリカ社会とヒップホップ

[ゲスト] 有光道生（アフリカ系アメリカ研究・慶應大学法学部准教授）

CamScannerでスキャン

クロマティに魅せられて

大和田　『文化系1』を出した2011年はまだ第1期の半ばだったオバマ政権ですが、今年、2016年いっぱいで2期目が終わります。そこで今日は有光道生（ありみつみちお）さんをお迎えして、オバマ政権とヒップホップについて色々話していきたいと思います。有光さんをまずご紹介しないといけませんね。慶應大学法学部の准教授で私の同僚でもありますが、ハーバード大学のアフリカン・アメリカン・スタディーズ、アフリカ系アメリカ研究学科で博士号を取得されています。

長谷川　アフリカ系アメリカ研究っていう学術分野があるんですか？

大和田　はい。『文化系1』の**コラム**でも触れた**ヘンリー・ルイス・ゲイツ・Jr教授**というその道のパイオニアに直接指導を受けていて、しかもハーバードでこの分野の博士号を取得した最初のアジア系だそうです。

長谷川　おお〜。

有光　僕のメインの指導教官は、ヴァーナー・ソラーズというドイツ系の人だったんですが、たしかにゲイツ先生の指導も受けたし、授業の補佐やリサーチ・アシスタントもやりました。

★コラム：『文化系のためのヒップホップ入門』（2011）36ページ「シグニファイング——“もの騙る猿”について」。

★ヘンリー・ルイス・ゲイツJr：50年生まれ。ハーバード大学で卓越した業績を持つごく少人数の教員に与えられる「ユニヴァーシティ・プロフェッサー」の称号をもつ。英ケンブリッジ大学で英文学の博士号を取得。フランス現代思想を用いてアフリカ系の文学的伝統を分析した『シグニファイング・モンキー：もの騙る猿／アフロ・アメリカン文学批評理論』（1988。邦訳は松本昇・清水菜穂訳、南雲堂フェニックス、2009）が主著。

★クロマティ：ウォーレン・クロマティ。53年生まれ。アメリカの元プロ野球選手。84

CamScannerでスキャン

大和田　アメリカの大学院に出願するときに、元巨人の野球選手**クロマティ**のことを書いたんですよね。

有光　アメリカの教授陣には日本の学生を書面だけでどう評価していいか正直わからないですよね。だから印象に残るように、何か変化球を投げようと思って、テレビに映るクロマティが記憶に残っている最初の黒人だったと書きました。

大和田　**カール・ルイス**じゃないんだ？

有光　あ、言われてみればルイスも記憶に残ってますが、クロマティのほうが印象が強いです。僕は少年時代サッカーをやっていたんですが、その頃Jリーグもなかったし、海外のアフリカ系の選手のことは全然知らなかった。ネットもないですからね。あの頃は巨人のクロマティと**阪神のバース**が「助っ人外国人」として男子の人気を二分してたんですよね。クロマティが黒人で、バースが白人。でも、ほとんど人種のことは意識せず。米国における奴隷制の過去や人種差別の現実のことなどもまったく知らぬままに。クロマティに魅了されていたとありのままに書きました。

長谷川　クロマティは**ドラムが趣味**で、ハード・ロック・バンドを結成してLPを出してましたよね。

年から90年まで読売ジャイアンツでプレイ。86年に35本塁打。86年と89年にシーズン打率3割超えを達成。

★カール・ルイス：61年生まれ。アメリカの元陸上競技選手。84年のロサンゼルス・オリンピックで100m、200m、走り幅跳び、男子4×100メートル・リレーの4種目で金メダルを獲得。10のオリンピック・メダルと10の世界選手権メダルを持つ。

★阪神のバース：ランディ・バース。54年生まれ。83年から88年まで阪神タイガースでプレイ。シーズン最高打率（.389）の日本記録を持つだけでなく、85年と86年には3冠王を2度獲得した。

★ドラムが趣味：89年に「233」というバンド名義でアルバムを発表。ZZトップのザ・デイ・ツリーとフォリナーのルー・グラムがゲスト参加した。

大和田 それでアフリカ系と日系、あるいはアジア系の交流の歴史、とくに黒人による俳句のパロディなんかについての博士論文を書いて博士号を取った。だからオバマ政権と人種問題、アメリカ社会におけるアフリカ系とヒップホップ・カルチャーを語るには、日本で一番適任ではないかと。

長谷川 ハーバードには何年いたんですか？

有光 06年から13年まで在籍していて、その間は日本とアメリカを行ったり来たりしてました。

大和田 まさにオバマ政権の誕生と第1期は、ほぼずっといたんだ。

有光 そうなりますね。

オバマ政権への期待と失望

大和田 今日は年表を作ってきたので、それに沿って解説してもらおうと思います。まず2009年1月にオバマ政権が発足しますけど、この年の元旦にオスカー・グラント射殺事件が起きていますね。

有光 22歳のアフリカ系の青年オスカー・グラントが、カリフォルニア州のオー

クランドにある電車の駅で警官に射殺された事件ですね。13年に**ライアン・クーグラー**によって映画化もされました。

長谷川 **『フルートベール駅で』**ですね。

有光 つい最近までマスメディアではなかなか取り上げられてこなかったんですが、公民権運動が終わって半世紀も経つのに、何も悪いことをしてない普通の黒人市民が警察にハラスメントされたり、射殺されるような事件がアメリカでは日常的に起こってます。いまだに白人が牛耳ってるメディアでは、黒人が差別や暴力の犠牲になっているなんてことは長いあいだニュースとして扱われなかった。だから、ヒップホップは「黒人にとってのCNNだ」ってよく言ってたわけですよね。**パブリック・エネミー**の**チャックD**なんかは、黒人の現実を描き伝えるヒップホップは「黒人にとっての**CNN**だ」ってよく言ってたわけですよね。それがスマホやSNSの登場で一気に可視化されるようになった。そういえば、オバマはSNSを効果的に使って当選した最初の大統領でもありましたね。

大和田 7月には有光さんの師であるヘンリー・ルイス・ゲイツ・Jrが自宅で警察に逮捕されるという事件が起きています。事件の顚末(てんまつ)は現地の事情を知らないと分かりにくいので、当時そのハーバードにいた有光さんに、まずそこから解説をお願いします。

★ライアン・クーグラー：86年生まれ。カリフォルニア州オークランド出身。南カリフォルニア大学映画学科在学中に監督した短編がトライベッカ映画祭などで入賞。初の長編『フルートベール駅で』(2013)がサンダンス映画祭でドラマ部門のグランプリと観客賞を受賞。

★『フルートベール駅で』：255ページ参照。

★パブリック・エネミー：ニューヨーク市ロングアイランド出身のヒップホップ・グループ。政治的なメッセージで知られる。

★チャックD：60年生まれ。ヒップホップグループ、パブリック・エネミーのリーダー。ソース誌が発表したランキングでは、ヒップホップ史上リリシストとして12位。

★CNN：80年に放送開始されたアメリカ初の24時間ニュ

有光　まずは事件の背景からお話しします。オバマが出てきた時に、メディアでは「ポスト・レイシャル Post-racial」という言葉が飛び交いました。公民権運動全盛の60年代に**キング牧師**の「私には夢がある」というあの有名なスピーチで語られた未来、「人が肌の色ではなく、中身で評価される時代」がいよいよ来たという考え方ですね。この言葉は**FOX**など保守系のメディアで頻繁に使われました。２００８年にオバマが大統領選に勝利すると、「ポスト・レイシャル」の時代に突入したという論調がますます強くなりますが、大多数の黒人からしてみれば、そのような認識は白人の「空想」にすぎなかった。特権に守られている白人は、彼ら黒人の過酷な現実を知らないということですね。

もちろん、黒人のなかにもオバマの登場で差別や格差が是正される方向に進むのではという希望を抱いた人もたくさんいました。実際に政治、経済、エンターテインメントや軍隊、あらゆる分野で黒人は躍進していたし、中産階級も増えてきてましたからね。しかし、そのような淡い期待はオバマ政権が誕生して1年もすると霧散してしまいます。２０１０年の夏頃には黒人コミュニティからもオバマ政権を痛烈に批判する声が聞こえるようになりました。その代表格が哲学者の**コーネル・ウェスト**ですね。

ース専門チャンネル。本部はアトランタ。

★キング牧師：マーティン・ルーサー・キング・Jr。29年生まれ。公民権運動の指導者。キリスト教とガンジーの思想に影響を受けた非暴力不服従の運動方針で知られる。68年にテネシー州メンフィスで暗殺された。

★FOX：86年に放送開始。ABC、CBS、NBCの三大ネットワークに対抗して設立され、07年から08年にかけてアメリカのテレビ・チャンネルで最高の視聴率をあげた。保守的な論調で知られる。

★コーネル・ウェスト：53年生まれ。アフリカ系アメリカ人の哲学者、アクティヴィスト。最も著名な黒人オピニオン・リーダーのひとりであり、左派としてバラク・オバマやヒラリー・クリントンを批判してきた。

CamScannerでスキャン

余談になりますが、ウェストは2002年に当時ハーバードの学長だった**ラリー・サマーズ**と揉めて、オバマ政権発足当時はプリンストン大学に移っていたんです。2011年にはプリンストンもやめて、コロンビア大学と連携しているニューヨークの神学校で教鞭を執っています。彼は**ノーム・チョムスキー**のようにメディアにも頻繁に登場して政治的な発言をする知識人なんですが、2001年には『Sketches Of My Culture』というラップ・アルバムも出してます。

実はサマーズがウェストのラッパーとしてのキャリアを気に入らなかったらしく、「そんなもの作ってる暇があったらちゃんと論文書いて、きちんと授業しろ!」と苦言を呈した。ウェストはそれに抗議してハーバードを辞めちゃったんです。実際のところ、彼はちゃんと研究や授業もやってたので納得がいかなかったんでしょうね。人気で言えば**マイケル・サンデル**並み、もしかしたらそれ以上だったんですよ。彼はハーバードを去ってから映画『**マトリックス・リローデッド**』(2003)にも出演してます。これは伝説になってるんですが、9・11が起こったときにウェストはニューヨークにいて、あの混乱の中で飛行機や電車が止まってたので、夜通しで車を運転して、ハーバードのあるケンブリッジまで戻って翌朝には予定通り授業をしたそうです。

★ラリー・サマーズ:54年生まれ。アメリカの経済学者。01年から06年までハーバード大学の学長を務める。

★ノーム・チョムスキー:28年生まれ。アメリカの言語学者、アクティヴィスト。言語学における生成文法の提唱者であり、認知科学の領域に重要な功績を残すだけでなく、その旺盛な政治的な発言で知られる。

★マイケル・サンデル:53年生まれ。アメリカの政治哲学者。ロースクールのオンライン講義「正義」が話題に。NHKでも『ハーバード白熱教室』(2010)が放送された。

★『マトリックス・リローデッド』:03年に公開された映画。ウォシャウスキー兄弟監督によって制作された『マトリックス』(1999)シリーズの第2作。

CamScannerでスキャン

話が本題にもどると、2009年7月の段階ではウェストも含めて黒人社会の大部分は祝祭的なムードに覆われてました。そんな中で、ゲイツ先生の逮捕事件が突然おこったわけです。視聴率の高いテレビ番組も制作して、ウェスト以上に知名度の高かったハーバードの看板教授が自宅で逮捕されたということで大変話題になりました。

長谷川　なんで逮捕されたんですか？

有光　いまちらっと触れたとおり、ゲイツ先生は人気テレビ番組のプロデューサー兼司会者としても知られています。逮捕当時、PBSというアメリカの公共放送局で『Finding Your Roots』という有名人のルーツ探しをする番組を制作していたんです。それ以前に手がけた『African American Lives』(2006)、『African American Lives 2』(2008)という番組のスピンオフなんですが、もともとは黒人のセレブを連れてきて、君のルーツはこうだよ、ああだよって科学的に調べて教えるという企画でした。

大和田　DNAで調べるんですか？

有光　DNA解析だけではなく、系譜学者の手も借りるんです。後者は家系図を作る専門家ですね。

★PBS：アメリカの非営利・公共放送ネットワーク。『セサミストリート』の制作局として有名。

大和田　ああー、両方調べるんだ。

有光　『Finding Your Roots』というタイトルについて少し説明すると、1976年に**アレックス・ヘイリー**というアフリカ系の作家が書いたベストセラー『Roots：The Saga Of An American Family（邦題『ルーツ』）』から取ってるんです。この小説はピューリッツァー賞の特別賞もとっています。副題にあるとおり、自分の先祖のクンタ・キンテがアフリカからアメリカに奴隷として連れてこられた悲劇を語りつつ、彼の末裔であるアフリカ系アメリカ人たちが奴隷制、人種差別をいかにサヴァイヴしてきたのかを綴った大河小説（サーガ）でした。翌77年にはテレビドラマとしても大人気になり、エミー賞なんかも受賞してます。ケンドリック・ラマーの『To Pimp A Butterfly』に収録されている〈King Kunta〉はこの『ルーツ』へのオマージュですね。ヘイリーは**マルコムX**の自伝のゴーストライターとしても知られています。

ちなみに、僕が研究しているアジア系とアフリカ系の交渉史のなかでも『ルーツ』は重要なんです。小説のほうは**安岡章太郎**が**松田銑**との共訳という形で1977年に翻訳していますが、芥川賞作家の安岡は、ロックフェラー財団に招聘されて60年代にテネシー州のナッシュヴィルに長期滞在して、公民権運動を間近で

★アレックス・ヘイリー：1921-1992。ヘイリー自身の一族の来歴を西アフリカまで遡って執筆した『ルーツ』(1976) がベストセラーになり、ピューリッツァー賞を受賞。77年にテレビドラマ化された。

★マルコムX：1925-1965。公民権運動活動家。キング牧師とは対照的に急進的な思想で知られる。48年にイスラム教に改宗、65年に暗殺された。

★安岡章太郎：1920-2013。「第三の新人」の作家。代表作に『海辺の光景』(1959)、『流離譚』(1981) など。

★松田銑：1913-2002。日本の翻訳者、編集者。アレックス・ヘイリー『ルーツ』だけでなく、C・W・ニコルやJ・K・ガルブレイスの作品の翻訳で知られる。

目撃してるんです。黒人文化にも思い入れがあったのでしょうね。テレビドラマの方もすぐに日本で放映されました。アメリカでの放映が1977年1月で、日本では10月ですから、かなり早い。すごいのが、8夜連続一挙放映だったんです。しかも、毎晩の平均視聴率が20%を超えてたんですよ。最終回なんて視聴率が28・6%です。テレビ朝日系列で全国ネットで放映されたらしいんですが、ウィキペディアによると瀬戸内海放送（KSB）なんて、36・8%！　僕も最近まで知らなかったんですが、この番組の放送によって、「ルーツ探し」が流行語になり、日本語としても定着したらしいんですよ。

いまNHKで『ファミリー・ヒストリー』という番組が放映されてますが、あれも完全に『ルーツ』の影響下にありますね。ゲイツ先生の番組は、それにDNA検査を追加した感じです。ちなみに、DNAによるルーツ探しはいま一大産業になってます。Ancestory.com が有名ですが、60ドルもだせば、自分が何%白人、何%黒人、何%ネイティヴ・アメリカンもしくはアジア系なのか簡単に調べられてしまう。ゲイツ先生自身も番組と同じようなサービスを一般のアフリカ系アメリカ人向けに提供する African DNA という会社を起業してます。とはいえ、DNA検査の信頼性にはいろいろ疑問も投げかけられています。そもそもどこまで

★クインシー・ジョーンズ：33年生まれ。アフリカ系アメリカ人の音楽家、プロデューサー。60年に及ぶ音楽活動において28度のグラミー賞受賞、ノミネートは80回。

★ウーピー・ゴールドバーグ：55年生まれ。アメリカの

正確なのかはっきりしないし、人種が社会的構築物だっていう認識がようやく広まってきたのに、いまさら生物学的な分類としての定義を復活させるのかという批判ですね。

まあ、その辺の議論はややこしいのでこれ以上突っ込んだ話はできませんが、ともかく、この番組では**クインシー・ジョーンズ**とか**ウーピー・ゴールドバーグ**なんかの過去について調べるんです。それで、こんな先祖がいたのか！　とゲストも視聴者もビックリという。この企画がヒットしたので、ゲイツ先生は白人や他人種のセレブの家族史も調べはじめたんですよ。それが『Finding Your Roots』という番組。最近話題になったのは、『**グッド・ウィル・ハンティング**』や『**パール・ハーバー**』で知られる**ベン・アフレック**の回ですね。取材の結果、彼の先祖に奴隷主がいたことがわかった。

長谷川　そのニュース、覚えてます。で、アフレックは隠蔽しようとしたんですよね、恥だから。

有光　アフレックのエージェントから依頼が来て悩んだゲイツ先生は、知人のソニー・ピクチャーズの社長に相談した。その結果、2014年の番組放映時には、この情報はカットされてました。ところが、2015年になんとソニーのサー

女優、テレビ・パーソナリティ。エミー賞（テレビ）、グラミー賞（音楽）、アカデミー賞（映画）、トニー賞（舞台）のすべてを制覇した数少ない女優。

★『グッド・ウィル・ハンティング』：97年公開のアメリカ映画。ガス・ヴァン・サント監督、ロビン・ウィリアムズ、マット・デイモン主演。独学の天才で清掃員として働く男と心理学者の交流を描く。

★『パール・ハーバー』：01年公開、真珠湾攻撃を題材にした恋愛映画。マイケル・ベイ監督。

★ベン・アフレック：72年生まれ。アメリカの俳優、映画監督。『グッド・ウィル・ハンティング』の脚本をマット・デイモンと共同で書き上げる。『アルマゲドン』(1998)、『トータル・フィアーズ』(2002)などに出演。

バーがハッキングされて、この水面下のやりとりがウィキリークスによって暴露されちゃった。

一同 (笑)。

有光 そのせいで一時番組の制作が中止になってたんですが、今は再開して2019年くらいまで続くみたいです。ミュージシャンでは**ブランフォード・マルサリス**、ナズ、スティング、**パフ・ダディ**、**LLクールJ**、**クエストラヴ**なども登場してます。

ゲイツ教授逮捕事件の真相

有光 だいぶ遠回りしてしまいましたが、ようやく逮捕事件についての話になります。2009年の夏にゲイツ先生は世界的に有名なチェリストの**ヨーヨー・マ**を取り上げたエピソードを作ってたんです。彼の先祖の取材のために中国に行ったんですね。帰国して自宅に着くと正面玄関の鍵が開かない。無理矢理に中に入ろうとしていたら、白人の隣人に「強盗が閑静な住宅街に押し入ろうとしてる」って通報されて、警察に逮捕されてしまったんです。

★ブランフォード・マルサリス：60年生まれ。アメリカのジャズ・ミュージシャンでサックス奏者。トランペット奏者のウィントン・マルサリスは弟。

★パフ・ダディ：69年生まれ。アメリカの音楽プロデューサー。ラッパー。93年にバッド・ボーイ・エンタテインメントを創設。ノトーリアス・B-I-Gなどを手がける。

★LLクールJ：68年生まれ。アメリカのラッパー。ゴールデン・エイジ期を代表するイケメンMC。グラミー賞最優秀ラップ・ソロ・パフォーマンス賞を2度受賞。

★クエストラヴ：71年生まれ。ヒップホップ・バンド、ザ・ルーツのドラマーでリーダー。人気番組『The Tonight Show Starring Jimmy Fallon』のハウス・バンドを務めているため、セレブとしても名高い。

大和田　ハーバード大学のスター教授の家なので、当然高級住宅街なんですよね。そこの警官はヘンリー・ルイス・ゲイツ・Jrの顔を認識できなかった。かなりテレビに出ている有名人ではあるのに。

有光　そうですね。先ほど触れたコーネル・ウェストも、教授の中でも一部の選ばれた人にしか与えられない「冠教授」というスペシャルな肩書きを持ってたんですが、キャンパスで何度か清掃人と間違われたことがあるらしいです。白人の教授だったらまずありえない話ですよね。そういう大学内での差別や偏見については僕もよく聞いたことはありましたが、まさか自分の先生が自宅で警察に逮捕されるなんて想像もしてなかった。ちょうど夏休み中で一時帰国してたんですが、ニュースを聞いてホントにびっくりしました。

大和田　そのあと結局どうなったんでしたっけ？

有光　大統領がわざわざ仲裁に入ったんです。オバマは当初「(白人の) 警官が馬鹿な対応をした」とゲイツ先生寄りのコメントしたんですが、警察側からかなりの批判を受けたんです。市民の安全を守る警官を大統領が公然と非難するのは、警官のモラルを下げることにつながる、みたいな。オバマは大統領になったばかりで、なるべく敵を作りたくはないし、あまり人種問題にメディアの焦点が当

★ヨーヨー・マ：55年パリ生まれ。中国系アメリカ人チェリスト。クラシックに限らずさまざまなジャンルの音楽家と共演する。ハーバード大で人類学の学位も取得している。09年にオバマ大統領就任式典で演奏。

CamScannerでスキャン

たっては困ると考えたんでしょうね。ゲイツ先生と彼を逮捕した白人警官をすぐにホワイトハウスに招いて、「ビール・サミット」っていうイベントをホストしてなんとか事態を収拾したんです。ビールを片手に和解が成立して、みんなで笑顔で写真を撮って仲直りをした。ゲイツ先生はワイン派で、ビールなんか飲んでいるところ他に見たことないんですけれど（笑）。

一同 （笑）。

大和田 でもその後も逮捕された時の手錠がどうのと言ってましたよね。

有光 僕の同級生によると、ゲイツ先生は自分が逮捕された時の手錠を今ワシントンDCで建設中の国立アフリカ系アメリカ人歴史文化博物館に記念品として提供したいって申し出たらしいんです。でもそもそも手錠は記念品として「元容疑者」がもらえるのかっていう問題や、展示する場所が見つからないということで、キュレーターにあっさり断られた。ゲイツ先生は若い頃に、アフリカ系アメリカ文化におけるトリックスターの伝統をアフリカ文化にまで遡って歴史化しつつ、ヨーロッパ由来の最先端の批評理論と接続した人でもあって、彼自身がトリックスター的に物事を掻き回すのが好きだと公言してるんですね。それでふだんから冗談ばっかり言っているような人なので、僕には正直どこまでが本気でどこまで

がネタなのかよくわかりませんでした（笑）。

長谷川　とにかくただでは起きない人なんですね。

大和田　当時、ハーバード大学の関係者の反応はどうでしたか？

有光　史上初のアフリカ系大統領が誕生してお祭り気分になっていたのに、いきなり冷や水をぶっかけられたというか、みんな一気に目が覚めたという感じでしょうか。ロースクールのチャールズ・オーグルトゥリー教授がすぐにゲイツ先生の弁護を引き受けて、緊急シンポジウムが開かれたりして、大学全体でサポートする感じでしたね。ビール・サミットにいたる逮捕劇は、オバマ時代まで続く人種問題をセンセーショナルに可視化する政権初期の一大事件だったとも言えるかもしれません。

ゲイツ先生とヒップホップの関連で付け加えると、彼はヒップホップ・アーカイヴ&リサーチ・インスティテュートの構築にも深く関わっています。これは文化人類学者の**マーセリーナ・モーガン**が20年くらい前にカルフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）で教鞭を執っているときに始めたプロジェクトです。2002年に彼女がハーバードからヘッドハンティングされたときに、一緒にアーカイヴも東海岸に引っ越してきたんです。ところが、2004年にさきほども言

★マーセリーナ・モーガン：50年生まれ。Marcyliena Morgan。ハーバード大学のアフリカおよびアフリカ系アメリカ研究科教授で、同大学が運営するヒップホップ・アーカイヴのエグゼクティヴ・ディレクター（所長）。著書に"The Real Hiphop"など。ナズのドキュメンタリー映画『タイム・イズ・イルマティック』にはゲイツやウェストとともに出演している。

及したサマーズが、学科内では満場一致だったモーガンの昇進案を学長権限で拒否したんですね。理由は業績が少ないとか、学生の人気がなかったとか、ヒップホップ研究自体を「まともな学問」と認めなかったとかいろいろ言われてます。ウェストとの対立からも明らかなのは、サマーズがとことん「アンチ・ヒップホップな学長（プレジデント）」だったということです。モーガンはカリフォルニアのスタンフォード大学へ移って、アーカイヴも彼女と一緒にまた西海岸に戻りました。

この話にはまだ続きがあって、アフリカ系アメリカ研究もしくはヒップホップ研究とサマーズのビーフはここで終わらなかったんです。２００６年に女性差別的な発言をしてサマーズが学長の座から引きずり下ろされたのを好機とみたゲイツ先生が動いて、前代未聞らしいんですが、前学長の判断をひっくり返してモーガンに終身雇用のポストを用意したんです。そこでモーガンは翌年にはハーバードに電撃再移籍。大学史上に残る大逆転劇です。ヒップホップ研究が「アンチ・ヒップホップ」の学長に勝ったんですよ。アーカイヴはその後着実に成長して、２０１３年にはナズが寄付をしたりして助成金制度なども創設されています。先ほどコーネル・ウェストの話の途中で触れたハーバードの「冠教授」の中には、

CamScannerでスキャン

アフリカ系アメリカ音楽の専門家のために2000年にタイム・ワーナー社が300万ドルの寄付をして設置された「クインシー・ジョーンズ・プロフェッサーシップ」なんてポジションがありますが、「ビヨンセ・プロフェッサーシップ」とか「ジェイZ・プロフェッサーシップ」なんてのも、そのうちきっと誕生するでしょうね。

オバマ政権とセクシュアル・マイノリティ

大和田　オバマ政権誕生初期にもう一度遡ると、2009年5月には『glee／グリー』が始まっていますね。あらためてオバマ政権と『glee／グリー』って連動してたんだなって思いました。オバマは初めてのアフリカ系大統領ですけど、実は人種差別対策よりもセクシュアル・マイノリティ対策で成果をあげたと言われてますよね。ご承知のとおり『glee／グリー』ではゲイの男の子の恋愛が非常に大きなテーマになるわけで、そういう意味でも『glee／グリー』とほぼ同時期に始まったのは象徴的かなと思うんです。2010年には、Don't Ask, Don't Tell Repeal Act法案が通っています。セクシュアル・マイノリティであることをオー

CamScannerでスキャン

プンにしても軍に入れるようにするという法案ですね。2012年5月には同性婚支持を表明。このとき、オバマの娘2人は『glee／グリー』の見すぎなんじゃないかっていう批判が冗談半分で出ましたよね。娘に釣られて父親が同性婚を認めたんじゃないかみたいな。これはどういうふうに見たらいいんでしょうか。最初のレイシャル・マイノリティの大統領だから、セクシュアル・マイノリティの権利を拡大しやすかったってことなんですか？

有光　黒人の権利ばかり主張するような大統領だっていう認識を作らないように行動した結果、そうなったという面もあるかもしれません。

長谷川　なるほどね。ちょうどこの時期にフランク・オーシャンの『Channel Orange』が出たんですよね。ラヴ・ソングの相手を「彼」と歌っていたことについてメディアに訊かれて、初恋の相手が同性だったことをカミングアウトした。R＆Bの世界では革命的なことですね。

大和田　どっちが先でしたっけ？　オバマの同姓婚支持と『Channel Orange』って。

有光　『Channel Orange』のリリースは7月10日だから、ほぼ同時期ですよね。

長谷川　あの時「おおっ」て思ったのは、ジェイZとビヨンセが彼を支持するって声明を出したら、あれだけ同性愛嫌悪だった業界が、急にオッケーなことになっ

★『Channel Orange』：02年にリリースされたR＆Bシンガー、フランク・オーシャンのデビュー・アルバム。

★リトル・リチャード：32年生まれ。ロックンロール期を代表するアフリカ系アメリカ人ミュージシャン。86年にロックンロールの殿堂入り（最初の年）。

★ルーサー・ヴァンドロス：1951–2005。80年代から90年代を代表するアメリカのR＆Bシンガー。

★ダニー・ハサウェイ：1945

ちゃったことですね。**リトル・リチャード**ですら黄金期には明言できなかったのに。**ルーサー・ヴァンドロス**も亡くなるまで公言しなかったし。あと**ダニー・ハサウェイ**もそうだったらしいですね。

大和田　そうなんだ。

長谷川　**アトランティック**の**ジェリー・ウェクスラー**が自伝『**私はリズム&ブルースを創った**』の中で匂わせていて、ああそうなんだと思いましたね。

大和田　もう少し大きな流れで見ると、2000年代にミュージカルの復権があったじゃないですか。2002年に公開された『シカゴ』がアカデミー賞の作品賞を受賞しましたけど、これってミュージカル映画としては『オリバー!』(1968)以来、30年ぶりだったんですよ。ミュージカル復権とゲイ・カルチャーの復興ってパラレルなんです。

有光　あーなるほど。2000年代に入ってからですよね、こんなにミュージカル映画が作られるようになったのは。

長谷川　バズ・ラーマン監督の『ムーラン・ルージュ』が2001年公開だから、その流れの最初の作品と言えると思いますね。『ムーラン・ルージュ』は既存曲を再構成したミュージカルでしたけど、あれってブロードウェイでは「ジューク

-1979。70年代を代表するR&Bシンガー、ソングライター。『ライヴ』(1972)は名盤として名高い。79年にホテルから転落して死亡。

★アトランティック：47年創設のアメリカのレコード会社。創設者アーメット・アーティガンのもと、ジャズやR&Bなど黒人音楽の普及に貢献。

★ジェリー・ウェクスラー：1917-2008。53年にアトランティックに入社し、レイ・チャールズやドリフターズなどのプロデュースを手がける。「リズム&ブルース」というジャンル名の創案者と言われる。

★『私はリズム&ブルースを創った』：デヴィッド・リッツとの共著で93年に刊行。原題は"RHYTHM & BLUES: A Life in American Music"。新井崇嗣による邦訳は2014年、みすず書房刊。

CamScannerでスキャン

ボックス・ミュージカル」って言われる一段格の低いものなんですよ。でも大ヒットした。それが劇中で出演者が既存曲を歌う『glee／グリー』に影響を与えていると思います。ゲイ・カルチャーといえば、オバマはイリノイ州の上院議員時代に、街の通りに**フランキー・ナックルズ**の名前を付ける運動に関わっているんですよ。

大和田　そうなんですか？

有光　個人的にも親交があって、ミシェルとの交際中はハウスの流れるクラブにもデートでよく行っていたそうです。最初からゲイ・フレンドリーなんですよ。一方でオバマは人種問題に関しては意図的にニュートラルな立場を取ろうとする。ウェストや**タヴィス・スマイリー**といった人たちも、はじめはオバマを擁護していたんだけれども、政権が続くにつれて、彼は黒人のために何もしないと、かなり攻撃的な批判をするようになりました。彼らからみればオバマは黒人を見限って、エスタブリッシュメント側の人間になってしまった。共闘する仲間ではなく、戦うべき相手の権力者になっちゃったってことですね。

長谷川　これは難しい問題ですけど、そもそもオバマって本当に黒人なのかという問題があるじゃないですか。母親は白人だし、育ったのはインドネシアとハワイ。

★フランキー・ナックルズ：1955-2014。80年代にシカゴのクラブでハウス・ミュージック（シカゴ・ハウス）の発展に尽くした。

★タヴィス・スマイリー：64年生まれ。アフリカ系アメリカ人のトークショー・ホスト。10年から13年にコーネル・ウェストとともに「スマイリー&ウェスト」というラジオトーク番組を主催。

CamScannerでスキャン

大人になってから戦略的に黒人になった人だと思うんですよ。

大和田 だから今、有光さんが言ったように、いわゆる黒人指導者からはかなり不満も表明されてますよね。

長谷川 彼は政治の世界でやっていくためには黒人にならなきゃやって考えて、シカゴのサウスサイドに修行に行ったんだと思うんですよ。シカゴに行かなければミシェルとも出会っていないわけだし。ふわっとした南国育ちの人で終わっていたかもしれない。

大和田 父親もケニア人で、いわゆる奴隷の子孫ではないですしね。

長谷川 ミックスでも、母親が黒人かそうでないかが重要だって話をききますよね。母親が黒人でないと立ち振る舞いが黒人っぽくなくなるって言われているんです。オバマと同じく白人の母親を持つ黒人の有名人に**ハル・ベリー**がいますけど、彼女はウーピー・ゴールドバーグから「あれはただの日焼けした白人だ」って言われていたらしく、それを根に持っていたのか『**チョコレート**』でオスカーを獲ったときも、いろんな先輩の名前を言ったのにウーピーの名前を出さなかったんですよね。

★ハル・ベリー：66年生まれ。アメリカの女優。『チョコレート』(2001) でアフリカ系アメリカ人女優として初めてアカデミー主演女優賞を受賞。

★『チョコレート』：01年に公開されたアメリカ映画。ビリー・ボブ・ソーントン、ヒース・レジャー、ハル・ベリー主演。

CamScannerでスキャン

ブラック・ライヴズ・マター運動

大和田　2012年2月のトレイヴォン・マーティン射殺事件が、いろんな意味で引き金になった気がします。これはどういう事件でしたっけ？

有光　事件の当日、トレイヴォンは父親の婚約者に会う目的で白人の金持ちが多いフロリダの住宅街に滞在してました。近くのコンビニで買い物をしていたんですが、その時に自警団員を称するジョージ・ジマーマンという白人が——白人といってもヒスパニックなので、そのへんが微妙なんですけど——「怪しいフードをかぶった黒人がいる」って彼を追いかけはじめたんです。ジマーマンから連絡を受けた警察は、何もしないよう伝えるのですが、その指示を無視して彼はトレイヴォンを射殺してしまった。

大和田　この事件、たしかオバマが、自分にも息子がいたらこの事件の犠牲者になっていたかもしれない、あるいは彼は35年前の自分だったかもしれない、と発言した。2015年にディアンジェロが『サタデー・ナイト・ライヴ』に出演したとき、トレイヴォンを悼む意味を込めてステージでフードをかぶって演奏したりと、フードがシンボリックな意味をもつようになっていきますよね。そして2

014年に事件が連続して起こる。

有光　ニューヨーク州のスタテン・アイランドでエリック・ガーナーが、ミズーリ州ファーガソンでマイケル・ブラウンが警察に殺されるという事件ですね。まず7月にガーナーの首締め事件が起こり、間髪入れずに8月にブラウンの射殺事件が続いた。火に油が注がれて、大爆発した感じですね。

大和田　エリック・ガーナーの事件はYouTubeにも映像があがってると思いますが、彼は無免許で煙草を売ってたんですよね？　それで警官ともみ合いになって、警官から首を絞められた。「息ができない」と訴えているにもかかわらず、警官は首を締め続けて、結局彼は死んでしまった。

有光　あれは、ほんとにショッキングでした。無防備で無抵抗の相手に対して、あれだけやる必要があるのかと。

大和田　マイケル・ブラウンのほうはどのような事件でしたっけ？

有光　詳細はまだよくわからないんですよ。彼はいわゆる優等生ではなかったんですが、事件当日、葉巻かなんかをコンビニで盗んだらしく、警察を呼ばれたんです。現場に駆けつけた警官がブラウンともうひとりの少年を発見して、職質をしたらしいんですね。その最中に、この少年たちに「挑発されて」、身の危険を

感じた警官は自己防衛で彼らを射殺してしまったと主張してます。さきほどのトレイヴォン・マーティン射殺事件の裁判でジマーマンが2013年7月には無罪になっていて、黒人コミュニティのなかでも怒りや不満が蓄積してたんですよね。だから、これらの事件を受けて〝ブラック・ライヴズ・マター Black Lives Matter（BLM）〟という運動が起きた。

大和田　具体的にどういうふうな形で始まったんですか？

有光　最初はTwitterのハッシュタグですよね。

大和田　運動の中心人物はいるんですか？

有光　**アリシア・ガーザ**、**オパール・トメティ**、**パトリス・カラーズ**という3人の黒人女性が発起人です。オークランド在住のガーザが中心になって2014年のブラウン事件直後にTwitterやFacebookで活動がスタートしました。その後に、カラーズがブラック・ライヴズ・マター・グローバル・ネットワーク（BLMGN）という組織を作り、ファーガソンにデモ応援隊を派遣することでヴァーチャルから現実空間へ運動の領域を広げました。それと並行する形で、セントルイスで**ブラック・ストラグル**、フロリダでは**ドリーム・ディフェンダーズ**、シカゴでは**ブラック・ユース・プロジェクト100**（BYP100）、ニューヨークではミ

★アリシア・ガーザ：81年生まれ。オークランド出身のアクティヴィスト。

★オパール・トメティ：83年生まれ。ナイジェリア系アメリカ人、ブルックリン在住のアクティヴィスト。

★パトリス・カラーズ：84年生まれ。ロサンゼルス出身のクイア・アクティヴィスト。刑務所廃止運動などにかかわる。

★ブラック・ストラグル：80年にセントルイスに創設されたアフリカ系アメリカ人コミュニティの活動家組織。

★ドリーム・ディフェンダーズ：フロリダ州マイアミを拠点とするアクティヴィスト・グループ。刑務所廃止運動などを展開。

★BYP100：黒人クイアフェミニストのシャーリーン・カルーサーズなどによってシカゴで結成された組織。

CamScannerでスキャン

リオン・フーディーズ・ムーヴメント・フォー・ジャスティスなどのローカルな組織が立ち上がり、連携を始めます。ファーガソンでも詩人の**テフ・ポー**が中心になって**ハンズ・アップ・ユナイテッド**が作られました。彼ら、彼女らが影響を受けた活動や思想としては、90年代にエイズ危機に対する応答として登場した黒人のLGBTQ組織だったり、刑務所や警察の廃止を訴え続けてきた黒人女性社会主義者の**アンジェラ・デイヴィス**、それから1998年にシカゴでネオ・リベラリズムを批判するために誕生した**ブラック・ラディカル・コングレス**などが挙げられます。特に重要なのが**コンバヒー・リヴァー・コレクティヴ**という1970年代に活動した黒人女性のフェミニスト団体です。**バーバラ・スミス**を中心にして、人種差別のみならず、男性中心主義、異性愛中心主義、資本主義などをラディカルに批判しました。それら先行世代の知的遺産と戦術をBLMはしっかり継承していると言われています。他にも、冒頭で言及したコーネル・ウェストの**『人種の問題(レイス・マターズ)　アメリカ民主主義の危機と再生』**という90年代初めの著作などは大きな影響を与えているでしょうね。この本は公民権運動が成功して黒人の中産階級が増加し、経済的にも社会的にもどんどん良い状況になってきても、人種問題はまだまだ残っていると主張していました。あと、YouTubeの影響も明らかに

★ミリオン・フーディーズ・ムーブメント・フォー・ジャスティス：ガン・バイオレンス根絶に取り組む人権団体。

★テフ・ポー：Tef Poe。セントルイス出身のアメリカのラッパー、詩人、アクティヴィスト。マイケル・ブラウン殺害に関するドキュメンタリー『Whose Streets?』(2017)にフィーチャーされている。

★ハンズ・アップ・ユナイテッド：マイケル・ブラウン殺害後に形成された団体。警察組織の透明化と正義の実現を目指す。

★アンジェラ・デイヴィス：44年生まれ。アメリカのアクティヴィスト、研究者。著書に『監獄ビジネス：グローバリズムと産獄複合体』(岩波書店、2008)。

★ブラック・ラディカル・コングレス：98年にシカゴで創設されたグラスルーツの運動

ありますね。というのも、大和田さんが話していたように、無防備な黒人が殺される動画が次々にアップされていくので。2015年1月には、プールで遊んでいた水着姿の黒人少女が警官にボコボコにされる事件が起こっています。

大和田 その動画も上がっていました。子どもなんですよね。

有光 黒人の子どもたちが、隣町の白人コミュニティにあるプールに遊びにきていただけなのに、警察が出動し、暴力を振るったんです。警察の対応が過剰なんじゃないかと批判が湧き上がった。でも警察は何が起きようと自らの威厳を保とうとするので、絶対に非を認めない。エリック・ガーナーの時も、ニューヨーク市のデブラシオ市長が警察を批判するようなことを言ったら、式典で背中を向ける警官がいましたよね。

長谷川 デブラシオって白人なんですけど、奥さんが黒人だから、子どもがファンキーな髪型しているんですよ。

一同 （笑）。

長谷川 ディアンジェロは、元々2015年にリリースするつもりだった新作『Black Messiah』を、この一連の事件を受けて前倒しにして14年の年末に発表しましたよね。

組織。社会正義、人種平等、経済格差の是正などを目指す。

★コンバヒー・リヴァー・コレクティヴ：74年から80年にかけてボストンを中心に活動した黒人フェミニスト・レズビアン団体。白人フェミニスト運動によって疎外される点を中心に運動を展開。

★バーバラ・スミス：アフリカ系アメリカ人レズビアン、フェミニスト、社会主義者。70年代以来、黒人フェミニズム運動の中心的存在。

★『人種の問題 アメリカ民主主義の危機と再生』：原題は"Race Matters"。山下慶親訳、新教出版、2008。

CamScannerでスキャン

有光　あのジャケ写も、本当は自分に熱狂している観客を描いたものなんですけど、わざと白黒で焼いて黒人運動の盛り上がりを暗示するようなイメージになってますね。

長谷川　このあたりから、エンターテインメントなんだけども、ステージ上でポリティカルなメッセージを発するのが常態化していく感じになりましたね。

有光　トレンドになっていきますよね。

オール黒人キャストで高視聴率

大和田　翌15年の1月には『エンパイア』の放映が始まるんですよね。簡単に概要を町蔵さんにお願いします。

長谷川　主人公はフィラデルフィアのストリートから裸一貫で「エンパイア」というレコード会社を作ったシンガー兼ラッパーのルシウス・ライオンという男です。ある日、彼は筋萎縮性側索硬化症だと診断されて、余命3年と宣告されてしまう。だから3人の息子の誰かに帝国を譲ろうとする。長男のアンドレは、頭が良くてMBAとか持っているんですけど、音楽のセンスが無い。

CamScannerでスキャン

大和田　会計の能力しかないんですよね。しかも奥さんが白人。

長谷川　次男のジャマルは、音楽の才能もあるし人当たりも良いんですけど、ゲイなんです。ルシウスはゲイ嫌いなんです。三男のハキームはラッパーで、オヤジと音楽的な趣味は一番近いんだけど、甘やかされてるからバカな行動ばっかりしている。みんな一長一短で。

大和田　ちなみにうちの妻はジャマルが大好きで、本当にかっこいいって言っています。

長谷川　ジャマルはアメリカのドラマ史上でも革命的なキャラですよね。爽やかなイケメンだから、誰もが大好きになる。

大和田　フランク・オーシャンがモデルなんですよね。

長谷川　ライヴ中にカミングアウトするシーンがシーズン1のクライマックスですからね。あと絶対外せないキャラなのが、3人の母親のクッキー。エンパイアの設立資金のためにヤクの売買をやっていて、実はルシウスも絡んでいたんだけど、ひとりで罪をかぶって17年も服役していた。彼女が帰ってきて騒動が起きる。

大和田　奥さんはプロデューサーの才能があるんですよね。このビートはこうしたら良いとかいうコメントが的確。

★ジョン・シングルトン：1968-2019。アフリカ系アメリカ人の映画監督。代表作に『ボーイズン・ザ・フッド』(1991)、『ポエティック・ジャスティス／愛するということ』(1993)など。

★マリオ・ヴァン・ピーブルズ：57年生まれ。アフリカ系

長谷川　旦那のサクセスにも音楽的成功にも彼女は寄与していた。それで揉めはじめる。

有光　物語構造としては、シェークスピアの『リア王』の翻案で、非常に古典的な要素もあるんだけど、時事ネタがガンガン取り込まれていて。アフリカ系の8割がこのドラマを見てるんじゃないかっていう話です。音楽監修はティンバランドですね。

長谷川　あと**ジョン・シングルトン**や**マリオ・ヴァン・ピープルズ**といった黒人監督がゲスト監督をしたり、**アリシア・キーズ**や**ジェニファー・ハドソン**がゲスト出演したり。

大和田　**ナオミ・キャンベル**も出てますよね。

長谷川　だから黒人スター大集合のドラマなんです。でも『エンパイア』はこの年に始まったドラマで視聴率が一番だった。それって白人も観ているということですよね。オール黒人キャストでここまで高視聴率が取れるとは、おそらくFOXも考えてなかったと思うんですよ。FOXって、ニュースは保守的だけど、ドラマは意外と攻めてるものが多い。

大和田　『glee／グリー』もFOXですからね。

アメリカ人の映画監督、俳優。メルヴィン・ヴァン・ピーブルズの息子。代表作に『ニュー・ジャック・シティ』(1991)など。

★アリシア・キーズ：81年生まれ。アメリカのR&Bシンガー、女優。デビュー・アルバム『ソングス・イン・A・マイナー』が世界的に大ヒット。これまでにグラミー賞を15度受賞。

★ジェニファー・ハドソン：81年生まれ。04年にオーディション番組『アメリカン・アイドル』でファイナリストに選出された。映画『ドリームガールズ』(2006)に出演し、アカデミー賞最優秀助演女優賞受賞。

★ナオミ・キャンベル：70年生まれ。イギリス人のモデル、女優。80年代後半から90年代にかけて最も著名なモデルとして活躍。

CamScannerでスキャン

長谷川　ようするに数字を取れれば何でもいい。ＦＯＸが保守的なニュースやってるのは、確固たる信念を持っているからじゃないんですよ。そもそもオーストラリア資本だし。日本もそうだけど、右寄りの人ってリベラルな言説がテレビで流れると見ないんです。でもリベラルな人って右翼的な番組をやっていると気にして見ちゃう。だから保守寄りにした方が視聴率って取れるんですよ。ＦＯＸニュースってアメリカではほとんどの番組でＣＮＮの視聴率を上回ってます。海外への影響力は低いんだけど。

大和田　町蔵さんは『エンパイア』のキャストが来日した時にも会ってるんですよね？

長谷川　次男、三男、クッキーにインタビューしています。クッキー役の**タラジ・P・ヘンソン**って本当は名門黒人大学のハワードを出たインテリなんですよ。クッキーは出所前の90年代の流行を引きずっていて、豹柄とかのド派手な服を着ているんですよね。だからわざと「90年代はタラジさんもそんな服着てましたか？」って訊いてみたんです。てっきり「いや、私は大学で真面目に勉強していたからあんな服は着ていなかったわよ」という答えを予想してたら、「私はリル・キムを崇拝していて、彼女のマネばっかりしてたから、マジであんな格好

★タラジ・P・ヘンソン：70年生まれ。アフリカ系アメリカ人の女優。『ハッスル＆フロウ』(2005) で娼婦役を好演、『ベンジャミン・バトン数奇な人生』(2008) でアカデミー賞最優秀助演女優賞にノミネートされた。

★タナハシ・コーツ：75年生まれ。アフリカ系アメリカ人の作家。『世界と僕のあいだ

CamScannerでスキャン

だったわよ」って答えが返って来てビックリしちゃって。インテリもそうなんだって感心した。

大和田 **タナハシ・コーツ**もハワード大学時代は**ウータン・クラン**を愛聴していたらしいから、黒人大学ではヒップホップはポピュラーだったんじゃないですかね。

長谷川 考えてみれば、パフ・ダディの母校ですからね。

有光 黒人大学との関連で言えば、パブリック・エネミーの〈Fight The Power〉をテーマ曲に使った『**ドゥ・ザ・ライト・シング**』(1989)を監督したスパイク・リーも、キング牧師が通っていたアトランタにある黒人名門大学モアハウスの出身ですね。この映画はオバマとミシェル夫妻が最初にデートで観に行った映画としても有名です。

ケンドリックとビヨンセの政治性

大和田 話を進めると、3月にケンドリック・ラマーの『To Pimp A Butterfly』が出ます。実はその前の年、14年に彼は南アフリカを訪れているんです。アフリカ系のミュージシャンって、アフリカ大陸を初めて訪れると、そこに自分たちの

に』(2015)で全米図書賞を受賞。

★ウータン・クラン：ニューヨークのスタテン・アイランドを拠点とするラップ・グループ。93年のデビュー・アルバム『Enter the Wu-Tang (36 Chambers)』は78年のカンフー映画『少林寺三十六房 (The 36th Chamber Of Shaolin)』のオマージュで、交通の便の悪い島でラップの腕を磨く自分たちを少林寺の修行僧になぞらえた。リーダーのRZAはカンフー映画『アイアン・フィスト』では自ら監督・脚本・主演の3役を務めている。

★『ドゥ・ザ・ライト・シング』：89年に公開されたスパイク・リー監督の映画。ブルックリンを舞台に人種間の緊張関係を描く。主題歌はパブリック・エネミーの〈Fight The Power〉。

CamScannerでスキャン

ルーツを感じるからか、必ず印象的なメッセージを残すんですよ。その影響が『To Pimp A Butterfly』にもフィードバックされているように感じますね。

長谷川　『To Pimp A Butterfly』ってストーリー仕立てになっているんですけど、グラミー賞の受賞式に地元の友達を連れて行ったら「あいつをトイレで羽交い締めにしてあの時計を奪い取ったらいくらで売れるかな」とか言い出して、「俺は何のために頑張ってきたんだろう」って落ち込んだとか、母さんから「あんた、そんなにストリート育ちじゃないじゃない」って怒られたみたいなエピソードをラップしたダウナーな曲が前半に入っているんですよね。そして内省からアフリカ旅行を経て、最後に自己肯定に至る構成なんです。白人にも売れたのは**私小説**的なアルバムだからですよね。っていうか、こんな私小説的なロックなんて今はないかもしれない。そこが支持されたってところはあるのかなと。

大和田　僕らの本でいうと「カニエ以降」と言われるある種の内省的なヒップホップの側面があると同時に、音楽的には西海岸のジャズ人脈を取り入れていますよね。

長谷川　でも『To Pimp A Butterfly』ってライヴ・ドラムをほとんどの曲に使ってないんですよ。そのことでギリギリのところでヒップホップの**ヴァイヴ**を出して

★私小説：作者の個人的な経験（とされるもの）を素材に書かれた小説、作品。

★ヴァイヴ：雰囲気、フィーリング、あるいは人、場所、物に漂うオーラ。

いる。あのアルバムにジャズ・ミュージシャンがもたらした効果についてやたら語られているところには若干反発したい気持ちがあるんですよ。というのも、参加したジャズ・ミュージシャンのアルバムはスムーズすぎてあそこまで良くないから。彼らに勝手なことをさせないために、ケンドリックは相当頭を働かせている。**デヴィッド・ボウイ**が『★(Black Star)』を製作するにあたって『To Pimp A Butterfly』にインスピレーションを受けたって語っていたじゃないですか。あれはジャズ・ミュージシャンに勝手にやらせるとスムーズになりすぎちゃうから、いかに緊張感を持ったままやらせるかが大事だって気付かされたってことじゃないですかね。

大和田　ジャズにはなってないですよね。

長谷川　すごく巧いミュージシャンが演奏している成果だけが残っている。そこが非常に面白いアルバムだなと思います。

大和田　ディアンジェロもそうだったけど、ケンドリックも6月にBETアワードでBLM的なパフォーマンスを披露しますよね。パトカーの上に乗ってラップした。

長谷川　ケンドリックってライヴにメチャクチャ強いんですよね。こういうアワー

★デヴィッド・ボウイ：1947-2016。イギリスのロック・ミュージシャン、俳優。グラム・ロックのパイオニアとして多彩な活動を展開。亡くなる直前まで旺盛な音楽活動を続けた。ポピュラー音楽史上、もっとも影響力のあるアーティストのひとり。

★『★（Black Star）』：16年1月8日、デヴィッド・ボウイが亡くなる2日前にリリースしたアルバム。ダニー・マッキャスリンやマーク・ジュリアナなど、多くのジャズ・ミュージシャンが参加。

CamScannerでスキャン

ド物に出ると彼のパフォーマンスがハイライトになっちゃう。グラミー賞の授賞式でもすごかったですよね。

大和田 最初、牢獄のセットでラップしていると、急にアフリカの部族みたいなダンサーが出てきて、最後はアフリカ大陸の地図をバックにパフォームするという構成でしたよね。

長谷川 さきほど有光さんが解説していた『ルーツ』を逆回しにしたような感じでした。

大和田 アフリカ系の研究者として何か思うところはありましたか?

有光 そうですね。ビヨンセの〈Formation〉と重なる部分があるなと。エンターテインメントでやっているところに、どこまで政治性を込められるのかみたいな。

大和田 ビヨンセのスーパーボウルのハーフタイム・ショーでのパフォーマンスは**ブラックパンサー**へのオマージュが織り込まれていて、かなり保守系から批判されたんですよね。

有光 元ニューヨーク市長の**ジュリアーニ**がかなり批判しましたね。さらに警官がビヨンセのコンサートの時にはもう警備をしたくないって言い出して。

★〈Formation〉:16年2月6日にリリースされたビヨンセの曲。アルバム『レモネード』収録。発表の翌日、その年のスーパーボールのハーフタイムショーで披露された。

★ブラックパンサー:204ページ脚注を参照。

★ジュリアーニ:ルディ・ジュリアーニ、44年生まれ。アメリカの政治家。94年から01年までニューヨーク市長を務めた。もともと民主党員だったが、80年代以降共和党員に。現在トランプ大統領の代理人を務める。

長谷川　それで逆に**ネイション・オブ・イスラム**が警備してもいいよって言い出して、よく分からない話になりましたよね。
一同　（笑）。
大和田　**オルタモント**で警備を**ヘルズ・エンジェルズ**がやったみたいなものですよね。多くのアメリカの白人は、キング牧師はリスペクトするけど、ブラックパンサー党のようなミリタントな運動を否定する人は多いですよね。
長谷川　個人的にはスーパーボウルのビヨンセはそこまで政治的だと思わなかったんですよ。完全なショービズの表現に見えた。その差がどこにあるかっていうと難しいけど。
大和田　ビヨンセの〈Formation〉については、『サタデー・ナイト・ライヴ』でもいじられていましたよね。白人のキャストが、ビヨンセがある日突然黒人になったことに驚くスケッチがあった。一般の人はビヨンセを単なるスーパースターとして見ていて、黒人として認識していないことをネタにしたものでしたよね。
長谷川　「女性に黒人がいるのか？」「明日になったら黒人じゃなくなっているんじゃないか？」って白人たちが延々と悩むんですよね。
有光　ビヨンセとジェイZのパワー・カップルは殿上人（てんじょうびと）というか、別格すぎて。

★ネイション・オブ・イスラム：30年に設立されたアフリカ系アメリカ人の政治的、宗教的運動。34年よりイライジャ・ムハンマドが指導。50年代から60年代にかけてマルコムXも参加したが、64年にムハンマドとの対立により離反。
★オルタモント：69年12月6日にカリフォルニア州のオルタモント・スピードウェイで開催されたロックのフリー・コンサート。警備を担当していたヘルズ・エンジェルズによって観客のメレディス・ハンターが刺殺された「オルタモントの悲劇」で知られる。
★ヘルズ・エンジェルズ：起源については諸説あるものの、48年にカリフォルニアで結成されたバイカー・ギャングというのが定説。

CamScannerでスキャン

たしかにあの夫婦は黒人であることを超越しているというイメージがあったと思うんですよ。それはある意味、彼らが売れるためにとった巧妙な戦略だったのかもしれない。**マイケル・ジョーダン**が人種のことに一切触れないで人種を越えたバスケのスターになったように。公民権運動時代に政治に深くコミットした先輩ミュージシャンたちと比べると明らかですが、あの2人はこれまでまったく政治的な発言はしてこなかった。政治的なコミットをし始めるのはオバマの支持者になったあたりからでしたよね。ボルチモアでの抗議運動で逮捕者が沢山でた時には、多額の保釈金を払ったという噂まで流れました。

大和田　ただ公民権運動に黒人ミュージシャンが運動にどこまで関わったかについては、音楽研究の側から異論が出てきているんですよ。**ハリー・ベラフォンテ**のような歌手／俳優はむしろ例外で、実質的にサポートしてたのは白人中心のフォークの連中。黒人ミュージシャンで表立ってメッセージを出したのは、**ニーナ・シモン**や**オデッタ**くらいだった。ジャズの**マックス・ローチ**もプロテスト・アルバムを作る時は新興レーベルからリリースしていたし。

有光　たしかに。ジェームズ・ブラウンなんて**ニクソン**を支持しちゃいましたからね。

★マイケル・ジョーダン：63年生まれ。元NBAのスーパースター。15シーズンをプレーし、シカゴ・ブルズで6度の優勝に貢献した。

★ハリー・ベラフォンテ：27年生まれ。アメリカのシンガー、俳優、アクティヴィスト。代表曲〈バナナ・ボート〉(1956)。公民権運動以来、一貫して人権運動に取り組み、反アパルトヘイト運動にもかかわる。

★ニーナ・シモン：1933–2003。アフリカ系アメリカ人シンガー・ソングライター、アクティヴィスト。公民権運動の集会などで頻繁に演奏し、ブラック・ナショナリズムを支持した。

★オデッタ：1930–2008。アフリカ系アメリカ人のフォーク・シンガー。ボブ・ディランやジョーン・バエズなどにも影響を与え、しばしば「公

肌の色と人種差別

大和田　この時期で僕が興味深かったのは、2015年の6月に起きたレイチェル・ドレジャル事件です。NAACP、**全米黒人地位向上協会**のワシントン州スポケーン支部代表だったレイチェル・ドレジャルという女性が、じつは白人であることを両親がテレビでバラしたんですよね。髪型も黒人女性風にしたり、何年も黒人のふりをしてきたが本当は白人だったと。アメリカには昔から「白人のふりをして生きる黒人」というストーリーが文学作品にもあって、それを「パッシング（黒人が白人としてパスする）」と呼ぶんですが、では白人が黒人として「パス」することは倫理的に許されるのか、というちょっとした応用問題に見えたんですよ。しかも、最初はメディアでもわりと肯定的な意見が多くて。

有光　そうなんです。例えばメリッサ・ハリス・ペリーっていうテレビ番組を持っているアフリカ系女性の大学教授がいるんですけど、シカゴ大学やプリンストン大学でも教鞭を執っていた超優秀で黒人コミュニティ内での影響力も強い彼女も「良いんじゃないか」と言っていました。彼女自身も白人と黒人の親を持つバイレイシャルだということもあったのかもしれませんが、そもそも人種は生物

民権運動の声」とも呼ばれる。

★マックス・ローチ：1924-2007。アメリカの名ジャズ・ドラマー。メッセージ性の強いアルバム『We Insist!』を60年にキャンディドよりリリース。

★ニクソン：リチャード・ニクソン、1913-1994。第37代アメリカ合衆国大統領

★全米黒人地位向上協会：略称はNAACP。1909年にW・E・B・デュボイスなどによって設立され、アメリカの公民権運動をリードし続けてきた団体。

CamScannerでスキャン

学的に決定されているアイデンティティではなくて、社会構築的に演じられるパフォーマンスなんだから、黒人として振る舞って、黒人として認知されていれば、それはもう十分黒人なんじゃないかという意見なんです。黒人の知識人の中にもドレジャルを認めた人がいたんですよ。

大和田　それは、「人は女として生まれるのではない、女になるのだ」っていうマイノリティ運動の基本にもとづいた考えですよね。だから僕らも「それも一理あるな」というように最初は見てた。でも最終的に否定的な意見が強くなって。

有光　結局、彼女はいつでも好きな時に白人に戻れる特権を持っているじゃないかっていう理屈が勝った。でも彼女は黒人の子どもを2人も養子にしているんですよ。

大和田　そうなんだ。

有光　あるテレビ番組で子どもたちが「お母さんは素晴らしい」と言って擁護する場面を見たんですが、実際、そこまでいっちゃっているとそう簡単に白人に戻れるのかとは思うんですけどね。

大和田　ただ、彼女は**ブラックフェイス**にしていたんですよね。

長谷川　顔を塗ってたんですか？

★ブラックフェイス：19世紀のミンストレル・ショウ以来、白人の芸人が黒人のモノマネをするために顔を黒塗りにする芸を指す。現在アメリカのエンタテインメント業界では絶対にしてないけないこととされる。

大和田　塗ってたと、家族は証言しています。

有光　そういえばニーナ・シモンの伝記映画が、最近それで批判されましたよね。

大和田　どういう批判でしたっけ？

有光　ニーナ・シモンは黒人の中でもかなり肌が黒い人だったんです。そのことで誹謗中傷されたり、差別を受けてたんです。「カラリズム」もしくは「カラーイズム」といいますが、黒人のあいだでも長らく白人中心主義的な美的感覚が内面化されてしまって、肌の色が白い方が美しいし、階級が上だって認識があったんですよね。この傾向は奴隷制時代からいまでも続いています。先ほど名前が挙がったハル・ベリーとか**ケリー・ワシントン**とか現在ハリウッドで活躍している黒人女優のほぼ全員の肌の色は茶色ですよね。真っ黒（jet black）な女性はほとんどいない。アリシア・キーズが超リスペクトしてて、彼女の伝記映画を作るなら自分が主演したいとまで公言している**リナ・ホーン**というジャズ歌手・女優がいたんですが、彼女なんかは完全に白人の美しさのスタンダードでいうところの「美人」として一世を風靡しましたね。これは元々マルコムXが使い始めた区分けなんですけど、黒人にはフィールド・ニグロとハウス・ニグロがいると。色が黒い人たちは太陽の照りつけるフィールド（農場）で綿やタバコを摘む重労働を

★ケリー・ワシントン：77年生まれ。アフリカ系アメリカ人の女優。映画『レイ』(2004)、『ラストキング・オブ・スコットランド』(2006)などに出演し、テレビドラマ『Scandal』(2012-2018)で主演を務める。

★リナ・ホーン：1917-2010。アメリカのジャズ・シンガー、女優。ハリウッドで多くの映画に出演、のちに公民権運動にも積極的に参加した。

CamScannerでスキャン

やっていた。他方で白人奴隷主が黒人女性をレイプする形で奴隷に生ませた子どもたちはミックスだから肌の色が明るい。家の中で料理をしたり掃除をしたりしていた彼ら、彼女らがのちに黒人の中の上流階級になっていった。だからマルコムは階級は肌の色と連動しているんだと喝破したんです。この話自体、マルコムX自身が肌が白くてモテたということへの反省から生まれたみたいなんですけど。

長谷川　マルコムXって4分の1は白人なんですよね。ドラッグの売人時代は肌が赤く見えたことでジャズ・ミュージシャンからボストン・レッドって呼ばれていたんですけど。

有光　話を戻すと、ニーナ・シモンはホーンやキーズとは対照的に自分の肌が黒いことを誇りにして「ブラック・イズ・ビューティフル」って言ってた人です。そんな彼女を、**ゾーイ・サルダナ**という色白の女優をわざわざ黒くメイクアップして演じさせてしまった。

長谷川　ややこしいですね。こうした配役について、ある程度メジャーな人じゃないと成功が見込めないからとか監督が言ってしまって問題になったんです。ようするに肌の黒い黒人女優では人気が出ないと。で、ニーナ・シモンの遺族が上映の差し止めを要求したりしたんですけどね。

★ゾーイ・サルダナ：78年生まれの女優。『スタートレック』、『アヴァター』、『ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー』（2014）をはじめマーベル・シネマティック・ユニヴァースの作品にも出演。

大和田　うーん……。

長谷川　ゾーイ・サルダナはドミニカ系とプエルトリコ系のハーフで、肌は黒いけど、いわゆるアフリカ系ではない。でも彼女が今『**スター・トレック**』で演じているウフーラというキャラは、アメリカのテレビドラマ史上初めてメイン・キャラとして登場したアフリカ系女性で、マーティン・ルーサー・キングが生前に絶賛したキャラなんです。複雑な話ですね。

大和田　プエルトリコ系繋がりでさらに脱線しますけど、ミュージカルの『**Hamilton**』がブロードウェイで大ヒットしてるじゃないですか。アレクサンダー・ハミルトンというカリブ海の貧しい家庭出身の男が、**ジョージ・ワシントン**に認められて、建国の父のひとりとして数えられるまでの成功物語で、それを全編ラップで演じるという。この作品の作詞、作曲、主演をしたのがプエルトリコ系のリン＝マニュエル・ミランダでした。

長谷川　初代財務長官の生涯をラップでやるミュージカルなんて、ふつう当たるわけがないんだけど、4～5年先までチケットが取れないんですよね。

有光　決闘で死んだという最期はドラマチックですね。

大和田　そのキャストがほぼ有色人種なんですよ。白人の役も有色人種がやってい

★スター・トレック：66年に始まったテレビ・シリーズ。09年以来、ウフーラ役をゾーイ・サルダナが演じている。

★『Hamilton』：15年のブロードウェイ・ミュージカル。アメリカの初代財務長官アレクサンダー・ハミルトンの生涯を全編ラップで演じる舞台。トニー賞16部門にノミネートされ、11部門で受賞。

★ジョージ・ワシントン：1732-1799。アメリカ合衆国の初代大統領。

CamScannerでスキャン

る。

長谷川　**トマス・ジェファーソン**はヴァージニア育ちだから南部なまりでサウスっぽいラップをする（笑）。そういえばジェファーソンはマルコムX言うところの「ハウス・ニグロ」の女性を愛人にしていたことで有名ですよね。

有光　サリー・ヘミングスのことですね。ジェファーソンの妻マーサの異母姉妹といわれた女性で、ジェファーソンは彼女とのあいだに何人か子供を作ったといわれています。2人の関係については小説や映画の題材にもなっています。

大和田　ちなみにリン＝マニュエル・ミランダは、オバマ政権発足直後の09年5月に、この『Hamilton』の原型ともいえる詩をオバマの前でラップしているんですよ。そのときは大統領もミュージカルの構想を本気にしなかったようですが。

長谷川　彼は**『In The Heights』**っていうミュージカルでデビューしたんですけど、その時点でほとんどラップ調なんです。それはニューヨークのヒスパニック・コミュニティを歌ったミュージカルだったんですけども、第2作がなぜか『Hamilton』。しかも原作は普通の評伝本なんです。原作者に冒頭の1章を全部ラップにして送りつけて、原作者から戯曲化権を勝ち取ったらしいんですけれども。

有光　彼はポリネシアを舞台にしたディズニー・アニメの最新作**『モアナと伝説**

★トマス・ジェファーソン：1743-1826。第3代アメリカ合衆国大統領。

★『In The Heights』：08年のブロードウェイ・ミュージカル。ニューヨークのワシントン・ハイツに暮らすヒスパニック系の人々を描く。トニー賞を最優秀作品含む4部門で受賞。

★『モアナと伝説の海』：原

CamScannerでスキャン

の海』の音楽も担当してますが、引っ張りだこですね。

パフォーマンスとしての人種――『ファン家のアメリカ開拓記』

有光　大和田さんが作ってくれた年表に、僕はあえて『Fresh Off The Boat』というアジア系のファミリー・ドラマを追加したいですね。これがむちゃくちゃ面白い。アジア系アメリカ人のステレオタイプを踏襲しつつ批判していて、これも21世紀において人種というものはパフォーマンスなんだってことをすごくわかりやすく表現している。

長谷川　これ面白いんですよ。本国では夜の8時台に放映していて、日本ではCSでひっそりと『ファン家のアメリカ開拓記』という邦題で放送されています。

有光　アジア系アメリカ人をメインにした番組は、94年に1本だけあったんですけど、それ以来初めてなんです。主人公で台湾系のエディー・ファンという少年が、完全にヒップホップ・オタクでいつもナズとか聴いてるんです。Tシャツも全部ノトーリアスBIGや2パックで。でもお父さんは白人みたいになりたい人だから、聴いている音楽が全部当たりさわりのない白人ポップなんです。

題"Moana"。16年公開のアニメーション映画。ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ制作。ポリネシアの島の村長の娘の冒険を描く。

★Fresh Off The Boat：邦題は『ファン家のアメリカ開拓記』。90年代のフロリダを舞台に台湾系アメリカ人家族を描いたシットコム。実在のフード・パーソナリティ、エディ・ファンの自伝に基づいた作品。

長谷川　**ランダル・パーク**が演じるお父さんは**ジョン・ヒューズ**の映画とかが好きなんですよね。

有光　そうでしたね。お母さん役の**コンスタンス・ウー**は、わざと中国系アメリカ人っぽいアクセントで英語を話してます。それでいて、黒人俳優の**デンゼル・ワシントン**の大ファンだったり、**スティーヴン・キング**に憧れてホラー小説家になることを夢見ている。勉強ができる三男は、なぜか超フェミニンで、いつのまにか白人奥様グループのリーダー的な存在になっちゃうんです。アジア系のステレオタイプとそれから逸脱するキャラクター設定の絶妙なバランスが、この番組の魅力ですね。ファン家はもともとワシントンDCのチャイナタウンに住んでたという設定になってるんですが、うだつの上がらない父親が1995年にアメリカン・ドリームを夢見てフロリダのステーキハウスを買っちゃうんですよ。「カリフォルニアは物価が高すぎて無理。俺たちのフロンティアはフロリダにある」と。日本語のタイトルはそのあたりを意識してつけたんでしょうね。パイロット版の第1話には、フロリダまで一家でドライブするシーンがあって、車内では父親が**エイス・オブ・ベイス**の〈The Sign〉(1993)を熱唱。傍らで、引っ越しに乗り気じゃない11歳の長男エディーは不機嫌な顔をして、ヘッドフォンでヒップ

★ランダル・パーク：74年生まれ。アメリカの俳優、コメディアン。セス・ローゲンとジェームズ・フランコ主演の『ジ・インタビュー』(2014)に金正恩役として出演。

★ジョン・ヒューズ：1950–2009。アメリカの映画監督。『ブレックファスト・クラブ』(1985)、『フェリスはある朝突然に』(1986)など「学園映画」の名手として知られる。

★コンスタンス・ウー：82年生まれ。台湾系アメリカ人の女優。大ヒット映画『クレイジー・リッチ！』(2018)で主役を演じ、ゴールデングローブ賞最優秀主演女優賞にノミネート。

★デンゼル・ワシントン：54年生まれ。アフリカ系アメリカ人の俳優。『マルコムX』(1992)で本人を演じ、『トレーニングデイ』(2001)でアフリカ系アメリカ人として2

CamScannerでスキャン

ホップを聴いている。

僕がこのドラマにはまったのはエディーが転校した初日に食堂でランチを食べるシーンを観てからなんです。ファン家の引っ越し先は白人ばっかりなんですが、エディーの学校もほぼ真っ白。食堂にひとりだけ黒人の生徒がいて、エディーは最初その子のそばに座るんです。同じマイノリティだから。だけどその黒人少年はヒップホップなんか聴いてなくて、有色人種であること以外は何の接点もない。逆に白人の中にヒップホップ好きがいて、「お前もヒップホップ好きなのか」ってことで意気投合してしまう。エディーは皮肉にも黒人音楽への興味から白人の輪に受け入れられるんですね。独りぼっちになった黒人少年がクローズアップで「黒人（ビギー）が好きだからって、アジア人と白人が仲良くなるなんてありえねー」とこぼす。ところが、エディーがランチボックスを開けるとそこには中華料理が入っていて、白人少年たちから仲間はずれにされてしまうんです。「なんだそれウジ虫か、キショい。臭い。あっち行け！」と。それで、エディーは黒人少年のところに戻ろうとするんですが、断られる。何をいまさらっ、てことですね。こんな調子でユーモアたっぷりに、時には辛辣に、マイノリティの生活を描くところが新鮮です。

人目のアカデミー賞最優秀主演男優賞を受賞。

★スティーヴン・キング：47年生まれ。アメリカのホラー小説家。キング・オブ・ホラー。『キャリー』(1974)、『ダーク・タワー』シリーズ(1982-2004)、『ペット・セマタリー』(1983)、『IT』(1986)ほか代表作は多数。

★エイス・オブ・ベイス：スウェーデンのポップ・グループ。93年のデビュー・アルバム『Happy Nation』(US版)から〈All That She Wants〉(2位)、〈The Sign〉(1位)、〈Don't Turn Around〉(4位)の3曲がビルボード・シングル・チャートで5位以内に。

長谷川　この番組のクリエイターの**ナーナチカ・カーン**って、黒人でも中国系でもなく、イラン系の女性なんですよね。それも面白い。

大和田　非常にタイムリーな感じですね。

有光　そうなんですよ。肌の色とか民族的な出自と好みや価値観は必ずしも一致しないんですよね。それを巧みに描いている。エディーはヒップホップが好きなあまり黒人のラッパーとかアスリートを神のように信奉しているけれども、実際に出会う黒人との関係は微妙だったりして。

大和田　だから片方でBLMが盛り上がりつつ、もう片方でレイチェル・ドレジャルのニュースや、こうしたポスト・レイシャルともいえる作品が出てくる。

長谷川　14年に『Black-ish（黒人っぽい）』っていう黒人ファミリー・ドラマが始まって、黒人のあいだでものすごく人気を博しているんですけど、これも黒人のアイデンティティがテーマなんですよ。お父さん役は**アンソニー・アンダーソン**というコメディアンで、お母さん役は**トレイシー・エリス・ロス**というコメディエンヌ。彼女は**ダイアナ・ロス**の娘なんです。この夫婦は2人とも大卒のインテリで、暮らしぶりも中の上。だから子どもたちからいわゆる黒人らしさが薄れちゃっている。それに危機感を抱いた父親が必死になって教えようとするんだけど、彼自

★ナーナチカ・カーン：73年生まれ。アメリカのテレビ・プロデューサー、脚本家。シットコム『23号室の小悪魔』(2012)を制作し、『ファン家のアメリカ開拓記』(2015)をプロデュース。

★アンソニー・アンダーソン：70年生まれ。アメリカの俳優、コメディアン。テレビドラマ・シリーズ『ロー＆オーダー』(1990-2010)、映画『トランスフォーマー』、『ディパーテッド』などに出演。

★トレイシー・エリス・ロス：72年生まれ。アメリカの女優、コメディエンヌ。テレビコメディ・シリーズ『Girlfriends』(2000-2008)、『Black-ish』(2014-)などに出演。ダイアナ・ロスの娘。

★ダイアナ・ロス：44年生まれ。アメリカのシンガー、女優。モータウン・レコードを代表する60年代のガール・グ

体の認識がぼんやりとしているから、どんどんおかしな方向に行くっていうプロットなんです。黒人たちはこの番組をあるあるネタとして笑っているはずなんですよね。ぜひ『フアン家のアメリカ開拓記』と併せて見て欲しいですね。

『世界と僕のあいだに』が問いかけるもの

大和田　去年は「アトランティック」誌のライターで黒人作家のタナハシ・コーツが書いた『**世界と僕のあいだに**』がアメリカでものすごく読まれて、全米図書賞を受賞したんですよね。この本は、彼が14歳の息子に語りかけるという形式で書かれています。黒人の状況に非常に悲観的で、「黒人の身体が破壊されている」ということを繰り返し繰り返し言っている。もちろん、白人警官などによる黒人への暴力を念頭に置いているわけですが、あまりにもペシミスティックだって批判が、黒人からも出てきています。作家の**ラルフ・エリスン**が52年に書いた小説『**見えない人間**』は、公民権運動の時代にアメリカ社会の中で黒人が不可視な存在になっていることを問題化しましたが、現在はスマートフォンなどによって黒人の身体が破壊される様子が過剰に可視化されてしまう。『世界と僕のあいだに』

ループ、ザ・シュプリームズのリード・シンガー。

★『世界と僕のあいだに』：黒人作家、タナハシ・コーツの作品（2015）。アメリカの人種問題が自分の息子への手紙という形式で語られる。全米図書賞受賞。全米批評家協会賞のファイナリスト。ピューリッツァー賞、全米批評家協会賞のファイナリスト。原題は"Between The world And Me"。邦訳は池田年穂訳、慶應義塾大学出版会、2017。

★ラルフ・エリスン：1914-1994。アフリカ系アメリカ人作家。52年の代表作『見えない人間』で全米図書賞受賞。64年にはエッセイ集『Shadow and Act』を出版。

★『見えない人間』：52年にラルフ・エリスンが出版した小説。地下室に住む黒人の語り手によって20世紀前半のアフリカ系アメリカ人をめぐる諸問題が描かれる。原題は

CamScannerでスキャン

はそういう意味でも今の本だなっていう気はしたんですよね。

有光　タイトル自体は、**リチャード・ライト**という人種差別を痛烈に批判した黒人作家の詩からとっているんですよね。いま大和田さんが言及したエリソンの兄貴分の作家です。でも実際に内容を読んでみると、ライトよりも**ジェームズ・ボールドウィン**の評論集**『次は火だ』**をモデルにしてることがはっきりわかる。

大和田　どういうところがですか？

有光　『次は火だ』の中に「My Dungeon Shook: Letter To My Nephew On The One Hundredth Anniversary Of The Emancipation（私の土牢は揺れた――奴隷解放100年記念に際して甥への手紙）」という公民権運動の真っ只中の1963年に書かれたエッセイが入ってるんです。ボールドウィンは、一時期パリに住んでいたし、しかもゲイだったために公民権運動の中では微妙な位置にいたんですけど、現在はマーティン・ルーサー・キングとはまた別の文脈で黒人の自由と平等のために戦ったことが再評価されています。さきほど言及したボールドウィンのエッセイは、副題にあるとおり自分の甥に語りかけるスタイルをとってるんです。もし人種差別が撤廃されなかったら、アメリカは地獄の火に包まれてしまうんだよ、と子供でもわかるようなシンプルな言葉を使いながら、強烈なメッセージを投げか

"Invisible Man"。邦訳は橋本福夫訳、書肆パトリア、1958。

★リチャード・ライト：1908-1960。アフリカ系アメリカ人作家。代表作に小説『アメリカの息子』(1940)、メモワール『ブラックボーイ』(1945) など。

★ジェームズ・ボールドウィン：1924-1987。アフリカ系アメリカ人作家。代表作に『ジョヴァンニの部屋』(1956)、『ビール・ストリートの恋人たち』(1974) など。

★『次は火だ』：63年に出版されたジェームズ・ボールドウィンのエッセイ集。黒人社会におけるキリスト教の功罪について論じたエッセイなど2本を収録。原題は"The Fire Next Time"。邦訳は黒川欣映訳、弘文堂新社、1968。

CamScannerでスキャン

けたんです。アメリカ文学史的には**「エレミアの嘆き」**として知られる、ピューリタン以来のナショナリズムを鼓舞するレトリックを動員しています。つまり、現状を嘆いてより良きアメリカの創造を呼びかけるんですね。

大和田 本国ではそこが少し古くさいっていう批判があったみたいですね。

有光 たしかに古いんです。60年代に書かれたエッセイのスタイルを踏襲しているから。大統領がアフリカ系の時代に、こんな形で人種差別批判をするのは時代錯誤だっていう意見も聞かれます。ただし人種差別自体は厳然とした事実としてあるから、コーツのメッセージが多くのアメリカ人に響いているんだと思います。ポスト・レイシャルって言っている人たちの中には、人種だけでなく人種差別もフィクションだと考えている人もいますが、人種は文化的、社会的に構築されたフィクションであっても、人種差別は人を殺すほどのリアリティをいまだに持ってますから。コーツのほかにも、ミシェル・アレクサンダーという法学者は『The New Jim Crow: Mass Incarceration In The Age Of Colorblindness（新しいジム・クロウ：カラーブラインド時代の大量投獄）』（2010）という最近の著作の中でこう言っているんですね。「人種はフィクションかもしれないけれど、人種差別が存在することは刑務所内の異常に高い黒人比率を見れば否定できないだろう」と。大量

★エレミアの嘆き：ハーバード大学教授サクヴァン・バーコヴィッチによって定式化された「アメリカの嘆き American Jeremiad」。ピューリタン以来、現状を嘆くと同時にナショナルな理想を祝福するアメリカ特有のレトリック。

CamScannerでスキャン

投獄の問題は本当に深刻で、1970年代から米国の囚人人口がなんと5倍になってるんですよ。200万人を超えて、ダントツ世界一。2006年の統計を見てみると、そのうちの6割が有色人種（アフリカ系とヒスパニック）の男性なんです。米国におけるアフリカ系の人口比率が13%くらいですから、これがいかに異常な数値かはすぐにわかりますね。黒人が法律を守らないからだろうと早合点する人には、アレクサンダーの著作とか今年（2016年）10月にNetflixで公開されるエイヴァ・デュヴァーネイの『13th（憲法修正第13条）』をぜひ観ていただきたいです。黒人の囚人率が高いのは、彼らが不真面目で「法や秩序」を守らないからではなくて、そもそも米国社会のルールが彼らマイノリティを積極的に抑圧、排除するような形で維持されてきたからだということがご理解いただけると思います。

大和田　**トニ・モリスン**が『世界と僕のあいだに』に推薦コメントを寄せてるんですけど、タナハシ・コーツはゲラを彼女だけに送っているんですね。モリスンは「私はアメリカの黒人男性の書き手の中で、ジェームズ・ボールドウィン亡きあとの穴を埋めてくれる人を待ち望んでいたけど、とうとう現れた」と賛辞を寄せていて。これでノーベル賞作家からもお墨付きをもらった感じなんですね。

★トニ・モリスン：1931-2019。アフリカ系アメリカ人の作家。77年の『ソロモンの歌』で全米批評家協会賞受賞。88年の『ビラヴド』でピューリッツァー賞受賞。93年にアフリカ系アメリカ人作家として初めてノーベル文学賞受賞。

長谷川　それこそ『エンパイア』みたい。

有光　そういえば、ゲイツ先生の番組にも出てましたね。

大和田　このタナハシ・コーツの本の中でひとつのクライマックスになっているのは、**ハワード大学**の同級生だったプリンシオンについてのエピソードですよね。警官の暴力で死んでしまった彼の母親に、タナハシ・コーツは会いに行く。そこで子どもの頃から超優秀だった息子を、本当はどこの大学に行かせたかったかっていう話になると、母親はハーバードかプリンストンかイェールかコロンビアって答えるんですよ。

長谷川　ぜんぶ**アイビーリーグ**の大学なんですね。

大和田　でもプリンシオンは黒人大学のハワード大に進学した。彼は大学進学時にすでに「子どもの頃から黒人を代表するのに疲れた」と言っていたそうなんですね。だから普通の黒人の生活を求めて黒人ばかりのハワード大学に行ったと。この発言はかなり重いと思ったんですが。

有光　そういう学生は実際多いみたいですね。黒人大学に行くにしろ、白人がマジョリティの大学に行くにせよ、多くの黒人がいま問いかけてるのは、いわゆる「黒人らしさ」とは何かということです。それは時代とともに希薄になっていく

★ハワード大学：1867年に創設された黒人大学（HCBUs=Historically Black Colleges and Universities）のひとつ。HCBUsのランキングで常に1、2位を争う。「黒人のハーバード」と呼ばれることも。

★アイビーリーグの大学：もともとアメリカの8つの私立大学（ハーヴァード、エール、プリンストン、コロンビア、コーネル、ブラウン、ダートマス、ペンシルヴァニア）の体育会連盟を指すが、現在は米国のエリート大学の意味で用いられる。

と考えるのか、それとも何らかの形で再構築されていくのか。長谷川さんがさっきおっしゃってた通り、オバマは「奴隷を先祖に持つ典型的なアメリカ黒人」ではないんだけれど、例えばハーバード大学にいる黒人にも、アフリカ諸国の外交官や政治家の子供がたくさん入っている。そういうアフリカからの新移民ってシカゴのサウスサイドとかカリフォルニアのコンプトンみたいなところで育ってきたアフリカン・アメリカンとは所有しているリソースも文化もぜんぜん違う。母語も違い、宗教も異なり、聴いている音楽なんかも千差万別だったりする。そんな彼らをまとめて「アフリカン・アメリカン」って言えるのか。77年生まれでナイジェリア出身の作家**チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ**の小説『アメリカーナ』なんかを読むと、彼女を含めたアフリカからの新移民をまとめてAmerican-Africanと呼んでいます。『ロサンゼルス・タイムズ』紙によれば、2010年から2015年までの間だけでこのグループは170万人も増えたらしいです。

★チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ：77年生まれ。ナイジェリア人作家。『半分のぼった黄色い太陽』(2007)、『アメリカーナ』(2013)で全米批評家協会賞受賞。『アメリカーナ』の邦訳はくぼたのぞみ訳、2016年、河出書房新社刊。

ポスト・ブラックネスと『ハウルの動く城』

有光　このような変化を考えると、11年に**トゥーレ**という40代のジャーナリスト

★トゥーレ：71年生まれ。ア

が書いた『Who's Afraid Of Post-Blackness?: What It Means To Be Black Now（ポスト・ブラックネスなんかこわくない――いま黒人であることの意味）』で提示された「ポスト・ブラックネス」っていう概念は重要なキーワードだと思うんです。これはポスト・レイシャルと何度も混同されて議論を巻き起こしているんですけれど。

大和田　それはどのように説明できますか？

有光　元々はアートの世界から出てきた概念なんです。2001年にニューヨークのハーレムにあるスタジオ・ミュージアムで「フリースタイル」と題された展覧会が開かれました。アフリカン・アメリカンの歴史や文化を背負った上で、奴隷制や人種差別以外のテーマを扱う、もしくは従来とはまったく違う仕方で奴隷制や差別にアプローチする比較的年齢が若いアーティストの作品を集めて、新しい「黒人らしさ」を探究するという趣旨の展覧会だったんですね。**セルマ・ゴールデン**というキュレーターの仕事です。この展覧会以降、ポスト・ブラックの美学はいまや美術の分野だけではなくて、音楽や文学の世界にも急速に広がっています。

長谷川　新しい世代の黒人の美意識ということですね。

有光　そうですね。**マイケル・エリック・ダイソン**という社会学者がトゥーレの

フリカ系アメリカ人ジャーナリスト、批評家、作家。『ヴィレッジ・ヴォイス』、『ローリング・ストーン』などに寄稿。おもな著書に小説『Soul City: A Novel』(2005)、プリンス伝『I Would Die 4 U: Why Prince Became an Icon』(2013) などがある。

★セルマ・ゴールデン：65年生まれ。ハーレムのスタジオミュージアムのチーフ・キュレーター。「ポスト・ブラックネス」という言葉のオリジネーターのひとり。

★マイケル・エリック・ダイソン：58年生まれ。ジョージタウン大学社会学部教授。『Know What I Mean? Reflections on Hip Hop』(2007)、『Born to Use Mics: Reading Nas's Illmatic』(2010)、『JAY-Z: Made in America』(2019) などヒップホップ論も多い。

CamScannerでスキャン

著作の解説で、「ポスト・ブラックネス」とは、従来の「黒人らしさ」から自由になっているんだけど、黒人の歴史や文化になんらかの形で「根付いている」美学なんだと書いてます。英語で言えば rooted in blackness。人種差別が続いている以上、黒人であることは無視できないけれど、黒人であるからクラシックの交響曲は聴かないとか、スカイダイビングなんかしないという考えは古い。たしかに、**タイガー・ウッズ**が出てくるまで、黒人ゴルファーなんて考えることすらできなかったけれども、それが変わった。**ウィリアムズ姉妹**がいなかったら、いまだにテニスは白人のスポーツだと言われている可能性が高いけども、それもいまや過去の話。

ついでですが、ウィリアムズ姉妹といえば、あの人たちコンプトン出身なんですよ。NWAとかケンドリック・ラマーと同郷なんです！　彼女たちはテニスの女王になった今でも、特に姉のヴィーナスは賞金の男女格差をなくすことを訴えたり、人種差別、性差別と日々戦ってますね。妹のセリーナもカメラ判定の導入に大きな役割を果たしてます。つい最近も話題になってましたが、2015年の『**スポーツ・イラストレイテッド**』誌の「スポーツ・パーソン・オブ・ザ・イヤー」に選ばれました。セリーナと最後までファン投票で人気を二分したのが**ア**

★タイガー・ウッズ：75年生まれ。アフリカ系アメリカ人プロゴルファー。メジャー選手権15回は歴代2位。

★ウィリアムズ姉妹：80年生まれのヴィーナスと81年生まれのセリーナ・ウィリアムズ姉妹。セリーナはシングルス、ダブルス共にキャリア・グランドスラムを達成した唯一の選手。

★『スポーツ・イラストレイテッド』：54年創刊のアメリカのスポーツ誌。隔週刊。定期購読者300万人以上、毎号2300万人以上の読者を誇る。

メリカンファラオという競走馬だったんです。この結果を受けて、『ロサンゼルス・タイムズ』が、「セリーナ・ウィリアムズとアメリカンファラオ？　どっちが本当のスポーツ・パーソン・オブ・ザ・イヤーにふさわしい？」という記事を載せたんです。そしたら炎上してしまいました。「人間と馬を比較して、どちらがよりベターな『スポーツ・パーソン』って何？」、「馬は人間(パーソン)じゃない。それともセリーナが人間じゃないって言いたいの？」という風に人種問題と結びついて、ちょっとした騒ぎになったんです。セリーナは癇癪(かんしゃく)持ちだとよく批判されますが、**クラウディア・ランキン**という詩人は、彼女が日々、黒人差別や女性差別に晒され続けているからだって擁護してますね。

　ひとつはっきりしているのは、セリーナのように大成功する黒人が出てくると、何が差別で、何がそうではないのかを見極めるのがどんどん難しくなってきているということです。セリーナのような人が差別を指摘しても、成功してるんだからいいじゃない、と一蹴されてしまう。

大和田　BLMによる黒人差別の可視化と、「黒人らしさ」からの解放と、2015年から16年にかけてこうしたことを考えさせる事件がいくつかありましたね。

有光　タナハシ・コーツに戻ると、実は彼の主張する「黒人らしさ」にも「ポス

★アメリカンファラオ：アメリカの競走馬。15年にケンタッキーダービー、プリークネスステークス、ベルモントステークスのアメリカクラシック3冠達成。

★クラウディア・ランキン：Claudia Rankine。63年生まれ。アフリカ系アメリカ人の詩人、劇作家。『Citizen: An American Lyric』(2014)で全米批評家協会賞受賞。16年マッカーサーフェロー。

CamScannerでスキャン

ト・ブラック」的な新しいところはあるんです。『世界と僕のあいだに』ではいまだに人種差別が続いていることを証明するエピソードが次々に紹介されるじゃないですか。そこで、彼が子どももと一緒に映画を観にいった時に白人女性に「ジャマよ」と言われるシーンがあるんですけど、彼らが観てるのは『**ハウルの動く城**』なんですよ。スパイク・リーとかじゃなくて！

長谷川 ああ、**宮崎駿**の！

有光 コーツは16年4月に**アメコミの『ブラックパンサー』**で「リチャードとブラックパンサー」という新作のストーリーを書いてるんですね。彼の回想録を読むと、自分の中ではヒップホップとジャーナリズムに加えて、コミックがとても重要だったって書いてある。これは、彼の文化資本というかバックグランドを政治とは別の文脈においても理解しないとだめだということを示している好例ですね。

大和田 **M・ナイト・シャマラン**監督の大傑作『**アンブレイカブル**』で**サミュエル・L・ジャクソン**が演じていた悪役みたいなもんですよ。コミックで自分が作られたという。

長谷川 タナハシ・コーツはミスター・ガラスなんだ！

有光 さらに言えば、20世紀のアフリカ系アメリカ文学史を振り返ると、重要な

★『ハウルの動く城』：04年に公開された宮崎駿監督、スタジオジブリ制作のアニメーション映画。原作はダイアナ・ウィン・ジョーンズのファンタジー小説『魔法使いハウルと火の悪魔』。

★宮崎駿：41年生まれ。日本の映画監督、アニメーター。『千と千尋の神隠し』でアカデミー賞長編アニメ映画賞受賞。主な長編作品に『風の谷のナウシカ』（1984）、『もののけ姫』（1997）など。

★アメコミの『ブラックパンサー』：マーベル・コミックスの『ファンタスティックフォー』66年7月号に初めて登場したキャラクター。メジャーなコミック誌で初めてのアフリカ系のキャラクター。

★M・ナイト・シャマラン：70年生まれ。アメリカの映画監督。代表作は『シックス・センス』（1999）だが、世界

作品を書いた作家の中には、人種問題に関心を示さなかった白人作家をリスペクトしていた人たちが結構いるんです。ラルフ・エリスンは**ドストエフスキー**や**ヘミングウェイ**から、ジェームズ・ボールドウィンは**ヘンリー・ジェームズ**から影響されたと語っている。コーツも一応**トルストイ**とかの名前は出しますけど、彼が影響を受けたのは黒人文学、ヒップホップ、それに加えてアメコミなんですよね。だから彼の文章にも、人種とか政治的文脈だけに回収できないところがあるんです。

大和田　タナハシ・コーツが『ブラックパンサー』のコミック版で新しいストーリーを書いたことには僕も興味を抱いて調べたんだけど、コミックのブラックパンサーと政治組織としてのブラックパンサーが誕生したのは同じ1966年なんですよね。

有光　そうですね。面白いことに、この時点では両者は別の文脈から出てきてて、まったく接点がないんですよね。

長谷川　『ブラックパンサー』は、最初の方で話題に出た『フルートベール駅で』の監督ライアン・クーグラーが実写化するんですよね。主演はチャドウィック・ボーズマンで、マイケル・B・ジョーダンも出演している。いろんなものが繋

中のシャマラニストはむしろ『アンブレイカブル』(2000)、『レディ・イン・ザ・ウォーター』(2006) などを好む。

★『アンブレイカブル』：00年に公開されたM・ナイト・シャマラン監督の映画。ブルース・ウィリス、サミュエル・L・ジャクソン主演。『スプリット』(2016)、『ミスターグラス』(2019) が続編。

★サミュエル・L・ジャクソン：48年生まれ。アフリカ系アメリカ人俳優。『パルプフィクション』でアカデミー賞助演男優賞ノミネート。タランティーノ作品、『アヴェンジャーズ』シリーズ等に出演。

★ドストエフスキー：1821-1881。ロシアの小説家。代表作に『罪と罰』(1866)、『カラマーゾフの兄弟』(1880)、『白痴』(1868) など。

★ヘミングウェイ：1899-1961。アメリカの小説家。代表作に

がってきている気がしますね。

大和田　ビヨンセのブラックパンサー・オマージュのパフォーマンスとタナハシ・コーツがマーベル・コミックス初のアフリカ系ヒーローの原作を書いたことが、アメリカ社会の中で同時に起きているのはすごく面白いと思います。僕らがずっと言っているヒップホップの、二次元的な想像力とかアメコミ的な想像力を感じるというか。逆に言うとビヨンセのパフォーマンスは政治的であると同時にマーベル・コミックス風でもあるという見方もできるし。

オバマ時代とドレイク

大和田　そういえば文化と政治の衝突という意味では、2016年のアカデミー賞が問題になりましたね。白人だけの候補になったことが物議を醸した。

有光　1月15日に発表されたんですけど、3日後のキング牧師の誕生日を記念した祝日に、ウィル・スミスの奥さんで女優の**ジェイダ・ピンケット＝スミス**とスパイク・リーがそれぞれ授賞式のボイコットを呼びかけた。黒人のコミュニティ内でも賛否両論があったんですけど。ジェイダは夫のウィル・スミスがノミネー

『日はまた昇る』（1926）、『武器よさらば』（1929）『たがために鐘はなる』（1940）、『老人と海』（1952）など。

★ヘンリー・ジェイムズ：1843-1916。アメリカ出身、イギリスで活動した作家。『ある婦人の肖像』（1881）、「ねじの回転」（1898）、『鳩の翼』（1902）、『使者たち』（1903）など。

★トルストイ：1828-1910。ロシアの小説家。『戦争と平和』（1869）、『アンナ・カレーニナ』（1877）など。

★ジェイダ・ピンケット＝スミス：71年生まれ。アフリカ系アメリカ人女優。『ナッティ・プロフェッサー　クラン

CamScannerでスキャン

トされなかったから、個人的にむかついてボイコットしようとしてるんじゃないかと。なぜなら今まで反差別運動に積極的じゃなかったから。

大和田 本番でもそのことはネタになりましたよね（笑）。

有光 司会の**クリス・ロック**は黒人コメディアンですけど、アカデミー賞に呼ばれるのは全然いやじゃない。オファーを受けたんだから断る必要などないと言い切った。ちなみに、白人ばかりといっても『ストレイト・アウタ・コンプトン』は脚本賞にノミネートされてます。ただし、脚本を書いたのは白人でしたけどね。

長谷川 『ストレイト・アウタ・コンプトン』は80年代から90年代にかけての物語ですけど、今日話題に出た2012年以降の黒人問題をネタにしたとしか思えないような作り方でしたよね。『ストレイト・アウタ・コンプトン』が興味深いのは、製作者であるアイス・キューブやドクター・ドレーが、彼らのフォロワーであるはずのケンドリック・ラマーから影響されているところだと思う。ちょっと前までアイス・キューブは警察批判していたことなんか忘れていたっぽいし、ドクター・ドレーに至っては「売れたいがためにキャッチーだから『ファック・ザ・ポリス』って言ってたんだよ」なんて言っていた。それをケンドリックが書き換えちゃったんですね。それで先輩たちが「あ、俺たちってそうだったんだよ

プ教授の場合』（1996）で注目され、『マトリックス リローデッド』（2003）、『コラテラル』（2004）などに出演。

★クリス・ロック：65年生まれ。アフリカ系アメリカ人コメディアン。コメディセントラル主催のランキングで「偉大なスタンドアップコメディアン」として歴代5位。

な」と信じちゃっている。ドレーが『Compton』って自伝的なアルバムを出しましたけど、それはケンドリック史観で塗り替えられた自分史なんです。そこがむちゃくちゃ面白いなと。

大和田　あのアルバムはこの数年間の黒人コミュニティを体現していると思います。アメリカの黒人社会自体が『Compton』化してる感じなんですよね。ケンドリックといえば、グラミー賞の授賞式でプレゼンターの**ドン・チードル**が「最高のリリシスト」として紹介したことが印象に残っていますね。

長谷川　西海岸のギャングスタ・ラップは詩のかけらもないってずっと言われていたのに。我々は異論を唱え続けてきたわけだけど。

大和田　そこは先見の明がありましたよね。

長谷川　最近の一連のアンチ・トランプ・ラップでも西海岸が一番熱いし。

大和田　YGとニプシー・ハッスルの〈FDT (Fuck Donald Trump)〉ですね。ちょっと調べてみたら、ラッパーはずいぶん前からトランプについてラップしてきたけど、昔は必ずしも悪い意味では使っていなかった。

有光　成功者ですからね。今回の大統領選では黒人は大体ヒラリー支持ですけど。

長谷川　キラー・マイクみたいにバーニー・サンダース派のラッパーもいますけど

★ドン・チードル：64年生まれの俳優。LAのカラーギャング抗争を描いたデニス・ホッパー監督作『カラーズ 天使の消えた街』(1988)でクリップスのギャングを演じて注目される。マーベル・コミック・ユニバースの諸作品ではアイアンマンの盟友ウォーマシンを演じている。脚本も手がけた監督作『MILES AHEAD マイルス・デイヴィス 空白の5年間』(2015)ではマイルス役を熱演。

ね。バーニーとキラー・マイクがハーレムのソウルフード屋で対談するビデオとかがネットにアップされている。

有光 キラー・マイクが動いてバーニーと**ジェシー・ジャクソン**の仲を取り持ったりしていましたよね。他にはアウトキャストのビッグ・ボーイがバーニー支持。ヒップな人たちはバーニー派なんですよ。そういえば、コーネル・ウェストもバーニー派です。

長谷川 バーニー・サンダースは白人でも、ブルックリンのヒップスターが支持している印象があるから、そこいらへんは人種を問わない気がしますね。

有光 タナハシ・コーツが「奴隷制に対する補償をするのかしないのか」ってサンダースに質問しましたね。バーニーは答えなかったけど。

大和田 それはどういう話なんですか?

有光 現在も続く差別や人種間の格差をなんとかするだけではなくて、過去の国家犯罪である奴隷制そのものに対して補償すべきである、とコーツはサンダースに迫ったんです。コーツの主張は白人には容赦ないし、妥協する気もない。

大和田 補償って、どうしろと。

長谷川 オバマって先祖に奴隷がいませんよね。その一方でアメリカ白人には平均

★ジェシー・ジャクソン：41年生まれ。アフリカ系アメリカ人アクティヴィスト、バプティスト派の牧師。84年と88年の2度、民主党大統領候補に立候補した。

8％くらい黒人の血が流れているという説もある。すると補償金をオバマには払わずに白人には払うのか、という話にもなってきますよね。それこそ最初に話に出てきたヘンリー・ルイス・ゲイツ・Jr の番組でアメリカ人ひとりひとりを判定してもらうしかなくなっちゃう（笑）。

大和田 色々話してきましたけど、そんなオバマ政権も終わってしまいますね。

長谷川 この鼎談の前にオバマ時代を代表するヒップホップ・アーティストは誰なのか、ヒット・チャートを調べてみたんですけど、結論から言うとドレイクなんです。

大和田 いやそうだと思いますよ。

長谷川 ドレイクがブレイクしたのは2009年で、それ以来ずっとヒット曲を放ち続けているから、オバマ時代を通じてスターだったと言える。あと、あの人ってお母さんが白人で、カナダのユダヤ系コミュニティで育っているから、アフリカ系アメリカ人的には完全な部外者なんですよね。でも彼はヤングマネーという真っ黒なレーベルと契約してアメリカ黒人になった。そんな経歴もオバマと似てる。

大和田 ケンドリックの提示した流れはとても重要ではあるんだけれども、それと

は別にヒット・チャートではドレイクが頂点に立ち続けている。アトランタの凶暴なサウンドも相変わらず売れているし、そうした音楽にあからさまな政治的なメッセージがあるわけではない。そこは忘れちゃいけないところですね。

有光　ドレイクもスターになってからずいぶん長いんだなあ。

長谷川　オバマ時代を通じてずっとですからね。逆に言うと、ポリティカルなラップが今以上に隆盛するかどうかではなく、ドレイクの曲がチャートに入らなくなった時こそが、アメリカ黒人の意識が今とは異なったものに変化した時と言えるかもしれませんね。

［2016年4月、アルテスパブリッシングにて収録］

CamScannerでスキャン

COLUMN #07

『Empire 成功の代償』

――ヒップホップ帝国のドラマを描く黒いソープ・オペラ

ニューヨーク。元ラッパー兼シンガーで、現在は巨大ヒップホップ・レーベル「エンパイア」のCEOを務めるルシウス・ライオン(テレンス・ハワード)は念願の株式上場を目の前にしながら、ALS(筋萎縮性側索硬化症)で余命数年の宣告を受けてしまう。

ルシウスは3人の息子のうち一人にエンパイアの経営権を譲ることを宣言する。だが高学歴の長男アンドレ(トレイ・ベイヤーズ)は経営者としての才能はあるものの、音楽の良し悪しを聴き分ける力がイマイチ。次男ジャマル(ジャシー・スモレット)は才能あるシンガー・ソングライターだが、ある理由からルシウスに忌み嫌われている。ラッパーの三男ハキーム(ブリシャー・グレイ)は父のお気に入りだが素行に問題ありと、誰もが一長一短の存在だった。

そんな時、チンピラ時代のルシウスの罪を被って服役していた元妻クッキー(タラジ・P・ヘンソン)が出所。ライオン家は愛憎と混乱の中で激しく揺れ動いていく……。

『大統領の執事の涙』(2013)の監督・脚本家コンビであるリー・ダニエルズとダニー・ストロングがクリエイターを務める『Empire 成功の代償』は、まるで『リア王』と『冬のライオン』と『ゴッドファーザー』が合体したような愛憎ドラマが、ヘヴィなR&Bやラップ・ナンバーにのせて描かれる黒いソープ・オペラだ。

キャストの中で最初にオファーを受けたのはタラジだったそうだが、彼女は旧友のテレンス・ハワードをルシウス役にすることを条件にオファーを受諾したという。

この配役が当たった。というのも、二人は10年前のヒット映画『ハッスル&フロウ』でそれぞれフッカーとラッパーを目指すポン引きを演じており、『Empire』自体が映画の後日談的な色彩を帯びることになったからだ。非情なカリスマ、ルシウスを演じるハワードと、アニマル柄のコートに身に包み、行く先々で喧嘩を売り

CamScannerでスキャン

まくるクッキーになりきったタラジの相性は抜群で、同胞から圧倒的な支持を受けたのも納得である。

しかも人気は黒人コミュニティの枠内に留まらなかった。『Empire』は15年スタートのテレビドラマでナンバーワンの視聴率を記録したのである。キャストがほぼ全員黒人のドラマで、これは画期的なことだった。

そんな2人に加えてフォレスト・ウィテカー、ヴィヴィカ・A・フォックス、タイ・ディグス、ニア・ロング、ナオミ・キャンベル、クリス・ロック、クイーン・ラティファ、イグジビット、アリシア・キーズらコミュニティのスターたちがゲスト出演、ドラマを盛り上げている。

人気の理由には、白人にも大勢のファンがいるR&B～ヒップホップの製作現場を舞台とした「業界ドラマ」的な見方ができることが挙げられる（本作の発案者ストロングもヒップホップ・フリークの白人）。スポーツ選手のマネージメントやアルコール製造にまで手を出しているエンパイアは一見荒唐無稽な会社に見えるものの、こうした事業はジェイZのロック・ネイションやパフ・ダディのバッド・ボーイといった現実のヒップホップ企業がすでに行なっていることでもある。

スヌープ・ドッグやピットブル、スウィズビーツといったスターたちを本人役で登場させることで、視聴者はまるでエンパイアが実在の企業であるかのような錯覚を覚えてくるというわけだ。

ジェイZやジャスティン・ティンバーレイクらを手がけてきたトップ・プロデューサー、ティンバランドが作った劇中曲の質の高さも、『Empire』の人気を後押しした。ドラマ内のヒット曲が収録されたサントラ・アルバム第1集はマドンナの最新作を破って全米首位を獲得。エンパイアは現実世界でもヒット曲工場になった。

現在、音楽監督はロドニー・ジャーキンズに交代しているが、相変わらずトレンドを押さえた新曲を毎週のように発表しており、凡百の

CamScannerでスキャン

レーベルも真っ青な充実ぶり。これはそれぞれ優れたシンガーとラッパーであるジャシー・スモレットとブリシャー・グレイの力量によるところ大だろう。

こう書いてみると『Empire』の成功は、マーケティングの産物のように思うかもしれない。でもそれは間違いだ。その証拠が次男のジャマルのキャラクターである。3人兄弟の中では性格も才能も一番の彼が、なぜルシウスから忌み嫌われているのか？ それは彼がゲイだからだ。

じつはジャマルこそがゲイであるリー・ダニエルズの自己投影キャラであり、女装が原因で父親にゴミ箱に投げ捨てられる子ども時代のエピソードはダニエルズ自身の想い出なのである（彼がカミングアウトするエピソードは、現実世界でフランク・オーシャンがカミングアウトした直後だったため大きな話題を呼んだ）。

またルシウスの母親（回想シーンでは元デスティニーズ・チャイルドのケリー・ローランドが演じている）が双極性障害を抱えているという設定は、ダニー・ストロングの母親がモデルになっているという。クリエイターたちにとって、『Empire 成功の代償』は切実な物語なのだ。

もしブラック・ミュージックについて「金儲けやセックスのことばかり歌っている誠実さに欠けた音楽」という偏見を持っているなら、そういう人こそ『Empire 成功の代償』を見てほしい。世界で最も豊かとされている国で何も持っていない状態で生まれ、最低限の生活にアクセスできるチャンスすら与えられない人々にとって、金を稼ぐことはまず目指すべき行為であり、セックスは最大の娯楽である。ブラック・ミュージックとはそうした切実さの結晶だ。

たしかに誠実さは皆無だとしても、大富豪になっても切実さだけはハンパなく持っているルシウスが本作である種のヒーローとして描かれる理由がこれで分かるはず。そう、『Empire 成功の代償』とは、連続ドラマのフォーマットを借りたブラック・ミュージック賛歌なのだ。

（長谷川町蔵）

第４部

トラップ時代の到来

2017年のヒップホップ

CamScannerでスキャン

ケンドリック・ラマーのクレバーな路線変更

長谷川　2011年に『文化系1』を出した時のシーンのエースって、リル・ウェインとかT.I.だったんですよ。たかだか6年なんだけどロックとちがってシーンに変化がありすぎて。この6年の間にもヒップホップ自体が**EDM**にもっていかれるんじゃないかって時期もあったし。

大和田　あれは踏ん張りましたねー。**ニッキー・ミナージュ**とか〈Starships〉で完全にあっちに行ってましたし。

長谷川　で、今は世代交代してケンドリック・ラマーや**J・コール**がエースみたいな感じになっている。

大和田　そのケンドリックの『DAMN.』の発売が4月でした。今年のヒップホップ・シーンを代表するアルバムとされていますね。

長谷川　今って『ビルボード』誌のチャートにストリーミング・サービスの再生記録が反映されるじゃないですか。すると、リスナーが聴き続けているかぎりチャートインし続けるんですよ。その結果、長期間ランクインする曲と、一瞬だけ現れる曲の二極化が進んでしまっている。

★EDM：「Electronic Dance Music」の略称。本来はハウスやテクノを含む言葉だったが、会場の大バコ化、DJのスター化に伴ない、刹那と切なさの狭間を行き交う独自のダンス・ミュージックへと発展、現在に至る。ただしジャンルを代表するカルヴィン・ハリスやデヴィッド・ゲッタは相当なヒップホップ愛好家でもある。

★ニッキー・ミナージュ：82年トリニダード・トバゴ生まれ。5歳のときクイーンズに移住、ラガーディア高校で演劇を学ぶ。ミックステープ活動を経て、リル・ウェイン主宰のヤング・マネーから10年にメジャー・デビュー。たしかなフロウとカラフルなヴィジュアルによって、女性ラッパーとしては珍しい長期にわたる活躍を続けている。

★J・コール：85年生まれ。

大和田　“ロングテール”と呼ばれていたのが、実際は“ビッグヘッド”だったという。今年の最初は**エド・シーラン**の〈Shape Of You〉が11週連続1位で、そのあと**ルイス・フォンシ&ダディ・ヤンキー**の〈Despacito〉が16週連続1位、そして年末にかけて**ポスト・マローン**の〈Rockstar〉が8週連続1位と極端ですよね。

長谷川　みんなずーっとそればっか聴いてる（笑）。こうしたリスニング環境で一番得したラッパーってドレイクですよね。耳あたりが良くて適当に聴き流せるんだけどセンスがいいっていう。

大和田　先日、トロントの学者と話す機会があったんですが、ドレイクはトロント出身というより、子役上がりだってことが一番重要だって言っていました。

長谷川　カナダの学園ドラマで、高校生役をやっていたんですよね。全然「スターティング・フロム・ザ・ボトム」じゃない（笑）。相棒のノア40も子役出身で、2人で頑張ってきたという。

大和田　（笑）。子役っていう妙なセレブ感はあるのかもしれないですね。

長谷川　ふわっとした感じ。ドレイクの曲って、真剣に聴くと物足りないっていうか、いつも何かが足りないような気がするんですけど、Spotifyで聴くと最高に気持ちよくて。

ノースキャロライナ出身。ジェイZが創立したRoc Nationの第一弾アーティストとして、11年にアルバム・デビュー。自らトラックメイキングもこなす才人で、コンシャスなリリシストでもある。ケンドリック・ラマーの次にロック・ファンが聴くべきラッパー。

★エド・シーラン：91年英国生まれのシンガー・ソングライター。ほのぼのした印象が強いが、ループペダルを多用したライヴと全身タトゥーは、ヒップホップ・ヘッズである何よりの証拠。19年作『No.6 Collaborations Project』ではエミネム、カーディ・B、チャンス・ザ・ラッパー、トラヴィス・スコットらと共演している。

★ルイス・フォンシ&ダディ・ヤンキー：フォンシは78年プエルトリコ生まれのシンガー、ヤンキーは77年プエル

大和田　それSpotifyに失礼ですよ。プレミアム会員になれば音良くなりますよ（笑）。

長谷川　ちょっと前に80年代の音楽のCDをカセットに録音して再生したら、めちゃくちゃ音が良かったんですよ。つまり、80年代のスカスカでエコー感のある音楽っていうのはカセットでコンプかけて再生すると際立つように設計されているんですよね。60年代はドーナッツ盤だし、70年代はLPだし、90年代はCDだってことを考えると、ドレイクのサウンドこそが配信時代のサウンドなんじゃないかと。

大和田　ドレイクが2017年にリリースした『More Life』って、本人曰くアルバムではないんですよね。プレイリストって呼んでいる。

長谷川　もう完全に「俺はSpotify向け」って開き直っている（笑）。だから彼みたいな人がチャートインし続けるのはわかるんですけど、ケンドリックがチャートで結果を出しているのはすごい。明らかに耳ざわりな音楽ですからね。

大和田　前作『To Pimp A Butterfly』では西海岸のジャズ・ミュージシャンを起用してインディー・ロック好きからも評価が高かったけど、今回はプロデューサーに**マイク・ウィル・メイド・イット**を連れてきて、シーンのど真ん中を狙いにきた感じですね。

トリコ生まれのラッパー。2人が共演した〈Despacito〉は、全編スペイン語で歌われた正調レゲトン歌謡だったが、ジャスティン・ビーバー参加のリミックス版によって米国でも人気に火がつき、16週連続でチャート1位に。マライア・キャリー&ボーイズⅡメンの〈One Sweet Day〉に並ぶ歴代最長タイを記録した。

★ポスト・マローン：95年生まれアメリカのラッパー、シンガー。弾き語りやラップを自然にこなす新世代のミュージシャンであり、デビュー当初からそのスタイルがヒップホップであるかどうかが論争に。〈ロックスター〉(2017)がビルボード・シングル・チャートで8週連続1位。

★マイク・ウィル・メイド・イット：89年ジョージア生まれ。自宅で作ったビートがグッチ・メインに認められたこ

長谷川　ケンドリックはラッパーとして超一流なんですけど、A&Rとしても優れているのではないかと思いましたね。『DAMN.』で路線を少し変えたのは本当にクレバーだったと思います。2000年前後にソウルクエリアンズの連中が『To Pimp A Butterfly』の先駆け的な作品をリリースしていたじゃないですか。

大和田　ザ・ルーツの『Things Fall Apart』やコモン『Like Water For Chocolate』ですね。**J・ディラ**やディアンジェロのほか、**ロイ・ハーグローヴ**とかジャズ・ミュージシャンも参加していました。

長谷川　あれ、当初は支持されていましたけど、だんだんリスナーが減っていきましたからね。やっている側も「俺たち立派な音楽をやっている」みたいにちょっと上から目線になっていたところもあったし。

大和田　コモンが2016年の終わりにリリースした『Black America Again』からもそれは感じましたね。**カリーム・リギンズ**とロバート・グラスパーが作ったトラックは『To Pimp A Butterfly』っぽいんだけど、どこか違う。

長谷川　コモンはオバマ応援団長みたいな立場になっちゃっているから、あれも彼なりのリアルではあるんですけどね。でもケンドリックは、このまま続けてストリートの支持を失うとヤバイぞって本能を働かせた。

とがきっかけで、アトランタ中のラッパーからオファーが舞い込み売れっ子プロデューサーに。マイリー・サイラスらポップ・アーティストも手がける。自身が設立したEar Drummer Recordsからはレイ・シュリマーを送り出している。

★J・ディラ：1974-2006。ヒップホップ史上、もっとも重要なプロデューサーのひとり。サンプラーを用いながらもその有機的で「人間的」なサウンドは後世に大きな影響をもたらした。

★ロイ・ハーグローヴ：1969-2018。90年代を代表するジャズ・トランペット奏者であり、ファンク、ソウル、ヒップホップとの融合を目指したグループ、RHファクターのリーダー。コモンやエリカ・バドゥなど、ネオソウル人脈との共演も多い。

CamScannerでスキャン

大和田 その気になればトラップ・ビートの上でこれだけラップしまくれるのはスゴイ。最近読んだんですけど、**ライムスター**のマミーDがトラップ・ビートを作ってもらってラップしたけど、結局アルバムに収録しなかったと言っていて。90年代的なヒップホップに馴染んでる人からすると、やっぱり違和感があるでしょうね。それはアメリカでも絶対同じなはずで、なのにあれだけ伝統的なヒップホップをやってきたケンドリック・ラマーがアメリカでもっとも売れっ子のマイク・ウィル・メイド・イットと組んであれだけかっこいい曲をつくる。たまたまシングルが出た時にむこうのインタビューの動画を見てたんですけど、「これはバンガーだ」って女の子たちがお尻振ってるんです（笑）。これは売れるな、と。

長谷川 しかも売れ線だけでなく、A&R的なセンスがさらに働いて、ちょっとジェイムズ・ブレイクとU2呼んじゃう？ みたいな。

大和田 U2参加については長谷川町蔵に訊かないといけない（笑）。

長谷川 U2が入った時点で0点なんですけど、あの曲は80点くらいあげてもいいなと思って。というのは、ぜんぜんボノ節じゃないんですよね。

大和田 80点！ 町蔵さんにしては信じられない高評価（笑）。でもたしかに、誰もが怖れていたかたちにはならなかった。U2がヒップホップにかかわることで

★カリーム・リギンズ：74年生まれのジャズ・ドラマー。ロイ・ハーグローヴのバンドを経て、ジャズとヒップホップを横断する活動を続けている。

★ライムスター：1989年に結成、30年間にわたって日本のシーンを牽引し続けているヒップホップ・グループ。メンバーは宇多丸、マミーD、DJ JINの3名。

台無しになる感じってものすごく想像できるじゃないですか。けど、そうならなかったのはケンドリックのA&R的な力なのかもしれない（笑）。

長谷川　ラッパーとしての才能だけでは頂点に立ち続けられない。やはりシーンを読む力がないと。

大和田　そういえばケンドリックってカンフー・ケニーって別名を名乗るようになったじゃないですか。あれはドン・チードルが『ラッシュアワー2』でやっていた役をチードルの許可を得て襲名したらしいですね。

長谷川　ウータン・クランみたい。グランドマスター・フラッシュの時代からラッパーはカンフーが好きなんですよね。

大和田　そういう意味でもケンドリックって歴史意識の強い優等生なんだと思いますね。

長谷川　ほかにクラシックなヒップホップをやって話題になったのはジョーイ・バッドアスとラン・ザ・ジュエルズあたりですか。ジョーイ・バッドアスは全米で人気のドラマ『ミスター・ロボット』に俳優として出演してたりと芸能活動もやっているんですよ。そういう華がある人が、こういう渋いヒップホップをやっていると、若者にも新鮮に聞こえる。

大和田　チャート的にも結果を出していますからね。ラン・ザ・ジュエルズもよく売れてる。大統領選のときにバーニー・サンダースを支持したことでも話題を呼んだ。メンバーのキラー・マイクとサンダースがハーレムとかで対談してました。

長谷川　サンダースがキラー・マイクを本当に殺人犯だと思っていて、会う前にビビッてたという話もありますね。キラーとか言っているから（笑）。

トラップとモード・ジャズ

大和田　ただ、クラシックなヒップホップがシーンに及ぼす影響って全体的にはどんどん減っていますよね。ＥＤＭが猛威を振るっていた時に、それを食い止めたのはトラップだったと思うし。でも一方で、もうトラップをヒップホップと呼ばなくていいと言ってる人が増えているんですよ。

長谷川　トラップはトラップだと。

大和田　逆に、ヒップホップは４つの要素をふくむ厳密な形式に則った音楽実践であり、トラップはもはやその条件を満たしていないと考えられているんです。

長谷川　アメリカではゴールデン・エイジのヒップホップというと一般的には、90

年代のヒップホップを指すんですよね。マーケットの大きさで言えば、今の方が黄金時代なのに。ヒップホップを巡ってはアフリカ系の中でも世代間の対立があって。2017年にロサンゼルス・レイカーズに入団したロンゾ・ボールっていうバスケ選手がいるんですけど、インタビューで「ナズなんて誰も聴いてない。今いちばんリアルなヒップホップはミーゴスとフューチャー」と発言して大炎上したんですよ。でもボールって97年生まれだから、ナズがデビューしたのって彼が生まれる5年前なんですね。だから彼のまわりで誰も聴いていないのは至極ふつうの状況だという。

大和田　ヒップホップのレコードが最初にリリースされてからもう40年近く経ってますよね。ジャズの歴史に重ねると、ビバップが始まったのが1940年代で、その30年後でもフュージョン全盛期。チャーリー・パーカーからかなり変化をしている。だから今に至るヒップホップの変化はエレクトリック・ジャズを認めるかどうかどころの騒ぎじゃないんですよ。

長谷川　トラップについていけない人がアメリカにもたくさんいるのは仕方ないですよね。そういう人はエミネムの『Revival』を聴いていればいい。しかもCDで（笑）。

大和田　エミネムが極めたような、ビートに対して**リリックを中間韻で踏む**というラップの前提自体が変わってきてしまったんですよね。２０１７年の1月にミーゴスの『Culture』が出て、全米1位になったじゃないですか。このアルバムで彼らは、それまでトラップを取るに足らない幼稚なサブ・ジャンルだと思っていた多くのリスナーをねじ伏せたと思うんですね。大変な傑作だと思います。ちなみに、ジャズといえば、ある場所でトラップをモード・ジャズに例えたことがあるんですけど。

長谷川　その理由は？

大和田　モード以前のジャズはコードが変化するのに引っ張られてフレーズも鋭角的に展開するじゃないですか。一方、モード奏法はコードの変化も最小限だし、スケールに基づいているからプレイするのは一見簡単に見える。コルトレーンの**〈ジャイアント・ステップス〉**のような複雑な曲をやっていた人からすると、どこにインプロヴィゼイションの面白みがあるのか分からなかったのではないでしょうか。

長谷川　当時の記事やレヴューを読むと、メディアもリスナーも明らかにモードよりフリー・ジャズの方に肩入れしているんですよね。

★リリックを中間韻で踏むラップ：詩行の最後にある語が、詩行の中間にある語と押韻されているもの。エミネムは15年に発表した「Kings Never Die」において、「ドラムやトランペットの音が聞こえる／誰かが誰かを召喚しようとしているんだ／俺は何かがやって来ることを知っている」というリリック中に、これだけ大量の中間韻を踏みまくっている（韻の部分は大文字）。"i can hear the drUMmer drUMming /and the trUMpets, sOMeone's tryna sUMmon sOMeone, i know sOMething's cOMing"

★〈ジャイアント・ステップス〉：ジャズ・サックス奏者ジョン・コルトレーンが１９６０年に発表したアルバムのタイトル曲。1コーラス16小節中、20回以上のコード・チェンジがおこなわれる複雑な

大和田　ゴールデン・エラの複雑なラップを聴いていたような人たちがトラップについて、単調だしオートチューンかけてるだけだし、これってヒップホップなの？　と疑問に思うのは分かる。ただトラップにはトラップ特有の美意識があって、それはミーゴスの3人のメンバーが網の目のように掛け合うラップだったり、トラップ・ビート特有のポリリズム感だったりするわけだけど、簡単にいうと、それはサウンドの雰囲気というか、音の肌理（きめ）といってもいいもので、たとえばオートチューンのかかったヴォーカルがトラックから浮きあがったり沈んだりするような感覚です。モード奏法が一定のモード、というかアトモスフィアの構築に神経を注いでいたように、トラップもライミングとフレーズの複雑さよりサウンドのテクスチャーを重視する。そう考えると、ヒップホップとトラップはバップとモードの変化に例えられるのかなって。

長谷川　あとモード・ジャズと似ているところに、「本当はけっこう頑張っているんだけど、あえて頑張っているように見せない美学」というのがありますよね（笑）。

大和田　そうそう、それもふくめて似てるなと。僕はケンドリック・ラマーの『DAMN.』より『Culture』のほうがすごいなと思っていて。２０１６年のベストは、21サヴェージのＥＰ『Savage Mode』だったんですけど、今年は断然

楽曲で、ＢＰＭ２４０以上の超高速で演奏された。

『Culture』。ほぼ1年中聴き続けていました。

長谷川　ミーゴスのラップって3連符がやたら多いじゃないですか。4の倍数のビートの上で3の倍数のリズムでラップしている。これってアフリカ由来のポリリズムですよね。

大和田　あの人たち、アフリカ音楽なんて聴いてなさそうだけど（笑）。

長谷川　ドレイクとかケンドリックは実際にアフリカ出身のトラックメイカーを起用したりして、アフリカ音楽と連帯しようとしてるんですよね。一方でミーゴスはたぶんストリップ・クラブのBGMとして機能するかどうかしか考えていない。でも無意識レベルでドレイクやケンドリック以上にアフリカに回帰しちゃってる。そこが凄い。

大和田　一方でJ・コールとか、昔ながらのラップをやってる人もいる。

長谷川　ケンドリックとか、J・コールとか、ビッグ・ショーンあたりはトラップのビートに普通のラップを乗っけて「これが最新のヒップホップだ」っていう文脈で音楽をやってるんですよね。彼らの世代がアラサーなんですが、20代前半の世代になるとそんなこと誰も気にしなくなっている。だから今はヒップホップの本流というのが仮にあるとしたら、支流のはずだったトラップに一気に流れが集

まりつつある局面なんじゃないですかね。

大和田　トラップって、もともとはアトランタの局地的な音楽ではありますしね。フューチャーが頑張ってやってきてたわけですけど。僕、この5年のシーンの中心はフューチャーだと思うんですよ。

長谷川　フューチャーというか、フューチャー的なものですよね。

大和田　そう。フューチャー的な何かが増殖してるという感じがします。みんなフューチャーのフロウを真似しようとしてるし、フューチャーが使ったトラックメイカーが売れる。それでトレンドセッターになっている。

長谷川　フューチャーのあとに、髪にビーズとかしている人たちがいっぱい出てきた。リル・ヨッティとか。

大和田　リル・ウージー・ヴァートとか、**XXXテンタシオン**とか。

長谷川　なぜかギャルに近い色彩感覚をしている。アトランタって、南部なのに非アーシーな文化が、アウトキャストのころからあって。アンドレと付き合っていたエリカ・バドゥ曰く、あれはアトランタの男の美学なんだとか。ようするに歌舞伎者ですよね。そういう感覚を伝統的に持っているのかなと。

大和田　最初に南部のラッパーが出てきたときにミンストレル・ショーだって批判

★XXXテンタシオン：228〜229ページ脚注を参照。

されたりしたじゃないですか。ミンストレル・ショーって、黒人のキャラクターが存在して、それを芸人が面白おかしく演じるわけです。それはたしかに傾く＝歌舞伎に例えられるし、その延長線上にギャルとの遭遇が（笑）。さらにその先に日本の二次元文化とのコラボレーションもありうるかも。

トラップとオイ・パンク

長谷川 プロデューサーのゼイトーヴェンのインタヴューというのがあって。ゼイトーヴェンは最初のころベイエリアにいて、そこからアトランタに移住してきたんですけど、両者の違いは何だって訊かれて答えてるんです。それによると、ベイエリアではフロウを乗せやすいものを作ってあげないといけなかったと。でもアトランタはもっと自由なんだと。

大和田 アトランタの人たちは東とか西の人たちが言うラップってもうしてないですよね。声は加工するし、メロディも普通に入れるし。もうヒップホップのラップのフロウを受け継いでいない感じがします。

長谷川 カニエ・ウェストがオートチューンで全編歌った『808s & Heartbreak』

があったじゃないですか。あれに通じるムードがある時期のアトランタ産ヒップホップから急に漂いはじめた気がするんです。その変化を牽引したのがフューチャーだった。

大和田　今の若手には、カニエの『808s & Heartbreak』が好きだっていう人がわりと多いんですよね。

長谷川　あのアルバムやキッド・カディ、ドレイクから歴史が始まっている。驚いたのが去年、トラヴィス・スコットがアルバムに「レジェンドをゲストに呼ぶ」とか言っていて誰かと思ったら、キッド・カディで、〈Day N Nite〉のフレーズを歌わせていたという（笑）。そういう時代なんですよね。セックス・ピストルズ以降しか知らないオイ・パンクの人たちみたいな感じ（笑）。

大和田　その世代の最初のヒーローがフューチャーなんでしょうね、たぶん。今ではカリスマですよね。

長谷川　今年は『Future』と『HNDRXX』という2枚のアルバムを2週連続で出した。通称、金盤と銀盤（笑）。

大和田　『Future』の〈Mask Off〉とかめちゃめちゃ格好いい。こういうフルートの使い方が流行りましたね。その理由をいろんな人が解説してるんですけど、い

まいちしっくりこなくて。で、**DJキャレド**が〈Wild Thoughts〉でサンタナをサンプリングしたじゃないですか。それ聴いたらフルートってサンタナと同じだ！　と気づいて。

長谷川　哀愁がキーワードだったってことですね。トラップは非常に興味深い音楽だなと思います。パーティ・ミュージックで、やっている本人はイケイケのものを作っているつもりなのに、部外者には内省的なものに聞こえちゃう。閑散とした盆踊りに迷い込んだ気にさせられるというか、閉塞感がすごい。ジョージア州ってあれだけ黒人がいるのに、民主党が勝てる可能性がとても少ないエリアで、そういう場合、彼らの心境のなかにどういうものが起きるんだろうと。その心象風景なのかなと思ったりします。

大和田　あからさまなメッセージ性はないんだけど、オバマ政権、とりわけ後半の〝ブラック・ライヴズ・マター〟の閉塞感がサウンドに表れてますよね。

長谷川　で、その盆踊り大会に出所してきたグッチ・メインが合流してきた。

大和田　アトランタを牛耳っているのは今も昔もグッチ・メインだと。彼は服役しているか、出所してスタジオに入っているか、どっちかなんですよね。アトランタのラッパーってほとんど彼がフックアップしているとか。

★DJキャレド：75年ニューオリンズ生まれのDJ／プロデューサー。17年発表のアルバム『Grateful』収録曲〈Wild Thoughts〉は、フージーズのワイクリフ・ジーンが曲作りに関わったサンタナ99年のヒット曲〈Maria Maria〉をベースにしたラテン・チューンで、リアーナとブライソン・ティラーがヴォーカルを担当。全米シングル・チャート最高2位を記録した。

CamScannerでスキャン

長谷川　ちゃんとシャバに出たのが一昨年の終わりくらいで、それまでの3、4年は活動がぼんやりしていた。でもそこからまさかの最前線復帰という。『Drop-topwop』なんて、今をときめくメトロ・ブーミンが全曲プロデュースしていて最新のトラックの上でラップしているんだけど、まったく無理している感じがない。

大和田　それと痩せたよね！

長谷川　サウンドだけでなく体型まで今のヒップホップの流行に合わせてきた（笑）。今や空前のスキニー・ジーンズ時代で、昔ながらの鍛えたデブってほとんどいなくなっちゃったんですよね。

大和田　ファッション・アイコンになりやすいですよね。**2チェインズ**とかフューチャーってめちゃめちゃ背が高いんですよ。2チェインズなんて2メートル近くて、たしかバスケで奨学金もらってたのかな。立ってるだけで花がある感じ。

長谷川　**プレイボーイ・カーティ**みたいにおしゃれなだけでエイサップ・モブに入っちゃった人もいますしね。カーティって、カニエがデザインしているスニーカーYEEZYのファッション・ショーで、モデルとして呼ばれたそうなんですよ。そこでエイサップ・ロッキーと知り合ったら意気投合して「お前、おしゃれだか

★2チェインズ：77年ジョージア生まれ。リュダクリス門下のグループ、プレイヤーズ・サークルを経て12年にソロに。アラバマ州立大学にはバスケットボール特待生として入学している。なおバスケットボールの奨学金で大学に進学した過去を持つラッパーにはマスターP（ヒューストン大）やゲーム（ワシントン州立大）がいる。

★プレイボーイ・カーティ：96年ジョージア生まれ。サウンドおよび人脈的にはリル・ウージー・ヴァートやリル・ヨッティらと同じアトランタのマンブル・ラッパーなのだが、エイサップ・ロッキーとファッション談議で意気投合して16年にエイサップ・モブ入りした。フェイヴァリット・デザイナーはラフ・シモンズとオリヴィエ・ルスタン。

CamScannerでスキャン

ら、うちのクルー入んね？」って言われたという。

大和田　おしゃれかどうかがクルーに入るかどうかの基準（笑）。

長谷川　エイサップ・モブのミックステープ『Cozy Tapes Vol. 2: Too Cozy』にはロッキーとカーティ、ミーゴスのクエイヴォにリル・ウジー・ヴァート、フランク・オーシャンって豪華なメンツによる〈RAF〉って曲が収録されているんですけど、なんと**ラフ・シモンズ**賛歌なんですよ。

大和田　プレイボーイ・カーティに食いついたのは、日本のメディアでは僕の知るかぎり音楽メディアよりファッション関係のほうが早かったですよね。

昼メロ＝エンタメとしての『4:44』

大和田　ジェイZのニュー・アルバム、この間ようやくちゃんと聴いたんですけど、いいですね。

長谷川　びっくりしたのはジャケットの色ですよね。肌色じゃないですか。ヌードカラーって2017年の流行色なんですよ。ラッパーのアルバム・ジャケといえば、駆け出しのころはモノクロ、そこから金になりプラチナになるっていう流れ

★ラフ・シモンズ：68年ベルギー生まれのデザイナー、ラフ・シモンズが設立したファッション・ブランド。エイサップ・モブのほかリアーナ、トラヴィス・スコットらヒップホップ～R&B関係者からの人気が高い。

が鉄板なんですけど。

大和田　フューチャーは金や銀の段階に来たと。

長谷川　それがジェイZは行き着くところまで行って肌色になってしまった（笑）。

大和田　ある時期までの彼のMVってスポーツカー、断崖絶壁に建つ豪邸、華やかなパーティーだったのが、町蔵さんが指摘してるとおり、今では洗いざらしの白いTシャツで美術館に行ってるという（笑）。人の欲望が最終的にどこに行き着くのかがよく表れている。だいたい『4:44』って**ジョン・ケージ**かと思いましたよ。数字の意味はいろんな説が出まわりましたね。

長谷川　「For 44th president」じゃないかとかですね。バラク・オバマが44代目の大統領なので。

大和田　でも正解はジェイZの浮気に怒ったビヨンセの妹**ソランジュ**に殴られたホテルに付属するクラブの住所だった。もともと2016年に出たビヨンセの『レモネード』は、自分の夫の浮気という個人的な体験と、アフリカ系アメリカ人女性が歴史的に経験してきた抑圧を重ねたアルバムだった。ジェイZのアルバムのほうは贖罪（しょくざい）というか、彼の側のストーリーなんですよね。

長谷川　とにかくリリックが超面白いんですよ。タイトル曲のリリックは、ソラン

★ジョン・ケージ：12年ロサンゼルス生まれ。アルノルト・シェーンベルクの弟子にあたる現代音楽作曲家。禅や易経といった東洋思想からの影響により、偶然性が関与する実験音楽を創始した。最もポピュラーな作品『4分33秒』（1952）は曲の演奏時間である4分33秒の間、演奏者が楽器をまったく弾かずに沈黙を貫くというもの。

★ソランジュ：86年生まれ。ビヨンセの妹のR&Bシンガー。インディー、オルタナティヴ・シーンの人脈との交流も多く、姉よりヒップスターな音楽性で知られる。アルバムにはデヴ・ハインズ（ブラッド・オレンジ）、ダーティー・プロジェクターズのデイヴ・ロングストレス、シャソルなどが参加している。14年にMETガラのアフター・パーティが開催されたホテルの

ジュに殴られたあと、ホテルの部屋で朝の4時44分に反省しながら書いたという設定で、それが4分44秒続く(笑)。「お前の目が死んでいくのをただ見ていくしかなかった」とか「ソウルメイトを見つけたはずなのに、間に生まれた娘を他の男にとられてしまうのか」とか。冒頭曲〈Kill Jay Z〉でも「ソランジュと騒動があったときおまえは分かっていたはずだ。俺が悪かったと言えば済んでいたと」とかラップしている。ものすごく下世話で、ワイドショー的なんですよ。アルバム版謝罪会見ですよね。だけどジェイZ、謝罪会見で頭を下げてはいるけど明らかに笑みがこぼれちゃってる。テーマがおいしいから。

大和田　ちょっとした昼メロみたいな展開になってますからね。

長谷川　ここ数年あの人ってラップするネタなんてもう無かったと思うし、手詰まりになっていたところでこの美味しいネタ。だから炎上しながら笑顔でラップしてますよね。でもビヨンセの『レモネード』が出た時点ですでに事態は落ち着いていたんじゃないですかね。ビヨンセって今年双子を生んでいるんだけど、時系列を計算したらおかしい。事態が完全に決着したあとでビヨンセが『レモネード』を出して、それを見届けた後にジェイZが『4:44』をリリースしている。そういう意味ではちゃんとエンターテインメントになってるんですよ。

エレベーター内で義兄のジェイZに暴行を加えている動画が流出、騒動になった。この際、一緒に乗っていたビヨンセが妹を止めていなかったことから「ジェイZの浮気を知って激昂したのでは」と噂になった。後にジェイZは『4:44』の中でこの噂をおおむね認めている。

CamScannerでスキャン

大和田 結局ぼくらはあの夫婦に弄ばれてるんですね。サウンドの方はノー・IDが全面的にプロデュース。ノー・IDはシカゴ出身で、カニエ・ウェストにトラックメイクを教えた人なんですね。ノー・IDは今までジェイZとはあんまりやってない？

長谷川 いや、以前から何曲かやっていて、〈Death Of Autotune〉とか。

大和田 ああ、そうなんですね。

長谷川 ノー・IDって最初はコモンの専属プロデューサーだったじゃないですか。で、ジェイZのコモン・コンプレックスというのがあるんです。「俺はコモンほど良いアルバムは作ってないかもしれないけど、何十倍も売れてる」みたいな言い方をしている。本当はジェイZって『The Blueprint』みたいなアルバムだけを作っていたいんじゃないかな。本作も、だからニーナ・シモンやスティーヴィー・ワンダーをサンプリングしてはいるんだけど、ノー・IDが頑張って今っぽく聞かせている。

大和田 ノー・IDって僕らと同世代だと思うんですけど、こうして時流に合わせてサウンドを仕上げていることには感心します。

長谷川 彼って今**デフ・ジャム**の副社長なんですよね。ビッグ・ショーンや**ロジッ**

★デフ・ジャム：世界で最も有名なヒップホップ・レーベル。84年にニューヨーク大学に在学中だったリック・ルービンが、寮の部屋で創立。ラッセル・シモンズが経営に加わり翌年メジャー配給契約を結ぶ。これまでリオ・コーエンやLAリードといった人物がトップを務めてきたが、18年からはエミネムのマネージャー、ポール・ローゼンバーグがCEOを務めている。

★ロジック：90年メリーランドで黒人の父と白人の母の間に生まれる。ミックステープをノー・IDに認められてデフ・ジャムと契約。ゴールデン・エラのスタイルを今日的に昇華したスタイルで人気を獲得する。フランク・シナトラの崇拝者で、自らをヤング・シナトラ、ホーミーをラット・パック、女性ファンをボビー・ソクサーと呼ぶ。

ク、ヴィンス・ステイプルズも、彼が後見人的なことを務めている。

大和田　その3人も最新のビートに昔ながらのテクニカルなラップを乗せて、「これが最新のヒップホップだ」って提示しているラッパーですよね。

長谷川　ビッグ・ショーンはガールフレンドのジェネイ・アイコとチルウェイヴ的なことをやったり、メトロ・ブーミンとトラップ・アルバム作ったりと、うまいことトレンドに対応していますからね。

大和田　ロジックは自殺を踏みとどまるよう訴えた〈1-800-273-8255〉でコンシャス・ラップの若き代表になった感があります。

長谷川　ヴィンス・ステイプルズは『Big Fish Theory』で90年代UKハウスみたいなトラックでラップしている。「トラップの次」を見据えたこういう試みは評価したいですね。

ヨット・ロックとヒップホップ

長谷川　商業的には大きな潮流とは言えないかもしれないけど、**サンダーキャット**が2月に出したアルバム『Drunk』で、遂に**ヨット・ロック**がブラック・ミュー

★ヴィンス・ステイプルズ：93年生まれのロングビーチ育ち。地元の英雄スヌープ・ドッグが主宰する少年アメフトリーグ「Snoop Youth Football League」では有力選手だったらしい。その後、オッド・フューチャーのメンバーと友人になったことをきっかけに本格的にラップの道に。15年にデフ・ジャムからメジャー・デビューした。

★サンダーキャット：84年ロサンゼルス生まれのベーシスト。本名ステファン・ブルーナー。ドラマーの兄とともにスラッシュ・メタル・バンド、スーサイダル・テンデンシーズのメンバーだったこともある。セッション・ミュージシャンとして頭角を現し、フライング・ロータス『You're Dead!』やケンドリック・ラマー『To Pimp A Butterfly』で重要な役割を果たす。そん

CamScannerでスキャン

ジックのメイン・ストリームに入ってきましたね。

大和田　スティーリー・ダンの**ウォルター・ベッカー**が亡くなった年にこういう現象が起きたのが感慨深い。でもヨット・ロックって言われても分からない人が多いと思いますよ（笑）。

長谷川　もともとは2005年にネット上でスタートした短編コメディ・シリーズの名前なんです。日本でいうAOR（Adult-Oriented Rock）を「ヨット・ロック」と定義して、**マイケル・マクドナルド**や**ケニー・ロギンス**に扮した出演者たちが、それぞれの代表曲の誕生秘話をデタラメな再現ドラマ方式で語るというもので。

大和田　まあヨットで聴く音楽ということで、ちょっとお洒落で、でもダサいというニュアンスで。もちろんスティーリー・ダンも出てきました。

長谷川　〈FM〉でディスったイーグルスに「お前ら儲けているらしいな」ってカツアゲされてましたね（笑）。

大和田　AORって和製英語で、本国ではこのジャンルを指す言葉がなかったんですよね。ソフト・ロックやアダルト・コンテンポラリーって言葉はあったけど、それはカントリー寄りのポップスも含んだものですから。「ヨット・ロック」が西海岸で作られていたブルーアイド・ソウルを可視化させたんですね。

な時の人である彼が、ヨット・ロックをプッシュしたことはシーンに衝撃を与えた。

★ヨット・ロック：ネットサイト、チャンネル101で05年に放映開始されたコメディ番組および番組が定義づけた音楽ジャンル名。ジャンルとしてのヨット・ロックは当初、スティーリー・ダン、マイケル・マクドナルド、ケニー・ロギンズ、TOTO周辺のミュージシャンが奏でるカリフォルニア産ブルーアイド・ソウルのことを指しており、日本におけるAORよりも音楽性、地域、人脈が絞られたものだった。しかし言葉がひとり歩きしていく中で現在、定義は曖昧なものになっている。

★ウォルター・ベッカー：ただでさえ地味なルックスのスティーリー・ダンの地味な方。50年クイーンズ出身のベーシスト、ギタリスト。バード・

長谷川　このシリーズがカルト人気を博したことによって、ザ・ルーツが箱バンを務める**ジミー・ファロン司会の『トゥナイト・ショー』**にクリストファー・クロスやロビー・デュプリーが出演したりして。

大和田　徐々に盛り上がっていったと。

長谷川　サンダーキャットはケンドリック・ラマーのアルバムにベーシストとして参加したことで注目された人だから、てっきりソロ・アルバムでもジャズとヒップホップの融合を推し進めるかと思ったら、リード・トラックの〈Show You The Way〉でマイケル・マクドナルドとケニー・ロギンズをゲストに招いたという。勝負をかけたシングルであの2人を呼んだのは大した勇気だなと思いました。

大和田　あれはブラック・ミュージック云々じゃなくて、今の若いミュージシャンによる歴史の再評価だと思うんです。**後期ドゥービー・ブラザーズ**というか、あのあたりのＡＯＲって、いわゆる"センスのいい"音楽通にはバカにされてましたよね。「正しい」音楽ファンは総じてパンク／ニューウェイヴにいってたわけです。たしかにパンク／ニューウェイヴは実験的なことは色々やっていたんだけど、じつは音楽理論的にはマイケル・マクドナルドとかスティーリー・ダンとかのほうが複雑な曲をやっていた。そこが今評価されている。パンク／ニューウェ

カレッジ時代に生涯の友ドナルド・フェイゲンと出会う。彼と結成したスティーリー・ダンは当初は6人組ロック・バンドだったが、2人の完璧主義と偏屈な性格が作用して、最終的には2人が作った楽曲を凄腕のスタジオ・ミュージシャンが演奏・録音するユニット形式となった。プロデューサーやソロ・アーティストとしても活躍。17年没。

★マイケル・マクドナルド：52年ミズーリ生まれのミスター・ヨット・ロック。スティーリー・ダンのツアーへの参加を経てドゥービー・ブラザーズに加入。洗練されたコード進行とソウルフルなヴォーカルを武器に、多くのヒット曲を生み、82年のソロ転向後も己の信じたブルーアイド・ソウル道をひた走っている。

★ケニー・ロギンズ：48年ワシントン生まれ。バッファロ

CamScannerでスキャン

イヴのスピリットは尊重すべきだけど、音楽的には大したことないんじゃないの、というか。

長谷川　ソランジュなんて、〈What A Fool Believes〉（1979）のコード進行に人生を変えられたとまで言ってますよね。

大和田　ソランジュってダーティ・プロジェクターズのデイヴ・ロングストレスと友達だったりして、感性はほとんどインディー・ロックじゃないですか。あのへんの人たちが、ダサいと思われていたAORを音楽的に再評価してるのは面白いと思うんですよ。僕自身が学生時代にヨット・ロック系のサークルにいたのですごくよくわかるんです。

長谷川　そういう意味ではタイラー・ザ・クリエイターの『Flower Boy』って、今どきの西海岸トレンドをうまいこと取り入れていたような気がしますね。コード進行が「あれっ」て思うほどオシャレで。タイラーって無手勝流にやっていた初期と比べると、今は音楽的なことを色々覚えたと思うんだけど、サウンドの鮮度みたいなものは落ちていないんですよ。そこが凄い。ウータン・クランのRZAなんて、お金が出来て楽器を買い揃えていくごとにトラックが面白くなくなりましたからね。

ー・スプリングフィールド〜ポコのジム・メッシーナに見出され、ロギンズ&メッシーナを結成。ソロ転向後はマイケル・マクドナルドと〈What A Fool Believes〉をはじめとするヨット・ロック・クラシックを共作するものの、徐々に産業ロック化。〈Footloose〉と〈Danger Zone〉が大ヒットしたが、心あるロック・リスナーからは軽んじられる人になってしまった。しかし「ヨット・ロック」によって名誉回復が進みつつある。

★ジミー・ファロン司会の『トゥナイト・ショー』：1954年からNBCで放送されている深夜帯番組。全体の構成や雰囲気は『笑っていいとも！』に近い（もちろん『いいとも！』が影響されている）。ジミー・ファロンは『サタデー・ナイト・ライヴ』

CamScannerでスキャン

大和田　ひどい（笑）。でもジ・インターネットも含めてオッド・フューチャー勢はわりとそうですよね。そういえばジ・インターネットの元メンバーで今年ソロ・デビューしたキンタローってサンダーキャットの弟でした。

長谷川　インターネットをバックにライヴやっていたマック・ミラーや、ドクター・ドレーのアフターマスと契約したアンダーソン・パークもこの路線といえると思います。みんなロサンゼルス拠点の人。

大和田　西海岸のヒップホップって生演奏を初期から取り入れていたから、ニューヨークよりもミュージシャンがヒップホップ・シーンにコミットしていた感じがありますよね。

長谷川　よく考えてみたらウォーレン・Gの大ヒット曲〈Regulate〉(1994) ってマイケル・マクドナルドの〈I Keep Forgetting〉(1982) ネタでしたから、これもひとつの伝統だと言えるのかもしれませんね。

大和田　ジェフ・ポーカロのドラムスはウェッサイのレガシーだったと。

世界中がダンスホール

出身のコメディアンで、09年に後枠の『レイトナイト』のMCとして実績を積んだ後に14年から司会を務めている。番組の箱バン、ザ・ルーツは『レイトナイト』時代からの盟友。このため音楽ネタはかなりマニアックである。

★後期ドゥービー・ブラザーズ：71年にデビューしたドゥービー・ブラザーズは、アーシーなロックンロールで人気を博していたが、メイン・ソングライターでフロントマンのトム・ジョンストンが健康状態の悪化により75年にバンドを離脱。そこで白羽の矢が立ったのが、スティーリー・ダンのツアーでキーボードとコーラスを担当していたマイケル・マクドナルド。しかし彼が都会的なR&B感覚を持ち込んだことによって、バンドはまったく異なる音楽性に変貌してしまった。このため

大和田　2017年の話題でいうと**カーディ・B**は外せないと思うんです。今年ずっと彼女の〈Bodak Yellow〉の順位を追ってたんですけど、10月に3週連続で1位になったんですよ。女性ラッパーがメイン・アクトで首位になった曲ってローリン・ヒル以来19年ぶりだそうです。

長谷川　しかもフィーチャリング・アーティストなし。

大和田　ニッキー・ミナージュも**リル・キム**も成し遂げていなかったという。この人は元ストリッパーなんですよ。リアリティ・ショーにも出たりしてて。しかもトリニダード・トバゴとドミニカのミックスで英語の訛りが独特。僕はこの曲が本当にすごい好きで。男性ラッパーにフックアップされる女性ラッパーが多いなかで、この人は独力で上がってきた感じがあるんですね。誰の庇護（ひご）も受けずに、自分の力で登り詰めた。

長谷川　インフルエンサーなんですよね、今風に言うと（笑）。この5年くらいニッキー・ミナージュがひとりで頑張っていたんで、そろそろスターが増えてもいい頃になっていた。タイミングも良かったですね。でも良いビートですね、この曲は。

大和田　いいですよね。何度でもリピートしてしまう。ビートは一定してますが、

バンドには前期のファンと後期のファンがはっきり分かれて存在する。

★ジェフ・ポーカロ：54年生まれ。10代からセッション・ドラマーとしての活動を開始。78年には兄弟たちやデヴィッド・ペイチ、スティーヴ・ルカサーらとTOTOを結成。多くのラッパーにサンプリングされた〈Georgy Porgy〉〈Africa〉といったナンバーを発表した。スタジオ・ワークも多く、マイケル・マクドナルドのソロ・ヒット〈I Keep Forgetting〉もそのうちの一曲である。92年没。

★カーディ・B：92年にドミニカ系の父とトリニダード系の母との間に生まれ、ブロンクスで育つ。Vineとインスタグラムで得た人気を背景に、15年にリアリティ・ショー『Love & Hip Hop: New York』に出演。この頃ミックステー

CamScannerでスキャン

途中からベース音がどんどん加わったり、ハットが倍速で刻み出したり、楽曲的に盛り上がるようになっている。ビデオを見ると中東がモチーフになっていて、ハーレクイン・ロマンスみたいなんですが。

長谷川 しかしこうして聴いてみると、ヒップホップが進化しながら先祖返りしていることもわかりますよね。ヒップホップってある時期まで余計だと思うものを切り捨てて進化してきたじゃないですか。レゲエのサウンド・システムが根底にあったこととか、プエルトリコ系が誕生期に果たした役割とかを黒歴史にして、ジャズ、ブルース、ファンクの系譜にあるアメリカ音楽だと自己定義していった。そうした自己定義が行き着いた頂点がゴールデン・エラの東海岸ヒップホップだったと思うんですよね。でも今や、ダンスホールっぽい曲とか**クラーベ**っぽい譜割りや**ポリリズム**みたいな、切り捨てられた部分こそがヒップホップにとって重要な要素になっている。

大和田 ルイス・フォンシ&ダディ・ヤンキーの〈Despacito〉もあんな曲ですし。

長谷川 あれ、コッテコテの**レゲトン**ですからね。

大和田 しかもスペイン語ですよ。この曲、50カ国以上で1位になってるんですよ。

長谷川 スペイン語圏の国だけではこの記録は作れないですよね。

プを発表し始め、17年にメジャー・デビューをはたす。ミーゴスのオフセットは夫。

★リル・キム：74年ブルックリン生まれ。兄貴分で恋人でもあったノトーリアスBIGが結成した舎弟グループ、ジュニア・マフィアでの活動を経てソロに。ゼロ年代前半までは順調に活動していたが、その後停滞。激太りや整形などゴシップ欄の常連と化してしまった。だが90年代リバイバルに後押しされる形で復帰。19年に久しぶりの正規アルバム『9』を発表している。

★クラーベ：アフロ・キューバン音楽においてリズムの骨格を形成するリズム・パターンのこと。

★ポリリズム：異なる拍のリズムが同時に演奏されること。アフリカの民族音楽〜ポップ・ミュージックにおいて3／4拍子と4／4拍子のポリ

CamScannerでスキャン

大和田　ここ2、3年、アジア以外の世界中のヒット曲のビートがダンスホールになってるんですよ。日本のチャートを見てると分からないけど、地球の3分の2くらいでヒットしているんじゃないでしょうか。〈恋のマカレナ〉（1993）のようなノベルティ曲ではなく、ふつうのスペイン語の曲がビルボードのトップ100の1位をとりつづける、そのときの大統領がトランプなんですよ。大統領が「壁を作るぞ」と威嚇する間に、壁の向こうの曲が流行っている。やっぱり政治の側から見るのと、文化の側から見るのとでは、見えてくる風景が違ってきますよね。

BTSとピンク・レディー

長谷川　非英語圏からのヒットというと、韓国の**BTS（防弾少年団）**のアルバムがビルボードのアルバム・チャートで7位を記録するという衝撃的な事件もありましたよね。

大和田　9月に発売された『Love Yourself 承［Her］』ですね。

長谷川　ビルボード・アワードのネット企画でアーティストの人気投票企画をやってたらBTSがダントツで1位になった。そのときは韓国の組織票じゃないかって

リズムはごく一般的である。

★レゲトン：ダンスホール・レゲエに影響を受けて、スペイン語圏のプエルトリコおよびパナマで生まれたダンス・ミュージック。

★BTS（防弾少年団）：13年にデビューした韓国の7人組ボーイ・バンド。音楽的にはR&B〜ヒップホップの要素が強い。17年にリリースした『Love Yourself: Her』がビルボード・アルバム・チャートで最高7位を記録。続く『Love Yourself: Tear』以降にリリースしたアルバム、EP

CamScannerでスキャン

日本のネトウヨが騒いでいたんですが、アメリカで本当に人気があったことが証明された。

大和田　女性グループではなく男性グループというのに驚きました。

長谷川　アメリカのティーン女子にとっては、アジア系男子ってアリなんですよ。

大和田　『glee／グリー』のハリー・シャム・ジュニアとか人気ありましたよね。

長谷川　潜在的に需要があったところに、彼らがアメリカに本格的に進出して大ヒットした。女優の**エマ・ストーン**がインタビューで「K－POPが好きだ」って言ってて、変わった子だなと思ったんですけど、ぜんぜん変わってなかったという。

大和田　エマ・ストーンはわりとサブカル好きなので（笑）。

長谷川　でも日本のニュース・メディアが黙殺していたのは本当にどうかなと思いましたね。**BABYMETAL**がトップ40に入ったときにはあれだけ騒いだのに。ただK－POPはJ－POPより売れて当然なんですよ。最初から世界のマーケットを意識してスウェーデンのソングライターやEDMのトラックメイカーを雇っていますからね。

大和田　ヒップホップの制作手法をポップスに落とし込むのが抜群にうまい。

はすべて首位を記録している。

★エマ・ストーン：88年アリゾナ生まれ。ジャズオタに評判がとても悪いミュージカル映画『ラ・ラ・ランド』（2016）でアカデミー主演女優賞を獲得している。

★BABYMETAL：アイドルとヘヴィメタルの融合をコンセプトに、10年にさくら学院の派生ユニットとして活動開始。海外のメタル・フェスにも積極的に参加。16年のアルバム『METAL RESISTANCE』は米国のビルボード・アルバム・チャートで39位、オーストラリアのARIA CHARTSでは7位を、19年の『METAL GALAXY』はビルボードで13位を、それぞれ記録した。

★Twice：15年に韓国のオーディション番組『SIXTEEN』で選ばれた9人のメンバーで結成された多国籍アイドル・グループ（韓国5人、日本3

長谷川 今韓国の人口って5200万弱ですけど、日本の人口が減ればJ－POPも世界マーケットを目指さざるをえなくなってくるのかもしれないけど。

大和田 その頃には鎖国しちゃうんじゃないかな。急激なグローバリゼーションに耐えきれずに鎖国してしまうという点で、今と17世紀の日本って似てるような気がします。でもそんなことはどうでもよくて、うちの子供もK－POPを聴いてますね。**Twice** なんて曲がいいですからね。

長谷川 Twice って日本人メンバーがいるんですよね。**少女時代**や**KARA**が流行った頃に海を渡った子たちがいたという。K－POPは5年も6年も修行させるんで、その子たちの努力がようやく実って Twice として活躍している。

大和田 K－POPはかわいいだけじゃなくて、「かっこいい」という要素が重要ですよね。

長谷川 30代以上の男に向けて作ってませんから。それはアメリカやヨーロッパのガール・グループもそうで、あくまで**トゥイーン**の女の子をマーケット対象にしている。

大和田 日本のアイドルは幼児性ばかりが強調されますよね。僕自身も1980年代のアイドル全盛の時代に育ったわけですが。

人、台湾1人）。当初から国際的な成功を狙っていただけあって、アジア全域のほかアメリカ公演もおこなっている。

★少女時代：07年にデビューした韓国の女性アイドル・グループ。日本をはじめアジア各国でも成功を収めたあと、アメリカ進出にも挑戦。11年にはテディ・ライリーの製作曲を含むEP『The Boys』をインタースコープからリリースしたが、総合チャート入りは逃している。

★KARA：07年にデビューした韓国の女性アイドル・グループ。10年の日本デビュー・シングル〈ミスター〉は初登場5位を記録。これは外タレとしてはノーランズ以来のトップ・テン・ヒットだった。16年に事実上解散。

★トゥイーン：ティーン以前、10歳から12歳の女児を指すマーケティング用語。

CamScannerでスキャン

長谷川　あの頃は同年代の男子に向けて歌っているという建前が一応あったじゃないですか。今は露骨に30代以上を狙ってますからね。

大和田　日本の女性アイドルのイメージが画一的なのも、結局はグローバルな展開を前提としていないからですよね。それだと、そういう幼児的なカルチャーが好きな外国人を惹きつけることはできるけど、それ以外には広がらない。とにかくBABAYMETALでも**Perfume**でもいいんですけど、世界進出を目指すならまずは英語版のビデオを作ればいいのにと思うんですよね。「JPOPが好きな外国人は日本語で聴きたいんだ」とかいうけれど、コアなファンがそんなことで逃げていくわけないんだから。ライトなファンが増えるだけで良いことしかないでしょう。

長谷川　**ピンク・レディー**の全米進出曲〈Kiss In The Dark〉ってヘタな英語で歌ってるんですけど、なんだかんだいってビルボード37位まであがっているんですよね。だから日本のアイドルも諦めてはほしくないですよね。

大和田　ぜひジャマイカン・イングリッシュ・バージョンを作ってほしいですね。で、カリブ方面からブレイクする（笑）。

［2017年9月26日、アルテスパブリッシングにて収録］

★Perfume：02年にデビューした広島出身の女性アイドル・グループ。プロデューサーに中田ヤスタカが参加したことで、音楽性の高いガール・グループとしてブレイク。海外公演も積極的に実施。アメリカのチャートでは成果を残せていないものの、韓国や台湾では継続的なチャートインを果たしている。

★ピンク・レディー：伝説のオープンマイク・バトル番組『スター誕生！』出身のガール・デュオ。阿久悠&都倉俊一コンビによる楽曲でミリオンセラーを連発した後に全米進出を敢行。レイフ・ギャレットのプロデューサーだったマイケル・ロイドの手によるディスコ・チューン〈Kiss In The Dark〉は79年に最高37位を記録した。80年にはNBCで看板番組を持つなど、当時としては大健闘した。

Big Sean
ビッグ・ショーン

I Decided.
2017
G.O.O.D. MUSIC

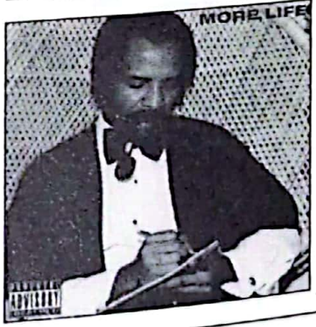
ヒットしたメトロ・ブーミン制作曲〈Bounce Back〉を収録した4作目。ミーゴスやザ・ドリーム、ジェレマイ、恋人のジェネイ・アイコ、そして地元デトロイトの大先輩エミネムといった多彩なゲスト陣が参加しているのだが、すべてが「人生の選択」というアルバムのテーマのもとに整然と配置されているのが印象的。ショーン曰く「師匠のカニエ・ウェストに学んだ成果なのさ」とのこと。 **H**

DJ Khaled
DJキャレド

Grateful
2017
Epic

マイアミの人気DJ兼プロデューサーが、豊富な人脈を駆使して送るリーダー作という名のコンピレーション第10弾。まだ生まれて数ヵ月の息子アサドくんをジャケットのモデルとアルバムのエグゼクティヴ・プロデューサーに据えた究極の親バカ・アルバムでもある。ゲストはスターばかり30組超！ リアーナが歌ったサンタナ〈Maria Maria〉ネタの〈Wild Thoughts〉が大ヒットを記録した。 **H**

Drake
ドレイク



More Life
2017
Young Money Entertainment

前作の方向性をさらに推し進めて、オーストラリアのハイエイタス・カイヨーテや南アフリカのDJブラック・コーヒーをサンプリング。ゲストにはギグスやジョルジャ・スミスら英国勢を多く招くなど、国際都市トロントの風土をより反映させたプレイリスト・アルバム。ストリーミングだけでおよそ25万7千枚相当を記録し、収録された全曲が全米シングル・チャートに同時ランクインした。 **H**

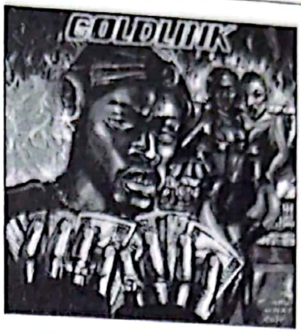
Future
フューチャー

Future
2017
Freebandz Entertainment

2018年を代表するヒット曲〈Mask Off〉（全米最高5位）を収録したヒット・アルバム（同1位）。同曲を手がけたメトロ・ブーミンをはじめ、ゼイトーヴェンやサウスサイドといったトラップ界のスター・プロデューサーがこぞってイイ仕事をしており、華のある主役を立てまくっている。本作のわずか1週間後にリリースされてやはり首位を獲得した『HNDRXX』と併せて聴きたい。 **H**

CamScannerでスキャン

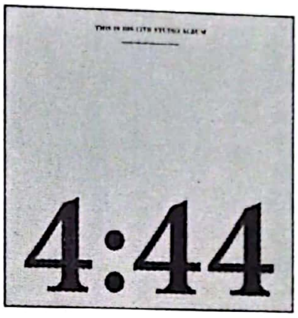
Goldlink
ゴールドリンク



At What Cost
2017
RCA

ワシントンDCという土地には特殊な磁場が働いているのだろうか。同地出身のラッパーによるメジャー第1作は、今どきのビート感覚を踏まえながら、ジャズやR&Bの伝統を汲んだコズミック・ファンクが全編にわたって展開される。制作陣はサーラーのタズやマット・マーシャンズなど。ワーレイやマイヤとといった地元の先輩が顔を出しているところにも、彼への期待度の高さを感じさせる。**H**

Jay-Z
ジェイZ



4:44
2017
Roc Nation

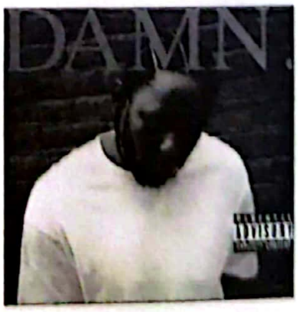
夫の浮気を告白して世間を騒然とさせた妻ビヨンセ16年の話題作『レモネード』へのアンサー（謝罪）アルバム。炎上騒ぎによって、消えかかっていた彼のクリエイティヴィティに火が付いたのか、近年最高に面白いリリックが怒濤の勢いで繰り出される。それでいて惨めに聴こえず、カッコよく聴こえるんだから、さすが帝王と言うべきか。ほとんどの楽曲を制作したノー・I・Dの手腕も素晴らしい。**H**

Joey Bada$$
ジョーイ・バッドアス

All-Amerikkkan Bada$$
2017
Cinematic

Pro-Eraの仲間カーク・ナイトを筆頭に、DJカリル、スタティック・セレクター、I-900らが手がけたセカンド作。90年代東海岸ヒップホップ新伝承派なのは相変わらずだけど、本人の成長（このとき22歳）に沿ったのか、R&Bネタを用いたアダルトなトラックが増えているのが印象的。そして良い意味でポップになった。ゲストはスクールボーイQ、スタイルズ・P、J・コールなど。**H**

Kendrick Lamar
ケンドリック・ラマー

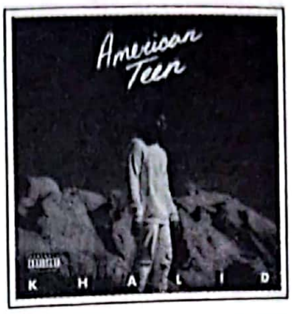


DAMN.
2017
Top Dawg Entertainment

〈Humble.〉とリアーナとの共演曲〈Loyalty.〉という二大ヒット曲をフィーチャーした本作、当初は前作のようなコンセプト・アルバムではないと思われていたが、曲順を逆にするとケンドリックのメッセージを本当に理解できるという仕掛けが施されていることが明かされ、その文学性と構成力に絶賛の嵐が吹き荒れた。なお本作で彼はラッパーとして初めてピューリッツァー賞を受賞している。**H**

CamScannerでスキャン

Khalid
カリード



American Teen
2017
RCA

98年ジョージア州生まれのカリードは、高校時代にサウンドクラウドに自作曲をアップしはじめ、「スマホで君の居場所をぼくに送ってよ、実際に会って話し合おう」と歌う〈Location〉でブレイクした、ミレニアル世代の権化のようなシンガー・ソングライター。本作はデビュー・アルバムで、文字通り10代の生活が歌われる。この青年団的な朴訥さと爽やかさも「ひとつのリアル」である。
H

Lil Uzi Vert
リル・ウージー・ヴァート

Luv Is Rage 2
2017
Atlantic

ミーゴスの大ヒット曲〈Bad And Boujee〉に客演したことで一躍注目されたフィリー出身のリル・ウージー・ヴァートのデビュー・アルバム。後見人ドン・キャノンやワンダガール、メトロ・ブーミンらが手がけたトラックに乗って硬質な（本人曰くロック・スターな）フロウを聴かせる。〈XO Tour Lif3〉は最高7位のヒットを記録。ファレルが制作したガムラン風味の〈Neon Guts〉も聴きもの。
H

Logic
ロジック

Everybody
2017
Def Jam Recordings

快調なペースでリリースしたメジャー第3弾。米政府が提供する自殺防止ホットラインの電話番号をタイトルに冠し、カリードやアレッシア・カーラら若手シンガーと「生きろ」と呼びかけるメッセージ・ソング〈1-800-273-8255〉が大きな反響を呼んだ。両親ともにコカインやアルコールの中毒に侵されていた環境で育った彼だからこそ、そのメッセージは嘘偽りを感じさせず、真摯に響く。
H

Migos
ミーゴス

Culture
2017
Quality Control Music

アトランタのMCトリオが、〈Bad And Boujee〉の全米1位の勢いそのままに送り出したブレイク作。「これにどう乗ればいいのか」と門外漢なら困惑してしまうこと間違いなしのトラップ・ビートの上で繰り広げられる複雑なマイク・リレーと合いの手からなる華麗なコンビネーション芸は、血縁関係のなせる技だろう（従兄弟、叔父甥の関係）。ゲストは2チェインズやトラヴィス・スコットら。
H

CamScannerでスキャン

Thundercat
サンダーキャット

Drunk

2017
Brainfeeder

ケンドリック・ラマー『To Pimp A Butterfly』に多大な貢献をしたベーシストがフライング・ロータスのレーベルからリリースした意欲作。マイケル・マクドナルドとケニー・ロギンズを招いたヨット・ロック風味のリード曲〈Show You The Way〉をはじめエレポップにも挑戦するなど、ともすればお堅くまとまりがちなジャズ・ヒップホップ関連作を笑い飛ばすかのような自由さが痛快だ。 **H**

Vince Staples
ヴィンス・ステイプルズ

Big Fish Theory

2017
Def Jam Recordings

LAビート・シーンで活動するザック・セコフをはじめ、GTAやジミー・エドガーらダンス系プロデューサー、そしてジャスティン・ヴァーノンにトラックを委ねることで、エレクトロ方面に大きく舵を切ってみせたセカンド作。EDMではなくヒップホップとして成り立たせているのは見事。客演陣にはエイサップ・ロッキーやケンドリック・ラマーのほか、デーモン・アルバーンなんて名も。 **H**

SZA
SZA

Ctrl

2017
Top Dawg Entertainment

90年ニュージャージー生まれ、ケンドリック・ラマーを抱えるTDE初の女性アーティストとなったことで知られる彼女の正式なデビュー作。ネオ・ソウルとチルウェイヴの良いとこ取りをしたトラック上で、イマジネイティヴな詞を柔らかく歌うスタイルは、テン年代の女性R&Bシンガーのあり方を端的に示している。ゲストはケンドリック、アイザイア・ラシャド、トラヴィス・スコットら。 **H**

Tyler, The Creator
タイラー・ザ・クリエイター

Flower Boy

2017
Columbia

親友のエイサップ・ロッキーやフランク・オーシャンら身内から、大物のリル・ウェインやファレルまで幅広いゲストを招いたオッド・フューチャーのリーダーによる4作目。しかし最も注目すべきは本人の手によるプロダクションの充実ぶり。デビュー当初のサウンドの歪さ、エッジーさをキープしながら、ディテールの処理は驚くほど繊細。ミュージシャンとして格段の成長を遂げているのだ。 **H**

CamScannerでスキャン

第５部

アメリカで一番聴かれる音楽に

2018年のヒップホップ

CamScannerでスキャン

『ブラックパンサー』とヒップホップ・カルチャーの勝利

長谷川 みなさんお集まりいただき、ありがとうございます。今日は2018年を振り返るということで、お話ししていこうと思います。

大和田 でも、**まだ10月**ですよ？

長谷川 そうなんですよね。アメリカでは感謝祭のあと、10月終わりから12月頭くらいにかけて話題作や大物のアルバムが出ちゃうので、2018年を振り返られるのかという心配はあるんですが、みなさん楽しんでいただければと思います。では、トップ・ニュース！『**ブラックパンサー**』の半端ないメガヒット。

大和田 映画からですか？ ヒップホップと関係なさそうですが。

長谷川 これはヒップホップ・カルチャーの勝利ということなんです（笑）。

大和田 2018年を振り返るのにいきなり『ブラックパンサー』というのはなかなか。

長谷川 ツカミにしたかったというのもあるんですけど（笑）。アメリカ国内では『**アベンジャーズ／インフィニティ・ウォー**』よりヒットしてるんですよ。

大和田 あ、そうなんですか。

★まだ10月：元になった対談の収録は10月でしたが、書籍化にあたって11月以降の話題を加筆しています。

★『ブラックパンサー』（映画）：18年に公開されたマーベル・シネマティック・ユニバースの一作。監督はライアン・クーグラー。同名のコミックを元にした作品であり、主演のチャドウィック・ボーズマン、マイケル・B・ジョーダンはじめ、ルピタ・ニョンゴ、ダニエル・カルーヤなどキャストのほとんどがアフリカ系で占められた。18年興行収入1位。

長谷川　宇宙の全人口の半分が消え去る大事件を描いた超大作に、アフリカの小国の内輪揉めを描いた映画が勝ってるんですよ。

大和田　しかもほぼオール・アフリカ系のキャストで。

長谷川　アメリカではアフリカ系の人たちは12・5%くらいしかいないので、白人やヒスパニック、アジア系、みんなが見に行ったくらいの大ヒットだったんですね。だからこれはヒップホップ・カルチャーの勝利じゃないかと思っています。

大和田　テニスの大坂なおみさんも、キルモンガー役の**マイケル・B・ジョーダン**が大好きらしいですね。それでマイケル・B・ジョーダンが自分の半裸の写真を大坂さんに「あげるよ」なんて言ってるそうです。すごくないですか？　自分のことを好きだって言ってる女の子に自分の半裸の写真をあげるって。そんなことできます？

長谷川　わけわかんないですね（笑）。ただ、『ブラックパンサー』はアフリカ系的にいうと「イケメン大会」なんですよね。

大和田　なるほど。ぼく、じつはこの話にいまいち納得がいっていなくて。ヴィブラニウムという特殊な鉱石を有するワカンダが一国平和主義を貫くか、それとも世界の平和にコミットするかという思想的な対立が軸になっていて、最終的には

★『アベンジャーズ／インフィニティ・ウォー』：18年に公開されたマーベル・シネマティック・ユニバースの一作。アイアンマン、キャプテン・アメリカ、ソー、ハルクなどマーベル・コミックスのスーパー・ヒーローが勢揃いする作品で、12年『アベンジャーズ』、15年『アベンジャーズ／エイジ・オブ・ウルトロン』の続編にあたる。18年興行収入2位。

★マイケル・B・ジョーダン：87年生まれ。ライアン・クーグラー監督の映画『フルートベール駅で』(2013)と『クリード』(2015)に主演、頭角を表す。『ドラゴンボール』の熱烈なファン。

後者に傾く。でも、荒っぽいとはいえ、悪役のキルモンガーもその父親も、思想的には後者ですよね。なのに2人は殺されてしまう。しかも現実のブラック・パンサーは武装闘争路線で知られるわけで、いろいろおかしいんじゃないかと。

長谷川 キルモンガーは先進国を全滅させるくらいアナーキーなことを考えていたから倒さざるをえない。でも同時にブラックパンサーは彼から現実世界にコミットする姿勢を学ぶんですよ。これ、黒人運動をどういうムーヴメントにしていくかっていうディスカッション映画になっているんですね。

大和田 黒人が黒人社会の中だけで閉じていてはいけないんだということですよね。

長谷川 キルモンガーが言ってることはほとんど**エルドリッジ・クリーヴァー**と同じですよね。現実の黒人解放組織だったほうの**ブラックパンサー党**の過激派だった。で、最後に主人公がワカンダの領事館を置くのがカリフォルニアのオークランド。これってブラックパンサー党の本拠地ですよね。

大和田 そうそう。

長谷川 監督のライアン・クーグラーもオークランドの人なんです。

大和田 あ、そうなんですか。

長谷川 そうなんですよ。『フルートベール駅で』(2013)という地元の実際の事件

★エルドリッジ・クリーヴァー：1935-1998。アメリカの作家、アクティヴィスト。60年代後半に結成されたブラックパンサー党の「情報大臣」であり「国際部長」。警官襲撃の罪に問われたが保釈中にキューバ、アルジェリアに逃亡、北朝鮮とも協力関係を結ぶ。77年に帰国後はキリスト教やモルモン教に入信、のちにコカイン中毒に陥り、晩年は共和党支持者となった。

★ブラックパンサー党：66年にカリフォルニア州オークランドで結成された黒人政治団体。ボビー・シールとヒューイ・ニュートンによって創設された。武装した自警団によってオークランド警察を監視する目的で結成されたが、イギリスやアルジェリアにも支部を持つ国際的な団体へと発展。武装闘争を辞さず、共産主義の影響を受けた思想は論

CamScannerでスキャン

を扱ったマイケル・B・ジョーダン主演の映画で注目されて、次が『クリード』(2015)で、その次が『ブラックパンサー』。普通だったら成功に伴ってどんどんストリートから離れていくはずなのに、『ブラックパンサー』でまた地元に帰ってきたんですよ。

大和田　レペゼン・オークランドだったということですね。**サントラ**をケンドリック・ラマーが仕切ったのも話題になりましたよね。

長谷川　ブラック・シネマのサントラって雑多な感じなものが多いんだけど、ケンドリックのキュレーションが行き届いていて統一感がありましたね。そういえばマイケル・B・ジョーダンが主演した『クリード2』のサントラもリリースされたんですけど、そっちはマイク・ウィル・メイド・イットが仕切っていて、なかなか良かったですよ。

ケンドリック・ラマーのピューリッツァー賞受賞

長谷川　ということで、次のニュースはこちら。ケンドリック・ラマーが**ピューリッツァー賞**を受賞したという大ニュースです。ただ、それ以上に衝撃的だった

争を呼んだ。

★ライアン・クーグラー：86年生まれ。カリフォルニア州オークランド出身。南カリフォルニア大学映画学校在学中に監督した短編がトライベッカ映画祭などで入賞。初の長編『フルートベール駅で』(2013)がサンダンス映画祭でドラマ部門のグランプリと観客賞を受賞。

★サントラ：『Black Panther: The Album』(2018)。映画の劇伴をルドウィグ・ゴランソンが担当、主題歌や挿入歌をケンドリック・ラマー、SZA、スクールボーイQ、ジェイ・ロックなどのTDE勢に加えて、ユゲン・ブラクロクやサウウディなど南アフリカのミュージシャンが手掛けた。

★ピューリッツァー賞：ジャーナリズム、文学、音楽の分野の功績に授与される賞。新聞業で財を成したジョセフ・

ニュースが昨年にあって。ケンドリックが自分の妹の誕生日にトヨタ・カムリをプレゼントしたんですね。

大和田 トヨタ・カムリですよ。ラッパーなのに。ポルシェくらい買えよって(笑)。

長谷川 燃費はいいし荷物もいっぱい載せられるけど。でもみんなびっくりしましたよね、「なんて堅実なんだ!」って。しかも色はシルバーで。初心者ドライバーはあちこち擦るからシルバーが一番キズが目立たなくていいんですけど。普通ラッパーがそういう車をプレゼントします?

大和田 でもケンドリックっぽいですよね。

長谷川 これは「お兄ちゃんありがとう」って妹がTwitterに晒したことで、世界中に衝撃を与えたんですね。

大和田 「カムリなんだ……」っていう(笑)。そういえば、ぼく、ケンドリック・ラマーに会いましたよ。NHKの番組で。

長谷川 どんな感じでしたか?

大和田 本当に物静かな青年なんですよ。ラッパー色ゼロ。一般的にラッパーってクルーを連れて肩で風を切りながらやってきそうじゃないですか。ひとりでおと

ピューリッツァーによって1917年に創設され、ニューヨークのコロンビア大学によって運営される。

なしく入ってきて挨拶して、優等生みたいな。

長谷川　ほかにピューリッツァー賞をアフリカ系の音楽家で受賞したのは、ジャズのウィントン・マルサリスだけでしたっけ？

大和田　ウィントンが90年代に1回取って、あとは現代音楽とかクラシックとかのいわゆる芸術音楽の人に与える賞なんです。こういう売れてる人にあげたのは初めてでしょうね。でも、ノーベル賞をボブ・ディランが受賞したように、賞の側も知名度をあげていこうとしたんでしょうね。

長谷川　ケンドリックはそれにふさわしい人だと思われたと。

大和田　申し分のない候補だと。

ヒップホップがアメリカで最も聴かれるジャンルに

長谷川　さて、ここからが本題なんですが、2018年はついにヒップホップが一番アメリカで聴かれる音楽になった年なんですよね。

大和田　これ、『文化系2』のあとがきでも2人で話してるんですが、本当にすごいことだと思います。今、アメリカでティーンエイジャーが「よし、音楽やろ

う」となったときに無意識の音楽的なコンテクストがヒップホップになったということです。ヒップホップという特定のジャンルにコミットしようという時代ではなくなって、漠然と音楽をやろうと思ったら、それが自動的にヒップホップ的な手法で作られることになると。これはたぶん想像以上に大きなことで、ポスト・マローンがヒップホップかそうじゃないかっていう議論が本国でも日本でもありましたが、その議論そのものがもはや無効になっているというか。

長谷川　今日もってきた**資料**は売上げが販売形態別でわかるんですけど、「フィジカル（CDアルバム）」のシェアだとR&B／ヒップホップは15・6％しかなくて、ロックが42％なんですね。3倍近くロックが売れている。

大和田　ようするに年配の方々がCD買ってるってことですよね。

長谷川　有料ダウンロードでもまだロックが勝っているんです。でもストリーミングになるとヒップホップの圧勝で、トータルではヒップホップが26・9％で第1位。ロックとポップスは合わせても26・6％しかない。

大和田　ヒップホップ聴いてる人が有料ダウンロードしてるイメージはあまりないですよね（笑）。

長谷川　なんでダウンロードに金払わなきゃいけないんだって（笑）。

★資料：「『ヒップホップの売上がロックを超えた』売上データから読み解くUSシーン（前編）」https://suki-katte.jp/2017report-hiphop-sales-01/

大和田　思想的にもヒップホップと有料ダウンロードって全然一致しませんよね。

長谷川　でも、広告を聞かされる代わりに音楽はただで聴けるというフォーマットができたことで、それで食えるヒトが出てきた。今までミックステープってラッパー側は一銭も儲からなかったじゃないですか。チャンス・ザ・ラッパーもミックステープで名を売って、ライヴで稼ぐってビジネス・モデルだった。でも今はチャンスだってストリーミング・サービスからお金をもらっているはずなんですよ。もはやフィジカルではアルバムを出さないっていうだけの人になっている。

大和田　時代がチャンスに追いついたってことなんですね。ストリーミングが普及してから5、6年しかまだ経ってないですけどね。非常に展開が早い。

長谷川　ヒップホップとは関係ないですけど、日本でも松任谷（荒井）由実さんがストリーミングに乗り出して。

大和田　日本のあの辺りの人たちも続きますかね。山下達郎さんはSpotifyの音質だと満足しないと思いますけど。

長谷川　TIDALが日本に進出してくるまで待つんじゃないですかね。

大和田　ジェイZと達郎さんが音質で共鳴するってすこし面白いですけど。

ストリーミングが変えるアルバムの姿

長谷川　ストリーミングが主流になって20曲以上入ったアルバムをダラダラ聴く時代が到来したと思います。2018年のシーンを代表するミーゴス『**カルチャー2**』、ドレイク『Scorpion』、トラヴィス・スコット『Astro World』、リル・ウェイン『Tha Carter V』といったアルバムはどれも23曲とか25曲とか入ってるんですよね。

大和田　フィジカルで出してないのに「3枚組」とか言うんですよね。レイ・シュリマーの『SR3MM』も3枚組27曲とか。それって意味あるのかなって（笑）。

長谷川　セールスの嵩上げを狙ってるのかもしれない。

大和田　実際にSpotifyを使ってる人ならわかると思いますが、一度再生ボタンを押したらそのまま次々と曲が再生されるじゃないですか。曲が流れれば流れるほどミュージシャンに印税が入るので、そのために曲数を増やすわけです。ドレイクの『Scorpion』は一時期ビルボードに全曲チャートインしたんですよ。

長谷川　みんなSpotifyを流しっぱなしでBGMのように聴いてると。

大和田　そうすると25曲全部ヒットして、あっという間にビートルズが持っていたトップ・テン内同時ランクインの記録を塗り替えた。でもそうなりますよね。

★『カルチャー2』：アトランタを拠点とするヒップホップ・トリオ、ミーゴスの3枚目のアルバム。中華料理をモチーフにした〈Stir Fry〉、ニッキー・ミナージュとカーディ・Bをフィーチャーした〈Motor Sport〉、60年代のグループ、フェスティヴァルズの曲をサンプリングした〈BBO〉など聴きどころ満載。

長谷川　みんな多作なんですよ。ミーゴスのリーダー格のクエイヴォが最近出したソロ・アルバム『Quavo Huncho』が19曲入り。で、2019年には『Culture 3』が出るらしい。

大和田　『Culture 2』って1月に出たアルバムで、僕は大好きなんですけど、大昔のように感じますよね。早いですよね。

長谷川　このあたりのアルバムでは何が良かったですか？

大和田　トラヴィス・スコットの『Astro World』が2018年を代表する1枚かなと思います。**デイヴ・マイヤーズ**が監督をした〈Sicko Mode〉のMVを見ながら聴いてみましょう。マイヤーズはミッシー・エリオットのビデオをずっと撮っていたり、最近ではケンドリックの〈Humble〉も撮っています。かっこいいですよね。

長谷川　ちなみにこのアルバムのいいところは？

大和田　地元ヒューストンに昔あって子供の頃によく遊んだテーマパークを懐かしむというコンセプトがしっかりしているし、なにより今年のトレンドでもあった、曲の途中でビートが変わるビート・スイッチをかっこよく使っているなあと。ビート・スイッチって、単調になりがちなヒップホップの曲にいかに変化をつけ

★デイヴ・マイヤーズ：72年生まれ。アメリカの映像監督。90年代後半から活動を始め、ケイティー・ペリーやPink、ミッシー・エリオットのミュージック・ビデオを多数手掛けている。最近の作品にケンドリック・ラマー〈Humble.〉やビリー・アイリッシュ〈Bad Guy〉など。

CamScannerでスキャン

るかという実験でもあると思っていて。

長谷川　いわゆる**オートチューン・ラップ**の完成形って感じがしますよね。あと統一感もある。プロデューサーがすごい数クレジットされているんですけど、実際はトラヴィス・スコット本人が最後まで粘って音を付け加えていたらしいですね。

大和田　このアルバムと比べると、ようやく出たリル・ウェインの『Tha Carter V』の古くささがどうしても気になってしまう。

長谷川　悪くはないんですけどね、横綱相撲的な感じで。これ、おそらくキャッシュマネーと揉めていた時期に録音していたマテリアルのお蔵出しだと思うんですよ。ようやく契約を解除できて自由の身になったようなので、リル・ウェインに関しては次のアルバムに期待したいですね。

★オートチューン・ラップ：音程補正用ソフトウェアの「オートチューン」によって声を加工し、いわゆる「ロボ声」でラップするスタイル。南部を中心に流行。

週刊カニエ・ウェスト

長谷川　次のニュースは「週刊カニエ・ウェスト」です。25曲入りや27曲入りアルバムに対抗して、カニエ・ウェストは7曲入りアルバムを5枚立て続けに5週連続で出して、話題を呼びました。

大和田　プシャ・T、カニエ、**キッズ・シー・ゴースツ**、ナズ、**ティヤナ・テイラー**の順番でしたっけ。話題は呼んだんですけど、さほど評価は高くなかったような。『Kids See Ghosts』とかは個人的に好きなんですけど。

長谷川　キッズ・シー・ゴースツはカニエとキッド・カディのユニットですよね。今一番売れているドレイクとトラップ勢のオリジンは、カニエの『808s & The Heartbreak』にあるわけですが、そこで貢献したカディとまた組むことで、「俺たちがオリジナルだ」と主張したいっていう意図も感じましたね。プシャ・Tの『Daytona』もバキバキのラップ・アルバムで良かった。7曲入りっていうのがミソで、曲数が増えている現状に対して、曲を覚えてもらいたいとか、このほうが聴きやすいんじゃないかって意思を感じます。

大和田　町蔵さんは一貫して「カニエは逆張り野郎だ」と言ってますよね。この前『ニューヨーカー』の記事を読んでいたら、カニエ・ウェストは「保守」なのではなく「Contrarian」なんだって書かれていて。「Contrarian」ってまさしく「逆張り野郎」です。だから同じことを言ってる人がいるなと思って（笑）。

長谷川　今はアメリカ本土で録音してるんですよね。

大和田　この連続リリースのあとに『**ミュージック・マガジン**』で町蔵さんとカニ

★キッズ・シー・ゴースツ：Kids See Ghosts。カニエ・ウェストとキッド・カディによって結成されたデュオ。18年6月8日に同名のアルバムをリリース。

★ティヤナ・テイラー：90年生まれ。アメリカのR&Bシンガー、ソングライター、モデル。05年にファレル・ウィリアムズのレーベルと契約、その後12年にカニエ・ウェストのGOOD Musicに移籍、14年にアルバム『VII』をリリース、18年6月23日に『K.T.S.E.』を発売。

★『ミュージック・マガジン』：カニエ・ウェストを第2特集で取りあげた2018年9月号。

CamScannerでスキャン

エについて対談をしたんですよ。その時、カニエはこれまでハワイで録って、パリで録って、この前のアルバムはワイオミングの牧場で録った。黒人がひとりもいないような南部の牧場にアトランタのラッパーが勢揃いして、っていう話になって。そしたら町蔵さんが「彼はリアリティ・ショーのセレブだからそういうところに行かないといけない」って。

長谷川 人里離れたところに行かないとレコーディングに集中できない。

大和田 それで「次はどこ行くんですかね」って町蔵さんが言うから、「埼玉に来ればいいいんじゃないですかね」とか適当なこと言ったんですよね（笑）。村上隆のアトリエがあるし、埼玉だったらパパラッチも来ないだろうし。対談のあとに分かったんですけど、なんとウガンダだったと（笑）。

長谷川 そのウガンダでも独裁者の**ヨウェリ・ムセベニ**と語らっちゃったりして、ちょっと顰蹙を買ってるという（笑）。それと「俺はいまアフリカにいて、**フェラ・クティ**の魂を体で感じている」って言ったら、フェラ・クティの息子シェウンに「彼の回りには一片たりとも父の魂は漂っていません」って断言されちゃったという（笑）。

大和田 全否定（笑）。かわいそうに。

★ヨウェリ・ムセベニ：44年生まれ。1986年以来ウガンダの大統領を務める。HIV／エイズへの対応など評価される業績もあるが、腐敗や人権問題など多くの課題が指摘されている。

★フェラ・クティ：1938–1997。ナイジェリア出身のミュージ

長谷川　ただティヤナ・テイラーの〈Gonna Love Me〉のリミックス・バージョンに、最近また人気が再燃しているウータン・クランからメソッドマン、レイクウォン、ゴーストフェイスを招いたりして、プロデューサーとしては相変わらず鋭いですよね。

大和田　そういえばメジャー・デビュー25周年だったせいか、ウータンは露出が多かったですよね。ロジックのアルバムに全員でゲスト参加したり、タイニー・デスク・コンサートに出演したり。

長谷川　17年に『**DEUCE／ポルノストリート in NY**』っていう70年代のニューヨークのセックス産業を描いたドラマが放映されて、それにメソッドマンがピンプ役で出演していたんですけど、「この人こんなに演技が巧かったのか」ってぐらい凄くて。そういう活動も効いてきた気がしますね。

カーター家、ルーヴルへ行く

長谷川　次はビヨンセとジェイZの The Carters（カーター家）です。

大和田　この人たちの行く末については『文化系1』の頃から注目していました。

シャンでアクティヴィスト。アフロビートの創始者であり、70年代以降、アフリカ大陸を代表する音楽家として世界的に名声を獲得する。

★『DEUCE／ポルノストリート in NY』：17年9月10日にHBOで放映されたアメリカのテレビドラマ・シリーズ。70年代のニューヨークを舞台にポルノ産業の台頭を描く。ジェームズ・フランコとマギー・ジレンホール主演。

人がいかに成り上がっていくかのモデルケースとして。スポーツカー、大豪邸、パーティってフェーズがあったじゃないですか。その後に**ニューヨーク近代美術館**（MoMA）に行ったんですよね。つまり、人はドンペリのあとにアートに行くと。Tシャツで美術館に行くようになるんだなと思いましたね。

長谷川 彼らの〈Apeshit〉をちょっと見てみましょう。このMVはルーヴル美術館で撮ったんですよね。

大和田 しかもこれ、ルーヴルを貸し切ってる。

長谷川 ふつうBBCやNHKじゃないとこんなところにカメラは入れられないと思うんですけどね。思ったのは「この人たち、絵の価値がわかっているのかな?」って。よく分かってないから「モナ・リザ」ばかりMVに出てくる。グッゲンハイム美術館でライヴをやった妹のソランジュのほうが数段オシャレ。

大和田 そりゃそうですよ。カーター夫妻はセンスの良さで売ってるのではなく、あくまでも成り上がりの過程にMoMAがあってルーヴルがあるわけですから（笑）。まあ姉妹で棲み分けをしないと、ってことなんでしょうね。

長谷川 ビヨンセはアフリカ系女性のプライドみたいなものをすべて背負ってモナ・リザの前に仁王立ちしなきゃいけないけど、ソランジュは楽ですよね。背負わな

★ニューヨーク近代美術館：ニューヨーク市マンハッタンのミッドタウンに位置する美術館。通称MoMA（モマ）。近現代美術専門の美術館として、現代美術の発展に大きく寄与してきた。建築、デザイン、写真など従来の美術作品以外の分野の企画展示を積極的におこなう。

CamScannerでスキャン

くていいから。このMVを見て思ったのは、功成り名を遂げるとヒップホップ・ダンスからも離れるんだなあってこと。振り付けが完全にコンテンポラリー・ダンスになっている。

大和田　ジェイZは〈Picasso Baby〉（2013）のPVも、美術ギャラリーに**マリーナ・アブラモビッチ**というパフォーマンス・アーティストを連れてきて撮影してました。〈Apeshit〉はファレル・ウィリアムズのトラックですね。

長谷川　これ実質的にはミーゴスのカバーなんですよね。ライターとしてミーゴスの連中がクレジットされているし、ミーゴス版もネットに出回っている。それを聴くとビヨンセのヴォーカル・パートはほぼ完コピなんです。話によると、ミーゴスはファレルから2つトラックをもらって、〈Stir Fly〉ってシングルになった曲とこの〈Apeshit〉を同じ時間帯に録音した。突貫作業に聞こえるかもしれないけど、ミーゴスってトラックを最初に聴いたときから15分以内でリリックができなかったら諦めるっていうポリシーを持っている人たちなので。

大和田　そうなんですね。もう少し頑張ってみよう、とは思わないんだ。

長谷川　でも15分で曲を作れるわけだから、アルバムに収録しなかった曲がものすごい数ある。そのひとつをジェイZが買いとった。

★マリーナ・アブラモビッチ：46年生まれ。ユーゴスラヴィア出身の世界的なパフォーマンス・アーティスト。自分の体に傷をつけるなど、身体の限界を問うようなパフォーマンスで知られる。

大和田　じゃあ、ミーゴスの残り物をカーター家が拾ったみたいな。

長谷川　そのくらい今のミーゴスはすごい。

炎上し続けるカニエ・ウェスト

長谷川　ここからはビーフ・コーナーということで。

大和田　今年はいっぱいありましたね〜。

長谷川　ひとつ目が、トランプ支持のカニエ・ウェスト対T.I.やニプシー・ハッスル、スヌープ・ドッグといった人たち。

大和田　これはビーフっていうよりもカニエ・ウェストがみんなにボコボコにされてます。この前調べてて思い出したんですけど、カニエがトランプを支持してる理由が分かった気がしたんですよ。あの事件覚えてます？　２００９年のＭＴＶビデオ・ミュージック・アワードでテイラー・スウィフトが受賞スピーチをしている最中に突然カニエがマイクを奪って「お前じゃなくてビヨンセが最高のビデオだったんだ」って言ったの。あの時、オバマがオフレコでカニエのことをどう思うかと訊かれて「He is a jackass」って言ったんですよ。「あの間抜けが」って。

カニエはたぶんそれを根に持ってる（笑）。その後にトランプが「あいつはいいやつだ」って言ってるんですね。だから自分を罵倒した黒人大統領を恨んで、そのタイミングで自分を褒めてくれた白人の金持ち、後の大統領を支持するようになったんじゃないかと。

長谷川　それに対してみんな怒っている。ニプシー・ハッスルには〈ファック・ドナルド・トランプ〉ってヒット曲があるんですけど、最近はその曲をパフォームするときトランプじゃなくてカニエの写真をスクリーンに映している。

大和田　カニエは最近もまったく懲りてないですよね。この人、「400年間のアメリカの奴隷制は黒人が自分で選び取ったものだ」って発言したんですよ。あれはまずい。トランプ支持まではまだギリギリ、ネタとして受け入れられたけど、奴隷制についての発言は、もうウガンダに逃げるしかないですよね。アメリカにいられなくなってしまった。

長谷川　でもヒップホップが好きじゃない人にカニエの悪口は言ってほしくないなあ。

大和田　なんですか、それは？（笑）

長谷川　ヒップホップのファンとしてはディスりたいんですよ。でも関係ない奴ら

CamScannerでスキャン

が言うのはなんか腹が立つんですよ。ロクにヒップホップを聴いてもいやしないのに、カニエはひどいけどテイラー・スウィフトは偉い、みたいなこと言う奴とか。テイラーだってね、わからないですよ、過去どんな人に投票してきたのか。今回は旗幟を鮮明にしただけで。

大和田　これまで政治的な発言を一切してこなかったテイラーが、テネシー州の上院選で民主党候補の支持を公言したんですよね。そうしたらアメリカのネトウヨたちが「俺たちアーリア民族の女神が！」って激怒したんですね。すごい連中を炙り出したなと。

フィメール・ラッパーの席はひとつだけ

長谷川　次のビーフ。ニッキー・ミナージュ対カーディ・B。

大和田　ここはなるべくしてなったという感じですね。カーディ・Bの勢いがすごいので、いずれぶつかるだろうなと。

長谷川　最終的にはニューヨーク・ファッション・ウィークでカーディがニッキーに向かって靴を投げつける事態にまで発展した。カーディ曰く「ニッキーが自分

★フォクシー・ブラウン：78年生まれのラッパー。90年代後半に活躍し、アルバム『Chyna Doll』(1999) はビルボード・アルバム・チャート1位を獲得。ナズが提案したスーパーグループ、ザ・ファームにAZ、コーメガとともに参加した。

★イヴ：78年生まれのラッパー、女優。90年代末から00年代初頭にかけて活躍した。スウィズ・ビーツが多くの曲をプロデュースしたデビュー・アルバム『Let There Be Eve...Ruff Ryders' First Lady』

の子どもにケチをつけたから」とのことだけど、真相は謎に包まれている。まあ、それ以前に人気フィメール・ラッパーの席がいつもひとつしかないのが問題ですよね。クイーン・ラティファ、リル・キム、**フォクシー・ブラウン**、**イヴ**と続いて、ここ最近はずっとニッキーの天下だった。もっと並行して沢山のラッパーが活躍してもいいのに。**ラプソディ**とか良いラッパーはいるんですけどね。

大和田　いちおうイギー・アゼリアとかアジーリア・バンクスとかいろんな人が出てくるんですけど、お騒がせキャラだったりして自滅している感じもありますよね。

長谷川　ニッキーはああ見えてけっこう人格的にも安定しているんでしょうね。でも新作の**『Queen』**はちょっと守りに入った感じでイマイチでしたね。

大和田　一方カーディ・Bはアルバムもバカ売れしていて。ただし彼女の勢いのひとつに、ミーゴスのオフセットとの結婚騒動があったけど、そっちはオフセットの浮気が原因で危ないことになってます。

長谷川　カーディ・Bのステージに花束を持ったオフセットが乱入してきて「俺が悪かった。ヨリを戻してくれ」って公開復縁プロポーズしたりして、虚実入り乱れた展開になってきていますね。

（[illegible]）はアルバム・オブ・ザ・イヤー賞を獲得。

★ラプソディ：83年生まれ。同郷の9th Wonderのアルバム『The Dream Merchant Vol.2』（2007）でレコーディング・デビューを果たし、翌年ミックステープをリリース。16年にはジェイZのRoc Nationと契約。最新作『Eve』（2019）のすべての曲に〈Nina〉（Nina Simone）、〈Afeni〉（Afeni Shakur）など、黒人音楽史や黒人史上、重要な功績を残した女性の名前が冠せられている。

★『Queen』：ニッキー・ミナージュが18年にリリースした4枚目のオリジナル・アルバム。日本のビデオゲーム「ストリートファイターII」のキャラクター名から取られた〈チュン・リー〉やアリアナ・グランデをフィーチャーした〈ベッド〉などを収録。

CamScannerでスキャン

大和田　これがカーディ・Bの出身でもあるリアリティ・ショー的に発展していくのか。見ものではありますね。

変質したヒップホップのルール

長谷川　次、ドレイク対プシャ・T。

大和田　これを追ってた人います？

長谷川　簡単に言うと軟派対硬派って感じですよね。

大和田　これはけっこう本格的でしたね。

長谷川　プシャ・Tの攻撃は単なるディスを超えて「噂の真相」の域に達してました。

大和田　次々に繰り出す攻撃材料が完全に用意していたかのようでしたよね。ドレイクって子役のスターだった人で、その頃に顔を黒塗りにするブラックフェイスを雑誌のフォト・セッションでやってたんですね。

長谷川　自分はライトスキンだけど、十把一絡げで黒人として扱われてしまうんだよっていう記事で顔を真っ黒に塗ってたんですね。良くはないけど、文脈はそう

いう文脈であったわけです。その写真だけ切り取ってプシャ・Tは攻撃した。

大和田 19世紀以来、**ミンストレル・ショー**などでブラックフェイスは黒人差別に利用されてきた歴史があるので、アメリカで絶対に許されないことのひとつなんです。その写真を、タイミングを図ったようにまずアップして。

長谷川 あとはドレイクに隠し子がいたっていうのを、**ノア40**っていう盟友のプロデューサーの恋人から聞き出すことに成功したそうです。ドレイクが「カニエが漏らした」と怒ってたんですけど。プシャ・Tが「カニエじゃない、ノア40の恋人から聞いた」って宣言した。なんなんだそれ（笑）。

大和田 しかもプシャ・Tは強気でしたね、まったく悪びれないというか。

長谷川 クリーンなイメージのドレイクがブラックフェイスをやってて、隠し子がいて、昔のヒップホップ界だったらこれでキャリアが終わるはずなんですが、ぜんぜん終わらなかった。これはドレイク・ファンの反応が「かわいそう」っていうのが多かったからなんですね。つまり、もうラップ・ゲームじゃない次元にドレイクは立っているんですよ。ヒップホップ的なバトルの構造を理解していないファンが彼にはいっぱいいる。私たちのドレイクが怖い人に攻撃されてかわいそう、みたいに思われちゃって。ヒップホップというものの暗黙のルールが変わり

★ミンストレル・ショー：1840年代に最盛期を迎えたアメリカの興行形式のエンタテインメント。白人の芸人が顔を黒塗りにして黒人のモノマネを面白おかしくする「ブラックフェイス」と呼ばれる芸が人気だったが、20世紀初頭には衰退した。

★ノア40：83年生まれ。ドレイクと同じくトロント出身、しかも子役上がりということで、ドレイクのすべてのアルバムでプロデュースを手掛けている。

CamScannerでスキャン

っつあるのを象徴する事件ですね。ヒップホップは巨大ビジネスになってしまっているので。

大和田　あまりにも肥大化してジャンル自体の輪郭がよくわからなくなってますからね。それにしてもドレイクはすごい。ドレイクとミーゴスは**インターネット・ミーム**の天才ですよ。ドレイクの〈In My Feelings〉に合わせて踊る「In My Feelings Challenge」っていうのがインスタとかで流行ってますけど、最初はドレイクの曲に合わせて踊るだけのはずだったのが、途中から、ゆっくり動いてる車から降りてその車に沿いながら踊って、ふたたび車に乗り込むという、けっこう危ないチャレンジが世界中で大ブームになって（笑）。ちなみにTwiceのメンバーは、ちゃんと「In My Feelings Challenge」もやってますからね。

長谷川　日本もやってほしいですよね。車から一回降りて（笑）。

大和田　こんなに世界で流行ってるのに日本じゃ誰もやらない。

長谷川　そういうところに危機感を持ってほしいですよね。

踏み絵としての6ix9ine

★インターネット・ミーム：41ページの脚注を参照。

長谷川　では次、6ix9ine 対YG。**TekaShi 6ix9ine** はとにかくルックスが凄い。

大和田　6ix9ine の顔を見るたびに何かが試されているというか、お前はこれでもヒップホップのファンを続けられるのかって問われてる感じがあるんです。でも、ヒップホップってその連続でしょ？

長谷川　ついに、俺らが試されるときがきたんですね（笑）。

大和田　そうそう、そうですよ（笑）。

長谷川　ギャングスタ・ラップもサウスも乗り切ってきたのに。しかもこの人ブルックリン出身なんですよ。信じられない。ニューヨークでこんな格好しているやつがいるなんて。

大和田　今思えばジョーイ・バッドアスもエイサップ・ロッキーもニューヨーク的な洗練の極みですよね。とにかく今年は 6ix9ine と**シェック・ウェス**が出てきて「お前は本当にヒップホップに忠実でいられるのか」って踏み絵を突きつけられた気になってます。

長谷川　とにかくこういう人なので、これまでのラッパーとは価値観も全然違う。だからバトルがまったく噛み合っていなくて。

大和田　6ix9ine に怒っているのはYGだけじゃないですからね。一貫してずっと

★TekaShi 6ix9ine：96年生まれ。ブルックリン出身のラッパー。これまでニューヨークが積み上げてきたヒップホップのイメージを台無しにするかのような悪童。17年に〈Gummo〉が大ヒット。数々のビーフを起こして話題を提供するものの、翌年に暴行や麻薬関連の罪で逮捕された。

★シェック・ウェス：98年生まれ。ハーレム出身のセネガル系アメリカ人ラッパー。17年の〈Mo Bamba〉が翌年にクラブを中心にヒット、シングル・チャートで6位にまで上がった。

……

長谷川　いろんなラッパーから怒られている。〈Gummo〉（2017）って大ヒット曲のPVでは、赤いバンダナしてる黒人がいっぱいいる中で、なぜかひとりだけメキシコのサッカー・チームのTシャツ着て「俺はブラッズだ」って踊ってるっていう、わけわからないやつで。

大和田　ニューヨークにブラッズがいるんですか？

長谷川　**Nine Trey Bloods**ってギャングがいるらしいんですね。本場のロサンゼルスでブラッズをやっているYGがそれを見て「撤回しろ」って怒った。そしたら「炎上してSNSのフォロワーが増えたから俺の勝利だ」とか、わけのわからない返事をして。

大和田　「SNSのフォロワー」……。あと「YGって最後にヒット曲だしたのいつだっけ〜？」って挑発して、本人じゃないのに俺もムカつきましたよ（笑）。〈My Nigger〉がヒットしただろ、13年に！　で、**チーフ・キーフ**ともビーフがあって。彼はシカゴのドリル・シーンの中心人物で、一番ヤバい地域のサウスサイド出身なのに、「俺、これからシカゴ行ってきま〜す」ってSNSで煽りながら乗り込んでいって、さすがにこいつ撃たれるんじゃないかってネットで心配さ

★Nine Trey Bloods：ニューヨークをはじめとする東海岸の州で活動するギャング集団。ロサンゼルス発祥のストリート・ギャング「ブラッズ」の一部。

★チーフ・キーフ：95年生まれ。シカゴ出身のラッパー／プロデューサー。ドリルと呼ばれるラップ・ミュージックのサブ・ジャンルの中心人物。銃器所持など違法行為に何度も問われる。

れてましたね。ビーフというより人の神経を逆なですることしか考えてない。

長谷川　じゃあ、どれだけ腹が立つか、ちょっと曲を聴いてみますか。まずニューヨークのラッパーがこういうビデオを作るのがおかしいんですが。マイアミのラッパーにしか見えない（笑）。

大和田　曲は〈Gotti〉ですね。僕らがこれまで頑張ってついてきたヒップホップもついにここまできた、という感慨がありますよ。リル・ウージー・ヴァートとか顔にヘンなタトゥーをする人たちが出てきても、まだそれもいけたじゃないですか。

長谷川　6ix9ine はライトスキンだから、雑なタトゥーがすごい目立つんですよね。プエルトリコとメキシコのハーフだから、ヒスパニックなんですけど。

大和田　ヒスパニックのラッパーはすごい増えてますよね。そういう意味では時代を表している。

長谷川　あとはニューヨーク市すらもトラップの支配下に置かれたという。

大和田　まったくニューヨーク臭がしないですけどね、ビデオから。町蔵さんが言うところの「ゆとり世代」。

長谷川　その 6ix9ine ですが、これまでも淫行で有罪判決を受けていたのに加えて、

CamScannerでスキャン

さっきのNine Trey Bloodsとのつながりからヤバイ罪に問われて、11月に逮捕されています。有罪になれば終身刑、最短でも32年の実刑となるそうですね。

大和田　かなりアブない人だったわけですね。まあ、アメリカの場合なぜかあっさり娑婆（しゃば）に出てきちゃう人もいるので今後は何とも言えませんが。

長谷川　次はエミネム対**マシンガン・ケリー**という噛み合ったバトル。この2人、キャラが似てるじゃないですか。〈Kill Shot〉っていうキラー・トラックを出して、エミネムの勝利に終わったんですけど、マシンガン・ケリーも〈Rap Devil〉というエミネム・ディス曲が初のトップ40入りを記録した。実力派ラッパーだったんだけどいまいちくすぶっていたところを、エミネムが脚光を浴びさせることになったから、結果的にはウィンウィンだったんじゃないかなと。

大和田　一番最初はマシンガン・ケリーがエミネムの娘のヘイリー・ジェイドを「お、こいつ、いい女だ」って言ったのをエミネムが見逃さなかったんですよ。エミネムは娘に関するあらゆる発言をチェックしてますから。娘に触れたらだめですよね。エミネムは一生覚えてます。

長谷川　エミネムって子どものときの娘の顔を腕に彫るくらい娘を溺愛していますからね。しかもハーヴァードやスタンフォードに進学できるくらい学校の成績が

★マシンガン・ケリー：90年生まれ。オハイオ州クリーヴランド出身の白人ラッパー。11年にバッドボーイ・レコードと契約。以来、4枚のアルバムをリリース。

★XXXテンタシオン：1998-2018。フロリダ州出身のラッパー。音楽シェアリング・ウェブサイト、サウンドクラウドをベースに音楽活動を展開する「サウンドクラウド・ラップ」の一員として台頭。2枚目のアルバム『?』

良かったのに、自宅から通わせたいからミネソタ大学に進学させたという。エミネムは昨年リリースした『Revival』の評判がイマイチだったんだけど、今年はこのビーフと8月のアルバム『Kamikaze』で勢いを取り戻した感じがありましたね。

追悼――XXXテンタシオンとマック・ミラー

長谷川　次は追悼コーナーです。今年は**XXXテンタシオン**と**マック・ミラー**という、まだ20代の若いラッパーが死んでしまいました。

大和田　XXXテンタシオンもマック・ミラーも、僕たちがずっと2000年代の特徴として言っている、暗い、内省的な曲が特徴の人たちですよね。

長谷川　XXXテンタシオンは6月に暴漢に射殺されてしまいました。これは恨みを持つ者の犯行ではなく単なる災難によるものだったんですけど、3月に出したセカンド・アルバム『?』の内容が、**ニルヴァーナの『イン・ユーテロ』**かよっていうくらい死の香りが漂うアルバムで。しかもシングル〈Sad〉のMVが自分の葬式に出席するっていうコンセプトだったので話題を呼びました。

がビルボード・アルバム・チャートで1位を獲得。18年6月18日、フロリダ州ディアフィールド・ビーチのバイクショップで強盗に射殺される。

★マック・ミラー：1992-2018。ピッツバーグ出身のアメリカのラッパー、シンガー、プロデューサー。同郷のウィズ・カリファとのレコーディングで頭角を現す。11年の『XXL』誌フレッシュマン・クラスに選出。14年にワーナーに移籍し、3枚のアルバムをリリースしたが、18年9月7日にオーバードースで死去。

★ニルヴァーナの『イン・ユーテロ』：93年にリリースされたニルヴァーナの最後のアルバム。プロデューサーにスティーヴ・アルビニを起用し、前作『Nevermind』とは異なる、より生々しく自然なサウンドが追求された。

CamScannerでスキャン

大和田 グランジっぽいんですよね、アルバム全体の雰囲気が。

長谷川 20歳で亡くなったことである種のカリスマになってしまった。

大和田 XXXテンタシオンは女性に暴行をした疑いがもたれていて、死んでからも批判はされていたんですね。

長谷川 一方、オーバードーズで亡くなったマック・ミラーのほうは死後も人格が称賛されてましたね。音楽的にも初期はウィズ・カリファのフォロワーみたいだったのが、ロサンゼルスに移ってからブラック・ヒッピーやオッド・フューチャーと交流してジャジーな感じになったりと成長を続けていた。

大和田 ラスト・アルバムの『Swimming』にはサンダーキャットも参加してましたよね。

長谷川 思ったのは、2人とも死に方が今までのラッパーみたいに、ある日とつぜん物理的に死んだんじゃなくて、ドラマがあって死んでるじゃないですか。死の直前にリリースしたアルバムにダウナーな匂いが濃厚に立ち込めている。このあと死ぬしかないんじゃないかみたいな雰囲気が漂っている。それは、かつてはロックンローラーの得意技といっては語弊があるんですが、ロックが持ってる危険な魅力のひとつだった。それを完全にヒップホップが自分のものにしてしまっ

★マルーン5：ロサンゼルス出身のアメリカのポップ・ロック・バンド。ボーカルのアダム・レヴィーンを中心に現在最も売れているグループのひとつ。11年の〈Moves Like Jagger〉など、これまでにビルボード・シングル・チャートの首位になった曲が4曲。とりわけ〈Sugar〉のMVが酷すぎる。

★ジョン・ブライオン：63年生まれ。アメリカの作曲家、プロデューサー。フィオナ・アップル、エイミー・マン、ブラッド・メルドーなど多様なジャンルのミュージシャンをプロデュースしただけでなく、『マグノリア』、『パンチドランク・ラブ』、『エターナル・サンシャイン』などの劇伴も手掛ける。

★ニック・ドレイク：1948-1974。イギリスのシンガー・ソングライター。弾き語りを

たと言えます。逆にいまロックで一番売れている**マルーン5**やエド・シーランからはなんの狂気も感じないじゃないですか。

大和田　マルーン5とエド・シーランをロックの代表にすると怒る人もいそうですが（笑）、今度のスーパーボウルのハーフタイム・ショーはマルーン5なんですよね。リアーナが断ったので彼らになった。

長谷川　このマック・ミラーの〈Come Back To Earth〉は『Swimming』の最初の曲なんですが、もう、これは死ぬ人のビデオじゃないですか。曲調もそうだし。

大和田　ヒップホップとか無関係に本当にいい曲なんですよ。

長谷川　**ジョン・ブライオン**が協力してるんですよね。

大和田　ふつうに泣いちゃいます。

長谷川　**ニック・ドレイク**とか**ジョイ・ディヴィジョン**、**エリオット・スミス**とかのレベルの遺作がヒップホップから出たっていう。

大和田　インディー・ロックの褒め言葉として機能していた「聴くと死にたくなる」というフレーズのあてはまる曲が、むしろヒップホップの曲から出てきている。『Swimming』は本当にいいアルバムです。

特徴とする内省的な作風は生前あまり話題にならず、むしろ80年代後半以降に再評価された。74年にオーバードースで死去。

★ジョイ・ディヴィジョン：76年に結成されたイギリスのロック・バンド。ボーカルのイアン・カーティスによる陰鬱な歌詞が多くのファンを魅了したが、80年にカーティスが自殺。残りのメンバーはニュー・オーダーを結成。

★エリオット・スミス：1969－2003。アメリカのシンガー・ソングライター。映画『グッド・ウィル・ハンティング』の挿入歌となった〈ミス・ミザリー〉がオスカーにノミネートされた。他にもウェス・アンダーソンの『ロイヤル・テネンバウムズ』に使用された〈A Needle In The Hay〉が有名。03年、34歳の若さで死去。

CamScannerでスキャン

ビデオ・オブ・ザ・イヤー――〈This Is America〉

長谷川　ではビデオ・オブ・ザ・イヤーにいきましょう。これはもう**チャイルディッシュ・ガンビーノ**の〈This Is America〉だと思います。

大和田　みなさん観てると思いますが、いちおう流しますか。

長谷川　このビデオの監督は**ヒロ・ムライ**という、ドラマの『**アトランタ**』を**ドナルド・グラヴァー**と一緒にやってる人で。

大和田　**村井邦彦さん**の息子です。村井さんは〈**翼をください**〉を作曲したり、**アルファレコード**を設立してYMOを売りだしたりした人ですね。

長谷川　ヒロ・ムライは日系人ではなく日本人なんですね。『アトランタ』は見ました？

大和田　まだ最初の3話くらいですね。

長谷川　まぁ、すごいですよ。「俺たち黒人のことはお前らには絶対わからない」ってメッセージが込められた話を、非黒人にもわかるようにコメディにしているという、すごく難しいことをやってる。ガンビーノはこのビデオでミンストレル・ショーの象徴的なポーズを全部やってるんですよね。

★チャイルディッシュ・ガンビーノ：83年生まれ。アメリカのシンガー。本名のドナルド・グラヴァー名義で役者やコメディアンとして活動する。11年にグラスノート・レーベルと契約、以来3枚のアルバムをリリース。俳優としては09年のシットコム『コミ・カレ！』に出演。また、16年に自ら制作した『アトランタ』でゴールデングローブ賞とエミー賞を受賞。

★ヒロ・ムライ：83年生まれ。アール・スウェットシャート、フライング・ロータスなどのミュージック・ビデオで頭角を表す。テレビコメディ・シリーズ『アトランタ』でエピソードを数回監督。チャイルディッシュ・ガンビーノの〈This Is America〉でグラミー賞ベスト・ミュージック・ビデオ賞を受賞。

★『アトランタ』：16年に始

大和田　ビデオの最初で目をギョロッとさせるやつとか、教会の場面でみせるムーンウォークっぽい仕草とか、どれもミンストレル・ショー以来定着した黒人のステレオタイプだと言われています。つまり、これは前景で黒人が踊る最新のダンスに夢中になってしまうせいで、後景で起きている黒人社会のガン・ヴァイオレンスを僕たちが見ようとしないという、ダンスも含めた黒人文化を消費する私たち自身の視線を構造化した作品なんですよね。しかも、その最新のダンスの流行を、僕らだけでなく当の黒人の子供たち——学生服を着ていることで明らかですが——も一緒に追っている。その意味で批判は黒人コミュニティ内にも向けられているんですよ。

あのあと日本のダンサーたちが〈This Is Japan〉というビデオをアップして炎上しましたが、なにより元のビデオのメッセージ、すなわち私たちは黒人文化を都合よく消費するものの、黒人社会には関心を示さないという態度そのものが「ダンス」に象徴されているわけで、そこを理解せずに能天気に踊られても流石(さすが)につらいなとは思いましたね。

まったテレビドラマ・シリーズ。ドナルド・グラヴァー（チャイルディッシュ・ガンビーノ）制作・主演。従兄弟同士の2人がアトランタのラップ・シーンで活動する様子をコミカルなタッチで描く。19年11月現在、シーズン2までが放映されており、ゴールデングローブ賞やエミー賞を受賞。257ページ参照。

★ドナルド・グラヴァー：チャイルディッシュ・ガンビーノを参照。

★村井邦彦さん：45年生まれ。日本の作曲家、音楽プロデューサー。〈翼をください〉、〈エメラルドの伝説〉などの作曲家として知られ、荒井（松任谷）由実をデビューさせる。また、アルファレコードを創設、YMOの世界的な成功を導く。

★〈翼をください〉：作詞山上路夫、作編曲村井邦彦。71

プロデューサー・オブ・ザ・イヤー――ピエール・ボーン

長谷川　次はプロデューサー・オブ・ザ・イヤーということで、**ピエール・ボーン**を挙げたいなと。プレイボーイ・カーティや6ix9ineとかカニエのトラックメイカーです。

大和田　そうですね。メトロ・ブーミンの次にアトランタ・シーンの鍵を握る存在というか。

長谷川　じゃあプレイボーイ・カーティの〈R.I.P.〉を聴いてみましょうか。ビデオを見ればわかるんですけど、トラップの人たちがパンクっぽいステージングを取り入れつつありますよね。

大和田　いわゆる**モッシュ**ですよね。

長谷川　意外とトラップはモッシュと親和性があるというか。早い方のハイハットで跳ねる、みたいな。

大和田　さっきのトラヴィス・スコットのアルバムにもテーム・インパラなどサイケデリック・ロックの人たちが関わっているので。この世代はロックも分け隔てなく聴いてきたんでしょうね。

年にフォークグループ、赤い鳥が発表。のちに合唱曲として有名になり、70年代後半以降、学校教育の場でも取り上げられる。97年以降、サッカー日本代表チームの応援歌として歌われる。

★アルファレコード：69年に村井邦彦がアルファミュージックを設立。72年に会社ディーラー、ヤナセの会長、梁瀬次郎と村井が原盤制作会社アルファ&アソシエイツを設立し、荒井由実やハイファイセットなどを売り出す。77年、アルファレコードを設立、サーカス、カシオペア、YMOなどが成功。

★〈This is Japan〉：18年6月にチャイルディッシュ・ガンビーノ〈This is America〉のミュージック・ビデオへのオマージュ／パロディーとして発表された動画。世界のダンス大会で数多くの優勝経験

ダンス・オブ・ザ・イヤー――〈Shoot〉

長谷川 が、ダンス・オブ・ザ・イヤーは**ブロックボーイJB**の〈Shoot〉です。

大和田 ご存知の方も多いと思いますが、ひとこと言っておかないと。日本では「いいねダンス」ということになっているダンスがあって。DA PUMPが〈U.S.A.〉でやっていますけど。

長谷川 そのオリジナルがこの〈Shoot〉で、この踊りが「シュート・ダンス」と呼ばれてミームで流行ったんですよ。みんなが「やってみた」ビデオを作って。

大和田 すごいバズりました。ブロックボーイJBはメンフィス出身、今年の『**XXL**』誌のフレッシュマン・クラスにも選ばれました。なんだかメンフィスが再評価されてる感じですよね。

長谷川 **リッチ・ザ・キッド**のレーベルへの参加オファーを友人だったリル・ウージー・ヴァートが断ったことで、2人の間でビーフが起きたんですけど、ディスり用のトラックに**スリー・6・マフィア**の〈Who Runs It〉を使ったことをきっかけにメンフィス・ラップ再評価が起きたんですよね。「シュート・ダンス」は韓国でも台湾でも流行っていますよね。

を持つとされる日本人3人のダンサーによって結成されたチーム、Alaventaによって製作された。

★ピエール・ボーン：93年生まれ。ベリーズ系アメリカ人プロデューサー。プレイボーイ・カーティ〈Magnolia〉、6ix9ine〈Gummo〉のトラックを制作。カニエ・ウェストのアルバム『Ye』にも参加するなど、この世代を代表するプロデューサーとして高く評価されている。

★モッシュ：ロック・コンサートなどで見られる行為で、観客が激しく体をぶつけ合うこと。モッシュが生じる場所をモッシュピットという。

★ブロックボーイJB：96年生まれ。メンフィス出身のラッパー。18年にリリースした〈Shoot〉が片足で弾みながら片腕を振るシュート・ダンスの流行を生み、全国的に知ら

CamScannerでスキャン

大和田　というかぼく、去年からほとんどK－POPしか聴いていないんですけど、韓国のアイドルで、サラッとこのシュート・ダンスを取り入れているグループはすごく多いんですよ。

長谷川　だから「いいねダンス」って言ってるのは日本だけだっていう。

大和田　「これはアメリカで流行ってるシュート・ダンスが元で、日本では『いいねダンス』って言います」ってちゃんとひとこと断ればいいと思うんですけどね。そう言ってくれればみんなの目もこっちに向くかもしれないのに、あたかもあの人たちが発明したかのような感じになってるので。

長谷川　DA PUMPは**ライジングプロ**の社長に押し付けられたんですよ、〈U.S.A.〉をやれって。

大和田　なんでそんなこと知ってるんですか（笑）。

長谷川　ヒットを出さないといけない、ってことで今さらユーロの曲をあてがわれちゃった。だからあのダンスは彼らなりの反抗なんですよ。

大和田　イタロ・ディスコのカバーを歌うことへの反抗としてメンフィス発のヒップホップ・ダンスを採り入れたってことですか。まあでもヒットのパターンとしては**荻野目洋子の〈ダンシング・ヒーロー〉**と同じですよね。あれもユーロビー

れるようになった。18年2月にドレイクをフィーチャーした〈Look Alive〉がビルボード・シングル・チャートで5位に。

★〈U.S.A.〉：92年にイタリア人歌手ジョー・イエローがリリースしたユーロビートの楽曲。18年にDA PUMPがカバー、メンフィス発のシュート・ダンスを「いいねダンス」と名付けて振り付けとして大ヒットさせた。

★リッチ・ザ・キッド：92年生まれ。ニューヨーク市クイーンズ出身、アトランタを拠点とするラッパー。17年にインタースコープと契約、翌18年のアルバム『The World Is Yours』がビルボード・シングル・チャートで13位に。

★スリー・6・マフィア：91年にメンフィスで結成されたヒップホップ・グループ。悪魔崇拝やホラー映画などのサ

トでしたから。

ニューカマーたち

長谷川　2018年にメジャー・デビューしたニューカマーをざっと挙げていきたいと思います。まずニプシー・ハッスル。この人はもう33歳なんですけど。

大和田　この人、前から名前は聞いていましたけど。

長谷川　ずっとミックステープで活躍していて、ようやくいわゆる有料アルバム・デビューをした。無名時代にアメリカに住んでいた頃の**小室哲哉**とつるんでいたという。

大和田　え、そうなんですか！　たしか小室哲哉はロサンゼルスに住んでいたから、西海岸の出身ですよね。

長谷川　クリップスです。だから、YGとファック・ドナルド・トランプで連帯したんですよ。本当の敵はあいつらだと。

大和田　そこでクリップスとブラッズが手を取り合うという（笑）。あとはさっきも出てきたカニエとのビーフ。ベテランですよね。

ンプリングを含み、2000年前後に人気が出る。映画『ハッスル&フロー』のテーマ曲〈It's Hard Out Here For A Pimp〉(2005)が、その年のアカデミー賞ベスト・オリジナル・ソング賞を受賞。

★ライジングプロ：85年に芸能プロモーター、平哲夫が荻野目洋子と設立。92年に沖縄アクターズスクールと協力関係を結び、安室奈美恵を擁するSUPER MONKEYS、SPEED、DA PUMP、Folderなどをヒットさせる。

★荻野目洋子の〈ダンシング・ヒーロー〉：85年11月にリリースされた荻野目洋子の7枚目のシングル。86年の年間チャート12位のヒット。原曲はイギリス人歌手アンジー・ゴールドの〈Eat You Up〉（邦題「素敵なハイエナジー・ボーイ」）であり、ディスコ／ユーロビートのカ

長谷川　だからブラック・ヒッピーとかよりスタイルが古い。でも聴きごたえがある良いラッパーですね。次はリッチ・ザ・キッド。この人はクイーンズ出身なんですよね、この格好で。6ix9ine ほどじゃないけど、心がざわつきますよね（笑）。

大和田　今年は本当に自分の中の何かが試されましたよ。あと去年〈Gucci Gang〉が大ヒットした**リル・パンプ**とか、ゆとり世代ラッパーにどこまで付いていけるか。

長谷川　カニエは何とかついていこうとしていますけどね。リル・パンプと〈I Love It〉って変な曲を作ってヒットさせていますし。で、次は**リル・ベイビー**。"リル"が続きます。

大和田　でも彼は同じ"リル"でも正統派というか、アトランタの次の王座を期待された存在です。ラップ・スキルも定評があるし、レーベルもミーゴスのクオリティ・コントロールです。

長谷川　あとシカゴ生まれの**ジュース・ワールド**ですね。

大和田　この人はものすごく売れていて、ビルボードのチャートでもずっと上位にいます。

長谷川　たった今も〈Lucid Dreams〉が1位じゃないですかね。

パーという点でDA PUMPの〈U.S.A.〉との一貫性がある。

★小室哲哉：TK。

★リル・パンプ：00年生まれ。フロリダ州南部のシーンで活動を始め、サウンドクラウド・ラップのスタイルで人気を博す。サビでひたすら「グッチギャング」と連呼する〈Gucci Gang〉(2017) がビルボード・シングル・チャートで3位にまで上がる。カニエ・ウェストとともにリリースした〈I Love It〉(2018) のMVはヒップホップ史上、一、二を争うくだらなさ。

★リル・ベイビー：94年生まれ。アトランタ出身でこの世代でもっとも期待されるラッパーのひとり。ガンナをフィーチャーした〈Drip Too Hard〉(2018) がビルボード・シングル・チャート4位に。

★ジュース・ワールド：98年生まれ。シカゴ出身のラッパ

CamScannerでスキャン

大和田　でも、この人はラップというよりほとんど歌ですよね？　しかもけっこうエモい。

長谷川　ちょっと聴いてみましょうか。これ、**スティング**・ネタなんですよね。

大和田　スティングの〈Shape Of My Heart〉そのまんまですね（笑）。最初の話に戻りますけど、ヒップホップがアメリカ最大の音楽ジャンルになるってことは、ぼくたちがイメージするようなヒップホップ的なものが薄れて拡散されていくってことですよね。

長谷川　それを良くないこととらえるか、変化としてポジティヴにとらえるかですよね。

大和田　そもそも良くないなんて言える筋合いでも立場でもないんですけど（笑）。見守るしかないだけで。２０１８年は6ix9ineにも試されましたが、シェック・ウェスの〈Mo Bamba〉も最初きつかったですね……。

長谷川　これ、ヒップホップを通り越してジャイアンの歌ですよね。擬音で表現しようとすると「ぼえ〜」にしかならない（笑）。

大和田　でもこの曲、クラブでかかるとすごい盛り上がるらしいんですよ。いやあ、これはきびしいなあ。

ー、シンガー。サウンドクラウド上に音源を投稿、〈Lucid Dreams〉が全米2位に上がるヒット。「エモい」メロディーを特徴とする。

★スティング：51年生まれ。イギリス出身のミュージシャン。77年から84年までザ・ポリスに在籍し〈見つめていたい〉などがヒット。85年以降ソロに。93年のアルバム『テン・サマナーズ・テイル』に収められた〈Shape Of My Heart〉は、Nas〈The Message〉や宇多田ヒカル〈Never Let Go〉など多くの曲にサンプリングされている。

CamScannerでスキャン

長谷川 え、ヒップホップから脱落ですか？（笑）

大和田 僕、筋トレしながらSpotifyで **「Rap Caviar」** のプレイリストを流すことが多いんですが、そうすると、この曲が異常に悪目立ちするんですよ。

長谷川 それは、それだけキャッチーだってことですよね。

大和田 それはそうなんですが、さすがにひどくないですか？（笑）。

長谷川 音痴なのにオートチューンで直してもないですよね。

大和田 しかも20分で作ったんだって、この曲。

長谷川 まぁ、20分あればできますよね、正直言って（笑）。

大和田 これも踏み絵でした。最初はこの曲がかかると本当に嫌で飛ばしてたんですが、最近ようやく「あ、これはありかも」って思えるようになりました。

長谷川 この人ってなんとハーレム出身なんですね。昔は **カーティス・ブロウ** とかいたのに。

大和田 **ディプロマッツ** やエイサップ・モブが泣きますよ。でもシェック・ウェスはセネガル系で、じつはシェウン・クティが好きらしいんです。

長谷川 シェック・ウェスの周囲にフェラ・クティの魂が漂っているか、シェウン・クティに判定してほしいですよね。

★「Rap Cavier」：Spotify上の最新のヒップホップのヒット曲を網羅するプレイリスト。19年11月現在、フォロワーは1200万人以上。現在の音楽業界でもっとも影響力の高いプレイリストのひとつと言われている。

★カーティス・ブロウ：59年生まれ。ヒップホップ黎明期のラッパーであり、初めてメジャー・レーベルとの契約に成功した。〈The Breaks〉(1980) はR&Bチャートで4位、全米87位。

★ディプロマッツ：97年にハーレムでキャムロンとジム・ジョーンズが結成したヒップホップ・ユニット。他にフリーキー・ジーキー、ジュエルス・サンタナなどが在籍。03年にリリースした『Diplomatic Immunity』が全米アルバム・チャート8位に。

大和田　シュウン・クティもいい迷惑ですよ。カニエとかシェック・ウェスに自分の父親の魂が漂ってるかなんて、知るかって感じですよ。

長谷川　で、最後に**ブロックハンプトン**。遂に出てきたオッド・フューチャー・フォロワー。しかもメジャー・デビュー・アルバムが全米1位を取ってしまった。

大和田　どう思いますか？　僕は正直にいうとあまり心躍らないんですよね。オッド・フューチャーのときは本当にワクワクしたんですけど。

長谷川　トラックメーカーやデザイナーが全員身内っていうのはオッド・フューチャーに倣ったものだろうけど、イメージの打ち出し方が上手い。ブロックハンプトンの活動が活発になったのは2年くらい前ですかね。テキサス出身の**ケヴィン・アブストラクト**ってラッパーがカニエ・ウェストのファンサイトでメンバー募集って呼びかけて集まった連中なんですよ。今は拠点をカリフォルニアに置いてる。みんな若くて、20歳そこそこくらい。

大和田　それで、ヒップホップのクルーじゃなくて「ボーイ・バンド」と呼べって言ってるんですよね。

長谷川　みんな若くてルックスがシュッとしてるんで開き直ってるんでしょうね。

大和田　小洒落てて、ちょっとムカつくんですよね。

★ブロックハンプトン：テキサス州で結成され、現在はカリフォルニア州を拠点とするヒップホップ・コレクティヴ。黒人白人の混成グループは自ら「ボーイバンド」と称し、メンバーにはフォトグラファーやウェブ・デザイナーなども含む。『Iridescence』(2018) が全米アルバム・チャート1位。

★ケヴィン・アブストラクト：96年生まれ。ヒップホップ・コレクティヴ、ブロックハンプトンの創始者。ブロックハンプトンの活動とは別に、ソロとしてもスタジオ・アルバムを3枚リリースしている。16年にゲイであることをカムアウト。

長谷川　けど、彼らはすごいですよ。リーダー格のケヴィン・アブストラクトはゲイを公言してるんです。それがセールス的にまったく足を引っ張っていない。フランク・オーシャンがカミングアウトをしたのが2012年のことで。

大和田　『文化系2』で話題にしましたね。あのときオバマが同性婚を支持して、2015年にはアメリカ最高裁がすべての州で同性婚を認める判決を出して。今は、トランプが生物学的な性しか認めない、つまりトランスジェンダーを認めない政策を通そうとしてると報道されている。本当にオバマの時代と正反対になりましたよね。

長谷川　そういう意味では、この人たちはオバマ時代の落とし子ですよね。〈New Orleans〉のMVが象徴的なんですけど、ファンが人種的にマルチですし、みんな若くてクリーンなんですよ。

大和田　6ix9ineみたいなやつがいない（笑）。でもこう見るとなぜか6ix9ineに肩入れしたくなりますね（笑）。そもそもオッド・フューチャーはちゃんとゲロ吐いたり、虫食ったりしてたじゃないですか。

長谷川　オッド・フューチャーは顰蹙を買ってたけど、彼らにはない。ぼくはわりと好きなんですけど、ブロックハンプトンを持ち上げてオッド・フューチャーを

★アール・スウェットシャート：94年生まれ。西海岸を拠点とするヒップホップ・コレクティヴ、オッド・フューチャーのメンバー。16歳で発表したミックステープ『Earl』で注目され、13年の『Doris』が全米アルバム・チャート5位。

★ソウル・チルドレン：68年にスタックス・レーベルのアイザック・ヘイズとデヴィット・ポーターが結成した男女混成のボーカル・グループ。代表曲に〈I'll be the Other Woman〉(1973)、〈Hearsay〉(1972)など。

★リンダ・クリフォード：70年代から80年代にかけて活躍したR&B／ディスコ・シンガー。70年代はカーティス・メイフィールドのカートム・レーベルに所属。映画『フェーム』(1980)の挿入歌となった〈Red Light〉(1980)などがヒット。

CamScannerでスキャン

けなすやつがいたら注意しろと言いたい。オッド・フューチャーといえば最年少メンバーの**アール・スウェットシャート**が久しぶりにアルバムを出しましたね。

大和田　『Some Rap Songs』。あれはよかったですね。

長谷川　ほとんどの曲を自分でプロデュースしているんだけど、ほぼすべての曲が1分台なんですよね。**ソウル・チルドレン**や**リンダ・クリフォード**といったソウル・ネタをブツ切りでループしていて、ディラみたいなことをやっている。こんなセンスが良い奴だったのかと。

大和田　このアルバムを聴いて、アールこそ実は血統が良いことを思い出しましたよ。彼の父親**ケオラペットス・コージットサイル**は反アパルトヘイトの闘志としても名を馳せた南アフリカ出身の詩人で、母親の**シェリル・ハリス**はUCLAの法学部教授ですからね。本来はアフリカ系の希望の星みたいな家系の出身だった。

長谷川　で、叔父さんはトランペッターの**ヒュー・マサケラ**なんですよね。この3人の声なりプレイを全員サンプリングしている。NHKの『ファミリー・ヒストリー』を音楽でやってみた、みたいなアルバムなんですよね。

★ケオラペットス・コージットサイル：1938-2018。南アフリカのツワナ人詩人、アクティヴィスト。アフリカ民族会議の主要メンバーとして06年に南アフリカ初の桂冠詩人となった。息子のアール・スウェットシャートのアルバム『Some Rap Songs』所収の〈Playing Possum〉で、母親のシェリル・ハリスとともにフィーチャーされている。

★シェリル・ハリス：UCLA法科大学院及びアフリカン・アメリカ研究科教授。南アフリカの法曹とアメリカの法学者の間を繋いだだけでなく、批判的人種理論の発展に大きく貢献した。

★ヒュー・マサケラ：1939-2018。南アフリカ連邦出身のトランペット奏者。68年に〈Grazing In The Grass〉が全米一位。モンタレー・ポップ・フェスティバルに出演し

CamScannerでスキャン

アジア系男子の存在感

長谷川　最後にヒップホップにおけるアジアの存在感について触れたいかなと。

大和田　ぼくたちはいまのシーンとはまったく関係なく、『文化系2』に入れた12年、13年、14年にそういう話をしてたんですよね。

長谷川　あの対談はもともとのベースが慶應大学の講義なので、学生向けにツカミが必要だった。J－POPとK－POPは違う、なぜならK－POPはヒップホップを意識しているから、という話を必ずマクラでしていたんですよね。

大和田　あとがきにも書きましたが、結果的に『文化系2』をずっと読むとBTSがアメリカで1位をとった理由が全部書いてあるという。

長谷川　なんかBTSは俺の言うことを聞いたから全米1位になれたんじゃないかなって妄想を抱いちゃう（笑）。

大和田　『文化系2』が刊行された2018年は完全にアジア系の年ですから。

長谷川　『ブラックパンサー』の年でもあったんですが、『**クレイジー・リッチ！**』がまさかの全米1位を獲得した。出演していた**オークワフィナ**もブレイクしましたね。この人、本当はラッパーなんですよね。ラガーディア高校出身でニッ

ただけでなく、ザイールのキンシャサで開催され、ジェームズ・ブラウンなどが出演した「ザイール74」を企画。

★『クレイジー・リッチ！』：18年に公開されたロマンティック・コメディ映画。監督がジョン・M・チュウ、原作はシンガポールの作家ケヴィン・クワン。コンスタンス・ウーをはじめ、キャストもアジア系で占められた作品は大ヒットし、ゴールデングローブ賞最優秀作品賞（ミュージカル、コメディ部門）にノミネートされた。

CamScannerでスキャン

キー・ミナージュの後輩にあたるんですよ。

大和田　ラガーディア高校は本当にタレントを輩出しますよね。それにしても、『クレイジー・リッチ！』とBTS、ぼくたちには前者は中国系で、後者は韓国だって分かるんですけど、アメリカの人たちからしたら東アジアとしてひと括りですよね。

長谷川　うっかりするとトルコあたりまで一緒にされますからね。

大和田　それよりみなさん、どう思います？　BTSのポジションに**三代目Jソウルブラザーズ**がいる可能性とかも考えませんか？　つまり、なぜ三代目じゃなくてBTSなのか。同じアジア系なのに。

長谷川　うーん……ちょっと違うなって思う。**LDH**の人たちは2・5次元感が薄いから。毎年ブルックリンで「サクラ・フェス」といって、日本領事館主催の桜を愛でるお祭りがあるんですね。

大和田　はいはい。

長谷川　実際は桜が散ってるツツジのシーズンにやってて訳がわかんないんですが、ニューヨークには日系って少ないじゃないですか。だから中国系とか韓国系とか東アジアの人たちがピクニックする集いになっちゃってるんです。そこになぜか

★オークワフィナ：アメリカの女優、ラッパー。『クレイジー・リッチ！』や『オーシャンズ8』に出演。18年10月6日、ルーシー・リューに続いて2人目の東アジア系女性として『サタデー・ナイト・ライブ』のホストを務める。

★三代目J ソウルブラザーズ：LDH Japan所属の日本のダンス＆ボーカル・グループ。

★LDH：日本の芸能事務所。02年、EXILEの初期メンバーが設立。三代目J ソウルブラザーズ、GENERATIONSなどが所属。17年にアメリカ、ヨーロッパ、アジアに海外拠点を新設。

CamScannerでスキャン

日本の漫画が好きなコスプレイヤーがいっぱい紛れ込んでいるんだけど、それが黒人とかヒスパニックの女の子なんです。BTSのコアなファンって完全にあそこなんですよ。セクシーであらねばならないというコミュニティの同調圧力に苦しんでマンガに救いを求めていた女の子たちが好きになれる音楽グループがなかったところに、バシッとはまったんですよ。

大和田 まあだからいわゆるクラスの人気者タイプではないですよね。そうはいってもアジア系が全人口のせいぜい6%で黒人が12%なので、チャートで1位はすごいことですよ。ちょうど**ワン・ダイレクション**の枠が空いた瞬間でもありましたしね。

長谷川 **《江南スタイル》**のPSYが売れたあとに、**BIGBANGのGドラゴン**がソロ・シングルを出したんだけど、あまり売れなかったんですよね。だからタイミングも良かった。

大和田 2NE1のCLもわりと頑張ってたんですけどね。よく話すんですけど、結果的に成功したのは女性アイドルじゃなくて男性アイドル・グループだったっていうのはちょっと想像できなかったです。みなさんが韓国の音楽プロデューサーだとして、ここに女性アイドル・グループと男性アイドル・グループがいた

★ワン・ダイレクション：10年にイギリスのオーディション番組『Xファクター』に出演していた5人で結成されたボーイバンド。デビュー・アルバムから4枚目の『Four』まで全米アルバム・チャートで1位を獲得。メンバーのゼイン・マリクが15年に脱退。

★《江南スタイル》：12年7月にリリースされたPSYの6枚目のシングル。「乗馬ダンス」と呼ばれる振り付けとともに世界的にヒット。ビルボード・シングル・チャートで2位にまで上がった。

★BIGBANGのGドラゴン：韓国のYGエンターテインメント所属の人気グループ、BIGBANGのメンバー。12年9月にリリースされた『One of a Kind』がビルボード・アルバム・チャート161位。19年10月26日に2年間の兵役を終えて除隊。

ら、普通に考えて女性のほうがアメリカで売れると思いませんか？

長谷川　だからこそ**少女時代**はアメリカに行ったんですけどね。

大和田　アメリカ文化に長年接してる者として言わせてもらうと、アジア系の男子に「かっこいい」っていう形容詞がつくことはこれまで一度もなかったんですよ。彼らに黄色い声援が飛ぶことは考えられなかった。東アジアの女性はそれなりにモテるというか、奥ゆかしいアジアの女性像というステレオタイプがありますけど。だから、本当に感動しましたね。**『エレンの部屋』**にBTSが出演したとき、エレンさんが最初に「あなたたちビートルズの再来みたいよ」って言ったんですよ。「ビートルズと比べるか？」と最初は思ったんですが、パフォーマンスを見たら納得しました。ビートルズが最初に訪米してエド・サリヴァン・ショーに出演した1964年2月9日の客席、女の子のファンが興奮しすぎて過呼吸になるじゃないですか。本当にそういう感じなんですよ、BTSのファンが。

カニエとカーター家はどこへ行く？

長谷川　アイドルだけじゃなくて、ヒップホップのカテゴリーでも東アジア系が進

★少女時代：247ページ脚注を参照。

★『エレンの部屋』：03年以来続くアメリカの人気トーク番組。ホストはコメディアンのエレン・デジェネレス。97年にオプラ・ウィンフリー・ショーでレズビアンとしてカムアウトした。

CamScannerでスキャン

出しているので、**88rising**の話をしましょうか。88risingってクルーというよりも会社の名前で。ショーン・ミヤシロさんっていう日系の人がミレニアル世代のアジア系アメリカ人に向けてヒップホップを作りたいということで、アジア各国から才能をピックアップしてきてクルーを作ったんです。〈Midsummer Madness〉のPVを観てもらいましょう。

大和田 この曲には4組出てますけど、そのうち**リッチ・ブライアン**は中国系インドネシア人ですよね。**ハイヤー・ブラザーズ**は中国。**Joji**に至ってはハーフ・オーストラリアンらしいけど大阪生まれの日本人ですからね。

長谷川 JojiはYouTuberとして有名だったんですよね。アルバム『Ballads 1』はビルボードのR&Bチャートで首位、総合でも3位を記録とトンデモないことになっている。サウンドは90年代っぽい美メロR&Bなのにビックリしましたね。

大和田 88risingはいまちょうどツアーをやっていて日本にも来るんですよね。日本からは**KOHH**が参加してるんですが、他のラッパーもどんどん参加してほしいですよね。88risingって曲を出すと、ミーゴスとかに聴かせるんです。そのリアクション動画をアップして「面白いんじゃないの」って宣伝して。個人的にはゆるふわギャングとかTENG GANG STARRのような男女デュオに入ってほし

★88rising：15年にショーン・ミヤシロなどによって創設されたアメリカの音楽レーベル、ビデオ・プロダクション、メディア・プラットフォーム。主にアジア系アメリカ人とアジア人のミュージシャンが所属。18年にコンピレーション・アルバム『Head In The Clouds』、19年に『Head In The Clouds II』をリリース。

★リッチ・ブライアン：99年生まれ。中国系インドネシア人ラッパー、シンガー。サウンドクラウド上に発表された〈Dat $tick〉(2016)がバイラル・ヒットに。アルバム『Amen』(2018)が全米18位。

★ハイヤー・ブラザーズ：中国の成都市出身のヒップホップ・グループ。16年に88risingに所属。

★Joji：92年生まれ。もともとユーチューバーとして『Filthy Frank Show』という

CamScannerでスキャン

いんですよね。

長谷川　このビデオを見てもわかるとおり、無理してないですよね。昔のアジア系がヒップホップ／R&Bをやるときみたいに、自分をアフリカ系にアイデンティファイするようなことをしない。江ノ島で弾けてる奴らと変わらないんですよ。この自然体でアメリカに打って出ようってのはすごいっちゃすごいですよね。

大和田　アジア系の活躍でいえば、さっきのオークワフィナさんもこの前『**サタデー・ナイト・ライヴ**』に出たとき、最初のモノローグで「アジア系のドアを開けてくれた**ルーシー・リュー**に感謝」って言ったんですよ。ルーシー・リューはぼくらもよく知っているわけで、あの人あたりからアメリカのエンターテインメント業界で群像劇をやったら必ずアジア系の枠があるみたいな感じになった。だから彼女の功績はすごく大きいと思います。それが今に至ってこうなったと。

長谷川　『クレイジー・リッチ！』なんて出演者が全員アジア系ですからね。

大和田　『ブラックパンサー』は全員黒人で、2つとも大ヒットした。それがトランプ政権下なんですよね。トランプになって一番ヒットした曲も〈Despacito〉っていうスペイン語の曲で、16週連続1位というビルボード史上タイ記録。こういうのがトランプ時代に起きているのを見ると、陳腐な言い方ですが、カルチャー

番組を放送していが、17年以降、シンガーに転向。デビュー・アルバム『Ballads1』がビルボードのR&Bチャートで1位に。

★KOHH：90年生まれ。日本のラッパー。〈JUNJI TAKADA〉(2013)、〈貧乏なんて気にしない〉(2014)などで注目され、トラップ以降のフローを日本語に翻訳することに成功したMCといわれる。アルバムの正規版には収録されなかったものの、フランク・オーシャンの『Nikes』に客演、宇多田ヒカルの〈忘却〉でもフィーチャーされた。

★『サタデー・ナイト・ライヴ』：75年以来続く、アメリカのテレビ・ヴァラエティ・ショー。毎回ゲストがホストを務めて番組を進行する。アメリカ喜劇界の登竜門的な番組であり、有名コメディアンを数多く輩出している。

CamScannerでスキャン

の力を実感しますね。

長谷川　今後ヒップホップはどうなっていくと思いますか？　先が読めないのが醍醐味ではあるけど。

大和田　とりあえずウガンダの次にカニエがどこに行くかが気になります（笑）。アジア系のアーティストにも期待したい。

長谷川　ヒップホップはマルチ・カルチャーなものになっていくんでしょうね。

大和田　カーター家がルーヴル美術館を超えてどこに行くかも気になりますね。MoMAのあとにルーヴルでしょ。ルーヴルの先はないですよ。この地球上にルーヴル以上の博物館はないので。次にこの2人がどこに行くのか。

長谷川　きっと宇宙でしょう。ZOZOの前澤さんと一緒に（笑）。

［2018年10月23日、HMV&BOOK SHIBUYAにて収録］

★ルーシー・リュー：中国系アメリカ人の俳優。『ER』や『アリー・マクビール』で注目され、映画『チャーリーズ・エンジェルズ』(2000)や『キル・ビル』(2003)などで、アジア系女性俳優としてアメリカのエンタテインメント業界で確固とした地位を築く。

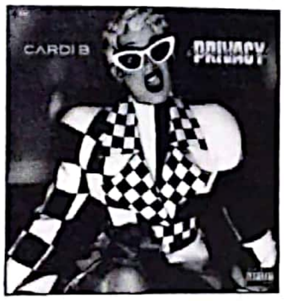
★前澤さん：ファッション通販サイト「ZOZOTOWN」などを運営する株式会社ZOZOの創設者、前澤友作。75年生まれ。日本のハードコア・バンド、Switch Style の元ドラマー。

V.A.
V.A.

Black Panther: The Album
2018
Top Dawg Entertainment

スタッフ、キャストともにアフリカ系で固められた初のマーベル映画のサウンドトラックを手がけたのはスウェーデンのプロデューサー、ルドウィグ・ゴランソンとケンドリック・ラマー。本アルバムにはSZA、ジェイ・ロック、ザ・ウィークエンドなどアメリカ勢に加えて、サウディ、ベイブズ・ウォドゥモ、ユゲン・ブラクロクなど南アフリカのミュージシャンが参加している。

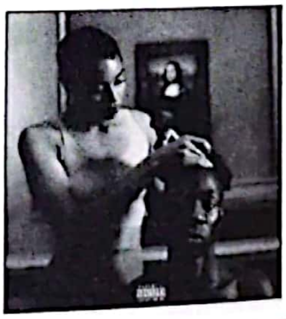
Cardi B
カーディ・B



Invasion Of Privacy
2018
Atlantic

前年にリリースした〈Bodak Yellow〉が、女性ラッパーとして19年ぶりにビルボード総合チャートで1位に上がるなど、一躍スターダムにのし上がったカーディ・Bが満を持して放ったデビュー・アルバム。バッド・バニーやJ・バルヴィンなどを客演に迎え、ラテン・トラップの要素も織り交ぜつつ、歯に衣着せぬ物言いで#Metoo ムーヴメントとも共振する「自立した女性」像を確立した。

The Carters
ザ・カーターズ



Everything Is Love
2018
Parkwood Entertainment

ビヨンセ『レモネード』(2016)、ジェイZ『4:44』(2017)と繰り広げられた壮大な昼メロの完結編。とても典型的とは言えないアフリカ系アメリカ人家族の豪奢な生活、黒人としての誇り、夫婦の愛、そして夫の不義などが、クール&ドレーやファレルのトラックに乗せて歌われる。シングル・カットされた〈Apeshit〉のミュージック・ビデオはルーヴル美術館で撮影された。

Drake
ドレイク

Scorpion
2018
Young Money Entertainment

トロント出身のラッパーのアルバム5作目は、ストリーミング時代に最適化された作品として記憶されるだろう。本作はSpotifyの1日あたりの最多再生回数の記録を塗り替えただけでなく（1億3200万回以上）、ビルボードのシングル・チャートの10位以内に7曲を同時にランクインさせた。それはビートルズが半世紀以上保持してきた記録（5曲）を上回る偉業である。

Eminem
エミネム

Kamikaze

2018
Aftermath Entertainment

8月31日、予告なくドロップされ、世界中を驚かせた作品。アルバムを通じて評論家や他のラッパーをディスる内容は賛否両論を巻き起こしたが、マシン・ガン・ケリーやジャ・ルール、それに6ix9ineなどがアンサー曲をリリースすることで（後者は他ならぬ〈ルーズ・ユアセルフ〉のトラックに合わせてラップした）、ラッパーの世代間闘争があらわになり、シーンが活性化した。 **O**

Janelle Monae
ジャネール・モネイ

Dirty Computer

2018
Atlantic

本人のオルターエゴであり、前2作の主人公だったシンディー・メイウェザーは登場しないものの、そのアフロ＝フューチャリスティックなテーマは一貫しており、本作では主としてセクシュアル・アイデンティティの多様性が歌われる。生前のプリンスが制作にかかわっていることが明らかにされ、サウンドもその影響を色濃く感じさせる。1曲目の表題曲にはブライアン・ウィルソンが客演。 **O**

J.Cole
J・コール

KOD

2018
Dreamville

タイトルは「キッズ・オン・ドラッグズ」の略ともされるJ・コールの5作目。ほとんどのトラックを自分で手がけ、客演ラッパーも最小限にとどめるDIY精神はいつも通りだが、若者の鬱と薬物中毒の関係を憂い、拝金主義を戒めるリリックは啓蒙的かつ教育的。コンシャス・ラップの傑作であり、当時のストリーミング再生の記録をいくつか塗り替えるなど商業的にも大成功を収めた。 **O**

Kids See Ghosts
キッズ・シー・ゴースツ

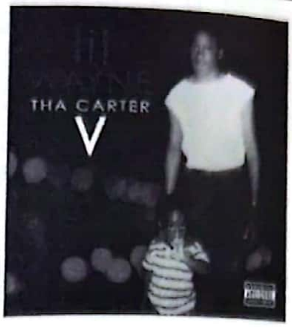
Kids See Ghosts

2018
G.O.O.D. MUSIC

カニエ・ウェストとキッド・カディによるユニット。5月以降、前者がプシャ・T『デイトナ』をはじめとして7曲入りのアルバムを毎週リリースしたが、その3作目として発表された。ヒップホップの「内省化」の流れを作った2人の新作は、デプレッション（鬱）が社会的問題となる時代とも共振し、印象深いアルバムに仕上がった。ジャケットのデザインを村上隆が担当。 **O**

CamScannerでスキャン

Lil Wayne
リル・ウェイン



Tha Carter V

2018
Young Money

もともと2014年にリリースされるはずが、レーベル創設者バードマンとの度重なるトラブルによって発売が大幅に遅れた。結果として録音後かなり時間が経過した曲も収録されたが、移り変わりの激しいシーンにおいても本作におけるリル・ウェインの多彩なラップ・スキルは高く評価された。8曲目〈モナ・リサ〉ではケンドリック・ラマーとの新旧ラップ「王者」の競演が大きな話題に。

O

Mac Miller
マック・ミラー

Swimming

2018
Warner Bros. Records

5枚目で生前最後の作品。本人以外では前作に引き続きティ・ビーストやデイム・ファンクなどがプロダクションを担当しているが、目を引くのがジョン・ブライオンやデヴ・ハインズなどインディー系ミュージシャンの参加である。ヒップホップというよりは良質なインディー・ミュージックの印象が強いのはそのせいもある。マック・ミラーは本作発表の1ヵ月後にオーバードーズで亡くなった。

O

Migos
ミーゴス

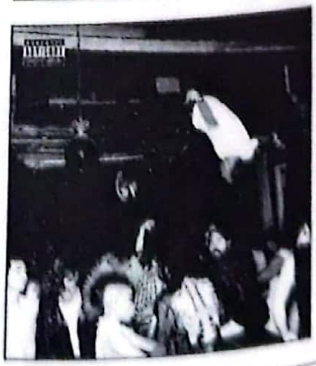
Culture 2

2018
Motown

前作の世界的成功を受けてリリースされた2枚目。2枚組全24曲。年末のランキングで話題になることは少なかったものの、ヒップホップ・シーンにおける中国表象の流行を総括する⑨、マーダ・ビーツのトラックがスーパーカーを主題にしたビートを更新する⑰、60年代のヴォーカル・グループ、フェスティヴァルズの曲をサンプリングした④など、ひとつひとつの曲のクオリティは非常に高い。

O

Playboi Carti
プレイボーイ・カーティ



Die Lit

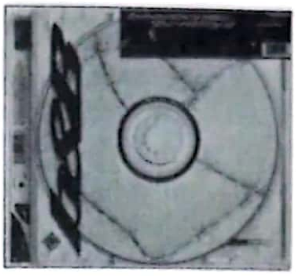
2018
Interscope Records

2017年に『XXL』誌が毎年発表するフレッシュマン・クラスに選出され、ラナ・デル・レイのシングル〈Summer Bummer〉にもフィーチャーされたラッパーのメジャー・デビュー作。前年のミックステープで多くの曲をプロデュースし、その名をシーンに広めたピエール・ボーンも参加。マンブル・ラップ界を背負うリル・ウージー・ヴァートとの共演作〈Shoota〉が各音楽メディアで話題に。

O

CamScannerでスキャン

Post Malone
ポスト・マローン



Beerbongs & Bentleys
2018
Republic Records

ロック、ポップス、ヒップホップの方法論をごく自然に混ぜ合わせてヒット曲を連発する新時代の「ロック・スター」。21サヴェージをフィーチャーしたシングルはビルボード総合チャートで1位を獲得、グラミー賞最優秀アルバムの候補にも選ばれた。その憂いを帯びた歌唱スタイルが時代を反映すると同時に、ヒップホップが真にメジャーなジャンルになったことを象徴するアーティスト。 O

Pusha T
プシャ・T

Daytona
2018
G.O.O.D. MUSIC

ヴァージニア・ビーチ出身のデュオ、クリプスのひとりで、ラップ・スキルの高さに定評のあるプシャ・Tの3作目。カニエ・ウェストの7曲シリーズの1枚目であり、ホイットニー・ヒューストンのドラッグまみれの浴室を写したアートワークは批判も浴びた。7曲目をきっかけにドレイクとのビーフも再燃し、過去の過ちを暴くなど相手を容赦なく追い詰める手腕がメディアでも騒がれた。 O

Travis Scott
トラヴィス・スコット

Astroworld
2018
Epic

2018年最重要作品（と、断言する）。閉鎖された地元ヒューストンのテーマパークを主題にしたアルバムは商業的にも成功し、シングル・カットされた③とともにビルボードで1位を獲得した。曲の途中でビートが変わるビート・スイッチを多用した斬新なサウンドと、デイヴ・マイヤーズ監督による極彩色のミュージック・ビデオがファンタスティックな世界観を醸し出している。 O

XXXTentacion
XXXテンタシオン

?
2018
Bad Vibes Forever

音楽SNSを主要な活動拠点とする「サウンドクラウド・ラップ」出身のラッパーであり、エモなどロックの要素も感じさせるスタイルは多くの若者に支持された。本作が発売された3カ月後、XXXテンタシオンは駐車場で強盗に射殺された。19年9月にリリースされたデラックス・エディションには「ストリートファイターII」などで知られるゲーム音楽家、下村陽子が参加している。 O

CamScannerでスキャン

『フルートベール駅で』から『ゲット・アウト』まで ヒップホップを描いた2010年代の映像作品

『フルートベール駅で』Fruitvale Station (2013)

2009年元旦にオークランドにあるフルートベール駅のホームで警官に射殺されたオスカー・グラントの最後の1日を描いたドラマ。希望に満ちた主人公を描いたそれまでのトーンから一転、事件の再現へと突入する構成に胸を締め付けられる。ライアン・クーグラーとマイケル・B・ジョーダンの監督・主演コンビはそのまま『クリード』と『ブラックパンサー』に取り組み、いずれも大ヒットに導いた。

『トップ・ファイブ』Top Five (2014)

クリス・ロックが、スタンダップ・コメディへの復帰を目論む映画スターを自ら演じた監督・主演作。黒人コメディアンが集結した漆黒のコメディであると同時に、かつて出演した『ニューヨーク、恋人たちの2日間』を彷彿とさせるオシャレ町歩きロマコメでもある傑作だ。音楽はクエストラヴが担当。なおタイトルは劇中で主人公たちがおこなう〈好きなラッパー5人〉を選ぶ遊びから取られている。

『DOPE ドープ!!』Dope (2015)

ロサンゼルスの隣町イングルウッドを舞台に、パーティ・ドラッグを売りさばく羽目になった黒人高校生を描いたティーン・コメディ。アイス・キューブの俳優デビュー作『ボーイズン・ザ・フッド』が切り開いたフッド・ムービーの伝統を汲みながら、主人公を成績優秀なギークに設定したところがミソ。ファレル・ウィリアムズが製作と挿入曲を手がけている。

『ルーク・ケイジ』Luke Cage (2016) Netflix

マーベル・コミックの実写ドラマ化作。服役中に受けた人体実験によって鋼鉄の皮膚と怪力を手に入れた黒人ヒーローが、ハーレムで戦う姿を描く。ATCQのアリとエイドリアン・ヤングが手がけるソウルフルなスコア、悪役コッ

CamScannerでスキャン

トンマウスの居間に飾られたノトーリアスB－Gの肖像画など、全編が90年代ニューヨーク産ヒップホップへのオマージュに満ちている。

『ムーンライト』Moonlight (2016)

母子家庭で育った黒人少年が自己肯定するまでを、3部構成で描いたオスカー受賞作。舞台はマイアミの公団住宅リバティ・シティ。2ライヴ・クルーのルークの出身地であることから分かる通り、過剰なまでの異性愛がデフォルトとされるエリアである。だけど彼のセクシャリティはそこから外れている。ハイエログリフィックス所属のラッパーだったマハーシャラ・アリとジャネール・モネイが好演。

『ヒップホップ・エボリューション』Hip-Hop Evolution (2016) Netflix

Netflixが製作した「ヒップホップの歴史教科書」。クール・ハークが73年に開いた伝説のパーティに始まり、シュガーヒル・ギャングのデビュー、デフ・ジャムの隆盛、ウェッサイとサウスの勃興など、90年代までのシーンの流れをほぼ押さえている。切り口自体はオーソドックスなものだが、当事者であるアーティストが登場して当時の想い出を語る姿には説得力がある。

『VINYL—ヴァイナル—』Vinyl (2016)

1973年のニューヨークを舞台に、破産寸前のロック・レーベルの社長リッチーの破天荒な言動を中心に描く群像ドラマ。製作総指揮はミック・ジャガーとマーティン・スコセッシ、そしてテレンス・ウィンター。リッチーが興味を抱くのはまずパンク、次にディスコだが、元ブルースマンの旧友が管理人として働く公団住宅の住民としてクール・ハークも登場し、ヒップホップ誕生も熱く語られる。

『キックス』Kicks (2016)

貯金をはたいて買ったエアジョーダンーを地元のサグにカツアゲされてしまった主人公が、

スニーカー奪回を通じて大人への通過儀礼を果たすゲットー版『自転車泥棒』。監督・脚本のジャスティン・ティッピングはライアン・クーグラーの幼馴染み。そのためストーリーは、彼の地元オークランド周辺で展開される。主人公の親友役をノトーリアスB-Gとフェイス・エヴァンズの息子が好演。

『親愛なる白人様』
Dear White People (2017) Netflix

名門大で開催された「白人学生による黒人仮装パーティ」。この人種差別的な事件に、黒人学生寮に住む学生たちがどう対峙していくかが、語り手を入れ替えながら描かれる群像ドラマ。14年の同名映画のドラマ化作だが、Black Lives Matterを経た後のため、コメディ的要素を持ちながらもトーンは重い。

『アトランタ』Atlanata (2016〜) Netflix

チャイルディッシュ・ガンビーノ名義でラッパーとしても活動する俳優ドナルド・グラヴァーがクリエイター兼主演を務めたコメディ・ドラマ。アトランタを舞台に、従兄弟のラッパーのマネージャーを務める主人公の冴えない日々が描かれる。ユーモラスだがダウナーなトーンはやるせなく、トラップを支える精神性が伺える。多くのエピソードを監督したヒロ・ムライの演出力も冴えている。

『ゲット・アウト』Get Out (2017)

ニューヨークで暮らす黒人写真家クリスは、週末を白人の彼女の実家で過ごすことに。人里離れたその家には無表情の黒人召使いが働いていて……。その裏で進められる恐ろしい計画は、もちろん奴隷制の暗喩に他ならない。監督・脚本のジョーダン・ピールは黒人コメディアン。元々はオバマ時代に遊びで書いていたものだそうだが、結果的にトランプ時代のアメリカを描いたリアルな悪夢となった。

（長谷川町蔵）

CamScannerでスキャン

POSTSCRIPT

2019年の中間報告――『リズム+フロー』と『Jesus Is King』

長谷川　2019年に入ってからもヒップホップの世界にはいろんなことが起こりましたよね。

大和田　盛りだくさんですよね。何が気になりました?

長谷川　今年を代表するヒット曲のリル・ナズX★①〈Old Town Road〉からしてトピックが一杯なんですけど。最長ナンバー・ワン記録を更新したし、カントリー・チャートでも19位を獲得した。カントリー・チャートには純粋ラップ曲はダメって規定があったらしくて、それを乗り越えるためにマイリー・サイラスのお父さん、ビリー・レイ・サイラス★②をフィーチャーしたのにも参りました。

大和田　あの曲は本当に今を表していて。最初にTiktok★③で流行ったんですよね。

長谷川　本人あっさりカミングアウトってのも今っぽい。

大和田　あれには驚きましたね。そういえば黒人のカントリーって水面下でけっこう流行ってたみたいですね。

長谷川　『2』でも話題に出ましたけど、南部の黒人ってガチでカントリーが好きな人が多いんですよね。

大和田　シアラ★④がそうでしたけど、昨年あたりからYeehaw Agendaとかいって、黒人がカウボーイ、カウガールの格好をするのが流行っていたみたいで。もっと遡ると、16年のCMA★⑤でビヨンセがディクシー・チックス★⑥と共演している。振り返ってみると黒人とカントリーのコラボレーションには色々伏線があったんだなあと。

長谷川　フロリダ・ジョージア・ラインの12年のヒット曲〈Cruise〉のリミックスにネリー★⑦がラップで参加したこともありましたしね。ただリル・ナズXが〈Old Town Road〉でサンプリングしているのはナイン・インチ・ネイルズ★⑧なんですよね。それをコテ

コテのカントリーに仕上げている。その料理の仕方が素晴らしい。次に出したシングル〈Panini〉はニルヴァーナ★⑨・ネタだったのも面白い。

大和田　NINもそうですけど、ロック・ネタを挟んできますよね。しかも〈Old Town Road〉の最初のMVは「レッド・デッド・リデンプション2」★⑩というテレビゲームで、〈Panini〉のMVはアフロ＝フューチャリズム。もうネタだらけ、というかネタしかない（笑）。大きく見ると、スペイン語の曲がどんどんヒット・チャートを侵食しているように、アメリカの中の音楽ジャンルの壁が崩れようとしている気はします。その反動としてトランプ政権の国境の壁があって、それはコインの裏表なんですけど。

長谷川　ジャンルを崩しているという意味ではタイラー・ザ・クリエイターもそうですよね。

大和田　たしかに。ロックの取り入れ方がかっこいい。

長谷川　彼はもともとステレオラブ★⑪が一番好きという人なんだけど、今年リリースした最新アルバム『Igor』はスタイル・カウンシル★⑫やレベル42から影響を受けたと言っていて、山下達郎★⑬〈FRAGILE〉のカバー曲〈Thank You〉まで入っている。しかもこの曲とメドレーになっている〈Gone, Gone〉ってまんまビーチ・ボーイズ風なんですよね。

大和田　あの曲、達郎さんがラジオで褒めたらしいですね。この本の流れでいうと、サンダーキャットのヨット・ロック再評価の文脈でタイラーがシティ・ポップ★⑭を取り込んだともいえます。日本のシティ・ポップの持つ西海岸サウンドへの憧憬を、西海岸のミュージシャンが逆輸入している。

長谷川　それでいて相変わらずサウンドに歪（いびつ）なところが残っているのがヒップホップとして素晴らしい。

大和田　西海岸といえば、Netflixの番組『リズム＋フロー』、ご覧になりました？　あれ、2019年の大きいトピックだと思うんですが。

長谷川　珍しく一気見しました。要はヒップホップ版『アメリカン・アイドル』なコンテスト番組だけど、ヒップホップをどのような人がどのように作っているのかを初心者に丁寧に解説してくれるエデュテイメン

ト番組でもあるんですよね。

大和田　そうですね。それとあくまでもヒップホップの次のスターを世に出したいという意志を感じました。

長谷川　製作総指揮がジョン・レジェンド★[15]だからなのか、絶対あると思ったコンテスタント同士のビーフの描写を避けて、ヒップホップがポジティヴな音楽であることを証明しようとしているんですよね。

大和田　審査員の人選も絶妙ですよ。

長谷川　T.I.はいま炎上★[16]していますけど、それでも映画の仕事してから比較的リベラルになっているし、カーディ・Bはああ見えてニューヨーカー。チャンスは知っての通りの人だし。

大和田　で、優勝したのが西海岸出身のD.Smoke★[17]って、すごく象徴的だったと思いません？　彼がSiRのお兄さんって知ってました？

長谷川　あのTDE所属の？　知りませんでした……30代になるまでブレイクしなかったのが不思議なくらいの才能なんですよね。

大和田　いや、音楽的にもスキル的にも申し分ないんですけど、完全にケンドリック・ラマーと被っているというか。歳も近い（笑）。決勝戦であてがわれたプロデューサーがサウンウェイヴなのも、完全にTDE路線狙いじゃないですか。

長谷川　あれはハマりすぎて笑いましたね。「最後の晩餐」っていうトピックもケンドリックっぽい。

大和田　アトランタのマンブル・ラップに対抗して、オーセンティックなヒップホップのスターが西海岸からしか出てこない、というのが2019年だなあと。

長谷川　考えてみると、ニューヨークのコンシャスなラッパーを時代遅れにしたのはマンブル・ラッパーじゃなくて、ギャングスタ・ラップのストーリーテリングのノウハウをコンシャスなベクトルで活用したケンドリックなのかもしれませんね。ストーリー仕立ての方がイイこと言えるわけだし。だからニューヨーク予選でそういう人が目立てなかったのかもしれません。

大和田　そう、ニューヨーク予選の出場者はつまらない、というか花がなくて売れそうじゃないんですよ。審査員はコマーシャルであることにこだわっていたし。

CamScannerでスキャン

長谷川　リリック自体が良くても、キャッチーなフックが弱いと落とされていましたよね。才能があるだけなら捨てるほどいるからかもしれないけど。

大和田　なので、終始ヒットしなければならないということが強調されていて、そのメッセージがはっきりとわかりましたよね。それが端的に現れていたのが、コンテスタントのひとり、ロンディン・Bのフックが長すぎて、もっとシンプルにしろってアドバイスを受けるところ。それを彼女が受け入れたら、初披露の曲なのに客席で大合唱になった。あそこはけっこう感動しました。

長谷川　そういえばドクター・ドレーは「フックまでの小節数を短くしろ」っていうのが口癖らしいんですよね。

大和田　シーンの裏側を少し垣間見た気になりました。あと最後のエピソードのプロデューサーが豪華で。

長谷川　ヒットボーイ、テイ・キース、ロンドン・オン・ザ・トラック、サウンウェイヴ。シーンのトップクラスばかり！

大和田　あれは見ていて上がりましたよー。

長谷川　フィーチャリング・シンガーもテン年代の客演王や女王ばかりで。

大和田　元も子もない言い方をすると、シーズンを通して一番鳥肌立ったのはフィーチャリング・シンガーとして出演したジェネイ・アイコのステージだったんですけどね。あれこそ英語でmesmeraizingな、蠱惑(こわく)的な感じがすごくなかったですか？

長谷川　たしかに。彼女はそうした魅力と「日本人女性＝芸者」みたいなイメージをうまく結び付けてアピールしている。

大和田　あれみて、アジア系もカーディ・Bに対抗できるんだって思いました。T.I.もチャンスもメロメロでしたよ（笑）。アジア系のセクシーさはこの『3』全体のテーマでもありますよね。

長谷川　そうですね。真っ黒じゃなければ戦えないという昔の概念が壊されて、ヒスパニックやアジア系の人種的特徴アピールがアリになってきていますね。

大和田　無理にアメリカのスタンダードに合わせるというより、それぞれの人種的特性に合わせた魅力がアメリカ国内で認識されてきたというか。だからトランプ

政権誕生にもかかわらず、カルチャーのダイヴァーシティは確実に洗練されてきてますね、しかもすごいスピードで。

長谷川　なんのかんのいってアメリカ社会は良くなっているんじゃないかって幻想を抱いてしまいますね。大統領がアレなのに。なのに、タフでなければいけない、歌ってはいけない、というヒップホップのルールをかつて壊してきたカニエが、今はなぜかトランプ側にいるという。本人曰くゴスペル・アルバムな『Jesus Is King』、聴きました?

大和田　聴きましたけど、どう反応していいかわからないというのが正直なところですね……。つまり、もうこれは彼の信仰のための音楽であって、なにか僕らがコメントすべきものなのかどうかもわからない。町蔵さんは、このアルバムどう思いました?

長谷川　個人的には、カニエ版『スロー・トレイン・カミング』★[18]だと思えばいいんじゃないかなと。

大和田　ボブ・ディランがキリスト教に転向してリリースしたアルバムですよね。

長谷川　ディランもあの頃、勃興していた福音主義に影響されたんですよね。それまでのファンが拒絶反応感ったという。

大和田　で、あのとき戸惑ったリスナーが今の俺だ!と(笑)。

長谷川　だから時間が経てば「あれもありだよね」って思うのかもしれません。でも楽しめましたよ。

大和田　ただ、ディランが傾倒したヴィンヤード・フェローシップ教会は60年代後半の革新的価値観を共有していて、けっこうリベラルだったんですよ。宗教左派、というのが興味深くて。だとすると、たしかにカニエがその逆を正確に行っているともいえる……

長谷川　サウンドもユニークで。TR-808はチャクラに響く、つまりエロい気持ちになるって変な理由でドラムを無理やり排除している。でもグルーヴしないと気持ちよくないからコーラス・アレンジでウネリを出している。結果、グルーヴィーな音楽になっちゃっていて、そこが面白い。

大和田　そう、結局コーラスが重要ですよね。

政権誕生にもかかわらず、カルチャーのダイヴァーシティは確実に洗練されてきてますね、しかもすごいスピードで。

長谷川 なんのかんのいってアメリカ社会は良くなっているんじゃないかって幻想を抱いてしまいますね。大統領がアレなのに。なのに、タフでなければいけない、歌ってはいけない、というヒップホップのルールをかつて壊してきたカニエが、今はなぜかトランプ側にいるという。本人曰くゴスペル・アルバムな『Jesus Is King』、聴きました?

大和田 聴きましたけど、どう反応していいかわからないというのが正直なところですね……。つまり、もうこれは彼の信仰のための音楽であって、なにか僕らがコメントすべきものなのかどうかもわからない。町蔵さんは、このアルバムどう思いました?

長谷川 個人的には、カニエ版『スロー・トレイン・カミング』★[18]だと思えばいいんじゃないかなと。

大和田 ボブ・ディランがキリスト教に転向してリリースしたアルバムですよね。

長谷川 ディランもあの頃、勃興していた再洗礼派に影響されたんですよね。それまでのファンが滅茶苦茶戸惑ったという。

大和田 で、あのとき戸惑ったリスナーが今の俺だ!と(笑)。

長谷川 だから時間が経てば「あれもありだよね」って思うのかもしれません。でも楽しめましたよ。

大和田 ただ、ディランが傾倒したヴィンヤード・フェローシップ教会は60年代後半の革新的価値観を共有していて、けっこうリベラルだったんですよ。宗教左派、というのが興味深くて。だとすると、たしかにカニエがその逆を正確に行っているともいえる……

長谷川 サウンドもユニークで。TR-808はチャクラに響く、つまりエロい気持ちになるって変な理由でドラムを無理やり排除している。でもグルーヴしないと気持ちよくないからコーラス・アレンジでウネリを出している。結果、グルーヴィーな音楽になっちゃっていて、そこが面白い。

大和田 そう、結局コーラスが重要ですよね。

CamScannerでスキャン

長谷川　カニエの初期のトレードマーク、ヴォイス・サンプル早回しは、そもそも教会ヴォーカルの高音メリスマの再現だったのではないかと夢想しています。ただし黒人性にあれだけこだわっておいて、サックスでフィーチャーしたのがなぜかケニー・G★[19]（笑）。あれがよくわかんない。

大和田　それはサンダーキャットにとってのマイケル・マクドナルドなのでは（笑）。で、この本でいうと、ぼくらはカニエをある意味でシーンにおいて「音楽」をやり続ける人としても位置付けたわけですよね。

長谷川　そうですね。

大和田　その人が「信仰」に向かったというのは、なんとなくわかる気もするんですよね。うまくいえないんですけど。

長谷川　ヒップホップの世界ではカニエくらい強く個を主張しないと、自由に音楽を作れないわけじゃないですか。でもそうすると、シーンから乖離(かいり)していく。で、逆に伝統的なコミュニティに回帰したくなったのかなと。

大和田　なんとなく、記号＝キャラ化を拒否して、自分なりの場＝宗教に到達したというか。

長谷川　でもあの宗教、ヒルソング・チャーチ★[20]のさらにDIY版なわけですよね？　正統派からみたら超異端ですよ。

大和田　だからカーク・フランクリンも『The Life Of Pablo』には協力したけど、今回は不参加ですよね。

長谷川　あの宗教をやり続けられるとは思えないので、ディランみたいに3作くらいで世俗に復帰すると思います。

大和田　問題はカニエが俗世に戻ったあと、どこにいるかですね。

長谷川　1回は日本に住むんじゃないかと思っているんですけど。信仰心を失った者にこれほど優しい国はないですし。

大和田　僕もその希望は捨てていません。埼玉の村上隆の工房に身を寄せるのがベストだと思っています。

長谷川　もし何年か後に『文化系4』が出るとしたら、そこで答え合わせしたいですね。

2019年11月

CamScannerでスキャン